

**平成30年度
障害者自立支援機器等開発促進事業
事業報告**

平成31年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器（以下「支援機器」）については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す観点から、極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを的確に捉えた製品開発と普及の促進が求められています。

一方、障害の種別や障害者が置かれている環境・状態は、広範囲にわたるものであり、自立生活に向けた課題（日常生活上のお困りごとなど）や支援機器に求められるニーズは近年、多様化・複雑化しています。

こうした背景のもと、ロボット技術やICT（情報通信技術）、AI（人工知能）など、新たに創出された技術を支援機器の分野で活用することも大いに期待されているところです。

本事業は、障害者の自立や社会参加の促進の観点から、障害者のニーズと開発者のシーズのマッチングを図りながら、マーケットが小さく事業化や実用的製品化がなかなか進まない支援機器について、開発企業が障害者と連携して開発する取り組みに助成を行い、新たな企業の参入を促し、各企業が適切な価格で障害者が使いやすい機器を製品化し、普及を図ることを目的とするものです。当協会では、これまで「開発促進事業」及び「シーズ・ニーズマッチング強化事業」を行い、支援機器に対する開発補助を行うとともに、障害者ニーズを的確に捉えた製品開発を促す観点から交流会を開催すること等により、開発の初期段階から製品化の一步手前に至るまでの支援を一貫して行って参りました。

また、今年度より障害者ニーズを的確に踏まえて支援機器を開発し製品化した企業や研究所、さらには支援機器を効果的に導入し活用している福祉事業所等を全国各地から募り、全国の見本となる好事例を表彰する「導入好事例普及事業」を新に実施致しました。

本報告書は、前述の事業結果を取り纏めたものとなります。本事業の実施にあたり、ご協力いただきました、障害者当事者の団体、職能団体、出展企業等、多くの方々から心から御礼を申し上げます。

平成31年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

第1部 本編

I. 障害者自立支援機器等開発促進事業	1
1. 目的	1
2. 事業結果	2
(1) 公募説明会の開催	2
(2) 審査委員会等の設置・開催	2
(3) 採択機関の概要	5
(4) 事務及び倫理審査説明会の開催	10
(5) 技術支援アドバイザーの設置・定期相談会の開催	16
(6) 事業概要の公表	18
(7) 運営管理委員会の目標設定と評価	18
II. シーズ・ニーズマッチング強化事業	18
1. 目的	18
2. 事業結果	18
(1) シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会の設置・開催	18
(2) シーズとニーズのマッチング方策・結果	20
(3) シーズ・ニーズマッチング交流会の概要・開催	21
(4) アンケート結果の概略	27
(5) 運営管理委員会の目標設定と評価	27
III. 障害者自立支援機器導入好事例普及事業	30
1. 目的	30
2. 事業結果	30
(1) 好事例選考委員会の設置・開催	30
(2) 応募概要の策定	32
(3) 応募説明会の開催	34
(4) 応募結果の概要	40
(5) 受賞者の選考方法・結果	40
(6) シーズ・ニーズマッチング交流会による表彰式の実施	36
(7) 運営管理委員会の目標設定と評価	37

第2部 資料編

I. 障害者自立支援機器等開発促進事業

1. 公募要項	39
2. 交付要項	63
3. 進捗管理表	90

II. シーズ・ニーズマッチング強化事業

1. 開催パンフレット	91
2. 会場案内図	107
3. 出展要項	111
4. アンケート用紙	145
5. アンケート結果	155
6. 参加目標シート	179
7. 障害団体によるニーズ集	181
8. シンポジウム配布資料	193

III. 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

1. 募集概要	329
2. 応募用紙（技術開発研究部門）	334
3. 応募用紙（導入利活用部門）	335
4. 受賞者紹介ガイドブック	337

第 1 部 本編

I. 障害者自立支援機器等開発促進事業

1. 目的

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器（以下「支援機器」）については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す観点から、極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを的確に捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害の種別や障害者が置かれている環境・状態は、広範囲にわたるものであり、自立生活に向けた課題（日常生活上のお困りごとなど）や支援機器に求められるニーズは近年、多様化・複雑化している。

こうした背景のもと、ロボット技術やICT（情報通信技術）など、新たに創出された技術を支援機器の分野で活用することも大いに期待されているところである。

本事業は、障害者の自立や社会参加の促進の観点から、障害者のニーズと開発者のシーズのマッチングを図りながら、マーケットが小さく事業化や実用的製品化がなかなか進まない支援機器について、開発企業が障害者と連携して開発する取り組みに助成を行い、新たな企業の参入を促し、各企業が適切な価格で障害者が使いやすい機器を製品化し、普及を図ることを目的とするものである。

本事業の概要



2. 事業結果

(1) 公募説明会の開催

開発機関（支援機器の開発を行う機関）を募るため、公募要項を作成した。

障害者自立支援機器等開発促進事業（以下「本事業」）の周知及び、支援機器の開発機関を募ることを目的として、公募説明会を東京、名古屋、大阪、福岡の4会場にて開催した。

会場	日程	時間	会場名	部屋名
東京会場	平成30年7月3日（火）	13:30～ 開始	主婦会館プラザエフ	カトリア（7階）
愛知会場	平成30年7月4日（水）		安保ホール	501AB号室
大阪会場	平成30年7月5日（木）		新大阪丸ビル別館	4階4-1号室
福岡会場	平成30年7月6日（金）		エймアティン博多駅東会議室	5J（5階）

【申込み状況】

○ 述べ140名（101法人）

- ・東京開催 75名（54法人）
- ・名古屋開催 11名（11法人）
- ・大阪開催 40名（24法人）
- ・福岡開催 14名（12法人）

(2) 審査委員会等の設置・開催

本事業を適切かつ円滑に実施するため、支援機器に関する有識者及び、各障害分野に詳しい学識経験者等から構成する審査委員会を協会に設置した。

審査委員会においては、応募のあった案件の採否を審議するとともに、中間評価等を行い、開発機関が想定ユーザのニーズや適用範囲、実際の市場化を見据えた開発等が円滑に行えるよう、指導及びアドバイス等を行った。

審査委員 名簿

（五十音順・敬称略）

氏名	役職名
石川 浩太郎	国立障害者リハビリテーションセンター病院 第二診療部 第二耳鼻科咽喉科
石川 准	静岡県立大学 国際関係学部
伊藤 利之	横浜市総合リハビリテーションセンター
佐野 明人	国立大学法人 名古屋工業大学 大学院工学研究科 電気・機械工学専攻
正田 勇一	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 中央障害者雇用情報センター
中村 春基	一般社団法人 日本作業療法士協会
東 祐二	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部

藤江 正克	早稲田大学
本村 光節	一般社団法人 日本福祉用具供給協会

下線：委員長

さらに、支援機器の開発及び利用の推進にあたっては、ロボット技術やICT等を活用し、障害者・児の就学・就労、レクリエーション等に資することが大いに期待される場所であり、各方面の関係行政等にオブザーバーとしてご参加いただいた。

審査委員会 オブザーバー名簿

(敬称略)

氏名	役職名
金子 和生	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部
小林 信喜	国立研究開発法人 情報通信研究機構 オープンイノベーション推進本部 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
平野 恵子	経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
川島 秋人	経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
中島 智美	経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
吉村 俊厚	経済産業省 製造産業局 産業機械課
渡部 愛	厚生労働省 職業安定局 雇用開発部 障害者雇用対策課
松本 琢磨	厚生労働省 老健局 高齢者支援課
田仲 教泰	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
村山 太郎	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
田上 未来	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
今釜 勝彦	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
松橋 次郎	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

① 第1回審査委員会

○日時：平成30年8月22日（水）9：30～17：00

○場所：主婦会館プラザエフ 9F スズラン（東京都内）

【実施内容】

- ・応募者によるプレゼンテーション（応募案件中20案件）
- ・採択案件の審議

応募から採択までの流れ

- 事前審査（1次選考） 平成30年7月23日（月）～8月10日（金）
審査委員による書面審査の実施（全42案件）
- 事前審査の採点結果からプレゼンテーションを実施する企業を選定（20案件）
- 審査委員会（2次選考） 平成30年8月22日（水）
プレゼンテーション及び全体審議により、採択機関を決定（12案件）

② 第2回審査委員会（中間評価）

○日時：平成30年12月10日（月）13:00～17:00

○場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター3階（東京都内）

【実施内容】

- ・採択機関による中間報告プレゼンテーションの実施（全12件）
- ・審査委員による指摘及び助言等
- ・委員会後、コメントのフィードバック

中間評価の流れ

- 全12案件を2グループ（分野別）に分け中間評価を実施
- 審査委員は2グループ4名ずつに分かれ、それぞれグループ長を設置し、評価を実施（報告15分＋質疑10分）
- プレゼンテーション終了後、全ての委員等が集まり、中間評価の総括を行い、指摘やアドバイスがある場合はその場で共有
- 委員のコメントを事務局で整理し、コメントをフィードバック
- 採択機関は、中間評価等の結果を参考に今後の事業を進行

③ 第3回審査委員会（成果報告）

○日時：平成31年2月14日（木）10:00～17:00

○場所：TOC有明・4階コンベンションホール（E-1）

【実施内容】

- ・シーズ・ニーズマッチング交流会 東京開催内で成果報告会を実施
- ・各案件に対する総括を議論
- ・本事業の今後の実施方法等について意見交換

成果報告会の流れ

- 委員は事前に集まり評価方法等について情報共有
- 報告は10分間とし、プレゼンテーション終了後、再度委員が集まり、開発に対する成果内容について指摘やアドバイスを共有

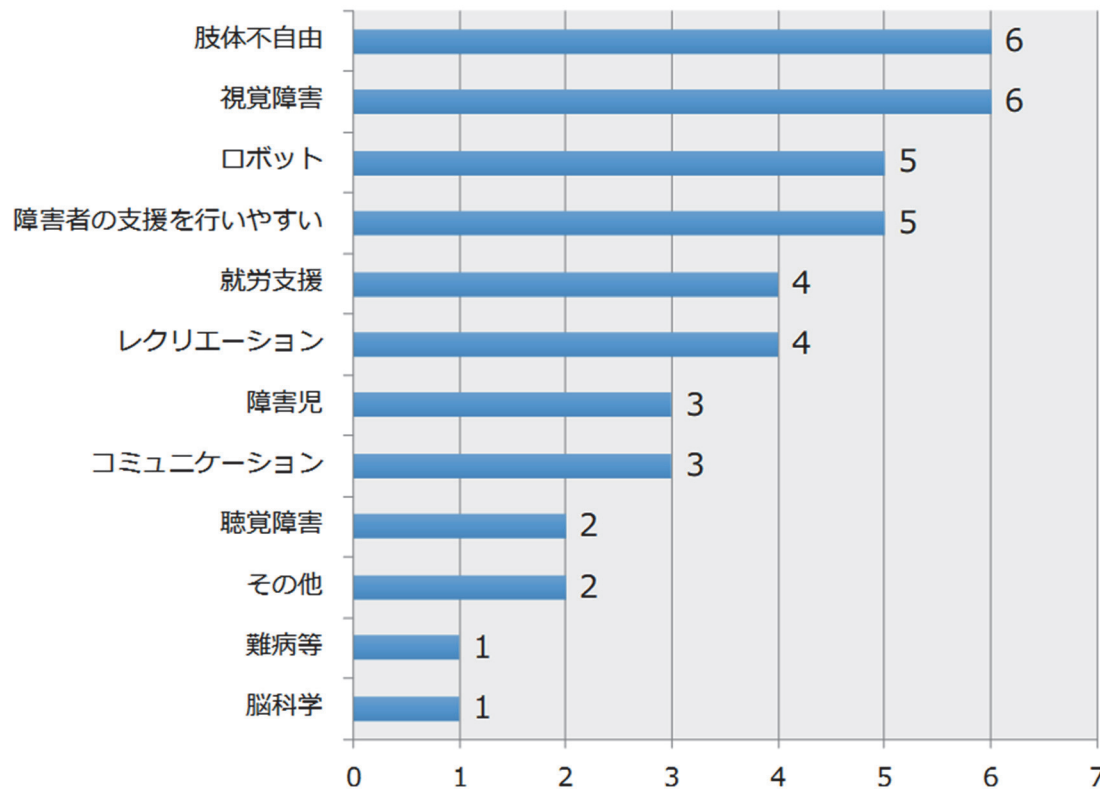
➤ 今年度の審査委員会を終えての全体の議論・今後の課題を整理

(3) 採択機関の概要

① 応募結果

平成30年6月18日(月)～7月18日(水)までの1ヶ月間の応募期間を設けた。全42件の応募があった。

応募案件 分野別集計結果

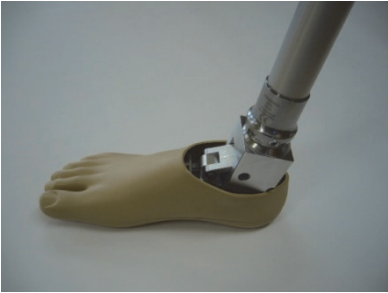



※本年度より「障害者の支援をより行いやすくなる支援機器」のカテゴリを追加した。

② 採択機関の決定


第1回審査委員会の結果を踏まえ、最終的に12件を採択することとした。各案件の概要に関しては以下の通り。

分野 1. 肢体不自由者の日常生活支援機器（2件）


開発事業者	株式会社金久保製作所	
開発テーマ	義足装着者の歩行環境を感知し、最適な踵高に自動調整してくれる義肢足部「オートセーフティヒール」の開発	
開発概要	道路の凹凸等、義足装着者が置かれている歩行環境を感知し、足部と膝関節部を連動させて最適な角度調整に自動制御する『インテリジェントな義肢装具』を開発	

開発事業者	株式会社リバティソリューション	
開発テーマ	肢体不自由者の排泄をサポートする支援機器の開発	
開発概要	自動排泄処理装置において肢体不自由者が対応可能なカップ形状の改良及びセンサー位置の適正個数の改良	


分野 2. 視覚障害者の日常生活支援機器（1件）

開発事業者	株式会社レイトロン	
開発テーマ	視覚障害者向け音声認識リモコンBOXの開発	
開発概要	視覚に障害を持った方でも容易に家電製品を操作できるマルチリモコンであり、視覚障害の方が簡単・便利に使えることをコンセプトとして開発	


分野6. 障害者の就労支援機器 (1件)


開発事業者	株式会社システムネットワーク	
開発テーマ	日常生活場面に特化した高次脳機能障害者訓練・評価用システム開発	
開発概要	就労支援課題を中心として実装を目指し開発を行う。また、ゲーム性かつ日常生活に即した機器	

分野7. 障害者のコミュニケーションを支援する機器 (1件)


開発事業者	株式会社デジタルーフ	
開発テーマ	A L S、脳梗塞患者等肢体不自由者に向けた i P a d 電子文字盤の開発	
開発概要	A L S 患者など、コミュニケーションが困難な方が文字ボタンを「見る」だけで視線を使って、メッセージ等を電子メールで送信することができる意思伝達装置	


分野8. 障害者のレクリエーション活動を支援する機器 (2件)

開発事業者	藤田医科大学	
開発テーマ	障害者の能動的な運動・活動を促すコンピューターグラフィックを利用したレクリエーション型エクササイズの開発	
開発概要	簡易的センサシステムの精度や妥当性を調査するため、高い精度が担保されている動作計測（モーションキャプチャ）システムによる評価・検証を行う	


開発事業者	日進医療器株式会社	
開発テーマ	姿勢保持機能付き屋内用ブランコの開発	
開発概要	現場で有効に活用できる市販可能な屋内用ブランコを開発	


分野9. 障害児の生活を豊かにする支援機器（2件）

開発事業者	株式会社エクセルシア	
開発テーマ	ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発	
開発概要	便座の位置の決定、手すり等の福祉機器の決定、処理後物質の取り出しシステム、太陽光でのLED室内灯、緊急警告灯の設置を含めた開発	

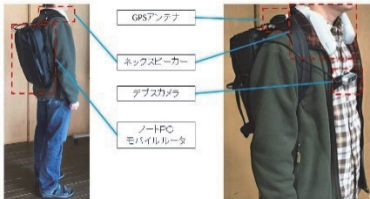
開発事業者	株式会社今仙技術研究所	
開発テーマ	低年齢児向けの移動支援機器、および機器普及を促すシミュレータ開発	
開発概要	幼児～児童期の認知発達機能向上を促す電動移動機器と、移動機器用の入力装置シミュレータを開発	

分野 10. ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器（2件）

開発事業者	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団	
開発テーマ	物体の形状に合わせて把持することができる多指機構を有し、軽量で極めて装飾性に優れた量産型筋電義手	
開発概要	小児訓練用義手の開発・プロトタイプの実成、また、成人女性用筋電義手の見た目や把持機能のバランスを確定する開発	

開発事業者	テクノツール株式会社	
開発テーマ	ユーザニーズによる生活支援ロボットアームの改良	
開発概要	床の物が拾える事へのユーザニーズは非常に高いために、本事業により当該ロボットアームの改良	

分野 12. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器（1件）

開発事業者	株式会社コンピュータサイエンス研究所	
開発テーマ	視覚障害者のI・O化と情報共有クラウドによる移動支援システムの開発	
開発概要	視覚障害者用の誘導するためのウェアラブル装置を開発し、3年以内に実用的製品化できることを目標	

(4) 事務及び倫理審査説明会の開催

① 交付要項の作成

開発機関に対して、補助金等に係る予算の適切な執行を図る観点から、交付要項を作成した。

② 開催の概要

補助金事務の適正な実施と、モニター評価の安全かつ適切な実施を図るため、倫理審査の進め方に係る説明会を行った。また、個別相談会を実施し、採択機関に対し、審査委員コメント及び応募時の書類に関する特記事項について担当者から説明を行った。

a) 参加状況

- 採択機関 12社
- 一般企業 3社

b) 開催概要

- 日時：平成30年9月14日（金）13：00～17：00
- 場所：テクノエイド協会会議室
- 対象：採択機関及び障害者支援機器の開発を行う企業等

【主な内容】

- ・第1部 補助金に関する事務取扱について
公益財団法人テクノエイド協会 企画部
- ・第2部 倫理審査及び実証試験に関する計画等について
NPO法人 支援技術開発機構 理事長 山内 繁 氏
- ・その他 個別相談会の実施

(5) 技術支援アドバイザーの設置・定期相談会の開催

① アドバイザーの設置

当協会では開発機関から、より専門的な相談や経営面等を評価及び助言する観点から、審査委員とは別に「実証試験及びモニター評価」「事業化」「工業デザイン」「安全設計手法及び第三者認証の取得方法」の専門家による技術支援アドバイザーを設置することとした。

② 定期相談会の実施

開催日程

○第1回相談会（東京都内）

- ・日時：平成30年11月9日（金）13：00～
- ・場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

○第2回相談会（大阪市内）

- ・日時：平成30年12月6日（木）13：00～
- ・場所：アットビジネスセンターPREMIUM新大阪（正面口駅前）

○第3回相談会（東京都内）

- ・日時：平成31年1月31日（月）13：00～
- ・場所：TKP飯田橋ビジネスセンター

各相談会は分科会方式とし、以下の内容で実施することとした。

技術支援アドバイザー 名簿

分科会 1	倫理審査又は実証試験に係る研究計画の立案について
	NPO法人支援技術開発機構 理事長 山内 繁
分科会 2	事業化及び販路拡大に向けた方策の検討について
	(一社) オープンイノベーション促進協議会 代表理事 西澤 民夫
分科会 3	福祉機器に求められる機能的なデザインの設計について
	NIDOインダストリアルデザイン事務所 代表 石井 賢俊 他
分科会 4	安全設計手法及び、第三者認証の取得方法について
	Octa Robotics 代表 鍋島 厚太
分科会 5	補助対象経費やモニター評価に関する相談
	テクノエイド協会 企画部

③ 相談内容の概略

各分科会において開発機関の課題に対し、アドバイザーより助言した主な内容は以下の通り。

- 分科会 1 について
 - 倫理審査の必要性や注意すべき点などから再審査の必要がある場合など基本的な点における助言。
- 分科会 2 について
 - 自社の開発製品はどういった販路があるのか、今後の市場拡大、製品のマーケティング・販促活動をどのように進めるべきかの助言。
- 分科会 3 について
 - 福祉用具としてのデザインに関する内容。製品のデザインとしてではなく、安全性も備えたデザインも必要であるという助言。
- 分科会 4 について
 - 個々の製品の性能、特長から考えられるリスクマネジメントについて障害者自立支援機器に信頼性試験と認証についての助言。

(6) 事業概要の公表

公募から採択、事業の進捗状況等を（知的財産等に触れない範囲で）ホームページを活用し、情報を公表することとした。

また、本事業の成果は、シーズ・ニーズマッチング交流会の開催場面を活用して、関係者等へ一般公開の形で実施した。

> 障害者自立支援機器等開発促進事業（平成30年度）

- [● 公募について](#)
- [● 交付申請](#)
- [● 採択企業一覧](#)
- [● 公募説明会](#)
- [● 本事業の概要](#)
- [● お問い合わせ先](#)

● 交付申請
[ページの先頭へ](#)

- 交付要項（平成30年8月27日） [\(PDF形式：519KB\)](#) [\(WORD形式：185KB\)](#)
- 別紙申請書類
 - ・ 様式第1 交付申請書 [\(WORD形式：45KB\)](#)
 - ・ 様式第3 実績報告書 [\(WORD形式：39KB\)](#)
 - ・ 様式第5 概算（精算）払請求書 [\(WORD形式：32KB\)](#)
 - ・ 様式第6 取得財産等管理台帳 [\(WORD形式：31KB\)](#)
 - ・ 様式第7 財産処分承認申請書 [\(WORD形式：32KB\)](#)

● 採択企業一覧
[ページの先頭へ](#)

No.	開発事業者	開発テーマ	主な分野	継続	計画年数	開発代表者住所
1	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団	物体の形状に合わせて把持することができる多指機構を有し、軽量で極めて装飾性に優れた量産型節電義手	ロボット	○	3/3	兵庫県神戸市西区曙町1070
2	株式会社システムネットワーク	日常生活場面に特化した高次脳機能障害者 訓練・評価用システム開発	就労支援	○	2/2	大阪府大阪市北区太融寺町2-18 9階
3	株式会社エクセルシア	ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発	障害児	○	2/2	東京都世田谷区若林3-30-2

(7) 運営管理委員会の目標設定と評価

① 設置の背景

○障害者自立支援機器等開発促進事業（以下、「本事業」）は、開発促進事業及びシーズ・ニーズマッチング強化事業、導入好事例普及事業の3事業からなり、一体的に行われているところである。

各事業には専門の委員会を設置し、事業実施に係る重要な審議及び円滑化を図っているところであるが、本事業全体を俯瞰し、アドバイスを行う体制になっていない。

○こうした背景を踏まえ「運営管理委員会（以下、「本委員会」）」は、昨年度より設置したものであるが、事務局から事業全体の進捗状況を報告し、ご助言等いただくこととした。

○3事業それぞれの進捗を把握し、取組と連携を深化させ効果的な事業にするとともに、本事業による成果の可視化及び改善点等の把握、事業管理を継続的に行うこととした。

② 方法と構成

【目的】

実施団体（テクノエイド協会）における事業の全体像を把握、効果的な事業実施となるよう、事業管理を行い、成果の実施状況等を報告することとした。

【方法】

- ・ 委員会を年3回開催し、事業の進捗について把握する。
- ・ 達成すべき目標を設定し、目標に対する取組を確認、評価し、改善のための助言を行い、事業を継続的に改善するための取組を行う。
- ・ 達成すべき目標の設定にあたっては、成果の可視化を念頭に、昨年度の本委員会の検討事項等を踏まえ設定する。
- ・ 継続的な把握を通じて年度末までに課題となったものについては、当該年度の課題として整理する。
- ・ 設置事務局は実施団体とし、事業に関する取組を報告するとともに、目標の設定、改善案について、厚生労働省とともに検討、提案する。

【構成】

- ・ 委員人員は3～4名
- ・ 専門は、マネジメント論、経営管理学、医療経済、福祉機器論等を想定

運営管理委員会名簿

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関
大江与喜子	医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院
原田 明	株式会社リフレクト
松本 邦愛	東邦大学 医学部
山崎スコウ竜二	早稲田大学 社会科学総合学術院

③ 委員会の実施状況

運営管理委員会の実施状況

○ 第1回運営管理委員会

日時：平成30年10月5日（金）14：30～16：00

場所：テクノエイド協会 会議室

【実施内容】

- ・ これまでの本事業の実施状況の報告
- ・ 実施計画の報告
- ・ 本事業の目標と実行の検討

○ 第2回運営管理委員会

日時：平成31年1月18日（金）10：00～11：30

場所：テクノエイド協会 会議室

【実施内容】

- ・ これまでの本事業の実施状況の報告
- ・ 目標と実行に係る具体的な取り組みの報告

○ 第3回運営管理委員会

日時：平成31年3月22日（金）10：30～12：00

場所：テクノエイド協会 会議室

【実施内容】

- ・ 事業報告書（案）
- ・ 予算の執行状況の報告
- ・ 目標と実行に係る具体的な取り組み結果の報告

④ 目標設定

- 各案件とも実施終了時の目標を明確化するとともに、年間の実施工程を策定し、確実な実行に努めることとする。また、開発過程において生じた課題等について、適宜必要なアドバイス等を行うこととした。
- 開発機関から進捗状況を報告する機会を設け、審査委員等から当該案件に係るアドバイス及び指摘等を得ることとした。

⑤ 具体的な実行方策

a) 実施工程の策定

交付申請書に「実施の工程」及び「事業終了時の目標」を記載する項目を設け、開発工程の明確化を図った。

(交付申請書より抜粋)

1 2. 実施の工程

- ※ 当該年度の開発期間中の工程について、月ごとに行う予定を記載してください。
- ※ 開発工程の欄は必要に応じて増やして記載して下さい。

開発工程	9月	10月	11月	12月	1月	2月
事業終了時の目標						

b) アドバイス支援体制の整備

開発機関の相談に適宜必要なアドバイスが行えるよう「技術支援アドバイザーによる定期相談会」を開催した。
なお、今年度は開発後の第三者認証の取得方法に関するアドバイザーを追加し実用化に向けた相談を強化した。

(技術支援アドバイザーによる定期相談会詳細)

・日程

- 第1回 平成30年11月9日(東京)
- 第2回 平成30年12月6日(大阪)
- 第3回 平成31年1月31日(東京)

・分科会内容

- ① 分科会1：倫理審査又は実証試験に係る研究計画の立案について
NPO法人支援技術開発機構 理事長 山内 繁 氏
- ② 分科会2：事業化及び販路拡大に向けた方策の検討について
一般社団法人オープンイノベーション促進協議会 代表理事 西澤民夫 氏
- ③ 分科会3：福祉機器に求められる機能的なデザインの設計について
NIDOインダストリアルデザイン事務所 代表 石井賢俊 氏
- ④ 分科会4：安全設計手法及び、第三者認証の取得方法について
Octa Robotics 代表 鍋島厚太 氏

c) 中間評価の実施

全ての開発機関に開発の進捗状況を確認するべく、進捗管理表の提出を義務付けるとともに、審査委員による中間評価を実施した。審査委員によるその場での助言に加え、意見を要約したものを各機関にフィードバックした。

第2回審査委員会(中間評価)

日時：平成30年12月10日(月) 13:00~17:00
場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター3階

(開発進捗管理表より抜粋)

- 1、今年度の事業終了時の目標
- 2、年間の実施工程※交付申請書「12.実施工程」の項目をご記入下さい。

項目 (開発工程)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	進捗の状況
当初の予定							当初の予定に対して____%まで実施
実際の進捗							
当初の予定							当初の予定に対して____%まで実施
実際の進捗							
当初の予定							当初の予定に対して____%まで実施
実際の進捗							
現状の課題							

⑥ 取り組み結果の評価

- 年度の実施項目が明確になり、開発への的確な助言に繋げることができた。
- 今年度終了時の目標を記載いただくこととしたので、複数年計画の開発機関はどこまで開発を実施するかが把握しやすくなった。
- 技術支援アドバイス相談会や中間報告にて適宜助言を行うことで、概ね当初の計画通りに計画が遂行された。
- アドバイス相談会では開発機関の課題解決に向け、有益な意見交換が取り行われた。アンケートでは12社中、10社が「大変良かった」2社が「良かった」で満足度としても高い結果であった。

事後報告書の結果

相談会の感想 N = 12

1	大変良かった	10社
2	良かった	2社
3	どちらとも言えない	—
4	あまり良くなかった	—
5	良くなかった	—

⑦ 開発事業計画の達成度

- 当初の開発計画に対し最終評価時の進捗状況の確認を行った。
- 多くの開発機関が概ね当初の計画目標を達成できていた。
- 目標を達成できなかった理由としては、「計画した仕様検討や設計などの期間等に無理があった」、「センサーの開発進捗が遅れてしまった」、「当初予定していなかったEMC対策を実施したことにより事業計画に遅れが生じた」等であった。

事業の実施経過

平成30年4月	5月	6月	7月	8月	9月
【障害者自立支援機器等開発促進事業】 【シース・ニーズマッチング強化事業】		公募要項の作成、配付、周知 ◎公募説明会の開催 東京(7/3)名古屋(7/4)大阪(7/5)福岡(7/6) 事前審査 公募期間 (6/18-7/18)	東京(7/3)名古屋(7/4)大阪(7/5)福岡(7/6) 事前審査 ◎公募説明会の開催 東京(7/3)名古屋(7/4)大阪(7/5)福岡(7/6)	★第1回委員会(採択) (8/22) ※内示～交付申請 ※交付決定 ◎補助事務・倫理審査説明会	開発機関の進捗管理及び アドバイス支援等 ※交付決定
		交流会場の仮予約、決定 委託先の選定、決定 マッチング交流会2018 開催の周知、HP設置	交流会出展要項の作成、送付、募集(8/8-9/14)	併催イベントの企画検討	
		公募要項の策定 委託先の選定、決定	★第1回委員会(7/24) 事業計画 募集要項の策定、審査基準の策定	好事例の公募・公募説明会の開催 書類審査による内容審議	
【障害者自立支援機器等開発促進事業】 開発機関の進捗管理及び アドバイス支援等 ★第2回運営管理委員会(10/5)		★第2回委員会(中間評価) (12/10)	平 成 3 1 年 1 月	2月	3月
		◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン	◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	2月末助成終了、実績報告纏め 実績報告(3/8)～確定 ★第3回運営管理委員会(3/22)
	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等
★第1回企画委員会(10/3) ニーズ集の改訂、HP掲載・周知	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等	◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(福岡)2日間 (1/9-10) 交流会、シンポジウム、好事例プレゼン ◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等
【障害者自立支援機器導入好事例普及事業】 ★第2回委員会(10/29) 応募基準との適合性確認 現地調査	★第3回委員会(11/12) 好事例及び優秀賞案件の決定 HP掲載、受賞案件の紹介パンフ等の配付	最優秀賞案件の投票	シース・ニーズマッチングの推進、開発応募案件の創出	★第4回委員会(2/14) 最優秀賞の決定、表彰	成果報告の取り纏め

II. シーズ・ニーズマッチング強化事業

1. 目的

支援機器の開発にあたっては、障害当事者のニーズを的確に捉えた製品開発を促進するとともに、新たに創出されたイノベーションを支援機器の分野の開発にも活用することが期待されている。

政府が掲げた「ロボット新戦略」のなかでも、「支援機器（ソフトウェアを開発する場合を含む。）等について、マーケットが小さい等のためビジネスモデルの確立が困難な機器の開発（実用的製品化）の取り組みに対して支援する」とされた。

こうした背景を踏まえ、「シーズ・ニーズマッチング強化事業（以下「本事業」）」では、支援機器の分野で活用可能な技術シーズと障害当事者のニーズを確実にマッチングする取り組みを行い、もって障害者のニーズを的確に反映した製品開発及び普及の促進を図るとともに、支援機器分野への新規参入を積極的に促すこととする。

本事業を通じて、障害者の多様化・複雑化する福祉ニーズに対応することとし、障害者（児）の就学及び就労、レクリエーション等の実現、活動や参加に寄与することを目的とする。

また、本事業では、障害者自立支援機器等開発促進事業で採択された機器の一般公開を行い、開発が進められる最新の機器に関する情報提供を行うとともに、関係する障害当事者と開発機関の交流の場を提供する。

2. 事業結果

（1）シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会の設置・開催

① 企画委員会の設置

障害関係団体等から構成する、交流会企画委員会を協会内に設置し、シーズ・ニーズマッチングのコーディネート機能及び体制を構築した。

交流会企画委員会では、「シーズ・ニーズマッチング交流会」の企画及び運営に関して議論し、より良い交流会の開催の実現に向けた検討を行った。具体的には、シーズとニーズのマッチングの手法を検討するとともに、マッチングに成功した事例については開発促進事業への応募を促すこととした。

企画委員会 名簿

（敬称略）

氏名	役職名
庵 悟	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
小川 光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
小山 万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
澤藤 充教	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

氏名	役職名
正田 勇一	独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 中央障害者雇用情報センター
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
大山 孝二	一般社団法人 日本ALS協会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
逢坂 忠	社会福祉法人 日本盲人会連合

企画委員会 オブザーバー名簿

(敬称略)

氏名	役職名
金子 和生	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部
小林 信喜	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
田仲 教泰	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
村山 太郎	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
田上 未来	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
松橋 次郎	厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

② 開催結果

a) 第1回シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会

○日時：平成30年10月3日（水）10：00～11：30

○場所：主婦会館プラザエフ B2階 クラルテ（東京都内）

【実施内容】

- ・ 障害者自立支援機器等開発促進事業の実施状況の報告
- ・ 障害者自立支援機器導入好事例普及事業の実施状況の報告
- ・ シーズ・ニーズマッチング交流会2018の開催にあたっての報告
- ・ 開催内容の骨子（案）の検討
- ・ シーズとニーズのマッチング方策（案）の検討

b) 第2回シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会

○日時：平成30年12月12日（水）10：00～11：30

○場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター3階（東京都内）

【実施内容】

- ・ 本事業の目標と実行
- ・ 目標達成に向けた具体的な方策について
- ・ 出展企業等と分野の状況について
- ・ 交流会開催の周知について
- ・ 障害者団体からのニーズの集約
- ・ 導入好事例普及事業の最優秀賞選考に当たってのお願い

(2) シーズ・ニーズのマッチング方策・結果

支援機器に係る、シーズ（作る）とニーズ（作る側）のマッチング方策について、交流会企画委員会での検討を踏まえ、以下の2つを方策として執り行うこととした。

① ニーズ集の改訂

障害当事者のニーズを的確に踏まえた支援機器の開発を促進するため、交流会企画委員等の協力を得ながらニーズを集約し交流会で配布を行った。

【ニーズを提供いただいた障害団体】

1. 社会福祉法人 全国盲ろう者協会
2. 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
3. ポリオの会
4. NPO法人 日本失語症協議会
5. 一般社団法人 日本ALS協会
6. ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
7. 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
8. 社会福祉法人 日本盲人会連合

今年度、新たに提出いただいたニーズは7件あった。全体としては33件のニーズを冊子として取りまとめた。

② 参加目標シートの配布

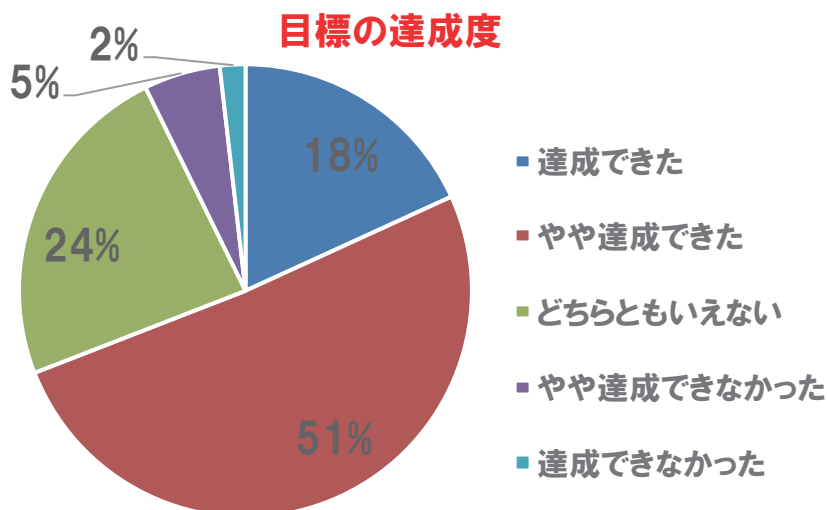
出展応募時に交流会の参加目的及び目標に関する様式を配布し、参加目標を明確化し、交流会の成果を確認することとした。

全出展者113団体・企業のうち、アンケートを回収できたのは55団体・企業で回収率は48.7%だった。

回答があった55団体・企業のうち「達成できた」「やや達成できた」と回答したのは、38件で全体の約7割が達成できたという結果であった。

Q. 交流会の目的の達成度を5段階で自己評価して下さい。

達成度	回答数
5. 達成できた	10件
4. やや達成できた	28件
3. どちらともいえない	13件
2. やや達成できなかった	3件
1. 達成できなかった	1件



(3) シーズ・ニーズマッチング交流会の概要・開催

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ（作る人）・ニーズ（使う人）のマッチング交流会を開催した。

交流会では、開発企業が試作中の支援機器を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設けた。また、交流会の来場者を増やすべく特別企画としてシンポジウム、採択機関による成果報告会、優秀賞者プレゼンテーションを行った。

① 開催日時

大阪開催	日時：平成30年12月18日（火）～19日（水）
	場所：OMM（大阪マーチャンダイズマート）2階Aホール
	特別企画① シンポジウム「福祉機器開発の最前線と現状の課題」
	特別企画③ 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 優秀賞者プレゼンテーション
福岡開催	日時：平成31年1月9日（水）～10日（木）
	場所：FFB HALL 福岡ファッションビル 8階Aホール
	特別企画① シンポジウム「福祉機器開発の最前線と現状の課題」
	特別企画③ 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 優秀賞者プレゼンテーション
東京開催	日時：平成31年2月13日（火）～14日（水）
	場所：TOC有明 4階コンベンションホール
	特別企画① シンポジウム「福祉機器開発の最前線と現状の課題」
	特別企画② 採択企業による成果報告会 特別企画③ 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 優秀賞者はプレゼンテーション、最優秀賞者の決定

【特別企画】

a) シンポジウム「福祉機器開発の最前線と現状の課題」

ロボットやICTなどの先端技術を応用した支援機器開発の現状を把握するとともに、実用化に向けた課題を共有化し、課題解決に向けた方策について共通理解を深めることを目的として開催した。

<シンポジウムの様子>



<シンポジウムのプログラム>

特別企画① (1日目) 「福祉機器開発の最前線と現状の課題」 13:00~15:30 (120分) プレゼンテーション各20分		
大阪開催	福岡開催	東京開催
12月18日 (火)	1月9日 (水)	2月13日 (水)
『多指機構を有する装飾性に優れた量産型筋電義手』 (社福) 兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所	『ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発』 (株)エクセルシア	ロボット 電動車椅子 パナソニック(株)
『Free Walkによって下肢不自由な方をサポートする』 FREE Bionics Japan(株)	『脊髄損傷者用歩行アシスト装置 ReWalk』 (株)安川電機	WPAL (下肢麻痺者用の歩行補助ロボット) アスカ(株)
『コミュニケーション支援アプリ UDトーク』 RoiS(株)	『指伝話コミュニケーションパック』 (有)オフィス結アジア	視線で操作するスイッチ -アイスイッチ- (株)エンファシス
『画像聴覚化装置 開発と現状の課題』 (株)画像聴覚化研究所	『聴覚障がい者のQOLの改善に向けて～遠隔文字通訳 (e-ミミ)～』 (株)アイセック・ジャパン	OTON GLASS (株)オトングラス
パネルディスカッション (40分)		

b) 採択機関による事業成果報告

シーズ・ニーズマッチング交流会（東京開催）の機会を利用し、採択機関から開発促進事業の1年間の成果報告を一般公開の形で実施することとした。また、審査委員にはその場に同席いただき、事業の評価をいただいた。

<成果報告会の様子>



特別企画②

平成30年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業による成果報告会

【開催日程】 2019年2月14日(木)

報告時間	分野	開発テーマ名	企業名
① 10:30～10:40	肢体不自由者の日常生活支援機器	肢体不自由者の排泄をサポートする支援機器の開発	(株)リパティソリューション
② 10:45～10:55		義足装着者の歩行環境を感知し、最適な踵高に自動調整してくれる義肢足部「オートセーフティヒール」の開発	(株)金久保製作所
③ 11:00～11:10	視覚障害者の日常生活支援機器	視覚障害者向け音声認識リモコンBOXの開発	(株)レイトロン
④ 11:15～11:25	障害者の就労支援機器	日常生活場面に特化した高次脳機能障害者訓練・評価用システム開発	(株)システムネットワーク
⑤ 11:30～11:40	障害者のコミュニケーションを支援する機器	ALS、脳梗塞患者等肢体不自由者に向けたiPad電子文字盤の開発	(株)デジタルリーフ
⑥ 11:45～11:55	障害者のレクリエーション活動を支援する機器	障害者の能動的な運動・活動を促すコンピューターグラフィックを利用したレクリエーション型エクササイズの開発	藤田医科大学
⑦ 12:55～13:05	障害者のレクリエーション活動を支援する機器	姿勢保持機能付き屋内用ブランコの開発	日進医療器(株)
⑧ 13:10～13:20	障害児の生活を豊かにする支援機器	ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発	(株)エクセルシア
⑨ 13:25～13:35		低年齢児向けの移動支援機器、および機器普及を促すシミュレーション開発	(株)今仙技術研究所
⑩ 13:40～13:50	ロボット技術を活用した障害者向け支援機器	物体の形状に合わせて把持することができる多指機構を有し、軽量で極めて装飾性に優れた量産型筋電義手	(社福)兵庫県社会福祉事業団
⑪ 13:55～14:05		ユーザーニーズによる生活支援ロボットアームの改良	テクノツール(株)
⑫ 14:10～14:20	障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	視覚障害者のIoT化と情報共有クラウドによる移動支援システムの開発	(株)コンピュータサイエンス研究所

c) 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

シーズ・ニーズマッチング交流会の場を活用し、大阪及び福岡開催にて優秀賞者の発表を行い、さらには東京開催では3会場における一般投票の結果を集計し、最優秀賞者を決定することとし、その表彰式を執り行った。

<導入好事例普及事業 プレゼンテーションの様子>



特別企画③

平成30年度 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 優秀賞プレゼンテーション

	プレゼン時間	機関名
大阪会場 2018年12月19日(水)	13:30~13:40	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
	13:40~13:50	パナソニックエイジフリー株式会社
	13:50~14:00	株式会社日立ケーイーシステムズ
	14:00~14:10	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
	14:10~14:20	株式会社ミクニライフ&オート
福岡会場 2019年1月10日(木)	13:30~13:40	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
	13:40~13:50	パナソニックエイジフリー株式会社
	13:50~14:00	株式会社日立ケーイーシステムズ
	14:00~14:10	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
	14:10~14:20	株式会社ミクニライフ&オート
東京会場 2019年2月14日(木)	13:00~13:10	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
	13:10~13:20	パナソニックエイジフリー株式会社
	13:20~13:30	株式会社日立ケーイーシステムズ
	13:30~13:40	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
	13:40~13:50	株式会社ミクニライフ&オート
	14:20~	最優秀賞の決定
	14:30~	表彰式

② 参加状況

a) 全ての出展企業及び団体の数

区分	参加数
1. 平成30年度 採択企業	12企業
2. 聴覚・視覚障害者の支援機器	12企業
3. 肢体不自由者の支援機器	32企業
4. 難病患者・障害児の支援機器	6企業
5. レクリエーションコミュニケーション支援機器	14企業
6. ロボット・脳科学に関する支援機器	6企業
7. 就労支援に関する支援機器	1企業
8. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	10企業
9. その他	6企業
10. 招待団体（障害団体・開発支援団体・職能団体）	14団体
合計	113企業・団体

b) 会場別の出展企業及び団体の数

地域	出展企業・団体数
大阪開催	61企業・団体
福岡開催	46企業・団体
東京開催	90企業・団体
全体（延べ）	197企業・団体

c) 会場別の来場者数

地域	参加者数
大阪開催	320名
福岡開催	127名
東京開催	362名
全体（延べ）	809名

d) 会場別の来場者の属性

地域	使う人	作る人	その他	合計
大阪開催	70名	66名	184名	320名
福岡開催	42名	23名	62名	127名
東京開催	102名	72名	188名	362名
全体（延べ）	214名	161名	434名	809名

※その他は、「行政・教育機関・業界団体等」

④ 会場別の状況

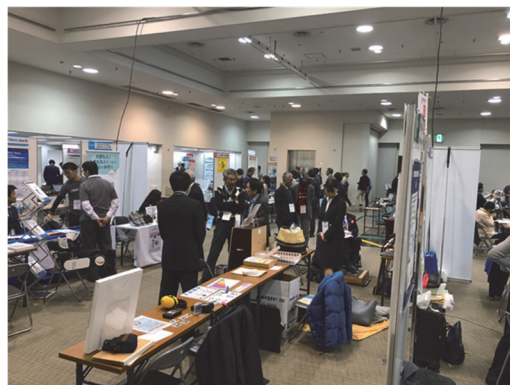
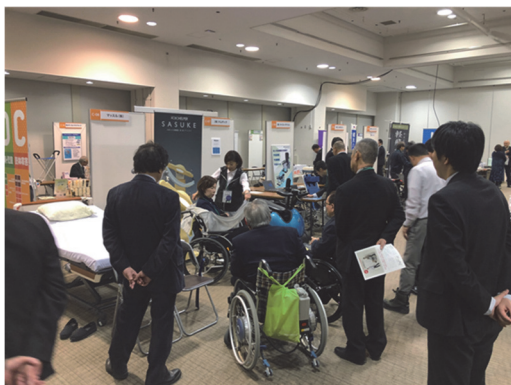
a) 大阪開催の概要

○出展参加：61企業・団体

○来場者数：

	使う人	作る人	その他	合計
1日目	37人	34人	117人	188人
2日目	33人	32人	67人	132人
合計延べ	70人	66人	184人	320人

<交流会風景>



b) 福岡開催の概要

○出展参加：46企業・団体

○来場者数：

	使う人	作る人	その他	合計
1日目	21人	14人	36人	71人
2日目	21人	9人	26人	56人
合計延べ	42人	23人	62人	127人

<交流会風景>



c) 東京開催の概要

○出展参加：90企業・団体

○来場者数：

	使う人	作る人	その他	合計
1日目	71人	37人	88人	196人
2日目	31人	35人	100人	166人
合計延べ	102人	72人	188人	362人

<交流会風景>



(4) アンケート結果の概略

① 来場者アンケートの結果

本交流会では来場者に対し、交流会参加の目的や目的の達成度、満足度についてアンケート調査を実施した。アンケートの回収結果は以下のとおりである。

<アンケートの回収結果>

	参加者数	回収数	回収率
大阪開催	320人	237件	74.1%
福岡開催	127人	122件	96.1%
東京開催	362人	275件	76.0%
全体	809人	634件	78.4%

(5) 運営管理委員会の目標設定と評価

① 目標設定

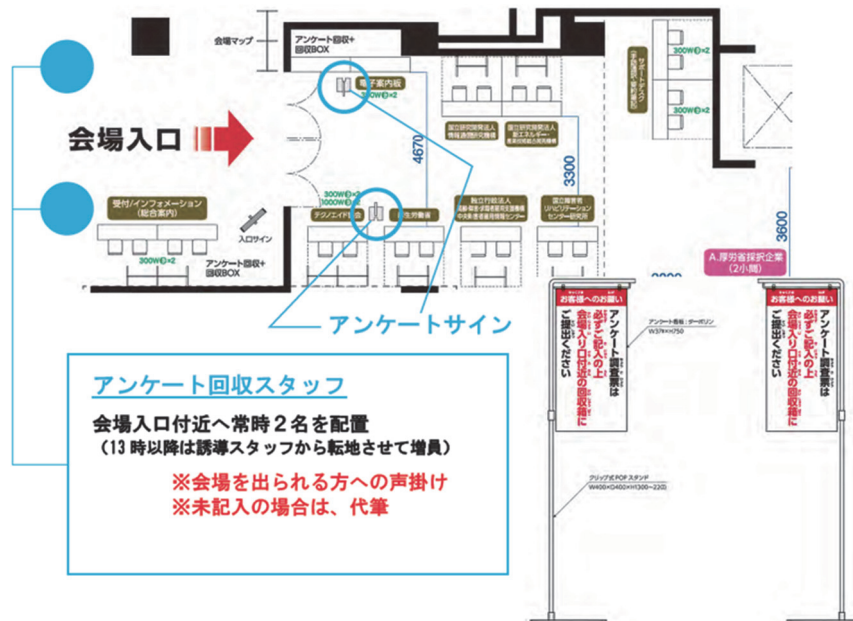
- アンケート調査の確実な実施を図り、交流会参加の目的と現状の課題、交流の成果を明確にする。回収率は一般来場者8割、招待団体及び出展企業全数を目標とした。
- 交流会への一般来場者を増やす方策として、併催イベントの拡充を図る。
- マッチングの成果を来年度の開発促進事業の応募へ繋げることとする。10案件以上の応募を目標とした。

② 具体的な実行方策

a) 実施工程の策定

- 昨年度はアンケート調査票の記載項目が多くなってしまったため、アンケート調査票を一昨年のものに戻し、記載しやすいものに変更した。
- 運営事務局のスタッフ内で調査票の回収を徹底するよう意識共有を図ることとした。
- アンケートのサイン（看板）を強調し、スタッフの人員も昨年度よりも増員を図ることとした。
- 会場出口付近にアンケートを記載できるスペース（椅子、机、筆記用具）を配置して、ゆっくり記載ができるように配慮した。

○出展者のアンケート調査票はスタッフが閉会前に回収に伺うこととした。



b) 来場者の増加

○前年度までの傾向から併催イベントの開催時には来場者が増加するため、併催イベントをいずれかの日程においても実施することとした。

c) 開発促進事業の応募へ繋げる

○交流会当日、テクノエイド協会ブースにて「開発促進事業」のPRを行う。

○応募を検討している企業に対して、公募要項を用いて相談に応じることとした。

○招待団体においては、交流会にて開発協力を行うことが決まった企業に対し、開発促進事業の応募を積極的に行っていただくようお願いした。

(1団体1企業とのマッチングを目標)

○応募を希望する企業の件数については、アンケート調査票に次年度応募を行うかどうかについての質問項目を設けて、集計することとした。

③ 取り組み結果の評価

○一般来場者のアンケート回収率は3会場で78.4%であり、目標の8割には満たなかったが、昨年の41.9%と比較すると大幅に回収率が向上した。

○障害当事者によっては代理で付き添い者が記入するケース等もあり、全ての方から回収することは難しかった。

○出展者のアンケート回収率は100%を達成した。各会場全てのブースを回って手渡しでアンケートを回収することで全数を回収することができた。

<出展者のアンケート回収率>

	参加者数	回収数	回収率
大阪開催	61件	61件	100%
福岡開催	46件	46件	100%
東京開催	90件	90件	100%
全体	197件	197件	100%

- 特別企画によるイベントでは、多くの方が参加されたが、来場者数自体はほぼ前年度と変わらなかった。

<来場者数>

	昨年度	今年度
大阪開催	307人	320人
福岡開催	134人	127人
東京開催	385人	362人
全体	826人	809人

- アンケート調査の結果、次年度以降、開発促進事業に「是非、応募したい」「応募してみたい」と回答した件数はそれぞれ、39件、60件であった。

<交流会を通じて「障害者自立支援機器等開発促進事業」に応募してみたいですか>

出展企業及び団体の数113件

	件数
是非、応募したい（応募を検討したい）	39件
応募してみたい（応募を検討してみたい）	60件
合計	99件

III. 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

1. 目的

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器（以下「支援機器」）は、障害者の活動や参加等を促す観点から、極めて有用なものである。

当協会では、これまで「開発促進事業」及び「シーズ・ニーズマッチング強化事業」を行い、支援機器に対する開発補助を行うとともに、障害者ニーズを的確に捉えた製品開発を促す観点から交流会を開催すること等により、開発の初期段階から製品化の一步手前に至るまでの支援を一貫して行ってきたところである。

しかしながら、開発された支援機器の利活用や、あらたな支援機器の開発の参考等、支援機器のさらなる普及促進に苦慮することも少なくない。

こうした背景を踏まえ、今年度より、障害者ニーズを的確に踏まえて支援機器を開発し製品化した企業や研究所、さらには支援機器を効果的に導入し利活用している福祉事業所等を全国各地から募り、全国の見本となる好事例を表彰する事業を新たに行うこととする。

こうした支援機器の開発及び普及の裾野を広げる取組みを全国規模的に行うことにより、支援機器分野への新規参入を促すとともに開発意欲を喚起し、また福祉事業所等における支援機器の適切かつ効果的な利活用を推進することとする。

2. 事業結果

(1) 好事例選考委員会の設置・開催

① 好事例選考委員会の設置

本事業を適切かつ円滑に実施するため、支援機器に係る有識者及び学識経験者、リハビリテーションセンター専門職等から構成する「好事例選考委員会」を当協会に設置した。

なお、本委員会において好事例及び優秀賞の選考を行うこととした。

好事例選考委員会

(委員)

(敬称略)

氏名	所属
田中 理	横浜市総合リハビリテーションセンター
川田 功二	全国社会福祉協議会 全国身体障害者施設協議会
高木 洋一	なごや福祉用具プラザ
玉垣 努	神奈川県立保健福祉大学
山内 繁	NPO法人支援技術開発機構

下線：委員長

② 開催結果

○第1回 好事例選考委員会

- ・開催：平成30年7月24日（火）10:00～12:00
- ・場所：テクノエイド協会 会議室
- ・内容
 - 事業概要の説明
 - 事業実施スケジュール
 - 障害者自立支援機器の開発及び活用の状況報告
 - 募集要領（案）の検討
 - 審査要領（案）の検討

○第2回 好事例選考委員会

- ・開催：平成30年10月29日（月）10:00～12:00
- ・場所：テクノエイド協会 会議室
- ・内容
 - 応募者の一覧
 - 応募資格及び応募基準の確認結果
 - 書面審査結果の検討
 - 優秀賞者及び好事例賞者の候補案件選出の検討
 - 現地調査の実施方法について

○第3回 好事例選考委員会

- ・開催：平成30年11月12日（月）14:00～16:00
- ・場所：TKP飯田橋ビジネスセンター
- ・内容
 - 書面審査結果の報告
 - 現地調査の実施結果報告
 - 優秀賞者及び好事例賞者決定の検討
 - 最優秀賞者の選考方法の検討

○第4回 好事例選考委員会

- ・開催：平成31年2月14日（木）12:00～16:00
- ・場所：TOC有明4階 会議室
- ・内容
 - 最優秀賞の選考方法について
 - 進行の流れについて
 - 最優秀賞の選考
 - 最優秀賞の決定

(2) 応募概要の策定

選考委員会において、好事例等を収集するための「応募概要」を検討し、応募様式、選考及び審査の基準を策定するとともに、表彰式までの具体的な実施プランを検討した。

① 対象となる支援機器

- 目的要件：障害者（児）の活動や参加を促す機器又は、障害者の自立支援を行いやすくなる機器であること。（ソフトウェアを含む。）
- 分野要件：（以下のいずれか1つ以上に該当すること。）

- ・ 肢体不自由者の日常生活支援機器
- ・ 視覚障害者の日常生活支援機器
- ・ 聴覚障害者の日常生活支援機器
- ・ 盲ろう者の日常生活支援機器
- ・ 難病患者等の日常生活支援機器
- ・ 障害者の就労支援機器
- ・ 障害者のコミュニケーションを支援する機器
- ・ 障害者のレクリエーション活動を支援する機器
- ・ 障害児の生活を豊かにする支援機器
- ・ ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器
- ・ 脳科学の成果を応用した支援機器
- ・ 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器
- ・ その他

- 実績要件：応募時点において、定価が付いて販売されているものを原則とする。
自助具など個々の利用者のニーズに応じて製作するものについては、利用者からオーダーがあった場合、製作できるものとする。
※製作できるものとは：材料及び工作法が明確となっていること。

② 応募資格及び基準

募集する部門を2つに区分けし、それぞれの応募資格及び基準を設けた。

◆技術開発研究部門

- 応募資格**：国内の開発企業又は研究機関等
- 応募基準**：既に販売実績（自助具の場合は製作実績）があり、以下のいずれかに該当すること
 - 障害者のニーズを的確に捉えて開発した機器
 - 技術革新やメーカー等の製品開発努力等により、新たに開発されたもので、従来の機器では実現できなかった機能等を有する機器

◆導入利活用部門

- 応募資格**：障害者総合支援法による障害福祉サービス（在宅・施設）事業所又は行政等※個人は除く。
- 応募基準**：応募時点で支援機器を半年以上、実用的に利用しており、以下のいずれかに該当すること。
 - 障害者の参加や活動に役立てていること
 - 障害者の支援がより行いやすくなるよう工夫していること

③ 審査の観点

◆技術開発研究部門

- 障害者の自立支援に適用する範囲
- 具体的なニーズに対する対応策
- 導入に伴うサポート
- 実績

◆導入利活用部門

- 支援機器活用による新たな自立支援方法や体制の工夫
- 支援機器活用を利活用するための教育
- 障害者及び支援者の参加や活動に対する安心感・満足度
- 実績

④ 表彰位

応募いただいた案件は選考委員会での審査の結果、以下の表彰位を制定し、授与することとした。

○最優秀賞（1件）

応募案件のうち、障害者のニーズを適切に捉え、支援機器の普及啓発に最も寄与するものに授与 ※優秀賞の案件の中から選考します。

○優秀賞（5件）

全国の見本となる優れた事例であり、優秀とされるものに授与

○好事例賞（8件）

支援機器の適切な普及と利用の定着、開発に寄与するものに授与

⑤ 審査の方法

審査の方法

当協会に設置した有識者等から構成する選考委員会の審査を経て、受賞者を決定します。具体的には以下の手順となります。



(3) 応募説明会の開催

開発促進事業による過去の採択機関やシーズ・ニーズマッチング交流会等への参加企業、既存の福祉用具メーカーや地域の産業振興組織、さらに導入・利活用に係る好事例については、障害当事者団体等へ周知を要請し、施設及び在宅における福祉用具の導入好事例を募集した。

○応募説明会の内容及び日時

案件を募集するにあたって申請者に対し、本事業の目的、応募資格者、審査の手法等の理解を深めるため、東京と大阪の2会場で応募説明会を実施した。

会場	東京会場	大阪会場
日時	平成30年8月30日(木) 13時30分～	平成30年8月31日(金) 13時30分～
場所	場所：主婦会館プラザエフ 部屋名：カトレア(7階)	場所：新大阪丸ビル 新館 部屋名：506号室
内容 (予定)	【説明会の内容】 1. 好事例事業等の概要説明、関係者への周知のお願い(10分) 2. 公募要領と応募書類の記載内容及び方法について(20分) 3. 好事例等の選出と今後のスケジュールについて(10分) 4. シーズ・ニーズマッチング交流会2018の開催について(20分) 5. 質疑応答(5分) 6. 個別相談の実施(30分)	

応募期間

平成30年8月6日(月)～平成30年9月21日(金)

(4) 応募結果の概要

応募結果

技術開発研究部門：29件
導入利活用部門：4件
合計：33件

(5) 受賞者の選考方法・結果

① 選考プロセス

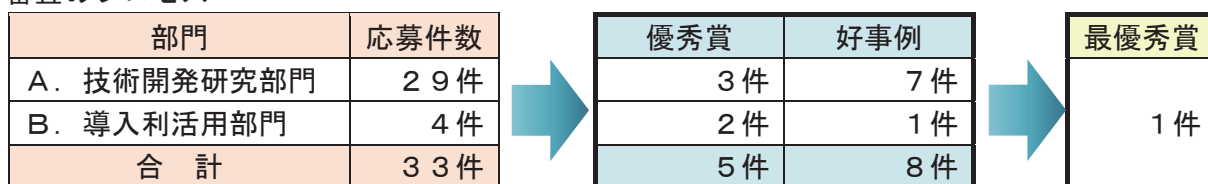
- 選考委員会において定めた審査の観点に基づき、全33件の書面審査を行った。
- その中から現地調査が必要な案件を絞り、実際に事務局にて現地調査を実施した。

【現地調査の日程】

- ・平成30年10月31日(火)：(株) ミクニライフ&オート
- ・平成30年11月5日(月)：(社福) 芳香会 障害者支援施設 青嵐荘療護園
- ・平成30年11月6日(火)：(社福) 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
- ・平成30年11月8日(木)：仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター

- 現地調査の報告を踏まえ、再度好事例選考委員会にて検討を行い、最終的に優秀賞5件及び、好事例賞8件を決定した。

審査のプロセス



② 最優秀賞の決定方法

a) 一般投票（障害当事者団体等）

全国3会場で開催するシーズ・ニーズマッチング交流会のいずれかの会場で、該当案件についてプレゼンテーションを聞き、最も相応しいものから上位3案件を選考することとした。

- | | |
|----|-------------|
| 3点 | 最優秀賞に最も相応しい |
| 2点 | 大変良い事例 |
| 1点 | 良い事例 |

b) 選考委員審査

上記（1）同様、いずれかの会場で、該当案件についてプレゼンテーションを聞き、全ての案件について5段階評価することとした。

- | | |
|----|---------------|
| 5点 | 格段に優れている |
| 4点 | 相当優れている |
| 3点 | 優れている |
| 2点 | 良いところが少ない |
| 1点 | 特に評価すべきものが少ない |

c) 上記を踏まえた採点及び候補の選考

- 選考委員による審査については、平均点に一定の加算率を加えることとした。
- 一般投票の得点と委員審査を合計し、最も得点の高い案件を「最優秀賞」として選考することとした。
- 以上の選考結果を踏まえて、最終的には第4回選考委員会による審議により「最優秀事例賞」1者を決定することとした。

③ 受賞者結果

◆最優秀賞(1件)

株式会社ミクニライフ&オート

◆優秀賞(5件)

仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター

パナソニックエイジフリー株式会社

株式会社日立ケーイーシステムズ

社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園

株式会社ミクニライフ&オート

◆好事例賞(8件)

有限会社安久工機
 NPO法人iCareほっかいどう
 株式会社マイクロブレイン
 有限会社オフィス結アジア
 株式会社沖ワークウエル
 シェルエレクトロニクス株式会社
 かえるキッズのお助け隊
 リオン株式会社 / 奈良県立医科大学

(6) シーズ・ニーズマッチング交流会による表彰式の実施

「シーズ・ニーズマッチング交流会2018」(東京開催)の会場にて最優秀賞者の発表及び、優秀賞者5件と最優秀賞者1件の表彰を取り行った。

<スケジュール>

【優秀賞者によるプレゼンテーション】(各10分)

時間	テーマ	機関名	部門
(WESTホール 特設会場)			
13:00 ~ 13:10	コミュニケーション支援機器が患者の生活と介助を変えた	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター	導入利活用部門
13:10 ~ 13:20	高性能とシンプルさを両立させた意思伝達装置	パナソニックエイジフリー株式会社	技術開発研究部門
13:20 ~ 13:30	人のつながりを支援する機器	株式会社日立ケーイーシステムズ	技術開発研究部門
13:30 ~ 13:40	新リフター導入により「支援の統一」「腰痛予防」を実現	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 (はくちよう園)	導入利活用部門
13:40 ~ 13:50	足の不自由な方の自動運転をサポートする3つの装置 ジョイスティック運転装置「ジョイ・カー」	株式会社ミクニライフ&オート	技術開発研究部門
13:50 ~ 14:00	<u>山内委員長からの一言</u>		

【最優秀賞の決定、本事業の総括】

時間	内容
(WEST 会議室3)	
14:00 ~ 14:20	最優秀賞の決定、本事業の総括

【表彰式等】

時間	内容
(WESTホール 特設会場)	
14:20 ~ 14:25	テクノエイド協会 理事長挨拶
14:25 ~ 14:35	優秀賞者の表彰式
14:35 ~ 14:50	最優秀賞者の発表・表彰式
14:50 ~	記念撮影

<表彰式の様子>



(7) 運営管理委員会の目標設定と評価

① 目標設定

- 好事例を普及啓発するためプレゼンテーションやインターネットを通じて広く情報発信し、支援機器の必要性及び有用性を社会へ広めることとした。
- 応募から審査、最優秀賞者を決定するまでのプロセスを確立し来年度の事業に繋ぐこととした。

② 具体的な実行方策

(a) 好事例の普及啓発

- 支援機器の好事例を普及・啓発する方策として、好事例を全国から募集し表彰するための取組を行うこととした。
- 当協会が定めた賞を受賞した好事例については、ホームページで公開するとともに、「受賞案件紹介ガイドブック」を作成し、関係機関へ広く配布することとした。
- シーズ・ニーズマッチング交流会の併催イベントとして「最優秀賞者プレゼンテーション」及び「表彰式」を実施し、本事業の取組みを社会に発信することとした。

(b) 受賞プロセスの確立

- 有識者等から構成する好事例選考委員会を設置し、好事例等の募集方法について検討を図った。
- 具体的には、「応募要領」、「応募様式」の策定を行った。
- さらに、選考方法や審査の基準を明文化することで、審査から受賞までのプロセスを確立した。

(最優秀賞決定へのプロセス)

- ① 一次審査（書面審査）：応募書類による書面審査



- ② 現地調査：審査の観点に基づき適用状況を確認する



- ③ 二次審査（選考）：好事例及び優秀賞の決定



- ④ 最優秀賞の決定：優秀賞の中から一般投票の結果を加味して決定

③ 取組結果の評価

- シーズ・ニーズマッチング交流会の特別企画として導入好事例の表彰式を行うとともに、受賞案件紹介ガイドブックを作成し、社会に自立支援機器の好事例を発信した。
- 申請受付から最優秀賞者決定までの一連のプロセスが事業を行う中で確立することができた。

第 2 部 資料編

平成30年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 (開発機関の公募)

公 募 要 項

この「**障害者自立支援機器等開発促進事業**（以下、「**本事業**）」は、厚生労働省から本事業の実施団体とされた「**公益財団法人テクノエイド協会**（以下、「**協会**）」が実施・公募するものです。

また、この公募要項は、障害者自立支援機器等の開発機関を募集するための内容を記載したものであり、平成30年6月15日現在のものです。

今後の問い合わせや実施検討の結果等を踏まえ、更新する場合がありますので、最新版は、協会のホームページからダウンロードしてください。

(<http://www.techno-aids.or.jp/>)

平成30年6月15日現在

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

1	目的.....	3
2	応募条件等.....	4
3	対象分野.....	5
4	補助額等.....	5
5	応募にあたっての留意事項.....	9
6	提出書類.....	13
7	公募説明会.....	13
8	公募期間と提出期限.....	14
9	提出方法.....	14
10	採択方法.....	15
11	本事業に関するお問い合わせ先.....	15
12	事業実施スケジュール表（年間）予定.....	16
	（別紙1）開発分野とニーズの参考例.....	17
	（別紙2）単価基準額.....	23
	（別紙3）平成29年度障害者自立支援機器等開発促進事業 応募書類.....	24

障害者自立支援機器等開発促進事業 公募要項 (開発機関の公募)

1 目的

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠ではありますが、障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化（ソフトウェアを開発する場合を含む。以下同じ。））が進んでいない状況にあります。

このことから、本事業は、マーケットが小さく事業化が困難であること、あるいは技術開発は終了しているが経費的な問題からモニター評価（被験者による評価試験）が行えないといった理由から、実用的製品化が進まない機器について、障害当事者のモニター評価等を義務付けた実証実験等を行うことで、障害当事者にとって使いやすく適切な価格で販売される機器を、企業が障害当事者と連携して開発する取組みに対して助成を行うことによって、障害者の自立や社会参加の促進に資することを目的とします。

※ この公募は、厚生労働省が行う「平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業」の実施団体にあたる「公益財団法人テクノエイド協会」が行うものであります。

※ 従って、国等における検討状況や協会に対する補助金の交付等によって、全体の内容やスケジュールを変更する場合があります。

※ 最新情報は適宜協会ホームページで確認を行ってください。

(<http://www.techno-aids.or.jp/>)

障害者自立支援機器等開発促進事業

【事業目的】

障害者の自立や社会参加を支援する機器や技術の開発は、マーケットが小さい、経費的な問題からモニター評価が行えないといった理由から、実用的製品化が進んでいない状況にある。そこで、開発企業が障害当事者と連携して開発する取組に対して助成を行うことで、障害者にとって使いやすく適切な価格の機器の実用的製品化を促進する。

【事業内容】

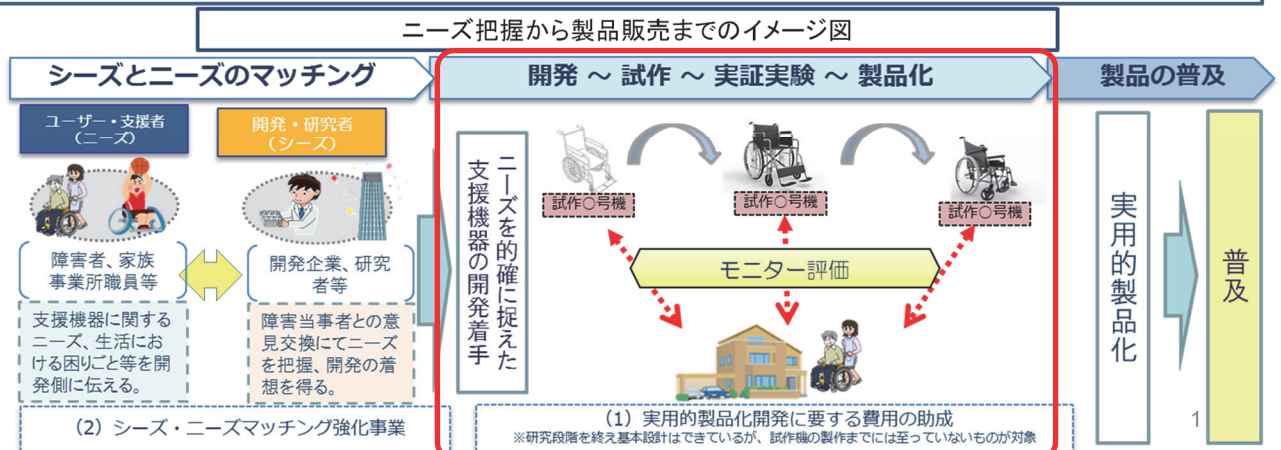
- (1) 障害者の自立支援機器の開発(実用的製品化)に対する助成
(平成30年度は、開発テーマに「障害者の支援をより行いやすくなる支援機器」を追加)
- (2) シーズ・ニーズマッチング強化事業
- (3) 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

【実施主体】

民間団体((1)は、民間団体が開発企業等を公募して開発費を助成)

【補助率】

(1)は2/3(大企業(資本金3億円超)は1/2)、(2)は定額



2 応募条件等

(1) 応募資格者

障害者の自立を支援する機器の実用的製品化開発、普及を目指す国内の民間企業等（民間企業に限らず、法人格を有する団体を含みます。）であって、実用的製品化開発を行う能力及び開発体制を有し、その経理が明確でかつ経営の安定性が確保されている法人（以下「開発機関」。）とします。

(2) 開発組織及び開発期間

ア. 開発組織

開発機関が当該開発を複数の機関と共同で実施する場合の組織は、次に掲げる者により構成されるものとします。

(ア) 開発代表者

開発計画の遂行に全ての責任を負う開発機関に所属する者。

(イ) 開発分担者

開発機関と共同開発を行う機関において、当該開発に責任を負う者。

分担した開発項目の遂行に必要な経費（直接経費）の配分を受けた場合、その適正な執行に責任を負うこととなります。

(ウ) 開発協力者

開発代表者の開発計画の遂行に協力する開発機関以外に所属する者で、開発に必要な経費（直接経費）の配分を受けない者。

イ. 開発期間

交付基準額等の決定通知がなされた日以後であって、実際に開発を開始する日から当該年度の実際に開発が終了する日までとします。

但し、本事業は、協会が厚生労働省から直接補助を受け、開発機関に対して補助金の交付する間接補助事業によるものであることから、当該年度の終了日は、最長でも平成31年2月28日とします。

なお、平成30年度の応募に当たっては、最長で3年間の開発期間を提案することが可能です。但し、複数年に渡る提案で採択されたものであっても、年度毎に審査を行うこととしており、その結果によっては、次年度以降への継続が認められない場合があることに留意してください。また、本事業の実施団体にあたる協会においても、来年度以降の本事業の継続が認められている訳ではありません。

3 対象分野

次の分野に関する開発の提案について、審査の上で採択することになります。

(各分野の提案に係る参考事例は別に提示する(別紙1)を参照。)

分野番号	分野名称
1	肢体不自由者の日常生活支援機器
2	視覚障害者の日常生活支援機器
3	聴覚障害者の日常生活支援機器
4	盲ろう者の日常生活支援機器
5	難病患者等の日常生活支援機器
6	障害者の就労支援機器
7	障害者のコミュニケーションを支援する機器
8	障害者のレクリエーション活動を支援する機器
9	障害児の生活を豊かにする支援機器
10	ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器
11	脳科学の成果を応用した支援機器
12	障害者の支援をより行いやすくなる支援機器(平成30年度新規追加)
13	その他

(対象分野の基本的考え方)

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器(以下「支援機器」)については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す観点から、極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを的確に捉えた製品開発と普及の促進が求められています。

一方、障害の種別や障害者が置かれている環境・状態は、多岐にわたるものであり、自立生活に向けた課題(日常生活上のお困りごとなど)や支援機器に求められるニーズは近年、多様化・複雑化している状況にあります。

こうした背景のもと、ロボット技術やICT(情報通信技術)、AI(人工知能)など、新たに創出された技術を支援機器の分野で活用することが大いに期待されています。

また、支援機器の開発については、障害者・児の就学・就労、レクリエーションの実施等にも大きく寄与するものであり、想定ユーザのニーズと技術シーズがマッチングした民間の創意工夫に基づく機器開発を募集いたします。

障害当事者等のニーズについては、協会が運用する「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」も参考にしてください。<https://www7.techno-aids.or.jp/>

4 補助額等

(1) 1件当たりの補助上限額

1件当たりの補助上限額は、1千万円程度を目安とし、12件以上を採択する予定です。
(但し、予算額の範囲内とします。)

(2) 補助率

2/3(厚生労働大臣が必要と認めた額(対象経費の実支出額)を基準とします。)

ただし、次表のいずれかに該当する企業以外の者であって事業を営むもの(大企業)や発行済

株式の総額又は出資の総額の「2分の1以上が同一の大企業の所有に属する」又は「3分の2以上が複数の大企業の所有に属する」事業者については対象経費の1/2とします。

主たる事業として営んでいる業種	資本金基準 (資本の額又は出資の総額)	従業員基準 (常時使用する従業員の数) (注1)
製造業、建設業、運輸業及びその他の業種(下記以外)	3億円以下	300人以下
ゴム製品製造業(自動車又は航空機用タイヤ及びチューブ製造業並びに工業用ベルト製造業を除く。)	3億円以下	900人以下
小売業	5千万円以下	50人以下
サービス業(下記3業種を除く)	5千万円以下	100人以下
ソフトウェア業又は情報処理サービス業	3億円以下	300人以下
旅館業	5千万円以下	200人以下
卸売業	1億円以下	100人以下

(注) 常時使用する従業員には、事業主、法人の役員、臨時の従業員(解雇予告不要者)を含みません。

(3) 対象経費

ア. 補助対象経費

支援機器の開発に必要な直接経費(賃金、謝金、備品費、消耗品費、雑役務費、借料及び損料、旅費、会議費、通信運搬費、印刷製本費、光熱水費)並びに委託費とし、各項目の具体的な支出例は、以下のとおりです。

経費の算出に当たっては、開発機関の内規等に基づくこと。なお、賃金及び謝金は、(別紙2)単価基準額に基づくものとし、旅費は「国家公務員等の旅費に関する法律(昭和25年4月30日法律第114号)」に準ずることとします。

	項目	具体的な支出例
直接経費	賃金	<ul style="list-style-type: none"> 開発に必要な資料整理作業等を行う者を日々雇用する経費(別紙2)単価基準額参照 支払い対象者について、法令に基づいて雇用者が負担する社会保険の保険料
	謝金	<ul style="list-style-type: none"> 開発協力者(開発組織に属さない試験被験者やアドバイザー等)に対する謝礼(いずれも金銭、物品を問いません。)(別紙2)単価基準額参照
	備品費	<ul style="list-style-type: none"> 点字プリンタ等リースになじまない物品の購入経費(※パソコン等、OA機器の購入は補助対象外)

	項目	具体的な支出例
	消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> 各種事務用紙、文具の類、収入印紙、雑誌等、その性質が使用することによって消耗され、又は毀損しやすいもの、長期間の保存に適さない物品の購入費 市販ソフトウェア
	雑役務費	<ul style="list-style-type: none"> 開発要素のない機械装置製作やソフトウェア作成等の委託費を除く外注費 銀行振込手数料、翻訳手数料、倫理審査受審料 開発を行うために必要な事務費等（施設整備費は補助対象外）
	借料及び損料	<ul style="list-style-type: none"> 会場借上料、パソコン等の機械の借上料、設備損料
	旅費	<ul style="list-style-type: none"> 開発のために行う国内の旅行経費（開発協力者に対する旅費を含む）
	会議費	<ul style="list-style-type: none"> 会議用、式日用の茶菓代（弁当等の食事代は含みません。）
	通信運搬費	<ul style="list-style-type: none"> 郵便料、運搬料、電信電話料
	印刷製本費	<ul style="list-style-type: none"> 報告書、パンフレット等の印刷、製本の経費
	光熱水費	<ul style="list-style-type: none"> 電気使用料、ガス使用料、水道使用料等及びこれらの使用に伴う計器類の使用料 自動車等の燃料の購入費
	委託費	<ul style="list-style-type: none"> 製品の設計や作製など開発の主要部分を外部に委託する経費（原則として、直接経費の1/5以内とします。）

イ. 補助できない経費

補助金は、当該開発計画を遂行する上で必要な一定の開発組織、開発用施設及び設備等の基盤的開発条件が最低限確保されている民間企業を対象としているため、次のような経費は、直接経費及び委託費（以下「直接経費等」。）として申請することはできませんので十分留意してください。

（ア）開発組織の構成員の賃金

当該事業は開発組織の本来業務として実施されている開発に対して補助を行うものであることから、従前から開発組織の構成員であった者の賃金は申請できません。

（イ）開発を補助する者に対する退職金、ボーナス

（ウ）開発中に発生した事故又は災害の処理のための経費

（被験者に健康被害が生じ補償を要する場合に当該補償を行うために必要な保険（当該開発計画に位置づけられたものに限ります。）の保険料を除きます。）

（エ）机、椅子、パソコン等開発機関で通常備えるべき設備備品を購入するための経費

（オ）建物等施設に関する経費

ただし、補助金により購入した設備備品を導入することにより必要となる据え付け費及び調整費を除きます。

(カ) 金型作製に関する経費

モニター評価の改良試作機作製等のための金型作製により、総合的に1台当たりの製作費用が少なくなる場合には、補助金を仮金型や本金型に当てることができますが、それ以外の金型作製は対象となりません。

なお、金型作製を希望する開発機関は、審査委員会に許可申請を行い、有効性及び経済的合理性を説明できる資料や試作機などを示し、協会の了承を得る必要があります。

(キ) 開発に関連のない通信運搬費、光熱水費

(ク) その他開発に関連性のない経費

ウ. 賃金について

開発に必要な資料整理等（経理事務等を行う者を含みます。）を行う者（開発補助者）を日々雇用する経費（賃金）については、補助金から支出し、雇用することができます。

エ. 旅費等について

開発代表者等が、開発のために行う情報交換及び現地調査などに必要な国内旅費及び開発協力者に必要な国内旅費を補助することができます。

なお、支給額には、交通費の他、必要に応じて、日当や宿泊費を含めることも可能とするが、最も合理的かつ経済的な方法により算出した額とします。（日当の支給規則については、本事業に係る内規を別途設けてください。）

オ. 備品について

価格が50万円以上の機械器具等の物品の調達については、リース等の賃借が可能な場合は原則として賃借によることとする（50万円未満の機械器具等についても賃借の検討を行うこと）。ただし、点字プリンタ等の調達のように賃借が可能でない場合、または購入した場合と開発期間内で賃借した場合とを比較して、購入したほうが安価な場合等は、購入して差し支えないものとします。

なお、賃借する場合であっても、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」第22条の規定に基づき、所有権の移転を契約内容に含めるものは認められないものであること。

カ. 雑役務費について

モニター評価の実施前に受審する倫理審査を外部機関に依頼する場合の経費は補助の対象となります。

キ. その他

政治団体への寄付金の支払は補助の対象にはなりません。

(4) その他

交付基準額は、応募後における審査委員会等による審議の結果、提案額と変わる場合があります。

また、提出者の直近2カ年の決算財務状況等により、採択しない場合もあり得ることを留意してください。

5 応募にあたっての留意事項

(1) 採択されない開発内容について

開発の趣旨に沿うものであっても、以下に該当する場合は、選定いたしません。

ア. 主たる目的である開発を開発機関が実質的に行わず、第三者に外注・委託する場合

イ. 第三者に対する資金の交付が大部分を占める場合

ウ. 開発経費の大部分が備品費である場合

エ. 事業実施期間中に営利を目的とする行為を行うおそれがあると認められる場合

(例) 事業実施期間中に本事業の補助金において開発した試作機等を営利目的で販売するもの。

オ. 開発機関の財政状況が不適切と判断される場合

(2) 開発の内容、実施方法等について

開発に当たっては、以下に掲げる点に留意して行うこと。

ア. 開発で期待される成果によって、自立支援の促進等につながる障害者が存在すること。

イ. 開発の目的及び期待する成果が明確で、実用的製品化までの適切な事業計画が策定されていること。

ウ. 支援機器の開発における想定ユーザである障害者（例えば視覚障害者支援機器の場合はそれを利用する視覚障害者、以下「想定ユーザ」。）、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本義肢協会などから推薦された医療福祉専門職であつて、支援機器の想定ユーザらの障害、生活環境について知見のある者（以下「医療福祉専門職」。）等のアドバイス等を適宜得られる体制にあること。

エ. 想定ユーザによるモニター評価を実施し、改良開発を繰り返すことで使い勝手が良く、適切な価格になるよう実用的製品化を進めること。

オ. モニター評価や改良開発に関し、医療福祉専門職等のアドバイス等を適宜得ながら実用的製品化を進めること。

カ. 開発倫理に留意し、モニター評価を行う前に、必ず開発機関及び福祉機器の倫理審査に精通している機関（日本生活支援工学会、協力大学等）における倫理審査を受けること。

(3) 開発状況の報告等について

- ア. 開発期間中、事業の実施状況等を評価するため、外部有識者から構成する審査委員会（以下「委員会」。）により、開発の進捗状況等の確認を行うとともに、必要に応じて指導・助言を行うため報告会を開催しますので、招集があった場合には必ず出席してください。
なお、この場合の旅費等は要望額に計上することが可能です。
- イ. シーズ・ニーズマッチング交流会への参加
本事業の一環として協会が企画開催する「シーズ・ニーズマッチング交流会（東京）」では、本事業に係る成果報告を行っていただきます。従いまして、東京会場には必ず参加してください。
なお、マッチング交流会は、東京の他、大阪と福岡でも開催を予定しておりますので、可能な限り参加してください。この場合の旅費等は要望額に計上することが可能です。
また、交流会では新たに新設された「障害者自立支援機器導入好事例普及事業」における一般投票や表彰等を行うことを予定しております。
- ウ. 開発の成果（モニター評価を含む）等をまとめた報告書を作成し、**開発終了後1ヶ月以内又は、平成31年3月8日のいずれか早い日までに提出してください。**
- エ. 開発の実施状況及び成果については、公開できる状態になり次第、速やかに開発機関のホームページ等を通じて、広く情報発信に努めてください。
なお、ホームページにおける公表にあたっては、補助金交付決定時（事業目的及び事業計画等）及び開発の完了後（事業の成果の概略）の2回以上にわたって行うのが望ましい。
また、開発の状況及び成果（報告書）は、協会からの要請に応じて、協会や厚生労働省等のホームページにおいても公開する予定です。
- オ. 開発機関は、補助期間終了後も、採択された支援機器を実用的製品化する際は、厚生労働省まで報告するとともに、厚生労働省及び実施団体から問合せがあった際は、開発および販売状況について速やかに報告すること。
- カ. 開発の結果又はその経過の全部若しくは一部について、新聞、書籍、雑誌等において発表を行う場合は、本事業による補助金の成果である旨を明らかにしてください。
- キ. 協会において、開発の概要や成果、今後の展望、発売予定時期、予定価格などの情報を分かりやすく集約した成果報告集を作成するので、協力してください。
- ク. 開発終了後においても開発または販売状況等について、実施団体もしくは厚生労働省が直接、動向調査を実施いたしますのでご協力ください。

(4) デモンストレーションの実施について

ア. 開発の成果を公開できる状態になったら、展示会等の場面を活用して、デモンストレーションを行うよう積極的に努めること。

デモンストレーションの経費について、開発期間内であれば直接経費に含めることができます。

但し、開発期間終了後にデモンストレーションを開催する場合については、開発機関で負担してください。

イ. 中間・事後評価のため、厚生労働省又は協会、審査委員会において、デモンストレーション又はプレゼンテーション等、開発やモニター評価の状況報告等を行うよう要請があった場合には、必ず参加して対応すること。

なお、この場合の経費についても直接経費に含めることができます。

(5) 補助金の取り扱いについて

ア. 補助金の支払

原則、概算払いとなりますが、事業終了後、実績報告をもって確定することになり、超過交付額が発生する場合には、平成31年3月15日までに返還を求めます。

詳細は、別に定める「交付要項」を参照してください。近日、協会のホームページからダウンロードすることができます。

近年、交付額確定時において、補助額の不要による返還が多く発生しておりますので、不要が生じないよう計画の執行を徹底してください。

イ. 補助金の管理及び経理について

補助金の管理及び経理の透明化並びに適正化を図るとともに、開発代表者及び経費の配分を受ける開発分担者の開発費等の管理及び経理事務に係る負担の軽減を図る観点から、補助金の管理及び経理事務は、開発機関が責任を持って行うこと。

ウ. 不正経理等に伴う補助金の交付の制限について

開発者が補助金の不正経理又は不正受給(偽りその他不正の手段により補助金を受給すること。以下「不正経理等」。)により、平成16年度以降、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」第17条第1項の規定に基づき、補助金の交付決定の全部又は一部を取り消された場合については、それぞれ一定期間、当該開発者(不正経理等を共謀した者を含む。)は、補助金の交付の対象外となり開発分担者となることもできません。なお、開発分担者が不正経理を行った場合は、開発分担者のみが補助金の交付対象外となります。

エ. 経費の混同使用の禁止について

他の経費(開発機関の経常的経費又は他の補助金等)に補助金を加算して、1個又は1組の物品を購入したり、印刷物を発注したりすることはできません。

(補助金の交付を希望又は、受給される皆様へ)

当補助金については、国庫補助金を財源としておりますので、社会的にその適正な執行が強く求められており、補助金に係る不正行為に対しては厳正に対処しております。

従って、補助金交付の申請をされる方、申請後、採択が決定し補助金を受給される方におかれましては、以下の点につきまして、充分ご認識された上で、補助金の申請又は受給を行っていただきますようお願いいたします。

- ① 補助金の申請者が協会に提出する書類は、如何なる理由があってもその内容に虚偽の記述を行わないで下さい。
- ② 補助金の不正受給・使用、研究活動の不正行為に対しましては、政府指針により厳しい措置が課せられることとなっています。
- ③ 補助金で取得、又は効用の増加した財産（取得財産等）を、当該資産の処分制限期間内に処分（補助金の交付目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、又は担保に供することをいう）しようとするときは、事前に処分内容等について協会を通じて厚生労働省の承認を受けなければなりません。なお、必要に応じて取得財産等の管理状況等について調査することがあります。
- ④ また、偽りその他の不正な手段により、補助金を不正に受給した疑いがある場合には、当協会として補助金の受給者に対し必要に応じて現地調査等を実施します。
- ⑤ 上述の調査の結果、不正行為が認められたときは、当該補助金に係る交付決定の取り消しを行うとともに、受領済の補助金のうち取り消し対象となった額に加算金（年10.95%の利率）を加えた額を返還していただくこととなります。併せて、新たな補助金等の交付を一定期間行わないこと等の措置を執ると共に、当該事業者の名称及び不正の内容を公表することとなります。
- ⑥ 当該補助事業に関する個々の情報の公表・非公表の取扱いについては、情報公開法に基づく情報開示に準ずることとします。

6 提出書類

補助を希望する事業の実施に係る次の書類

- ・平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業 応募書類(別紙3)
- ・税務署に提出した直近2年分の決算書(写)(無い場合、それに類する関係書類)

※ 応募書類の各項に記載されている、作成上の留意事項をよく読んで記載すること。

7 公募説明会

下記の日程及び会場にて、公募説明会を行います。

公募説明会では、本事業の目的・背景、応募にあたっての具体的な手続き、提出いただく書類の記載方法等について説明しますので、説明会への出席が本事業に申請するための条件ではありませんが、可能な限り出席してください。

参加を希望される方は、本書、巻末の「公募説明会参加申込書」に所定の事項を記載し、事務局まで提出してください。

なお、会場の座席数には限りがございますので、立ち見の場合もございます。予め御了承下さい。

会場	東京会場	名古屋会場	大阪会場	福岡会場
日時	平成30年7月3日(火) 13時30分~	平成30年7月4日(水) 13時30分~	平成30年7月5日(木) 13時30分~	平成30年7月6日(金) 13時30分~
場所	場所：主婦会館プラザ エフ 部屋名：カトレア（7 階） http://plaza-f.or.jp/index2/access/	場所：安保ホール 部屋名：501AB号 室 http://www.abohall.com/access/	場所：新大阪丸ビル 別館 部屋名：4階4-1号 室 http://marubiru-bekkan.com/access.php	場所：エイムアテイン 博多駅東会議室 部屋名：5J（5階） https://aimattain.jp/pg331.html
内容 (予定)	1. 障害者自立支援機器等開発促進事業の概要（10分） 2. 公募要領と補助金事務の取扱等について（50分） 3. 今後のスケジュール等について（5分） 4. シーズ・ニーズマッチング強化事業及びニーズ情報収集・提供システム等について（5分） 5. 障害者自立支援機器導入好事例普及事業について（5分） 6. 全体の質疑応答（10分） 7. 個別相談（60分）※応募を検討する企業等の方は原則、相談してください。			

8 公募期間と提出期限

●**公募期間** 平成30年6月18日(月)～7月18日(水)

●**提出期限** 平成30年7月18日(水)17時必着(持参の場合も同様)

※ 提出期限を超過して届いた応募書類については受け付けいたしません。提出期限を厳守してください。また、提出した書類は返却いたしません。

※ 関係様式のダウンロード先：<http://www.techno-aids.or.jp/>

※ ご提出いただく資料は、協会が指定した書類のみとさせていただきます。応募案件を補足するような文献・論文等の参考資料の添付は必要ありません。

9 提出方法

(1) 提出書類の送付先は、次のとおりです。

<提出書類の送付先>

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宛

※ 封筒表面に、赤字で「平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業 応募書類在中」と記載してください。

※ ご提出いただく資料は、協会が指定した書類のみとさせていただきます。応募案件を補足するような文献・論文等の参考資料の添付は必要ありません。

(2) 提出書類については、書類の郵送等と併せて、必ず電子媒体（ファイル名を「平成30年度応募書類（開発機関名）」とすること）を下記アドレス宛に送付してください。

なお、送付するメールの表題に「（開発機関名）障害者自立支援機器等開発促進事業応募について」と入れること。

また、積算根拠の資料についても、応募書類と併せてメールでも送付してください。

なお、郵送書類及び当該メールの双方が上記8の提出期限までに到着していない場合には、応募書類の受付はいたしませんので留意してください。

<電子媒体送付先アドレス>

shogai-kiki@techno-aids.or.jp

※ ご提出する書類の形式はWord版、PDF版を両方作成のうえご提出ください。但し、決算書（写）はPDF版のみで結構です。

※ PDF版については必ずテキストとして読める状態でご提出ください。

10 採択方法

応募された開発テーマについては、審査委員会における評価を踏まえて、協会が採択又は不採択を決定する。但し、申請者の直近2カ年の決算財務状況等により、採択しない場合もあり得ることを留意してください。

11 本事業に関するお問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 谷田・篠・五島

電話：03-3266-6883

1.2 事業実施スケジュール表（年間）予定

※本表は現時点の予定です。多少前後する場合がありますので詳細は事務局にご確認下さい。

	平成30年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容				<p>公募要項の作成、配付、周知 東京(7/3)名古屋(7/4)大阪(7/5)福岡(7/6) 公募期間 ★第1回運営管理委員会 (6/18-7/18)</p>	<p>★第1回委員会(採択) (8/6の週を予定) ※内示～交付申請 ◎補助事務・倫理審査説明会</p>	<p>開発機関の進捗管理及び アドバイス支援等 ※交付決定</p>
			<p>交流会場の仮予約、決定 委託先の選定、決定</p>	<p>★第1回企画委員会 出展要項の策定・募集 シンポジウム等の企画立案</p>	<p>交流会開催の周知・PR</p>	<p>シーズ・ニーズの取り纏め</p>
	【障害者自立支援機器導入好事例普及事業】		<p>公募要項の策定 委託先の選定、決定</p>	<p>★第1回委員会 事業計画 募集要項の策定、審査基準の策定</p>	<p>好事例の公募 書類審査による内容審議</p>	<p>★第2回委員会</p>
事業実施内容			<p>★第2回委員会(中間評価) (12/3の週を予定)</p>			<p>★第3回委員会(成果報告) (2/14を予定) 実績報告(3/8)～確定 ★第3回運営管理委員会</p>
			<p>◎交流会(大阪)2日間 (12/18-19) 交流会、シンポジウム、一般投票</p>	<p>◎交流会(福岡)2日間 (検討中) 交流会、シンポジウム、一般投票 シーズ・ニーズマッチングの推進、開発応募案件の創出</p>	<p>◎交流会(東京)2日間 (2/13-14) 交流会、成果報告、最優秀賞の決定及び表彰式等 開発応募案件の創出</p>	<p>成果報告の取り纏め</p>
	【障害者自立支援機器導入好事例普及事業】		<p>★第3回委員会 好事例及び優秀賞案件の決定 HP掲載、受賞案件の紹介パンフ等の配付</p>	<p>最優秀賞案件の投票</p>	<p>★第4回委員会 最優秀賞の決定、表彰</p>	<p>成果報告の取り纏め</p>

(別紙1) 開発分野とニーズの参考例

※ 各対象分野ごとに(公財)テクノエイド協会の福祉用具ニーズ情報収集・提供システムおよび障害者自立支援機器に関するニーズ集に寄せられた事例等を基に整理した障害当事者等のニーズの参考事例です。

※ ここに記載のない事例についても対象となります。

1. 肢体不自由者の日常生活支援機器

○参考事例

- ① 宿泊施設や住宅で自らコントロールできる入浴支援機器
(洗い場から気軽に安心して浴槽に入ることを支援する)
- ② 車椅子利用者の乗車を自立支援する機器
(障害のあるドライバーの乗車支援、車椅子の車載収納支援(自動車の屋根でなく簡易に取りつけられ、特別な改造を要しないもの)、車椅子に装着または携帯可能なバス・電車など公的交通機関への乗降支援装置)
- ③ 安全で使い勝手の良い電動車椅子
(障害物衝突防止などの機能がついており、座席が常に水平に保たれるもの、後付けで電動ティルト機構が装着できる装置など)
- ④ 立てなくても計れる体重計
(電動リフトで計れるようにしたものや座ったまま計れるものなど)
- ⑤ 車椅子装着可能な酸素ボンベの積み下ろしが容易な機器
- ⑥ コンパクトな椅子型の全方向移動機器
- ⑦ 移乗機能や昇降機能付きのコンパクトな車椅子や電動車椅子
(トイレでの起立を補助できる車椅子、ベッドから移乗できる移乗台付昇降電動車椅子、または移乗リフト付電動車椅子)
- ⑧ 自走するキャリーバックやトレイ
(リモコン式、住宅内まで想定、配下膳や重い食料品などの荷物の運搬等に使用)
- ⑨ ロフトスタンドクラッチに変わる軽量で人間工学的に安全な杖や用具
(階段昇降時に手すりが掴めない/片手で2つを持つことができない/転倒時に手から杖が外れず地面に手がつけられないために頭部や顔を強打してしまう、といった問題を改善するもの、車椅子に積んでいて外れたり人と接触したりしないように折りたためるなどの工夫、親指の付け根が痛くならないような工夫)
- ⑩ 人工呼吸器を設置して移動しやすい機器
(一般の住環境で手軽に移動できる人工呼吸器・加湿器・吸引器が乗る歩行器兼ワゴン)
- ⑪ 小型の移乗補助機器
(ベッドサイドやトイレで使用できる小型のもの、立位補助の機能も付加)
- ⑫ 目立たない透明なプラスチック製下肢装具
- ⑬ 蒸れず、冷やっとならない義肢のソケット
- ⑭ 通気・放熱機能のある熱がこもりにくい座位保持装置
- ⑮ 日本家屋の階段で使える小型の自走式階段昇降機
- ⑯ 体重の重い者に対応した電動車椅子や車椅子

- ⑰ベッドや車椅子上で布団や衣服などのずれを整える装置
- ⑱自動車の携帯用手動運転装置（軽量かつ容易に操作が可能なもの）
- ⑲体幹安定性の高い電動車椅子のまま運転席に乗り降りできる福祉車両や装置
- ⑳タッチパネルやキーボードなどで使い分ける必要の無いマウススティックやアプリ

2. 視覚障害者の日常生活支援機器

○参考事例

- ①音声や触覚情報で操作できる調理器具や生活用品
- ②電子点字図書・薄状（B5程度）の点字ディスプレイ
- ③歩行を支援する機器
（音声などによる歩行誘導、顔の高さの障害物検知、横断歩道で信号の赤青の教示、角・段差・障害物の情報提示、眼鏡等につけて危険を知らせるなど）
- ④既存のものより高性能の携帯拡大読書器・電子ルーペ・読み取り装置
（色の識別や手書き文字の認識率が高いものなど）
- ⑦低価格で操作性の良いリモートアクセスでも使えるスクリーンリーダー
- ⑧位置情報・施設内情報案内を支援する機器
（音声・点字情報で情報提供する）
- ⑨受信した際に音声読み上げをするFAX
- ⑩大量印刷が可能な早くて正確な点字プリンタ
- ⑪画像処理された情報を読み取るスクリーンリーダー
（文字部分だけでもテキストやワードに変換するもの）

3. 聴覚障害者の日常生活支援機器

○参考事例

- ①モバイル型の遠隔情報保障機器
- ②家庭内での報知音等を情報保障する機器（赤ちゃんの泣き声、就寝中の音なども含む）
- ③環境音を光や文字・手話に視覚化する機器（緊急自動車等の接近を含む）
- ④音声認識し文字表示する眼鏡タイプ等の携帯可能やウェアラブルな支援機器
- ⑤携帯型の補聴援助機器（音楽を聞きやすくする補聴システムを含む）
- ⑥補聴器がハウリングしていることを知らせる支援機器
- ⑦難聴の聞こえやコミュニケーションを擬似体験できて支援につながる機器
- ⑧公共交通機関での情報を保障する機器（行き先や緊急時情報など）
- ⑨すべてのテレビ番組を字幕化する装置
- ⑩会話内容をイラスト化したり図に変換する機器
- ⑪スポーツ中などでもコミュニケーション可能な音声認識などを使った情報支援機器
- ⑫要約機能を持った文字変換装置

4. 盲ろう者の日常生活支援機器

○参考事例

- ①音声認識技術を使った点字（携帯）電話
（先方の話者の音声を点字で表示できる携帯可能な点字表示する電話、聞こえないが話

すことのできる盲ろう者用)

②盲ろう者に使いやすい数値情報を知らせてくれる機器

(体温計、血圧計、体重計、腕時計、銀行の ATM、デジタル放送などを、点字ディスプレイで読みながらボタン操作できるなど。)

③信号の色や音響を認識し振動するなど盲ろう者が横断歩道を安全に渡るための機器

④手話や指文字をその場で音声に変換する機器

⑤移動を自動的かつ安全に誘導する機器

⑥カラオケの歌詞や伴奏を点字に変換する機器

⑦外部メモリーに保存可能な点字ディスプレイ

5. 難病患者等の日常生活支援機器

○参考事例

①色素性乾皮症 (XP) 患者のための紫外線対策用品 (紫外線防護服など)

②気道・食道分離術後の食事動作を自立する機器

③振せんを減衰することができる用具 (化粧時や食事時など)

④ALS 患者など進行性疾患を有する難病患者の動作をサポートする用具

⑤座位保持が困難な難病患者等の排泄をサポートする用具

⑥寝ている姿勢のパターンを記憶して体の動きに合わせる電動ベッド

⑦筋力低下を防ぐ工夫がなされた腕などの動きをサポートするバランス

※ その他、各分野の参考事例を参考にすること。

6. 障害者の就労を支援する機器

○参考事例

①パソコン作業に活用でき操作が容易な各種支援ソフト

(社内の独自システムなど従来は読み上げが難しいものも含めて職場で使用する全てのソフトに対応し文字情報以外の情報も読み上げるソフト、読上げソフトなど他の支援ソフトを併用してもパソコンへの負荷が少ない画面拡大 (色調変更、強調) ソフト、読上げソフトへの対応が難しいソフトにアドオンすることで読上げ対応ができるソフト、飾り文字・手書き・表・グラフなど従来難しかったものも認識対応できる OCR ソフト)

②安価で OCR 機能付きの拡大読書器

(パソコンとの連動にて文書管理可能な据置型拡大読書器、携帯型拡大読書器)

③操作が容易で軽量の点字・点図ディスプレイ

(社内の独自システムなど従来は読み上げが難しいものも含めて職場で使用する全てのソフトに対応する点字ディスプレイ、安価で精細な点図ディスプレイ)

④声認識技術を活用したコミュニケーション・情報保障を支援する機器

(使い勝手がよくセキュリティが確保され使い手を選ばない高い認識率のマイク、音声認識と併用で

きる補聴システムや難聴用スピーカー、音声認識電話など)

- ⑤手話認識・翻訳機器（ソフト）
- ⑥工場・多層階ビルなど広い範囲で使用できる携帯型受信機の信号装置
- ⑦過敏（聴覚・視覚など）がある方が落ち着いて仕事ができる簡易作業スペースキット
- ⑧知覚障害等があっても容易に使用できるパソコン入力装置
- ⑨事務・工場での作業などに簡便に使用できる安価な就労（作業）支援ロボット
- ⑩災害時避難用機器（階段昇降可能な車椅子など）
- ⑪コンパクトで職場での移動が容易な座面高の調整ができる椅子型車椅子
- ⑫さまざまな支援アプリなどをインストールでき就労環境に適した安価なタブレット端末
（情報セキュリティ、堅牢性、耐久性、必要最小限の機能など）
- ⑬失語症患者などが会議内容を理解しやすいよう要点をまとめる機器

7. 障害者のコミュニケーションを支援する機器

○参考事例

- ①音声合成など言語障害者の会話を補助する携帯機器
- ②重度障害者用の各種スイッチ
（微小運動機能を利用するもの、不随意運動から随意運動を分離できるもの）
- ③「ことば」によらないコミュニケーション支援機器
（失語症や自閉症に対応できるものや認知症合併に対応できるもの）
- ④自閉症児・者向け知育アプリ（簡単に操作でき、特に視覚で理解を得やすいもの）
- ⑤斬新でユニークな方法を用いて何らかの人間関係性が開発・維持・発展できるもの
- ⑥緊急的・一般的な内容が伝わるコール
- ⑦小児・学童用の発達対応型意思伝達装置
（学習から大学受験にも対応できるもの、カスタマイズが容易、学習機能を有するもの）
- ⑧パソコンの関連機器
（外部スイッチで立ち上げることができるもの、接続が簡単で介護者にやさしい意思伝達装置、視線操作・入力による IT 支援、筆先や指先の動きから文字を判読するソフトなど）
- ⑨病期を通して使用できるコミュニケーション支援機器
（病初期はタッチパネルの操作、進行に従いスイッチで操作できるもの）
- ⑩人間味のあるコミュニケーションを支援する機器
（うなずきや返事の応答など会話が可能な愛玩具となる装置、人の声やゼスチャーなどを意思伝達に加える工夫、構音障害の方の音声認識、口の形の変化から意図する文字を読み取るもの、絵や図で表現する装置など）
- ⑪高次脳機能障害などがある人のコミュニケーション・情報取得を支援する機器
（時間・スケジュール管理、服薬管理、簡易メモなどの記憶支援、外出時の経路支援、

長文の分節化、トラブル時の動き方などを音声でガイドする装置など)

8. 障害者のレクリエーション活動を支援する機器

○参考事例

- ① 肢体障害者向けレクリエーション用機器
(片手で操作できる釣り道具、旅行で使える褥瘡予防のための折りたたみ式エアーマット、リフターなど)
- ② 視覚障害者向けレクリエーション用機器
(点字・拡大文字カラオケの改良)
- ③ 聴覚障害者向けレクリエーション用機器

9. 障害児の生活を豊かにする支援機器

○参考事例

- ① 障害児の自立移動を支援する機器
(歩行や自立移動が困難な児童の成長段階に適合するもの、装着が簡単で強度があるもの、ソフトな素材で児童の体にフィットするもの)
- ② 障害児の排泄や生理動作の自立を支援する機器
- ③ 障害児のコミュニケーションの自立を支援する機器
- ④ 障害児向け軽量コンパクトで姿勢調節可能な姿勢保持装置やクッション
- ⑤ 障害児向け熱が籠らない座位保持装置やクッション
- ⑥ 障害児向け自動車や車椅子あるいはバギーに乗せられる姿勢保持装置
- ⑦ 障害児向けレクリエーション用機器
- ⑧ 障害児の移乗動作の自立を支援する機器
- ⑨ 障害児の感覚統合を支援する機器
- ⑩ 障害児の運動や活動を支援する機器
- ⑪ 小児・学童用の発達対応型意思伝達装置
(学習から受験にも対応できるもの、カスタマイズが容易にできるもの、学習機能を有するもの)
- ⑫ 障害児の学習環境を改善する機器

10. ロボット技術を活用した障害者向け支援機器

○参考事例

- ① 量産が可能な筋電義手
- ② 車椅子等に装着できるロボットアーム (本・雑誌の把持、帽子・マフラーの着脱、水・薬の飲食、落ちた物を拾う、高い所への収納などを支援、または携帯電話を利用する際にベッドや車椅子などどこでも容易に装着可能)
- ④ 視覚障害者も使いやすい自動運転装置
- ③ コミュニケーションスキルを獲得するためのコミュニケーションロボット

11. 脳科学の成果を応用した支援機器

○参考事例

- ①脳波等の生体現象を利用した意思伝達支援機器
- ②脳波等その他の手段を利用した重度障害者用のスイッチ

12. 障害者の支援がより行いやすくなる支援機器

○参考事例

- ①重度障害者の体位変換、移乗、排泄、入浴などの際の負担軽減や支援をする装置
- ②施設や居宅などにおける障害のある方の見守り支援機器
- ③習熟が簡単で手軽に使えるなど重度障害者の意思疎通の際の負担を軽減する装置
- ④生活介護や就労支援など事業所での作業を支援するソフト・装置
- ⑤視覚障害者の一人での安心・安全な移動を支援する装置・誘導ロボット
- ⑥居宅内で移乗などの負担を軽減する小型で支援する人が簡単に操作できる支援機器
- ⑦施設において、体型の大小や左右の麻痺などの様々な状態に応じて調整可能な車椅子や歩行器など、日常生活に活用できる支援機器

13. その他

上記1～12に該当しないが、障害者の要望が高く、かつ普及しやすい妥当な価格で供給可能なもの

(注) 応募書類に記すテーマ番号は、上記の「1」から「13」のテーマ番号を必ず明記し、開発の目的と、成果となる製品がわかるような開発タイトルとすること。

(別紙2) 単価基準額

○賃金

1日(8時間)当たり8,300円を基準とし、雇用者が負担する保険料は別に支出する。

※ 1日において8時間に満たない時間又は8時間を超えた時間で賃金を支出する場合には、1時間当たり1,030円で計算するものとする。

※ 上記基準によらない場合は、その理由及び積算根拠となる資料を応募の際に評価検討会に提出し、承認を得ること。

○謝金

モニター評価試験等のための開発協力	1回当たり 1,000円程度	
	モニター評価試験、アンケート記入など開発協力謝金については、協力内容(拘束時間等)を勘案し、常識の範囲を超えない妥当な単価を設定すること。なお、謝品として代用することも可(その場合は消耗品費として計上すること)。	
講演、討論等開発遂行のうえで学会権威者等を招聘する場合	教授級以上または相当者	時間給 8,100円
	准教授級以上または相当者	時間給 6,200円
	講師級以上または相当者	時間給 5,300円
定型的な用務を依頼する場合	医師又は相当者	日給 14,100円
	大学(短大含む)卒業者又は専門技術を有する者及び担当者	日給 7,800円
	開発補助者	日給 6,600円

(別紙3) 平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業 応募書類

平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
開発機関に対する補助金の交付要項

制定 平成30年8月27日 公益財団法人テクノエイド協会 規定第1号

（目的）

第1条 この要項は、地域生活支援事業費補助金及び障害者総合支援事業費補助金交付要項（平成21年8月25日付厚生労働省発障0825第1号。以下「要項」という。）3（2）①の規定に基づき、公益財団法人テクノエイド協会（以下「協会」という。）が行う「障害者総合支援事業費補助金（「障害者自立支援機器等開発促進事業」（以下「補助金」という。）における補助の対象となる開発企業（以下「開発補助事業者」という。）の交付の手続等を定め、もってその業務の適正かつ確実な処理を図ることを目的とする。

（適用の範囲）

第2条 協会が行う補助金の交付は、予算の範囲内において交付するものとし、要項、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）及び厚生労働省所管補助金等交付規則（平成12年厚生省労働省令第6号）の規定によるほか、この交付要項の定めるところによる。

（交付の対象）

第3条 協会は、障害者自立支援機器等開発促進事業（以下「補助事業」という。）について、協会が別に設置する審査委員会による評価を踏まえて採択した補助事業を実施する者（以下、「開発補助事業者」という。）に対して、補助事業の実施に必要な経費のうち、補助金交付の対象として協会が認める経費（以下「補助対象経費」という。）について、予算の範囲内で補助金を交付する。

2 補助対象経費の区分は、別表1のとおりとする。

（補助金の額）

第4条 前条に規定する補助金の額は、補助対象経費の区分毎に、別表2に定めるいずれかの該当する補助率を乗じた金額の範囲内とする。ただし、算出された種目ごとの額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切捨てるものとする。

（交付の条件）

第5条 協会は、補助金の交付を決定する場合において、開発補助事業者に対し、次に掲げる事項につき条件を付するものとする。

① 交付を受けた補助金は、当該補助金の交付対象事業に必要な経費にのみ使用しなければなら

- ない。
- ② 開発補助事業者は、開発事業の遂行に当たり、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号）の研究に係る指針等を遵守しなければならない。
 - ③ 事業に要する経費の配分の変更（直接開発費（委託費を除いた対象経費の総称）と委託費の間の配分変更をいい、それぞれの経費の増減額が変更前の当該経費の額に0.2を乗じた額を超えない場合を除く。）をしようとする場合には、申請書の様式に準じた経費配分変更承認申請書を協会に提出し、その承認を受けなければならない。
 - ④ 申請書の内容のうち開発事業の実施計画（当該事業の目的及び効率的な実施に関係のない軽微な変更を除く。）を変更しようとする場合には、申請書の様式に準じた事業内容変更承認申請書を協会に提出し、その承認を受けなければならない。
 - ⑤ 事業が期間内に完了しないとき又はこれら事業の遂行が困難になったときは、速やかに協会に報告してその指示を受けなければならない。
 - ⑥ 開発補助事業者が、海外出張、病気その他の理由で引き続き3月以上事業が遂行できなくなる場合には、④の事業内容変更承認申請書を協会に提出し、その承認を受けなければならない。
 - ⑦ 開発補助事業者の住所の変更があった場合には、遅滞なく、その旨を協会に届け出なければならない。
 - ⑧ 事業を中止し、又は廃止する場合には、その理由、今後に講ずる措置その他必要と認める事項を記載した当該事業の中止又は廃止の承認申請書を協会に提出し、その承認を受けなければならない。
 - ⑨ 事業により取得し、又は効用の増加した機械器具でその価格が単価30万円以上のものについては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）第14条第1項第2号の規定により厚生労働省又は協会が別に定める期間を経過するまで、厚生労働省又は協会の承認を受けずに、補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、又は廃棄してはならない。
 - ⑩ 前号の規定により厚生労働省又は協会の承認を受けて機械器具を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を国庫に納付させることがある。
 - ⑪ 事業により取得し、又は効用の増加した財産については、当該事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、当該事業の目的に従って、その効率的運営を図らなければならない。
 - ⑫ 開発補助事業者が、この補助金による開発の成果によって、相当の収益を得たと認められる場合には、交付した補助金の全部又は一部に相当する金額を国庫に納付させることがある。
 - ⑬ 開発補助事業者が開発の成果に係る特許権等の知的財産権又は当該知的財産権を受ける権利の全部又は一部を譲渡する場合には、譲渡を受ける者から相当の対価の支払を受けることを契約等において定めた上で行わなければならない。
 - ⑭ 事業に係る収入及び支出を明らかにした帳簿を備え、当該収入及び支出について証拠書類を整理し、当該帳簿及び証拠書類を間接補助金の額の確定の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後5年間保管しておかなければなら

ない。ただし、事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価30万円以上の財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかなければならない。

- ⑮ 事業完了後に、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合は、第11条の規定に基づき、速やかに協会に報告しなければならない。

なお、開発補助事業者が全国的に事業を展開する組織の一支部（又は一支社、一支所等）であって、自ら消費税及び地方消費税の申告を行わず、本部（又は本社、本所等）で消費税及び地方消費税の申告を行っている場合は、本部の課税売上割合等の申告内容に基づき報告を行うこと。

（交付の申請）

第6条 協会は、開発補助事業者に対し、様式第1による交付申請書にその他協会が指示する書類を添付して、協会が指示する期日までに提出させるものとする。

（交付の変更）

第7条 この補助金の交付決定後の事情の変更により申請の内容を変更して追加交付申請等を行う場合には、前条に定める申請手続に従い、別途定める日までにを行うものとする。

- 2 協会は、前項の通知に際して必要な条件を付することができるものとする。

（交付決定までの標準的期間）

第8条 協会は、交付申請書が到達した日から起算して原則として2か月以内に交付の決定（変更の決定を含む。）を行うものとする。

（交付決定の通知）

第9条 協会は、第6条の規定による交付申請書又は第7条による変更交付申請書等の提出があったときは、当該申請に係る書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、補助金を交付すべきものと認めるときは速やかに補助金の交付の決定を行い、様式第2による交付決定通知書により開発補助事業者に通知するものとする。この場合において、協会は、補助金の適正な交付を行うために必要があると認めるときは、補助金の交付の申請に係る事項につき修正を加えて通知を行うものとする。

- 2 協会は、前項の通知に際して必要な条件を付することができるものとする。

（状況の報告）

第10条 開発補助事業者は、協会又は厚生労働省が特に必要と認めて指示したときは、その指示した期間に係る補助事業の実施状況を、別途指示する期日までに協会又は厚生労働省に提出しなければならない。

- 2 協会又は厚生労働省は、開発補助事業者に対して、審査委員会等において状況報告を求めることができるものとする。

(実績の報告)

第11条 開発補助事業者は、補助事業が完了したとき（補助事業の中止又は廃止の承認を受けた場合を含む。）は、完了の日（補助事業の廃止の承認を受けた場合は、その承認の通知を受けた日）から起算して30日以内又は当該補助事業の完了した日の属する当該会計年度の2月末日のいずれか早い日までに、様式第3による実績報告書を協会に提出しなければならない。なお、事業完了後、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合は、様式第3による実績報告書の（別紙3）により速やかに協会に報告しなければならない。

(補助金の額の確定等)

- 第12条 協会は、前条の事業実績報告書を受領したときは、当該報告に係る書類の審査及び必要に応じて行う現地調査等により、その報告に係る補助事業の成果が補助金の交付の決定の内容及びこれに付された条件に適合すると認めたときは、交付すべき補助金の額を確定し、様式第4による交付額確定通知書を補助事業者に通知するものとする。
- 2 協会は、開発補助事業者に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が支払われているときは、期限を付して、その超える部分の補助金の返還を請求するものとする。
 - 3 協会は、開発補助事業者が、返還すべき補助金を通知した納期日までに納付しなかったときは、納期日の翌日から納付の日までの日数に応じ、その未納付額につき年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴収するものとする。

(補助金の支払)

- 第13条 協会は、必要があると認められる場合には、国の支払計画承認額の範囲内において概算払をすることができる。
- 2 開発補助事業者は、前項の規定により補助金の支払を受けようとするときは、様式第5による概算（精算）払請求書を協会に提出しなければならない。

(交付決定の取消し等)

- 第14条 協会は、第9条の規定による補助金の交付の決定の全部若しくは一部を取消し、又は交付の決定の内容若しくはこれに付した条件を変更することができる。
- ① 開発補助事業者が法令及び公募要項、本要項又は本要項等に基づく協会の処分若しくは指示に違反した場合。
 - ② 開発補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用した場合。
 - ③ 開発補助事業者が、補助事業に関して不正、怠慢その他不適当な行為をした場合。
 - ④ 交付の決定後生じた事情の変更により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなった

場合。

- 2 前項の規定は、第12条に規定する補助金の額の確定があった後においても適用があるものとする。
- 3 協会は、第1項に基づく取消し又は変更をしたときは、速やかに開発機関に通知するものとする。
- 4 協会は、第1項の規定による取消しをした場合において、当該取消しに係る部分に関し、既に補助金が交付されているときは、期限を付して当該補助金の全部又は一部の返還を請求するものとする。
- 5 協会は、前項の返還を請求する場合は、第1項第4号に規定する場合を除き、当該補助金の受領の日から納付の日までの日数に応じて、当該補助金（その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既納付額を控除した額）につき年利10.95パーセントの割合で計算した加算金を併せて当該開発補助事業者から徴収することができる。

（財産の管理等）

- 第15条 開発補助事業者は、取得財産等については、補助事業の完了後においても善良な管理者の注意をもって管理し、補助金の交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
- 2 開発補助事業者は、取得財産等について様式第6による取得財産等管理台帳を備え管理するとともに、当該年度に取得財産等があるときは、第11条に定める実績報告書に添付して協会に提出しなければならない。
 - 3 協会又は厚生労働省は、開発補助事業者が取得財産等を処分することにより、収入があり、又は収入があると認められるときは、その収入の全部又は一部を協会に納付させることができるものとする。

（財産処分の制限等）

- 第16条 取得財産等のうち、処分を制限する財産は、取得価格又は効用の増加価格が単価50万円以上の機械、器具、備品及びその他の財産とする。
- 2 取得財産等の処分を制限する期間は、補助金の交付の目的及び減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定める耐用年数を勘案して、協会又は厚生労働省が別に定める期間とする。
 - 3 開発補助事業者は、前項の規定により定められた期間内において、処分を制限された取得財産等を処分しようとするときは、あらかじめ、様式第7による財産処分承認申請書を協会に提出し、その承認を受けなければならない。

（補助事業の経理等）

- 第17条 開発補助事業者は、補助事業の経理について補助事業以外の経理と明確に区分した上、帳簿及びすべての証拠書類を整備し、常にその収支状況を明らかにしておかなければならない。
- 2 開発補助事業者は、前項の帳簿及び証拠書類を補助事業の完了した日又は補助事業の中止若しくは廃止の承認があった日の属する年度の終了後5年間、いつでも閲覧に供せるよう保存しておかなければならない。

3 前項の期間、協会又は厚生労働省は、必要に応じて証拠書類等の確認を行うことができるものとする。

(その他必要な事項)

第18条 特別の事情により第3条及び第4条、第6条、第11条に定める算定方法、手続によることができない場合には、あらかじめ協会又は厚生労働省の承認を受けて、その定めるところによるものとする。

2 この規程に定めるもののほか、補助金の交付に関し必要な事項は、協会又は厚生労働省が別にこれを定める。

附 則 (公益財団法人テクノエイド協会規定第1号)

この規程は、平成30年8月27日から施行する。

別表 1

補助対象経費の区分

	項目	具体的な支出例
直接経費	賃金	<ul style="list-style-type: none"> 開発に必要な資料整理作業等を行う者を日々雇用する経費 (別紙1) 単価基準額参照 支払い対象者について、法令に基づいて雇用者が負担する社会保険の保険料
	謝金	<ul style="list-style-type: none"> 開発協力者(開発組織に属さない試験被験者やアドバイザー等)に対する謝礼(いずれも金銭、物品を問いません。) (別紙1) 単価基準額参照
	備品費	<ul style="list-style-type: none"> 点字プリンター等リースになじまない物品の購入経費 (※パソコン等、OA機器の購入は補助対象外)
	消耗品費	<ul style="list-style-type: none"> 各種事務用紙、文具の類、収入印紙、雑誌等、その性質が使用することによって消耗され、又は毀損しやすいもの、長期間の保存に適さない物品の購入費 市販ソフトウェア
	雑役務費	<ul style="list-style-type: none"> 開発要素のない機械装置製作やソフトウェア作成等の委託費を除く外注費 銀行振込手数料、翻訳手数料、倫理審査受審料 開発を行うために必要な事務費等(施設整備費は補助対象外)
	借料及び 損料	<ul style="list-style-type: none"> 会場借上料、パソコン等の機械の借上料、設備損料
	旅費	<ul style="list-style-type: none"> 開発のために行う国内の旅費(開発協力者に対する旅費を含む)
	会議費	<ul style="list-style-type: none"> 会議用、式日用の茶菓代(弁当等の食事代は含みません。)
	通信運搬費	<ul style="list-style-type: none"> 郵便料、運搬料、電信電話料
	印刷製本費	<ul style="list-style-type: none"> 報告書、パンフレット等の印刷、製本の経費
	光熱水費	<ul style="list-style-type: none"> 電気使用料、ガス使用料、水道使用料等及びこれらの使用に伴う計器類の使用料 自動車等の燃料の購入費
	委託費	<ul style="list-style-type: none"> 製品の設計や作製など開発の主要部分を外部に委託する経費(原則として、直接経費の1/5以内とします。)

別表 2

区分	種目	基準額	対象経費	補助率
障害者総合支援事業費補助金	障害者自立支援機器等開発促進事業	障害者自立支援機器等開発促進事業協会が必要と認めた額	「障害者自立支援機器等開発促進事業」の実施に必要な賃金、謝金、備品費、消耗品費、雑役務費、借料及び損料、旅費、会議費、通信運搬費、印刷製本費、光熱水費並びに委託費	$\frac{2}{3}$

ただし、次表のいずれかに該当する企業以外の者であって事業を営むもの（大企業）や発行済株式会社の総額又は出資の総額の「2分の1以上が同一の大企業の所有に属する」又は「3分の2以上が複数の大企業の所有に属する」事業者については対象経費の1/2とする。

主たる事業として営んでいる業種	資本金基準 (資本の額又は出資の総額)	従業員基準 (常時使用する従業員の数) (注1)
製造業、建設業、運輸業及びその他の業種(下記以外)	3億円以下	300人以下
ゴム製品製造業(自動車又は航空機用タイヤ及びチューブ製造業並びに工業用ベルト製造業を除く。)	3億円以下	900人以下
小売業	5千万円以下	50人以下
サービス業(下記3業種を除く)	5千万円以下	100人以下
ソフトウェア業又は情報処理サービス業	3億円以下	300人以下
旅館業	5千万円以下	200人以下
卸売業	1億円以下	100人以下

単価基準額

○賃金

1日（8時間）当たり 8,300 円を基準とし、雇用者が負担する保険料は別に支出する。

※ 一日において8時間に満たない時間又は8時間を超えた時間で賃金を支出する場合には、1時間当たり 1,030 円で計算するものとする。

※ 上記基準によらない場合は、その理由及び積算根拠となる資料を応募の際に評価検討会に提出し、承認を得ること。

○謝金

	1回当たり 1,000 円程度	
モニター評価試験等のための開発協力	モニター評価試験、アンケート記入など開発協力謝金については、協力内容（拘束時間等）を勘案し、常識の範囲を超えない妥当な単価を設定すること。なお、謝品として代用することも可（その場合は消耗品費として計上すること）。	
講演、討論等開発遂行のうえで学会権威者等を招聘する場合	教授級以上または相当者	時間給 8,100 円
	准教授級以上または相当者	時間給 6,200 円
	講師級以上または相当者	時間給 5,300 円
定型的な用務を依頼する場合	医師又は相当者	日 給 14,100 円
	大学（短大含む）卒業者又は専門技術を有する者及び担当者	日 給 7,800 円
	開発補助者	日 給 6,600 円

公益財団法人テクノエイド協会

理事長 大橋謙策 殿

開発補助事業者 住 所
名 称
代表者等名

印

平成 30 年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
交付申請書

平成 30 年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）交付要項第 6 条の
規定に基づき、上記補助金の交付について、下記のとおり申請します。

記

1. 開発テーマの名称

2. 補助金交付の申請額

_____ 千円

3. 補助事業の実施計画書

（別紙 1）のとおり

4. 補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金の配分額

（別紙 2）のとおり

5. 補助事業の期間及び完了予定日

（1）開始年月日

内示日

（2）完了予定年月日

平成 年 月 日

6. 連絡先（担当者の氏名、所属、職名、住所、電話番号、電子メールアドレス）

担当者の氏名：

所属：

職名：

住所：

電話番号：

電子メールアドレス：

（注）

この申請書には、以下の書面を添付すること。

（1）開発補助事業者の経理の状況を記載した書面

（2）その他協会が指示する書面

6. 開発組織体制

開発担当者名	分担する開発項目 (エフォート)	開発機関 (開発実施場所)	職名
開発代表者			
	(%)		
開発分担者			
	(%)		
	(%)		
	(%)		
開発協力者			
	(%)		
	(%)		

- ※ 開発代表者及び開発分担者について記載することとし、また、開発協力者も依頼する場合には、その旨を記載してください。
- ※ 「(エフォート)」は開発担当者が行う業務のうち、何%の時間が当開発のため費やされるか概ねの数値を記載してください。

7. 開発する障害者自立支援機器等 (図又はイラスト等)

- ※ 開発する障害者自立支援機器等の構造 (ないしは構成) の概要、並びに使用方法のイメージが分かる図又はイラスト、写真等及び、その説明のためのコメント等をわかりやすく記入してください。

8. 開発の経緯（300字以内）

※これまでの開発経緯や得られた成果など、開発の進捗についてわかりやすく記入してください。2年目以降の応募については、前年までの本事業において得られた成果が明確にわかるように記入してください。

--

9. 開発の背景及び課題に対する解決策（各200字以内）

※現場の課題及び課題に対する解決策（開発の背景及び目的）、また、類似する既製品がある場合には、その違い等がわかるよう記載してください。

※課題は2種類に分けています。認識している範囲でわかりやすく記載してください。いずれか一方のみでも差し支えありません。

(1) 現場の課題及び課題に対する解決策（開発の背景及び目的）		
	現場の課題	解決策
障害者（児）が生活を送るうえで困難に感じる課題		
現状の機器に係る課題 ※実現している機能には大きな変更はないが、効率向上や性能向上、小型化、安全対策など、機械的（電氣的等）課題		
(2) 類似する既製品がある場合にはその違い（※無い場合は記載不要）		

10. 開発方法及び計画（600字以内）

※ 開発及びモニター評価の項目及び手法について、わかりやすく記載してください。

※ 申請時において開発がどこまで進行・到達しているのか明確に記載してください。（例えば、基礎研究が終了し実用化研究に入る段階、或いは、実用機のプロトタイプ試作が完了し動作試験を行っている段階等）

※ モニター評価を行う場合は、倫理審査委員会の有無等を記載してください。

倫理審査委員会の有無	有・無	委託する場合の 委託予定先	

11. 想定ユーザや医療福祉専門職によるアドバイスの体制（200字以内）

※ 開発する支援機器の想定ユーザや医療福祉専門職等からのアドバイス支援体制について、現時点の状況、並びに今後の体制について記載してください。

--

1 2. 実施の工程

- ※ 当該年度の開発期間中の工程について、月ごとに行う予定を記載してください。
- ※ 開発工程の欄は必要に応じて増やして記載して下さい。

開発工程	9月	10月	11月	12月	1月	2月
事業終了時の目標						

1 3. 普及・実用化の目途について（300字以内）

- ※ 販売開始に向けた事業化スケジュール等を記載してください。

事業化に向けたスケジュール	
販売予定価格	円
年間販売目標	台数

(別紙2)

補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金の配分額

(単位：円)

開発に要する 経費区分	補助事業に 要する経費	補助対象経費	内訳	補助 率	補助金交付 申請額
賃金				2 3	
謝金					
備品費					
消耗品費					
雑役務費					
借料及び損料					
旅費					
会議費					
通信運搬費					
印刷製本費					
光熱水費					
委託費					
合 計					

補助金交付の申請額合計 金 _____ 千円

※千円未満は切り捨てた金額としてください。

法人にあつては名称
及び代表者 あて

公益財団法人テクノエイド協会
理事長 大橋謙策

平成28年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
交付決定通知書

平成 年 月 日付第 号をもって申請があつた平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）交付要項第9条第1項の規定に基づき、下記のとおりに交付することに決定したので通知します。

記

- 1 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、平成 年 月 日付第 号をもって申請があつた平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）交付申請書記載のとおりとする。
- 2 補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金の額は次のとおりとする。ただし事業の内容が変更された場合において、事業に要する経費又は補助金の額が変更されるときは、別に通知するところによるものとする。

(1) 補助事業に要する経費	_____	円
(2) 補助対象経費	_____	円
(3) 補助金の額	_____	円
- 3 補助金の額の確定は、交付要項の第4条の定める交付額の算定方法により行うものである。
- 4 この補助金は、交付要項の第5条に掲げる事項を条件として交付するものである。

- 5 事業に係る事業実績報告は、交付要項の第11条に定めるところにより行わなければならない。
なお、第12条の規定に基づき、協会は、開発補助事業者に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が支払われているときは、期限を付して、その超える部分の補助金の返還を請求するものであること。
- 6 この交付の決定の内容又は条件に不服がある場合には、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律第9条第1項の規定による申請の取下げすることができる期限を平成 年 月 日とする。
- 7 その他、協会の付した条件を遵守しなければならない。

公益財団法人テクノエイド協会
理事長 大橋謙策 殿

開発補助事業者 住 所
名 称
代表者等名

印

平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
実績報告書

平成 年 月 日付第 号をもって交付決定のあった上記補助金に係る補助事業が完了しましたので、平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）交付要項第11条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 実施した補助事業

(1) 開発テーマの名称

(2) 実施状況報告

(別紙1) のとおり

(3) 補助対象経費支出明細書

(別紙2) のとおり

2. その他協会が指定した関係書類

(注)

- ① 当該年度に財産を取得しているときは、交付要項第15条第2項の規定に基づき、様式第6による取得財産等管理台帳を添付することとする。
- ② 事業完了後、消費税及び地方消費税の申告により補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合は、(別紙3)を提出すること。
- ③ その他協会が指定する関係書類を添付すること。

(別紙1)

補助事業の実施状況報告

1. 分野番号 : _____
2. 開発テーマ名 : _____
3. 補助金交付の決定額 : 金 _____ 千円
4. 補助事業の期間 : 内示日から平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日
※ 当該年度の終了日は、当該年度の2月末が限度となります。
5. 開発補助事業者及び、経理事務担当者

開発補助事業者	開発機関	開発機関名	
		代表者名	印
		所在地	〒 Tel : E-Mail: Fax :
開発補助事業者	開発代表者	(フリガナ) 氏名	
		所属部署	
		連絡先	〒 Tel : E-Mail: Fax :
経理事務担当者	経理事務担当者	(フリガナ) 氏名	
		所属部署	
		連絡先	〒 Tel : E-Mail: Fax :

※ 「開発補助事業者」の所在地と「開発代表者」及び「経理事務担当者」の連絡先が同様の場合は記載不要です。

6. 事業の概要

--

7. 事業の方法、内容、得られた成果

--

8. 普及・実用化の目途について

事業化に向けたスケジュール	
販売予定価格	円
年間販売目標	台数

(別紙2)

補助対象経費支出明細書

1. 交付決定額

金 _____ 千円 (a)

2. 補助対象経費の実支出額の明細

(単位：円)

開発に要した 経費区分	補助事業に 要した経費	補助対象経費	内訳	補助 率	補助金の額
賃金				2 3	
謝金					
備品費					
消耗品費					
雑役務費					
借料及び損料					
旅費					
会議費					
通信運搬費					
印刷製本費					
光熱水費					
委託費					
合 計					

※補助金の額は経費区分毎に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切捨てるものとする。

補助金の額 金 _____ 千円 (b)

※千円未満は切り捨てた金額としてください。

3. 国庫補助精算額

金 _____ 千円 (a) - (b)

(別紙3)

番 号
年 月 日

公益財団法人テクノエイド協会
理事長 大橋謙策 殿

開発補助事業者 住 所
名 称
代表者等名

印

平成 年度消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書

平成 年 月 日付第 号をもって交付決定のあった、平成 年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）について、交付要項第15条⑮の規定に基づき下記のとおり報告する。

- 1 補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第15条に基づく額の確定額又は事業実績報告額

金 円

- 2 消費税及び地方消費税の申告により確定した消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額(要国庫補助金等返還額相当額)

金 円

(注) 2の金額の積算内訳等が分かる資料を添付すること。

様式第 4

番 号
年 月 日

法人にあつては名称
及び代表者 あて

公益財団法人テクノエイド協会
理事長 大橋謙策

平成 3 0 年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
交付額確定通知書

平成 年 月 日付第 号をもって交付決定した平成 2 8 年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）は、平成 年 月 日付第 号付第 号による実績報告に基づき、交付額を以下のとおり確定したので通知する。

（なお、超過交付となった額については額については、平成 3 1 年 3 月 1 5 日までに協会が指定する口座へ返還してください。）

記

1. 交付決定額	円
2. 交付金確定額	円
3. 超過交付額（返還額）	円
・ 振込期限	
・ 振込先	
※振込手数料は開発補助事業者が負担してください。	

番 号
年 月 日

公益財団法人テクノエイド協会
理事長 大橋謙策 殿

開発補助事業者 住 所
名 称
代表者等名

印

平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
概算（精算）払請求書

平成 年 月 日付第 号をもって交付決定のあった上記補助金について、平成28年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）交付要項第13条第2項の規定に基づき、下記のとおり請求します。

記

1. 開発テーマの名称

※申請に記載した名称

2. 概算（精算）払請求金額 金 _____ 円

3. 振込先

取引銀行名	支店名	預金の種類	口座名義及び口座番号（※）

（※）口座名義にはフリガナを付して下さい。

様式第6

平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
取得財産等管理台帳

1. 開発テーマの名称

※申請に記載した名称

2. 取得財産等の明細

財産名	数量	単価	金額	取得年月日	耐用年数	保管場所
		円	円			

(注) 1. 対象となる取得財産等は、取得価格又は効用の増加価格が本交付要項第16条第1項に定める処分制限額以上の財産とする。

2. 取得年月日は検収年月日を記載する。

公益財団法人テクノエイド協会
理事長 大橋謙策 殿

開発補助事業者 住 所
名 称
代表者等名

印

平成30年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）
財産処分承認申請書

平成 年 月 日付 第 号をもって交付決定のあった上記補助金に係る補助事業について、平成28年度障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）交付要項第16条第3項の規定に基づき、下記のとおり承認を申請します。

記

1. 開発テーマの名称

※申請に記載した名称

2. 処分しようとする財産及びその理由

財産名	仕 様	数 量	処分の方法	処分の理由	備 考 (処分の時期等)

(注)

- ①処分の方法は、売却及び譲渡、交換、貸与、担保提供等の別を記載すること。自己使用の場合は用途を記載すること。
- ②取得財産が共有の場合は、備考に共有相手及び共有比率を記載すること。

3. 相手方（住所、氏名、使用の場所及び流用の目的）

4. 処分の条件

(注) 売却及び譲渡、交換、貸与、担保提供の相手方のある場合は、それぞれの相手方及び条件について記載すること。

平成 30 年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 開発進捗管理表

企業名：	対象分野：
テーマ名：	計画年数：

1. 今年度の事業終了時の目標

--

2. 年間の実施工程 ※交付申請書「12. 実施工程」の項目をご記入下さい。

項目 (開発工程)	9月	10月	11月	12月	H31.1月	2月	進捗の状況
当初予定							当初の予定に対して _____%まで実施
実際の進捗							
当初予定							当初の予定に対して _____%まで実施
実際の進捗							
当初予定							当初の予定に対して _____%まで実施
実際の進捗							
当初予定							当初の予定に対して _____%まで実施
実際の進捗							
当初予定							当初の予定に対して _____%まで実施
実際の進捗							
当初予定							当初の予定に対して _____%まで実施
実際の進捗							

※項目は必要に応じて増やしてください。

3. 現状の課題

--

みんなで
考えよう!

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング 交流会 2018

入場無料

入退場自由

作る人と使う人の交流会

大阪開催

2018年
12/18(火)・19(水)

10:00-16:00

大阪
マーチャンダイズマート
2F Aホール

福岡開催

2019年
1/9(水)・10(木)

10:00-16:00

FFB HALL
福岡ファッションビル
8F Aホール

東京開催

2019年
2/13(水)・14(木)

10:00-16:00

TOC有明4F
コンベンションホール

同時開催
(特別企画)

導入好事例普及事業 優秀者による
プレゼンテーション

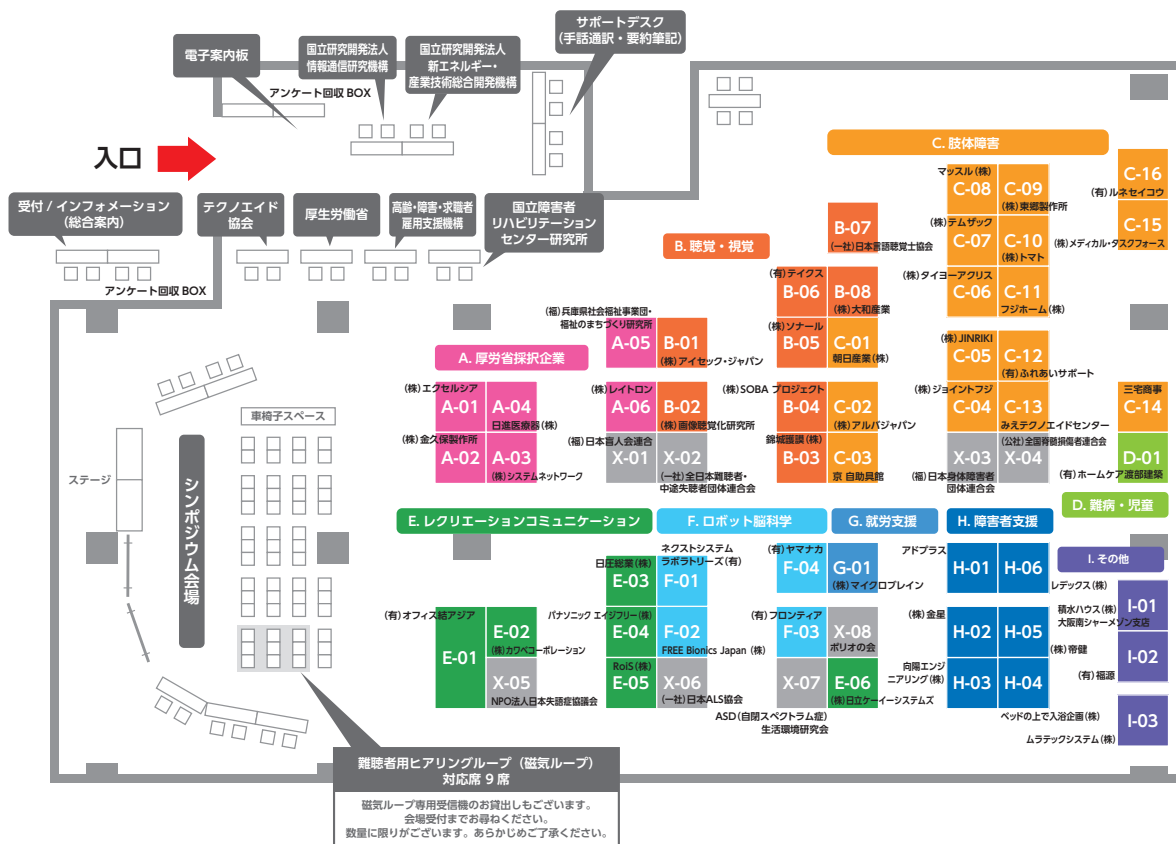
シンポジウム 支援機器開発の
最前線と現状の課題

開発促進事業
採択機関 成果報告会

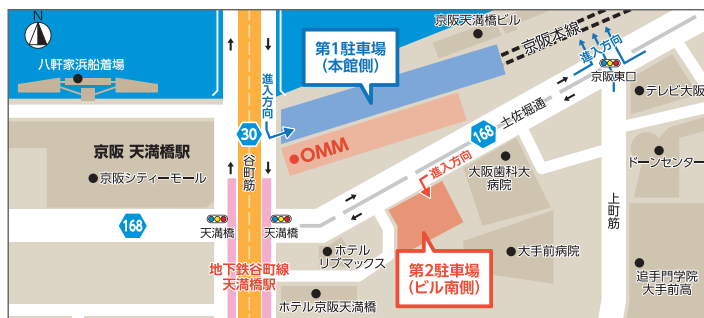


大阪会場

案内図

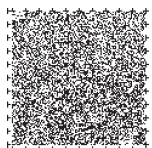


アクセス



OMM(大阪マーチャндаイズマート) 2階 Aホール

住所: 大阪市中央区大手前1-7-31
 アクセス: 京阪電車「天満橋駅」東口、
 地下鉄谷町線「天満橋駅」
 北改札口「天満橋駅」直結

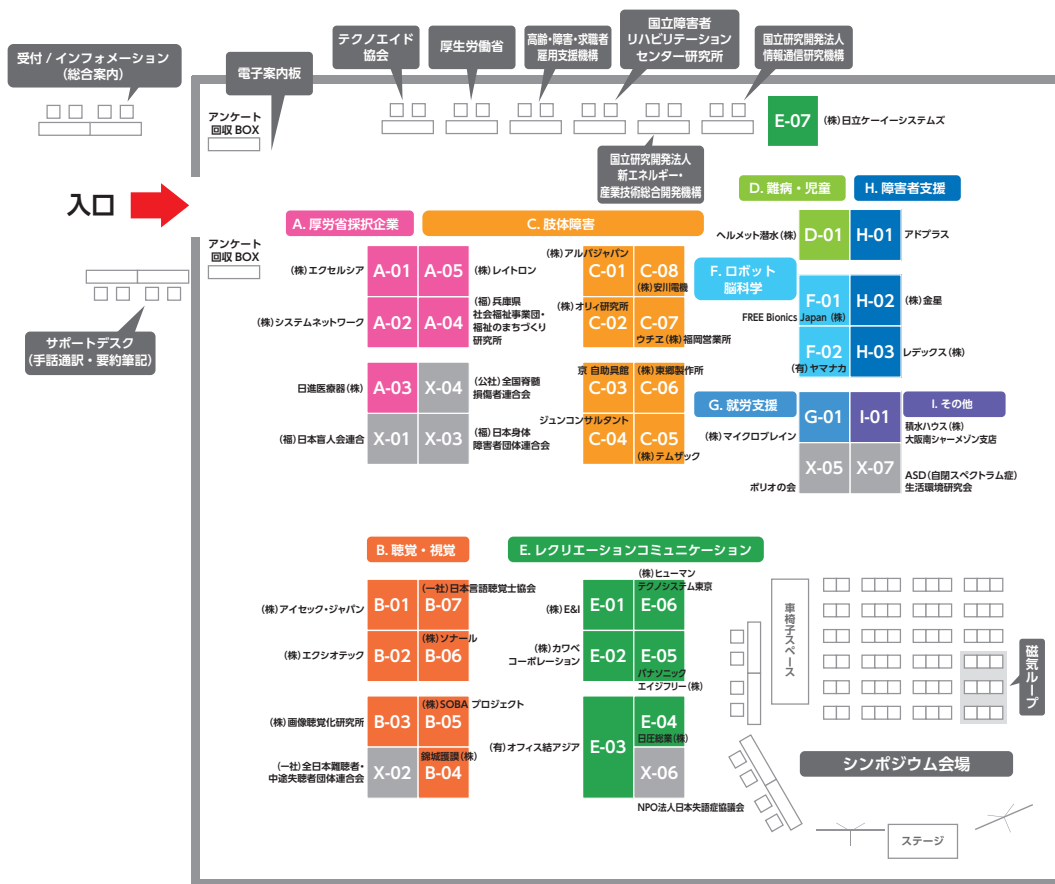


分野別カテゴリ

- A** 平成30年度障害者自立支援機器等
開発促進事業 採択企業
- B** 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器/
盲ろう者の日常生活支援機器
- C** 肢体不自由者の日常生活支援機器
- D** 難病患者等の日常生活支援機器/
障害児の生活を豊かにする支援機器

福岡会場

案内図



アクセス



FFB HALL 福岡ファッションビル 8階 Aホール

住所:福岡市博多区博多駅前2-10-19

アクセス:地下鉄「祇園駅」5番出口

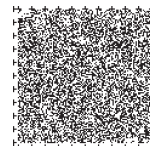
E 障害者のコミュニケーション・レクリエーション活動を支援する機器

G 障害者の就労活動を支援する機器

I その他

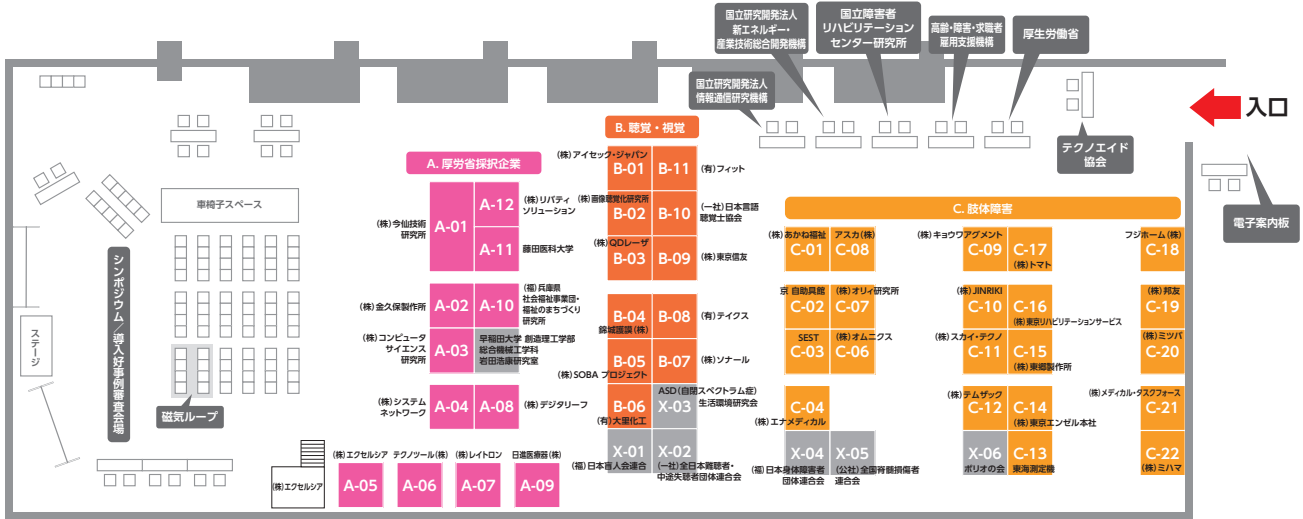
F ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器/脳科学の成果を応用した支援機器

H 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器

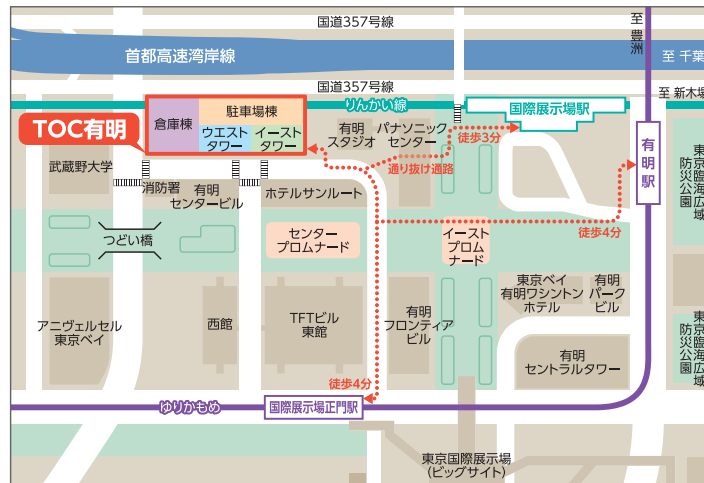


東京会場

WESTホール 会場内案内図



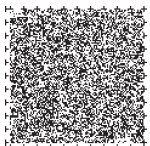
アクセス



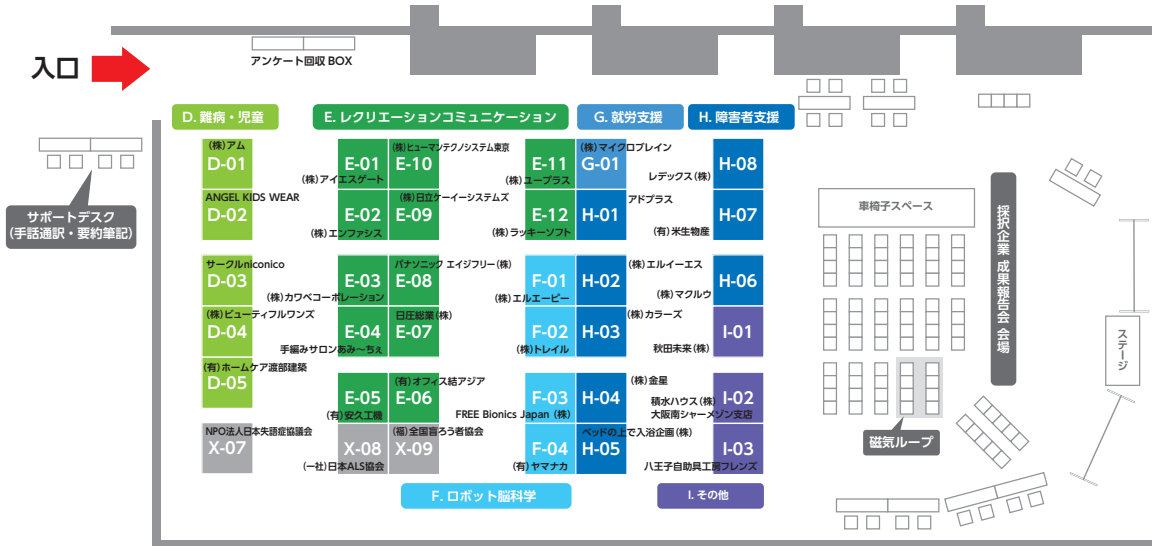
TOC有明 4階 コンベンションホール

住所: 東京都江東区有明3-5-7

アクセス: ゆりかもめ「国際展示場正門駅」、りんかい線「国際展示場駅」

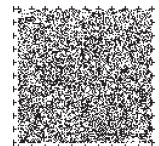


EASTホール 会場内案内図



分野別カテゴリ

- | | |
|---|--|
| A 平成30年度障害者自立支援機器等
開発促進事業 採択企業 | F ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器/
脳科学の成果を応用した支援機器 |
| B 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器/
盲ろう者の日常生活支援機器 | G 障害者の就労活動を支援する機器 |
| C 肢体不自由者の日常生活支援機器 | H 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器 |
| D 難病患者等の日常生活支援機器/
障害児の生活を豊かにする支援機器 | I その他 |
| E 障害者のコミュニケーション・
レクリエーション活動を支援する機器 | |



特別企画①

福祉機器開発の最前線と現状の課題

趣旨

障害者自立支援機器の開発については、障害者のニーズを踏まえた研究開発を推進するとともに、新たに創出されるイノベーションを支援機器の分野に活用することが大いに期待されているところであり、本年6月に閣議決定された「未来投資戦略2018」においても、現場ニーズを捉えた開発支援及び介護現場への導入・活用支援を進めるとなされたところであります。

本シンポジウムでは、ロボットやICTなど先端技術を応用した支援機器開発の現状を把握するとともに、実用化に向けた課題を共有化し、課題解決に向けた方策についての共通理解を深めることを目的として開催するものです。

本交流会へ来場された皆様方におかれましては、是非ご参加ください。

開催内容

※会場の都合等により参加企業が変更する場合がございます。最新情報は協会HPをご覧ください。

	大阪会場	福岡会場	東京会場
日時	2018年12月18日(火)	2019年1月9日(水)	2019年2月13日(水)
	13:30~15:30(120分)		

司会 テクノエイド協会 企画部

開発企業等によるプレゼンテーション(各20分)

内容	筋電義手 (兵庫県社会福祉事業団)※	バリアフリー仮設トイレ (エクセルシア)※	ロボット電動車椅子 (パナソニック)
	FREE Walk (FREE Bionics Japan)※	歩行アシスト装置 ReWalk (安川電機)※	WPAL (下肢麻痺者用の歩行補助ロボット) (アスカ)※
	UDトーク (RoiS)※	指伝話コミュニケーションパック (オフィス結アジア)※	視線で操作するスイッチ -アイスイッチ- (エンファシス)※
	画像聴覚化装置 (画像聴覚化研究所)※	遠隔文字通訳「e-ミミ」 (アイセック・ジャパン)※	OTON GLASS (オトングラス)

パネルディスカッション(40分)

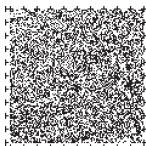
※マッチング交流会に出展しています。

参加申込

無料(交流会の併催イベントとして、同会場にて開催します。)

お問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当:篠(しの)、宇田川(うだがわ)
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階
電話:03-3266-6883 FAX:03-3266-6885



成果報告会・導入好事例普及事業

特別企画②

平成30年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業による成果報告会

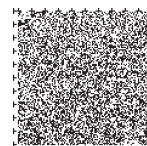
【開催日程】2019年2月14日(木)

報告時間	分野	開発テーマ名	企業名
① 10:30~10:40	肢体不自由者の日常生活支援機器	肢体不自由者の排泄をサポートする支援機器の開発	(株)リパティソリューション
② 10:45~10:55		義足装着者の歩行環境を感知し、最適な踵高に自動調整してくれる義肢足部「オートセーフティヒール」の開発	(株)金久保製作所
③ 11:00~11:10	視覚障害者の日常生活支援機器	視覚障害者向け音声認識リモコンBOXの開発	(株)レイトロン
④ 11:15~11:25	障害者の就労支援機器	日常生活場面に特化した高次脳機能障害者訓練・評価用システム開発	(株)システムネットワーク
⑤ 11:30~11:40	障害者のコミュニケーションを支援する機器	ALS、脳梗塞患者等肢体不自由者に向けたiPad電子文字盤の開発	(株)デジタルーフ
⑥ 11:45~11:55	障害者のレクリエーション活動を支援する機器	障害者の能動的な運動・活動を促すコンピューターグラフィックを利用したレクリエーション型エクササイズの開発	藤田医科大学
⑦ 12:55~13:05	障害者のレクリエーション活動を支援する機器	姿勢保持機能付き屋内用ブランコの開発	日進医療器(株)
⑧ 13:10~13:20	障害児の生活を豊かにする支援機器	ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発	(株)エクセルシア
⑨ 13:25~13:35		低年齢児向けの移動支援機器、および機器普及を促すシミュレータ開発	(株)今仙技術研究所
⑩ 13:40~13:50	ロボット技術を活用した障害者向け支援機器	物体の形状に合わせて把持することができる多指機構を有し、軽量で極めて装飾性に優れた量産型筋電義手	(社福)兵庫県社会福祉事業団
⑪ 13:55~14:05		ユーザーニーズによる生活支援ロボットアームの改良	テクノツール(株)
⑫ 14:10~14:20	障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	視覚障害者のIoT化と情報共有クラウドによる移動支援システムの開発	(株)コンピュータサイエンス研究所

特別企画③

平成30年度 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 優秀賞プレゼンテーション

	プレゼン時間	機関名
大阪会場 2018年12月19日(水)	13:30~13:40	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
	13:40~13:50	パナソニックエイジフリー株式会社
	13:50~14:00	株式会社日立ケーイーシステムズ
	14:00~14:10	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
	14:10~14:20	株式会社ミクニライフ&オート
福岡会場 2019年1月10日(木)	13:30~13:40	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
	13:40~13:50	パナソニックエイジフリー株式会社
	13:50~14:00	株式会社日立ケーイーシステムズ
	14:00~14:10	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
	14:10~14:20	株式会社ミクニライフ&オート
東京会場 2019年2月14日(木)	13:00~13:10	仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
	13:10~13:20	パナソニックエイジフリー株式会社
	13:20~13:30	株式会社日立ケーイーシステムズ
	13:30~13:40	社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
	13:40~13:50	株式会社ミクニライフ&オート
	14:20~	最優秀賞の決定
	14:30~	表彰式



出展機器情報(予定)

大阪出展

福岡出展

東京出展

A. 平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業

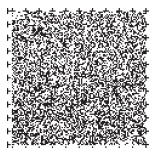
移動支援機器	義肢足部 「オートセーフティヒール」	移動支援システム	リパティひまわり	Udero
株式会社今仙技術研究所	株式会社金久保製作所	株式会社コンピュータサイエンス研究所	株式会社リパティソリューション	テクノツール株式会社
				
いつも使っている椅子が、電動で移動する椅子に早変わり。	道路の凹凸や傾斜等を感じし、足と膝関節を連動し最適な角度に自動制御する義肢装置。	視覚障害向けの道案内と障害物通知を音声で行う移動支援システム。	排泄物を感知すると、自動で吸引・洗浄・除菌・乾燥を行います。	上肢に障害を持つ方の日常生活を支援するロボットアームです。

姿勢保持機能付き 屋内用ブランコ	バリアフリー仮設トイレ	高次脳機能評価訓練システム HBDECAT (仮称)	視覚障害者向け 音声認識リモコンBOX	軽量で装飾性に優れた 量産型筋電義手
日進医療器株式会社	株式会社エクセルシア	株式会社システムネットワーク	株式会社レイトロン	社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団・福祉のまちづくり研究所
				
座位の保持が必要な肢体不自由児・知的障害児でも利用が可能なブランコ。	ライフラインを必要せず、高性能な排泄処理剤により、悪臭が無く快適に使用できます。	高次脳機能障害を対象に様々な課題を豊富に搭載します。	視覚に障害を持った方でも容易に家電製品を操作できるマルチリモコンです。	物体の形状を把持することができる多指機構を有し、人間の手に近い見た目と動きを再現。

B. 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器/盲ろう者の日常生活支援機器

障害者向けエクササイズシステム 「アパタサイズ」	意思伝達装置 「RICANUS - リカナス -」	車載型ヒアリンググループ& 新ヒアリンググループ受信機 (音声認識アプリ対応型)	視覚障がい者歩行誘導マット	Gyoro-glass
藤田医科大学	株式会社デジタルーフ	株式会社ソナール	錦城護謨株式会社	有限会社フィット
				
障害レベルに合わせたCGレクリエーション支援システム。	視線追跡技術による肢体不自由者向けiPad対応の電子文字盤。	バス等に設備し、難聴者の聞こえを支援。手元のスマホ等で声を文字としても確認可能。	トイレ等プライベート空間を単独移動できるように開発した視覚障がい者歩行誘導マット。	網膜色素変性症、視野狭窄症の利用者さん向けの広視野眼鏡。

画像聴覚化装置	音源 振動素子	網膜走査型レーザアイウェア	複数情報伝達モードを備えた ユニバーサルな電話 リレーサービス
株式会社 画像聴覚化研究所	株式会社 大和産業	株式会社QDレーザ	株式会社SOBA プロジェクト
			
原画像を走査音に変換し、聴覚と触覚を用いてイメージする情報伝達装置。	音と振動で目の見えない方、音の聞こえない方に情報を伝えます。	ヘッドマウントディスプレイで、網膜上に映像を直接投影します。	ろう者のニーズに合った複数情報伝達モードを備えたユニバーサルな電話リレーサービス。



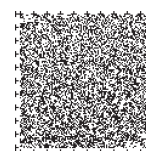
遠隔文字通訳「e-ミミ」	シグナルエイド (歩行時間延長信号機用小型送信機)	シルウォッチ	パームライン	一般社団法人 日本語聴覚士協会
株式会社アイセック・ジャパン	株式会社エクシオテック	株式会社東京信友	有限会社ティクス	
 大 福 東	 福	 東	 大 東	
講演会やセミナー、学校、議会、結婚式や観劇等で、リアルタイムライブ字幕を提供。	常に反応する音声案内と違い、必要ときに必要な音響、音声案内を受けられます。	伝えたい人だけに素早く振動と光、音でメッセージをお知らせ。	屋内用の誘導板。幅75ミリ、高さ5ミリ、長さ297ミリ。ゴム入り樹脂AES製。	開発側と使用する方々の情報交換の橋渡し。また開発に向けた開発側との情報交換。

C. 肢体不自由者の日常生活支援機器

レーザー	片手で使える角ハンガー 「Hanger Evolution」	ハイモア / はいねー / タスカルHLチルト	TREZO kun (尿袋 とれぞーくん)	可搬型階段昇降機 スカラモービル
有限会社 大里化工	SEST	ウチエ株式会社 福岡営業所	株式会社 メディカル・タスクフォース	株式会社アルパジャパン
 東	 東	 福	 大 東	 大 福
レーザーで2m~1.5m先の障害物を検知して振動で知らせる製品。	片手で簡単に素早く洗濯物の取付け、取外しが出来る角ハンガー。	操作性、機能性に優れた入浴介護用品。電動昇降にチルト機能を持つポータブルトイレ。	オムツに代わり、寝たきり男性の集尿装置、装着したまま排尿が可能な排尿管理装置。	車椅子に乗ったまま、らせん階段や屋内の階段でも昇降できます。

ヘルパー育(はぐくみ)	おしり洗浄機能付き車椅子	ばねさんが作ったくるくるエイド	カイドンサット	歩行補助用品 (杖、歩行者 等)
株式会社キョウワアグメント	株式会社タイヨーアクリス	株式会社東郷製作所	ジュンコンサルタント	フジホーム株式会社
 東	 大	 大 福 東	 福	 大 東
ベッドから車椅子への移乗、車いすからの移乗などを手軽に、そして簡単に。	おしり洗浄機能を搭載した車椅子で、ポータブルトイレとしても利用できます。	指先の細かな動きが難しい方が片手でボタンの掛け外しができる自動具。	歩行困難者を乗せて、建物の上層階から、一人で救出できる簡易型階段避難車。	屋内でも屋外でも自立歩行を補助する商品で健康寿命の延伸を目指す。

ROBOHELPER SASUKE	電動爪削りホルダー	ラクアップレバー	安全一番
マッスル株式会社	みえテクノエイドセンター	三宅商事	株式会社 あかね福祉
 大	 大	 大	 東
「やさしさと安心を」ベッド⇄車椅子間の移乗をアシストします。	足まで手が届かない方が、足の爪を削るための自動具です。	車椅子のフットステップが手元のレバーで操作できるようにする後付け製品。	着座者本人による自由な締め付け、着脱を可能にした安全ベルト。



出展機器情報(予定)

大阪出展

福岡出展

東京出展

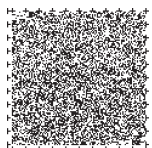
C. 肢体不自由者の日常生活支援機器

楽寝楽座	ラクーンステッキ	車椅子生活者のための 回転式収納棚	「立ち助」移乗補助装置	着脱けん引式車いす補助装置 JINRIKI QUICK
株式会社 エーアンドエーシステム	株式会社 オムニクス	株式会社 スカイ・テクノ	株式会社 邦友	株式会社 JINRIKI
				
東	東	東	東	大東



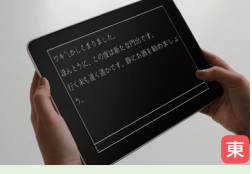


スルリエ	デジタル透明文字盤 OriHime eye	移乗助ロボット 「軽飛 移助」	RIDE ROID 「RODEM」	電動昇降式トイレベッドさつき
株式会社 エナメディカル	株式会社 オリイ研究所	株式会社 ジョイントフジ	株式会社 テムザック	株式会社 トマト
				
東	福東	大	大福東	大東

電動昇降サドル付き歩行車	介護リフト: 半自動運転M-07	姿勢保持用クッション	heart bridge apron	ピンセット型ボタンエイド
株式会社 ミツバ	株式会社 ミハマ	株式会社 東京エンゼル本社	株式会社 東京リハビリテーションサービス	京 自助具館
				
東	東	東	東	大福東

Behome 自動採尿器	クルンロック	浴そう座ぶとん	アシストキャスターチェア
朝日産業株式会社	東海測定機	有限会社 ふれあいサポート	有限会社 ルネセイコウ
			
大	東	大	大

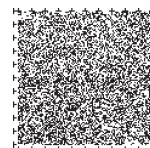


D. 難病患者等の日常生活支援機器/障害児の生活を豊かにする支援機器				
WPAL-G	ReWalk	手指のクッション 【にぎにぎんちゃく】【にぎるちゃん】 車いす防寒ウェア【フットマフ】	かえるのオフロ	クロツツ エア 体位変換マット
アスカ株式会社	株式会社 安川電機	ANGEL KIDS WEAR	サークルniconico	ヘルメット潜水株式会社
				
東	福	東	東	福
対麻痺者用歩行補助ロボット。車椅子から立ち上がり自立歩行が可能。	脊髄損傷による下肢麻痺者のAADは脳卒中片麻痺患者の歩行をアシストする装置。	機能性とデザイン性を大切にしたケアグッズと着替えをしやすい衣料品。	人工呼吸器を使う、首や腰のすわっていない子どものための簡易浴槽。	優れた分圧性能と通気性で褥瘡予防し蒸れを解消!!汚れてもすぐに丸洗い可能。

E. 障害者のコミュニケーション・レクリエーション活動を支援する機器				
Qピット	水洗式ポータブルトイレ 「流せるポータくん3号」	劇場型コンテンツ字幕サービス	UD トーク	重度障害者用意思伝達装置 レッツ・チャット
有限会社ホームケア渡部建築	株式会社アム	株式会社ビューティフルワズ	RoiS 株式会社	パナソニック エイジフリー株式会社
				
大東	東	東	大	大福東
視覚・聴覚に外的刺激を与え、すみ足を改善する。	ベッドの横に置ける水洗式のポータブルトイレ。	劇場で台詞を容易に理解できるように、字幕等をタブレットに表示する。	音声認識技術で聴覚障害者や外国人等とのコミュニケーションをサポートするアプリ。	会話、呼出ブザー、テレビリモコン等を搭載した最も安定した意思伝達装置。

スイッチスマホコール2	伝の心	聴覚障害者向けX線(セン)検査支援システム	視線や目・顔の動きで操作するスイッチ「アイスイッチ」	マイびたクッション (モジュールタイプ)
株式会社 E&I	株式会社 日立ケーイーシステムズ	株式会社アイエスゲート	株式会社エンファシス	株式会社カワコーポレーション
				
福	大福東	東	東	大福東
外部スイッチを使って、スマートフォンのコールと着信を制御可能です。	肢体不自由、発話困難な方のコミュニケーションを支援する機器。	これからは、誰でも誰にでも指示がわかる、指示が伝わる検査に!! ICTを活用したX線検査受診を容易にするための支援システム。	視線や目・顔の動きで外部機器を操作できる入力スイッチです。	姿勢・サイズ調整、丸洗い可能な「ひとりひとりにあわせる」車椅子用クッション。

自分の声ソフトウェアボイスター	トーキングエイドプラス	TANO	ユニバーサルかぎ針 《あみ〜ちえ》
株式会社ヒューマンテクノシスム東京	株式会社 コープラス	株式会社ラッキーソフト	手編みサロンあみ〜ちえ
			
福東	東	東	東
キーボード等から入力したテキストを「自分の声」で再現する音声合成ソフトウェア。	ユーザーニーズに応えたタブレット型携帯用会話補助装置。	ゲーム感覚で運動・発声・脳トレが楽しめる自立支援システム。	ユニバーサルかぎ針《あみ〜ちえ》は、手先が不自由でも編めるかぎ針です。



出展機器情報(予定)

大阪出展 福岡出展 東京出展

簡易見守り機能付 コミュニケーションアシスト機器			F. ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器/ 脳科学の成果を応用した支援機器	
指伝話コミュニケーションパック	視覚障がい者用筆記具 触図筆ペン ラビコ	FREE Walk	うららか GPSウォーク	
日庄総業株式会社	有限会社オフィス結アジア	有限会社安久工機	FREE Bionics Japan 株式会社	株式会社トレイル
				
大 福 東	大 福 東	東	大 福 東	東
本体の受信用・送信用簡易ボタンにより内蔵スマホのメール機能操作の簡略化を実現。	思いと気持ちを伝えるための、アプリコンテンツ。	インクは溶けたみつろうで描くと盛上って固まり、指で触れてわかる。	日常での使用を目的とした外骨格型歩行支援ロボットで起立、着座、歩行をサポート。	GPS機器内蔵可能靴 GPSウォーク。

みまもり支援GPS i-coco (アイココ)			G. 障害者の就労活動を 支援する機器	
タップマスター Youfor	パワーアシストシリーズ	認知症予防トレーニング機 (対話型認知機能改善ゲーム機)	だれでもワークプロ for iPad	
ネクストシステムラボラトリー 株式会社	有限会社ヤマナカ	株式会社 エルエーピー	有限会社フロンティア	株式会社マイクロブレイン
				
大	大 福 東	東	大	大 福 東
大切な人がどこにいるのか、スマートフォン、パソコンから位置を確認できます。	車椅子のまま運動療法や音楽療法ができる他動的機器。	麻痺してしまった関節のリハビリテーションロボット。	軽度認知機能障害者向けの認知機能改善トレーニング機。	知的障害者の就労を可視化して業務内容をオリジナルで組立て可能なiPadアプリ。

H. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器				
からだをあらおう ミニ	①ラクラックス ②ナノびた	Tロックギア	介護用“ベッドの上で入浴”	脳バランスキッズ
アドプラス	株式会社帝健	向陽エンジニアリング株式会社	ベッドの上で入浴企画株式会社	レデックス株式会社
				
大 福 東	大	大	大 東	大 福 東
「入浴手順」をイラストカードでわかりやすくする生活応援キット。	「らく」に移動や体位変換が出来るスライドシートと高い摩擦力を発揮するグローブ。	ボタン操作で簡単に角度調整ができるロック機構部品。	ベッドの上で寝たままでも移乗せずに、何時でも入浴できます。	障害児の認知機能をゲームで測定し、個別支援を充実させるソフト。

				
	東	大 福 東	東	東
水勾配など傾斜のある道でも片流れせず、軽い力で真っ直ぐ操作できる車いす。	入浴するだけで、身体を洗浄し、介護負担軽減と均一な清潔性を提供する。	既存ドア等に後付けでき無線リモコンで離れた場所から操作可能な自動開閉扉システム。	最軽量金属マグネシウム合金を採用した軽くて丈夫なストレッチャー型車椅子。	

出展団体及び機関

大阪出展

福岡出展

東京出展

I. その他

2人用車いす「助入」くん 有限会社米生物産	座位バランス装置(試作品) 秋田未来株式会社	スマート見張り隊 ムラテックシステム株式会社	手すり付きの高さ変更可能な 桧製の踏み台昇降運動器具 有限会社福源	セレブリオ (Challenged Welfare House) 積水ハウス株式会社 大阪南シャーマゾン支店
 東	 東	 大	 大	 大 福 東
災害時、介助者1人でも2人の同時搬送が可能。	座った状態で動的座位バランスが測定可能な装置。	センサーの組み合わせ次第で、快適、便利な環境を作り出せるシステム。	足腰強化、転倒予防、バランス改善、ふくらはぎとアキレス腱のストレッチも可能。	障がいがある方のグループホームやサービス事業所の建物を提供しています。

転がる速度可変式
2方向スロープ

八王子自助具工房フレンズ



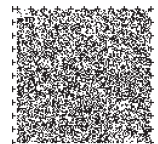
発達障がい児童の目の動きをボールの転がる速度を変化させ訓練する。

A. 平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業

企業名・団体名	住所	TEL	大阪出展	福岡出展	東京出展
株式会社今仙技術研究所	岐阜県各務原市テクノプラザ3-1-8	058-379-2756	-	-	●
株式会社金久保製作所	埼玉県さいたま市岩槻区大字掛7953-6	048-757-4675	●	-	●
株式会社コンピュータサイエンス研究所	福岡県北九州市八幡東区東田二丁目5-7	070-5532-6351	-	-	●
株式会社リパティソリューション	島根県松江市西嫁島1丁目2番7号	0852-61-3999	-	-	●
テクノツール株式会社	東京都稲城市東長沼2106-5 マスヤビル4階	042-370-6377	-	-	●
日進医療器株式会社	愛知県北名古屋市沖村権現35-2	0568-21-0635	●	●	●
株式会社エクセルシア	東京都世田谷区若林3-30-2	03-5431-7341	●	●	●
株式会社システムネットワーク	大阪府大阪市北区太融寺町2番18号	06-6364-0529	●	●	●
株式会社leitron	大阪府大阪市中央区本町1-4-8 エスリードビル本町11F	06-6125-0500	●	●	●
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団・福祉のまちづくり研究所	兵庫県神戸市西区曙町1070	078-925-9283	●	●	●
藤田医科大学	愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98	0562-93-2635	-	-	●
株式会社デジタリーフ	東京都江戸川区西葛西3-16-12 第2大生ビル3F	03-3680-0480	-	-	●

B. 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器/盲ろう者の日常生活支援機器

株式会社ソナール	京都府京都市下京区中堂寺栗田町93 京都リサーチパーク6号館302	075-315-5561	●	●	●
錦城護謨株式会社	大阪府八尾市跡部北の町1丁目4番25号	072-992-2328	●	●	●
有限会社 フィット	長野県諏訪郡下諏訪町富ヶ丘6750	0266-26-1400	-	-	●
株式会社 画像聴覚化研究所	東京都港区六本木4-2-20-203	03-5545-5565	●	●	●
株式会社 大和産業	大阪府堺市堺区中安井町3丁目4番11号	072-224-1238	●	-	-
株式会社QDレーザ	神奈川県川崎市川崎区南渡田町1-1京浜ビル1階	044-328-6808	-	-	●
株式会社SOBA プロジェクト	京都府京都市下京区中堂寺栗田町93 京都リサーチパーク4 号館4 階	075-323-6066	●	●	●
株式会社アイセック・ジャパン	沖縄県うるま市宇川崎468番地 いちゅい具志川じんぶん館1F	098-923-2893	-	●	●
株式会社エクシオテック	東京都大田区平和島4丁目1番23号	03-6404-2610	-	●	-
株式会社東京信友	東京都新宿区新宿1-14-6 新宿KMビル	03-3358-8000	-	-	●
有限会社テイクス	神奈川県横浜市栄区飯島町1579-1	045-890-6898	●	-	●
一般社団法人 日本語聴覚士協会	東京都新宿区新小川町6-29 アクロポリス東京9階	0553-26-4126	●	●	●
有限会社 大里化工	東京都墨田区墨田5-39-1	03-3611-7077	-	-	●



出展団体及び機関

C. 肢体不自由者の日常生活支援機器

企業名・団体名	住所	TEL	大阪出展	福岡出展	東京出展
SEST	神奈川県相模原市南区相模大野7-35-2-1804	090-2440-1701	—	—	●
ウチエ株式会社 福岡営業所	福岡県糸島市波多江駅北4-6-5	092-323-4331	—	●	—
株式会社 メディカル・タスクフォース	大阪府大阪市西区江之子島1-7-3 奥内阿波座駅前ビル702	06-6446-2100	●	—	●
株式会社アルパジャパン	大阪府東大阪市荒本2丁目18-25	06-6789-8551	●	●	—
株式会社キョウワアグメント	茨城県つくば市真潮569-10	029-838-0912	—	—	●
株式会社タイオーアクリス	京都府亀岡市大井町南金岐重見46番地	0771-22-8887	●	—	—
株式会社東郷製作所	愛知県愛知郡東郷町大字春木字蛭池一番地	0561-38-5469	●	●	●
ジュンコンサルタント	福岡県福岡市早良区百道浜4-2-1-1006	092-833-8808	—	●	—
フジホーム株式会社	東京都中央区新川2-12-15 ヒューリック八丁堀7F	03-3523-1631	●	—	●
マッスル株式会社	大阪府大阪市中央区今橋2-5-8 トレードピア淀屋橋6階	06-6229-9550	●	—	—
みえテクノエイドセンター	三重県津市一身田大古曾670-2	059-231-0155	●	—	—
三宅商事	福井県小浜市須縄2-1-4	090-7746-1674	●	—	—
株式会社 あかね福祉	福島県郡山市安積町荒井字雷神16-1	024-937-5022	—	—	●
株式会社 エーアンドエーシステム	東京都あきる野市秋川1-14-11	042-559-3550	—	—	●
株式会社 オムニクス	神奈川県横浜市港南区野庭町332-4-101	045-845-6095	—	—	●
株式会社 スカイ・テクノ	埼玉県川越市大字笠幡4876	049-231-4295	—	—	●
株式会社 邦友	宮城県仙台市宮城野区安養寺1-36-18	022-388-3233	—	—	●
株式会社JINRIKI	長野県上伊那郡箕輪町中箕輪9514-1	050-5835-1000	●	—	●
株式会社エナメディカル	神奈川県相模原市中央区淵野辺4-37-12ラティブビル2階	042-730-3705	—	—	●
株式会社オリイ研究所	東京都三鷹市下連雀3-3-50パークファミリア501	0422-29-9445	—	●	●
株式会社ジョイントフジ	大阪府大阪市東成区深江北3丁目17-3	06-6972-5041	●	—	—
株式会社テムザック	福岡県宗像市江口465番地	090-2673-0057	●	●	●
株式会社トマト	静岡県静岡市清水区渋川1-6-20	054-349-2180	●	—	●
株式会社ミツバ	群馬県桐生市広沢町1-2681	0277-54-5942	—	—	●
株式会社ミハマ	広島県東広島市志和町志和堀1153-91	082-401-2612	—	—	●
株式会社東京エンゼル本社	東京都足立区大谷田5-4-9	03-3606-7177	—	—	●
株式会社東京リハビリテーションサービス	東京都千代田区神田小川町1-8-8 OCT KANDA Building 6階	03-5577-5915	—	—	●
京 自助具館	京都府京都市下京区梅津町83-1 ひとまち交流館京都2階 市民活動総合センター-MB60	070-2662-3115	●	●	●
朝日産業株式会社	愛知県名古屋市中区熱田区四番1丁目11-22	052-684-6829	●	—	—
東海測定機	静岡県藤枝市高柳1557-5	054-668-9971	—	—	●
有限会社 ふれあいサポート	滋賀県長浜市口分田町528-21	0749-64-1114	●	—	—
有限会社 ルネセイコウ	大阪府八尾市弓削町南2-50-53	072-920-1020	●	—	—
アスカ株式会社	愛知県豊田市中根町大切50-1	0565-51-2755	—	—	●
株式会社 安川電機	埼玉県入間市上藤沢480番地	04-2962-5823	—	●	—

D. 難病患者等の日常生活支援機器/障害児の生活を豊かにする支援機器

ANGEL KIDS WEAR	東京都足立区大谷田5-4-9 東京エンゼル本社	03-3606-7177	—	—	●
サークルniconico	東京都品川区北品川1-9-7 トップルーム品川1015号	050-5275-2598	—	—	●
ヘルメット潜水株式会社	大分県国東市安岐町瀬戸1300番地	0978-67-2251	—	●	—
有限会社ホームケア渡部建築	鳥取県米子市大崎290-1	0859-28-8487	●	—	●
株式会社アム	石川県河北郡津幡町竹橋西179-1	076-288-8655	—	—	●
株式会社ビューティフルワンズ	東京都文京区小日向1-12-11	080-1712-9921	—	—	●

行政・障害団体・ 開発支援団体等	企業名・団体名	住所	TEL	大阪	福岡	東京
	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室	東京都千代田区霞が関1-2-2	03-5253-1111	●	●	●
	国立障害者リハビリテーションセンター研究所	埼玉県所沢市並木4-1	04-2995-3100	●	●	●
	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)	神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー20F	044-520-5175	●	●	●
	国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)	東京都小金井市貫井北町4-2-1	042-327-7429	●	●	●
	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 中央障害者雇用情報センター	千葉県千葉市美浜区若葉3丁目1番3号(障害者職業総合センター内)	043-297-9514	●	●	●
	NPO法人日本失語症協議会	東京都杉並区荻窪5-14-5-405	03-5335-9756	●	●	●
	社会福祉法人全国盲ろう者協会	東京都新宿区早稲田町67番 早稲田クローバービル3階	03-5287-1140	—	—	●

E. 障害者のコミュニケーション・レクリエーション活動を支援する機器

企業名・団体名	住所	TEL	大阪出展	福岡出展	東京出展
RoiS 株式会社	長野県安曇野市穂高牧2228	090-4362-1744	●	—	—
パナソニック エイジフリー株式会社	大阪府門真市大字門真1048	06-6908-8122	●	●	●
株式会社 E&I	福岡県福岡市博多区博多駅前3-16-10 興産ビル4F	092-409-1605	—	●	—
株式会社 日立ケーイーシステムズ	千葉県習志野市東習志野7-1-1	047-472-6638	●	●	●
株式会社アイエスゲート	東京都墨田区押上2丁目20番2-401号	03-5879-4527	—	—	●
株式会社エンファシス	東京都豊島区西池袋5-8-7 深野ビル	03-6410-7571	—	—	●
株式会社カワベコーポレーション	東京都千代田区神田錦町1-13宝栄錦町ビル	050-7538-3841	●	●	●
株式会社ヒューマンテクノシステム東京	東京都中央区日本橋人形町1-6-10 ユニコム人形町ビル 2階	03-5847-1206	—	●	●
株式会社ユープラス	東京都葛飾区立石7-7-9	03-5654-6763	—	—	●
株式会社ラッキーソフト	神奈川県平塚市宝町11-1平塚フジビル	0463-23-7830	—	—	●
手編みサロンあみ〜ちえ	埼玉県さいたま市見沼区蓮沼496-9	048-685-1235	—	—	●
日匠総業株式会社	神奈川県横浜市港北区樽町4-8-24	045-543-1279	●	●	●
有限会社オフィス結アジヤ	神奈川県藤沢市村岡東3-12-10	0466-21-7448	●	●	●
有限会社安久工機	東京都大田区下丸子2-25-4	03-3758-3727	—	—	●

F. ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器/脳科学の成果を応用した支援機器

FREE Bionics Japan 株式会社	東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館7F	03-6457-2789	●	●	●
株式会社トレイル	兵庫県神戸市中央区花隈町3-18	078-382-3637	—	—	●
ネクストシステムラボラトリーズ株式会社	大阪府大阪市中央区徳井町1-2-9 ZERO ONE谷町302	06-4791-2002	●	—	—
有限会社ヤマナカ	広島県三次市十日市東1-3-1	090-3178-5356	●	●	●
株式会社 エルエービー	神奈川県厚木市妻田西1-19-22	046-204-9343	—	—	●
有限会社フロンティア	大阪府堺市堺区浅香山町1丁目3番26号	072-225-1335	●	—	—

G. 障害者の就労活動を支援する機器

株式会社マイクロブレイン	埼玉県さいたま市見沼区大和田町1-958-1 KCC3ビル3階	048-687-9841	●	●	●
--------------	---------------------------------	--------------	---	---	---

H. 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器

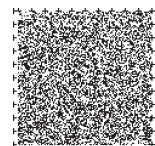
アドプラス	大阪府東大阪市花園西町2-6-14	072-965-4608	●	●	●
株式会社帝健	大阪府大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト31階	06-6233-3565	●	—	—
向陽エンジニアリング株式会社	大阪府堺市北区長曾根町130-42 S-Cube123	072-257-8000	●	—	—
ベッドの上で入浴企画株式会社	東京都稲城市向陽台1-5-3	042-379-3533	●	—	●
レデックス株式会社	東京都町田市南つくし野1-3-6	090-1059-3790	●	●	●
株式会社 カラーズ	東京都大田区大森西6-2-2 STビル1階	03-5767-5215	—	—	●
株式会社 金星	東京都千代田区四番町4-8 野村ビル3F	03-3511-8441	●	●	●
株式会社エルイーエス	神奈川県横浜市神奈川区菅田町1500-4	045-534-7076	—	—	●
株式会社マクルウ	静岡県富士宮市山本286-1	0544-24-5900	—	—	●
有限会社米生物産	長野県千曲市大字千本柳1136番地1	026-276-2555	—	—	●

I. その他

秋田未来株式会社	秋田県にかほ市院内字カナヤ16-2	0184-74-3090	—	—	●
ムラテックシステム株式会社	大阪府大阪市西区新町1-13-3 四ツ橋KFビル12階	06-6539-6111	●	—	—
有限会社福源	愛知県名古屋守山区中志段味南原2686-367	052-736-9388	●	—	—
積水ハウス株式会社 大阪南シャーマン支店	大阪府大阪市浪速区湊町1丁目2番3号 マルト難波ビル15階	06-6648-6561	●	●	●
八王子自助具工房フレンズ	東京都八王子市元横山町1-29-3 八王子市ボランティアセンター内	090-6554-0515	—	—	●

企業名・団体名	住所	TEL	大阪	福岡	東京
(一社) 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市ヶ谷台1階	03-3225-5600	●	●	●
公益社団法人全国脊髄損傷者連合会	東京都江戸川区南葛西5-13-6	03-5605-0871	●	●	●
ポリオの会	東京都台東区三ノ輪1-6-5-602	03-3872-7359	●	●	●
ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会	大阪府岸和田市尾生町2979-1	072-444-8814	●	●	●
社会福祉法人 日本盲人会連合	東京都新宿区西早稲田2-18-2(日本盲人福祉センター内)	03-3200-0011	●	●	●
一般社団法人 日本ALS協会	千代田区九段北1-15-15瑞鳥ビル1階	03-3234-9155	●	—	●
社会福祉法人日本身体障害者団体連合会	東京都豊島区目白3-4-3 ディアングビル4階	03-3565-3399	●	●	●

行政・障害団体・
開発支援団体等



シーズ・ニーズマッチング交流会2018

～作る人と使う人の交流会～

「シーズ・ニーズマッチング交流会2018」事務局 へて【お申込み方法】下記のいずれかの方法にて本参加登録票をご送付ください。

【参加登録票ダウンロード先URL】 <http://www.techno-aids.or.jp>

【電子メール】 shogai-kiki2@techno-aids.or.jp **【FAX送信】** 03-5296-8941

※上記によるお申込みが困難な方はお電話番号にてお問い合わせください。

お申込みの際にいただきましたご来場予定者様の情報(申込情報)は、今後の交流会等のご案内のために利用させていただくことがあります。また、申込み情報は、厚生労働省及び主催者、運営事務局に情報提供いたします。

希望会場 ※複数会場申込可能	<input type="checkbox"/> 大阪会場 平成30年12月18日(火)・19日(水)
	<input type="checkbox"/> 福岡会場 平成31年1月9日(水)・10日(木)
	<input type="checkbox"/> 東京会場 平成31年2月13日(水)・14日(木)

1. 代表者情報

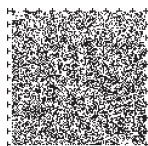
フリガナ 参加代表者		参加者 属性	① 障害当事者	② 当事者家族
フリガナ 所属	※個人の場合は不要です		③ 開発企業	④ 研究機関
フリガナ ご住所	〒	⑤ 障害団体	⑥ 行政	
ご連絡先		⑦ その他		

2. 同行者情報 ※同行者は4名まで記入可能です。住所及び所属は代表者と異なる場合のみご記入ください。
参加者属性の番号は「代表者情報」記載の内容を参考ください。

同行者①	
フリガナ ご住所	
フリガナ 所属(個人は不要)	
同行者②	
フリガナ ご住所	
フリガナ 所属(個人は不要)	
同行者③	
フリガナ ご住所	
フリガナ 所属(個人は不要)	
同行者④	
フリガナ ご住所	
フリガナ 所属(個人は不要)	

3. その他 ※点字プログラム、手話通訳、要約筆記などのサポートが必要な方は備考欄にご記入ください。
交流会当日はサポートデスクにお申し出ください。ご利用にあたっては人数に限りがありますため、お待ちいただくことがあります。

同行者①	
-------------	--



ご来場に関するお問い合わせ先 受付時間：平日9時～12時、13時～17時

シーズ・ニーズマッチング交流会2018 運営事務局

(担当:MS&ADインターリスク総研株式会社 田中・大瀧)

メールアドレス: shogai-kiki2@techno-aids.or.jp TEL:03-5296-8976 FAX:03-5296-8941

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズ・マツチング 交流会2018

～作る人と使う人の交流会～

入場無料
入退場自由

大阪会場

開催日 / 2018年12月18日(火)～19日(水)

時間 / 10:00～16:00

会場 / OMM(大阪マーチャングデザインズマート)2階 Aホール

同時開催

特別企画① シンポジウム

福祉機器開発の最前線と現状の課題

2018年12月18日(火) 13:30～15:30 (120分) 参加無料

ロボットやICTなど先端技術を活用した支援機器開発の現状を把握するとともに、実用化に向けた課題を共有化し、課題解決に向けた方策についての共通理解を深めることを目的として開催いたします。

司会 公益財団法人テクノエイド協会 企画部

13:30 開会

- 開発企業等によるプレゼンテーション(各20分)
- 新電蔵手 社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団「福祉のまちづくり研究所」
- FREE Walk FREE Bionics Japan株式会社
- UDトロー RoIS株式会社
- 画像認識化装置 株式会社画像認識化研究所
- 14:50 パネルディスカッション
- 15:30 閉会

特別企画② 平成30年度 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

優秀賞プレゼンテーション

2018年12月19日(水) 13:30～14:20 (50分) 参加無料

障害者ニーズを的確に踏まえ支援機器を開発し製品化した企業や研究機関、さらには支援機器を効果的に導入し活用している福祉事業所等を全国各地から募り、良本となる好事例を表彰する事業として実施しております。

本交流会3会場にて、優秀賞として選ばれた好事例によるプレゼンテーションを実施します。

13:30 開会

優秀賞受賞者によるプレゼンテーション(各10分)

- 仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
- パナソニックエイジフリー株式会社
- 株式会社日立エイジーシステムズ
- 社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちょう園
- 株式会社マイクロライフ&オート

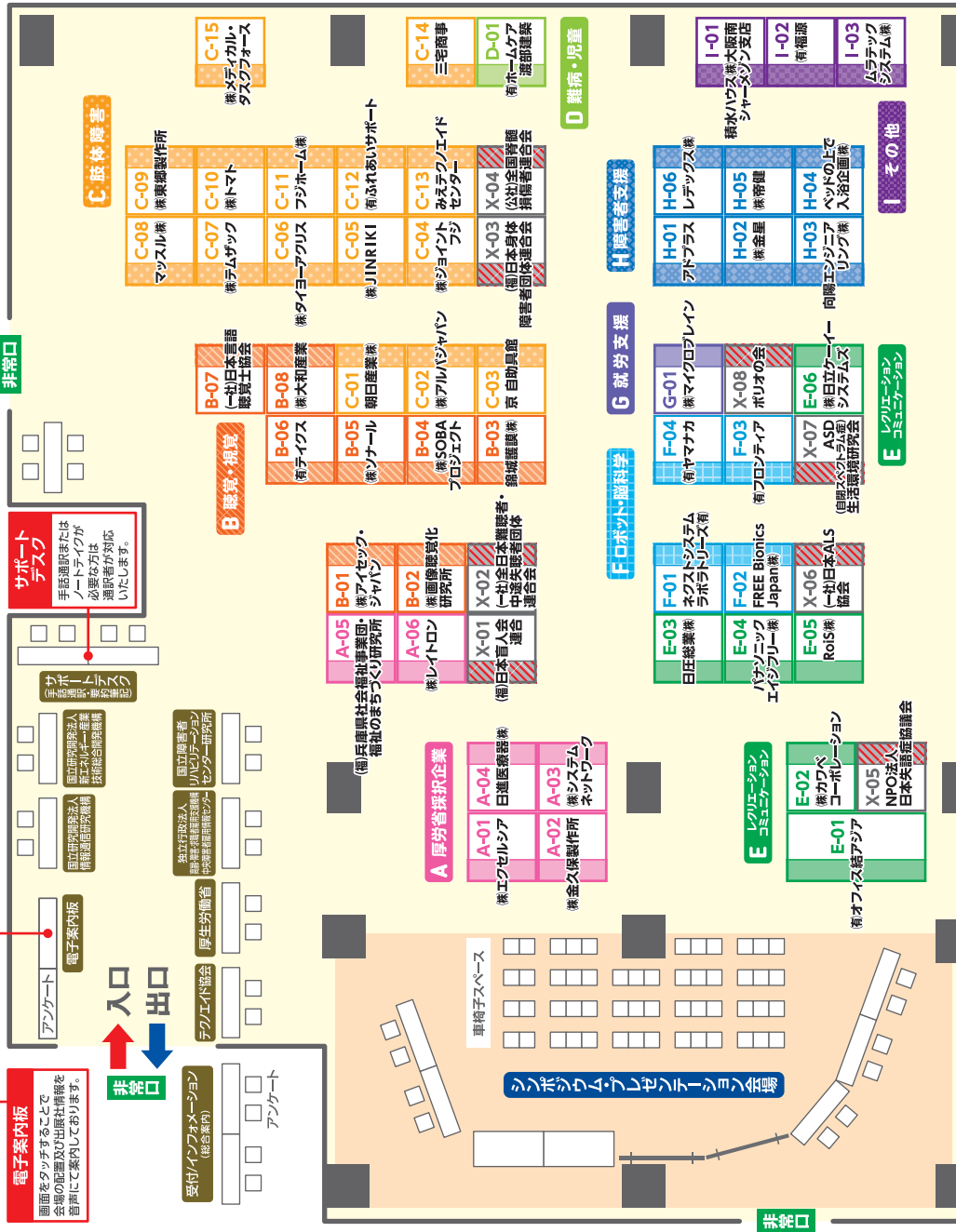
14:20 閉会

※平日とも事前申込は不要
イス席、車いすスペース、難聴者用ヒアリンググループ(聴覚ループ)対応席をご用意いたしますが、満席の場合はご容赦ください。
また会場には車いす及び手話通訳の情報提供を行います。



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids (ATA)

案内図



OMM (大阪マーチャングデザインズマート) 2階 Aホール 住所: 大阪府中央区大手前1-7-31

分野別カテゴリ

- A** 平成30年度障害者自立支援機器等 開発促進事業 採択企業
- B** 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器 / 盲ろう者の日常生活支援機器
- C** 肢体不自由者の日常生活支援機器 / 難病患者等の日常生活支援機器 / 障害児の生活を豊かにする支援機器
- D** その他
- E** 障害者のコミュニケーション・レクリエーション活動を支援する機器
- F** ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器 / 脳科学の成果を応用した支援機器
- G** 障害者の就労活動を支援する機器
- H** 障害者の支援をより行いやすい支援機器
- I** その他

身体障害者用トイレ

マーチャングデザインズマートビル2階、マートビル2階に設置されています。

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズ・マツチング 交流会2018 ~作る人と使う人の交流会~

入場無料
入退場自由

福岡会場
開催日 / 2019年1月9日(水) ~ 10日(木)
時間 / 10:00 ~ 16:00
会場 / FFB HALL (福岡ファッションビル) 8階 Aホール
同時開催

特別企画① シンポジウム 福祉機器開発の最前線と現状の課題

2019年1月9日(水) 13:30~15:30 (120分) 参加無料

ロボットやICTなど先端技術を活用した支援機器開発の現状を把握するとともに、実用化に向けた課題を共有化し、課題解決に向けた方策についての共通理解を深めることを目的として開催いたします。

司会 公益財団法人テクノエイド協会 企画部

- 13:30 開会
- 開発企業等によるプレゼンテーション(各20分)
- バリアフリー仮設トイレ 株式会社エクセルシア
- 歩行アシスト装置 ReWalk 株式会社安川電機
- 指伝話コミュニケーションパック 有限会社オオフォイス結アジア
- 遠隔文字翻訳(e-ミミ) 株式会社アイセック・ジャパン
- 14:50 パネルディスカッション
- 15:30 閉会

特別企画② 平成30年度 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 優秀賞プレゼンテーション

2019年1月10日(木) 13:30~14:20 (50分) 参加無料

障害者ニーズを的確に踏まえて支援機器を開発し製品化した企業や研究機関、さらには支援機器を効果的に導入し活用している福祉事業所等を全国各地から募り、良本となる好事例を輩出する事業として実施しております。

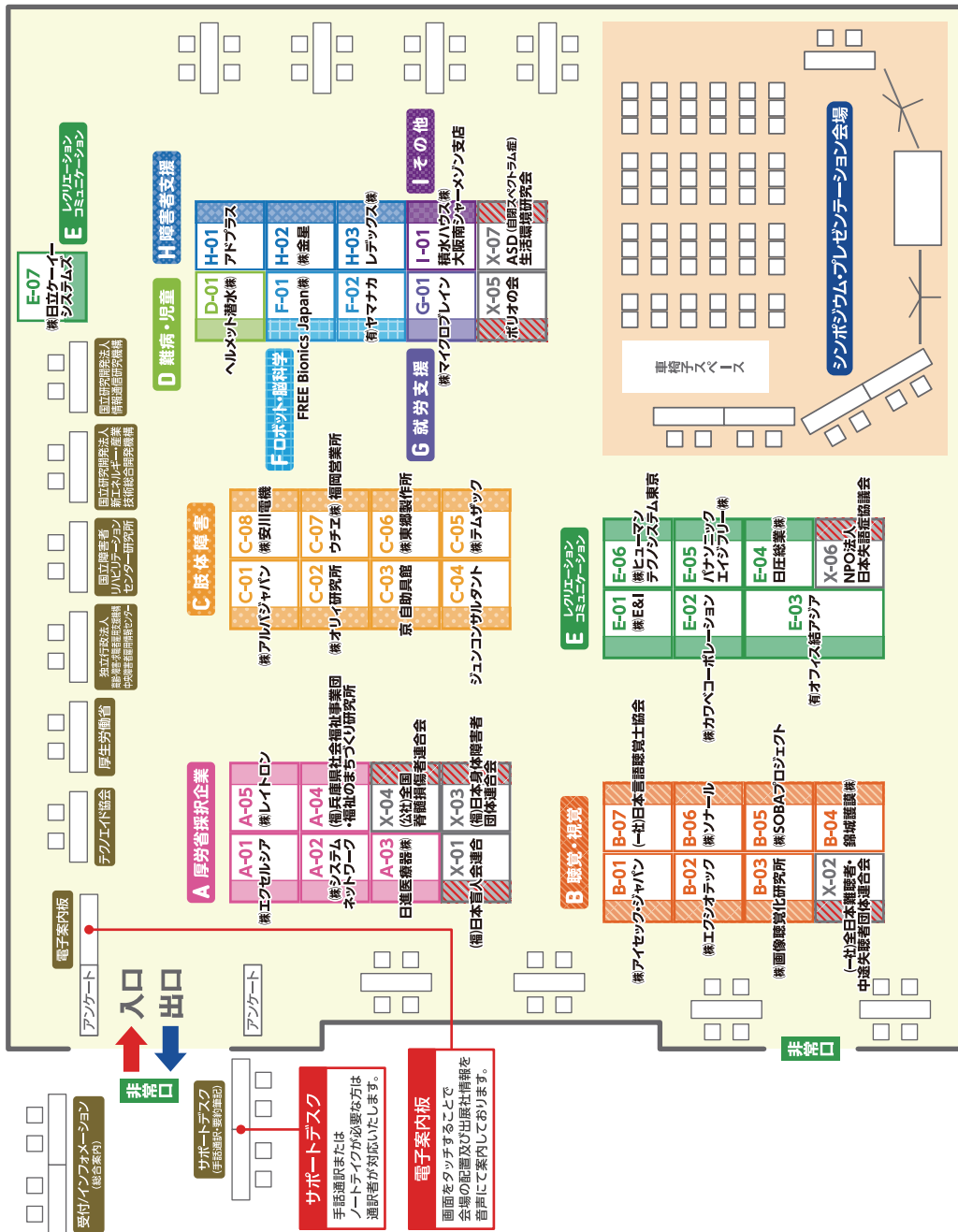
- 13:30 開会
- 優秀賞受賞者によるプレゼンテーション(各10分)
- 仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
- パナソニック エイジフリー株式会社
- 株式会社日立立エーションシステムズ
- 社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちよう園
- 株式会社三クニライフ&オート
- 14:20 閉会

※同日とも事前申込は不要
イブ席、車いすスペース、聴覚障害者用イングリッシュ(聴覚/聴覚)対応用を希望いたしますが、満席の場合はご容赦ください。
また会場には聴覚障害者用イングリッシュ(聴覚/聴覚)対応用を希望いたします。



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids (ATA)

案内図



福岡ファッションビル (FFBホール) 8階 Aホール 住所:福岡市博多区博多駅前2-10-19

分野別カテゴリ

- A** 平成30年度障害者自立支援機器等 開発促進事業 採択企業
- B** 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器 / 盲ろう者の日常生活支援機器
- C** 肢体不自由者の日常生活支援機器 / 難病患者等の日常生活支援機器 / 障害児の生活を豊かにする支援機器
- D** その他
- E** 障害者のコミュニケーション・レクリエーション活動を支援する機器
- F** ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器 / 脳科学の成果を応用した支援機器
- G** 障害者の就労活動を支援する機器
- H** 障害者の支援をより行いやすい支援機器
- I** その他

身体障害者用
トイレ
7階に設置
されています。

<Bホール:一般・出展社休憩所 > ご気分悪くされた方の為にベッドをご用意しております。関係者もしくはスタッフまでお声かけください。

障害者自立支援機器

入場無料

入退場自由

シニアーズ・ニーズ・マツチング 交流会2018

～作る人と使う人の交流会～

東京会場

同時開催

- 特別企画 ① シンポジウム
- 特別企画 ② 障害者自立支援機器等開発促進事業
[成果報告会]
- 特別企画 ③ 障害者自立支援機器
導入好事例報告会
[優秀賞プレゼンテーション]

開催日 / 2019年2月13日(水) ~ 14日(木)

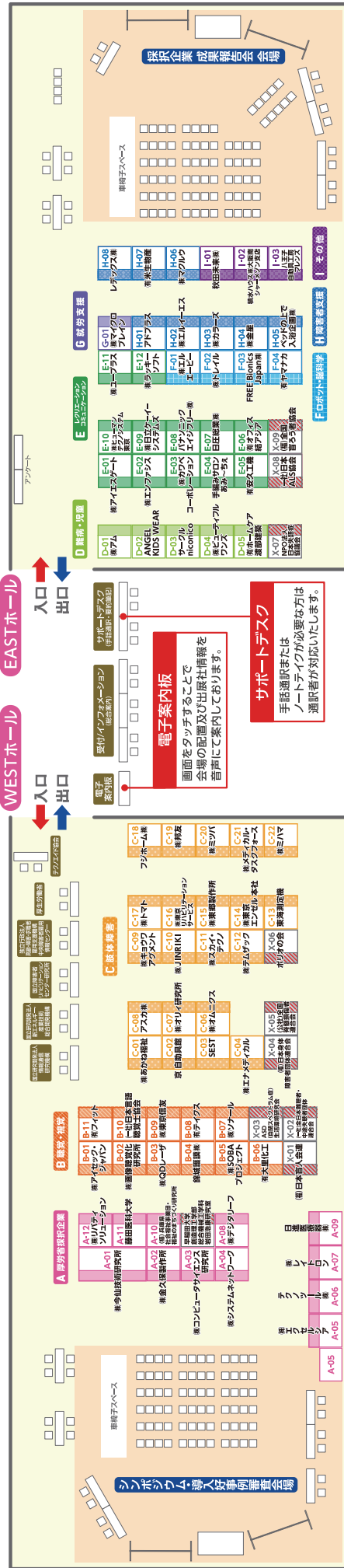
時間 / 10:00 ~ 16:00

会場 / TOC有明 4階 コンベンションホール

- 発表順、発表時刻は予告なく変更になる場合がございますので、予めご了承ください。
- 入退場は自由とし、事前申込みの必要はありません。イス席のみご利用いたしますが、満席の場合はご了承ください。
- パンコによる要約筆記・手話通訳を準備いたします。

A 厚労省採択企業		C 既体障害		H 障害者支援	
A-01	株式会社今川技術研究所	C-01	株式会社ニコン	H-01	アドテック
A-02	株式会社金久保製作所	C-02	株式会社ホームケア選部産業	H-02	株式会社エーイーエス
A-03	株式会社コンピュータサイエンス研究所	C-03	SEST	H-03	株式会社カラス
A-04	株式会社システムネットワーク	C-04	株式会社アイエスケート	H-04	株式会社金屋
A-05	株式会社エセルシア	C-05	株式会社エンファジス	H-05	ペッドの上で、浴企企画株式会社
A-06	株式会社エセルシア	C-06	株式会社カワバコーポレーション	H-06	株式会社マフル
A-07	株式会社レイトロン	C-07	アスカ株式会社	H-07	有限会社米生物流産
A-08	株式会社デジタリーフ	C-08	株式会社キョウワアグメント	H-08	レディックス株式会社
A-09	日通医療機器株式会社	C-09	株式会社エムエスエス	I-01	その他
A-10	北越建設(株)建設部・建設部	C-10	株式会社JINRIK	I-02	秋田米米株式会社
A-11	慶応義塾大学	C-11	株式会社JINRIK	I-03	株式会社大野興業(株)
A-12	株式会社バリエーション	C-12	株式会社エムエスエス		
B-01	株式会社アイゼック・ジャパン	C-13	東洋測定機		
B-02	株式会社画像解析研究所	C-14	株式会社東京エゼル 本社		
B-03	株式会社画像解析研究所	C-15	株式会社東京エゼル 本社		
B-04	株式会社QDLーザ	C-16	株式会社東京エゼル 本社		
B-05	株式会社SOSプロジェクト	C-17	株式会社東京エゼル 本社		
B-06	株式会社SOSプロジェクト	C-18	株式会社東京エゼル 本社		
B-07	株式会社SOSプロジェクト	C-19	株式会社東京エゼル 本社		
B-08	株式会社SOSプロジェクト	C-20	株式会社東京エゼル 本社		
B-09	株式会社SOSプロジェクト	C-21	株式会社東京エゼル 本社		
B-10	株式会社SOSプロジェクト	C-22	株式会社東京エゼル 本社		
B-11	株式会社SOSプロジェクト	D-01	株式会社ニコン		
B-12	株式会社SOSプロジェクト	D-02	株式会社ニコン		

案内図



TOC有明 4階 コンベンションホール 住所: 東京都江東区有明3-5-7

分野別カテゴリ

- A** 平成30年度障害者自立支援機器等 開発促進事業 採択企業
- B** 聴覚障害者・視覚障害者の日常生活支援機器 / 盲ろう者の日常生活支援機器
- C** 肢体不自由者の日常生活支援機器
- D** 難病患者等の日常生活支援機器 / 障害児の生活を豊かにする支援機器
- E** 障害者のコミュニケーション・レクリエーション活動を支援する機器
- F** ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器 / 脳科学の成果を応用した支援機器
- G** 障害者の就労活動を支援する機器
- H** 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器
- I** その他

身体障害者用 トイレ

WESTホール側 トイレに設置されています。

<会議室1: 一般・出張社休想所>
ご気分を悪くされた方の為にベッドをご用意しております。
関係者もしくはスタッフまでお声かけください。



福祉機器開発の最前線と現状の課題

2019年2月13日(水) 13:30~15:30 (120分) WESTホール奥 特別企画会場

ロボットやICTなど先端技術を活用した支援機器開発の現状を把握するとともに、実用化に向けた課題を共有化し、課題解決に向けた方策についての共通理解を深めることを目的として開催いたします。

司会 公益財団法人テクノエイド協会 企画部

- 13:30 開会
 開発企業等によるプレゼンテーション(各20分)
 ロボット電動車椅子 パナニック株式会社
 WPAL (下肢麻痺者の歩行補助ロボット) アスカ株式会社
 視線で操作するスイッチ -アイスイッチ- 株式会社エンフアシス
 OTON GLASS 株式会社オトングラス
 14:50 パネルディスカッション
 15:30 閉会

特別企画 ③ 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

2019年2月14日(木) 13:00~15:00 (120分) WESTホール奥 特別企画会場

障害者ニーズを的確に踏まえて支援機器を開発し製品化した企業や研究機関、さらには支援機器を効果的に導入し活用している福祉事業所等を全国各地から募り、見本となる好事例を表彰する事業として実施しております。本交流会3会場にて、優秀賞として選ばれた好事例によるプレゼンテーションを実施します。

- 13:00 開会
 優秀賞受賞者によるプレゼンテーション (各10分)
 仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター
 パナニック エイジフリー株式会社
 株式会社日立ケーイーシステムズ
 社会福祉法人 幸生会 障害者支援施設 はくちよう園
 株式会社ミクニライフ&オート
 14:20 最優秀賞の決定
 14:30 表彰式

※同日とも事前申込は不要
 イス版、車いすスペース、難読書用ヒアリングループ(磁気ループ)対応席をご用意いたしますが、満席の場合はご容赦ください。
 また会場には要約筆記及び手話通訳の情報保障を行います。

成果報告会

2019年2月14日(木) 10:30~14:20 (230分) EASTホール奥 特別企画会場

メーカーが小さく事業化や実用的製品化が進まない障害者自立支援機器について、企業等が障害当事者と連携して開発する取組みに助成を行い、新たな企業の参入を促し、各企業が適切な価格で障害者が使いやすい機器を製品化し、普及を図るものです。
 本交流会では、採択事業者による成果報告会を実施し、機器開発の進捗状況などを発表していただきます。

報告時間	分野	開発テーマ名	企業名
① 10:30~10:40	肢体不自由者の日常生活支援機器	肢体不自由者の排泄をサポートする支援機器の開発	(株)リバティソリューション
② 10:45~10:55	視覚障害者の日常生活支援機器	義足装着者の歩行環境を感知し、最適な速高に自動調整してくれる義足部「オートセーフティヒール」の開発	(株)金久保製作所
③ 11:00~11:10	視覚障害者の日常生活支援機器	視覚障害者向け音声認識リモコンBOXの開発	(株)レイトロン
④ 11:15~11:25	障害者の就労支援機器	日常生活場面に特化した高次脳機能障害者訓練・評価用システム開発	(株)システムネットワーク
⑤ 11:30~11:40	障害者のコミュニケーションを支援する機器	ALS、脳梗塞患者等肢体不自由者に向けたiPad電子文字盤の開発	(株)デジタルーフ
⑥ 11:45~11:55	障害者のレクリエーション活動を支援する機器	障害者の能動的な運動・活動を促すコンピュータグラフィックを利用したレクリエーション型エクササイズの開発	藤田医科大学
⑦ 12:55~13:05		姿勢保持機能付き屋内用ランコノの開発	日進医療器(株)
⑧ 13:10~13:20	障害児の生活を豊かにする支援機器	ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発	(株)エクセルシア
⑨ 13:25~13:35		低年齢児向けの移動支援機器、および機器普及を促すシミュレーション開発	(株)今山技術研究所
⑩ 13:40~13:50	ロボット技術を活用した障害者向け支援機器	物体の形状に合わせて把持することができ、多指機構を有し、軽量で極めて装飾性に優れた量産型筋電義手	(社)福)兵庫県社会福祉事業団
⑪ 13:55~14:05		ユーザーニーズによる生活支援ロボットアームの改良	テクノツール(株)
⑫ 14:10~14:20	障害者の支援をより行いやすくなる支援機器	視覚障害者のIoT化と情報共有クラウドによる移動支援システムの開発	(株)コンピュータサイエンス研究所

みんなで考えよう！障害者自立支援機器
「シーズ・ニーズマッチング交流会 2018」
～作る人と使う人の交流会～
出展者募集要項

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ（作る人）・ニーズ（使う人）のマッチング交流会を開催いたします。

交流会では、開発や改良を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、さらにはこの分野への新規参入の促進を図ります。

< 大阪開催 >

- 開催日 / 2018年12月18日（火）～19日（水）
- 時間 / 10:00-16:00
- 会場 / 大阪マーチャンダイズマート Aホール

< 福岡開催 >

- 開催日 / 2019年1月9日（水）～10日（木）
- 時間 / 10:00-16:00
- 会場 / FFB HALL 福岡ファッションビル 8階Aホール

< 東京開催 >

- 開催日 / 2019年2月13日（水）～14日（木）
- 時間 / 10:00-16:00
- 会場 / TOC有明4F コンベンションホール

※出展料金は「無料」
（但し、搬入出等に伴う費用は自己負担となります）

* 目次

* 本事業の概要	2
* 交流会 目的と概要	3
* 出展申込み	4
* 出展要件	5
* 出展小間 仕様・設備	6
* 開催までのスケジュール	7
* 大阪会場 大阪マーチャンダイズマート	8
* 福岡会場 FFB ファッションビル	10
* 東京会場 TOC 有明	12
* 注意事項	14
* 参加予定の団体一覧（予定）	16

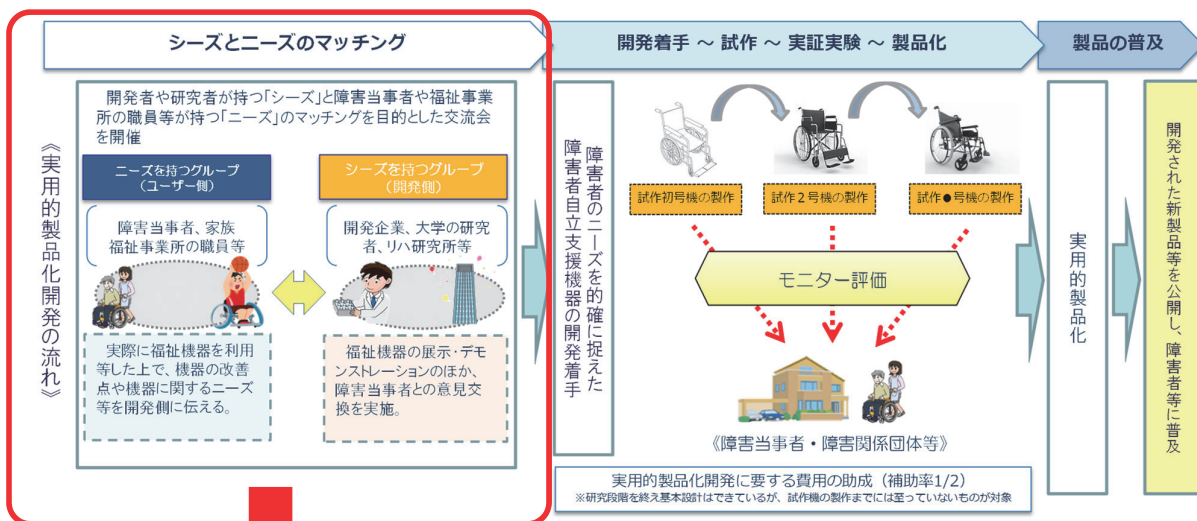
* 本事業の概要

障害者自立支援機器等開発促進事業の目的

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠であります。障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化（ソフトウェアを開発する場合を含む。以下同じ。））が進んでいない状況にあります。

このことから、本事業は、マーケットが小さく事業化が困難であること、あるいは技術開発は終了しているが経費的な問題からモニター評価（被験者による評価試験）が行えないといった理由から、実用的製品化が進まない機器について、障害当事者のモニター評価等を義務付けた実証実験等を行うことで、障害当事者にとって使いやすく適切な価格で販売される機器を、企業が障害当事者と連携して開発する取組みに対して助成を行うことによって、障害者の自立や社会参加の促進に資することを目的とします。

障害者自立支援機器等開発促進事業の概要



シーズ・ニーズマッチング交流会 2018



* 交流会 目的と概要

1. 交流会の目的

障害者・高齢者福祉に係る事業の実施にあたりましては、日頃より、格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当協会では、2014年度から続く「**シーズ・ニーズマッチング交流会(以下、本交流会)**」を今年度も開催する運びとなりました。

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と開発企業、大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。

機器開発を取り進める皆様においては、「機器を使う側」の方々から日常生活上の課題や機器に対する要望を直接聞くことができる貴重な機会となりますので、是非、本交流会へのご出展をご検討いただきますようお願い申し上げます。(希望企業が多数の場合には、出展要件を満たしている申請者の中から全体のバランスを勘案し、最終的には主催者にて決定いたします。)

なお、本交流会への参加を希望するにあたって、障害者自立支援機器に係るシーズとニーズのマッチングを推進するため、別紙の「**シーズ・ニーズマッチング参加目標シート**」を予めご提出ください。

2. 開催概要

イベント名称：障害者自立支援機器「**シーズ・ニーズマッチング交流会 2018**」

開催日程・場所：<大阪開催>

- 開催日 / 2018年12月18日(火)～19日(水) 10:00-16:00
- 会場 / 大阪マーチャンダイズマート Aホール

<福岡開催>

- 開催日 / 2019年1月9日(水)～10日(木) 10:00-16:00
- 会場 / FFB HALL 福岡ファッションビル 8階 Aホール

<東京開催>

- 開催日 / 2019年2月13日(水)～14日(木) 10:00-16:00
- 会場 / TOC有明4F コンベンションホール

- 内容：(1) 開発中機器の展示、デモンストレーション
(2) 来場者や他出展者との交流
(3) 障害者自立支援機器導入好事例プレゼンテーション及び一般投票
(4) シンポジウム(大阪・福岡)/ 開発促進事業の成果報告(東京)

出展料：「無料」(但し、搬入出に係る費用は自己負担です)

来場予定：障害当事者/障害者家族/障害施設職員/障害団体/開発企業/産業振興組織
大学関係者/研究者(研究機関)/行政/その他自立支援機器に興味のある方

主催：公益財団法人テクノエイド協会

* 出展申込み

1. 申込み方法

出展を希望される方は、以下のいずれかの方法でお申込みください。
(申込み先は以下のとおり)

●FAX または電子メール申込み

※出展数には限りを設けておりますので、出展要件を満たしている申請者の中から、全体のバランスを勘案し、最終的には主催者にて決定いたします。

< 出展申込みページ・申込み書掲載先 >

<http://www.techno-aids.or.jp>

< 申込み先 >

シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 運営事務局

メールアドレス：shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

TEL：03-5296-8976

FAX：03-5296-8941

担当：MS&AD インターリスク総研 田中・大瀧(おおたき)

2. 申込み受付期間

【全開催共通】

平成30年9月14日(金) 17:00まで

※締め切りを過ぎた後の申込みは受付できません

* 出展要件

1. 出展対象者

障害者向けの支援機器を開発中の企業等で、かつ試作器を出展できる企業等
障害当事者等と交流を深め、良質な支援機器の開発・改良を目指している企業等

2. 出展製品の条件

- ①開発、改良を目的とした製品であること
- ②障害当事者等のニーズをくみ取ったうえで改良を行うことを目的とした製品であること
- ③障害者自立支援機器に活用できる要素技術であること

※出展の申請をせず、当日機器を持ち込みすることはできません。
※本交流会は販売促進を目的としたものではありません。
そのため、会場で機器を販売する行為は禁止です。

3. 公募出展（予定）数

大阪会場：40社程度 / 福岡会場：40社程度 / 東京会場：60社程度

※上記出展数を超える場合等には、お断りする場合がございます

※選考結果は事務局から通知（郵送・メール）にてお知らせいたします

4. 出展料金

無料（但し、宿泊費、交通費、搬入出等に伴う費用、会場駐車場料は自己負担）

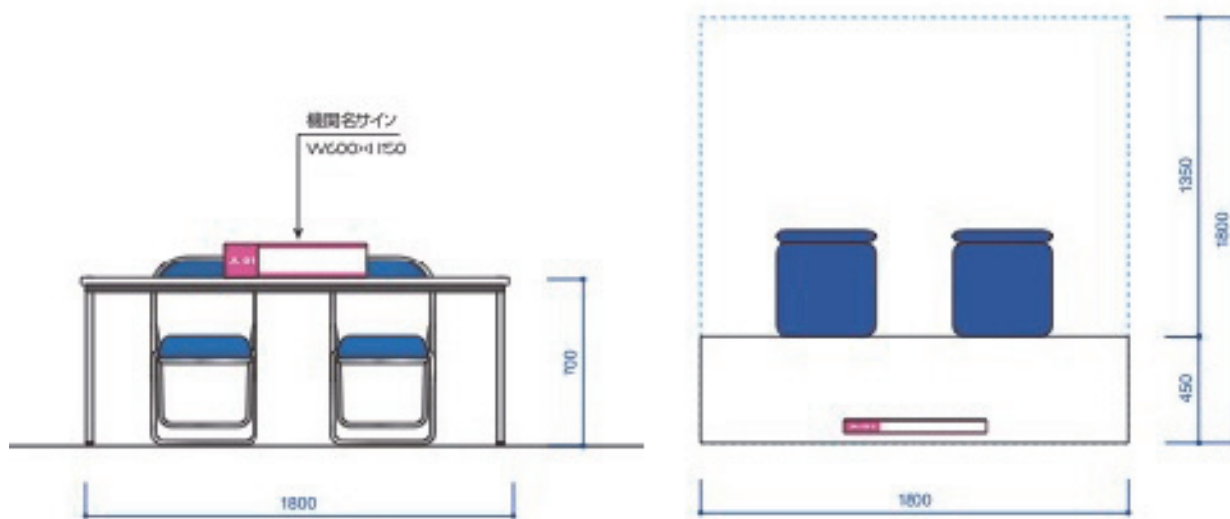
* 出展小間 仕様・設備

1. 出展小間イメージ

下図の備品は基本設備となります。背面に壁やバックパネルのご用意はありません。

立面図

平面図



2. 仕様・設備

1. 小間仕様詳細

展示スペース：1800mm×1800mm

2. 基本設備

テーブル 1 台 (W1800mm×D450mm×H700mm)

椅子 2 脚

コンセント 2 口 (電気容量:300W)

機関名サイン (卓上用)

3. 追加備品 (事前申込)

○ テーブル/椅子/コンセントの必要数を事前にお申し付けください。

○ その他装飾用備品(スクリーン、プロジェクタ、カタログスタンド、電源タップ、ポスター等)は、展示装飾の公平性の観点から、事務局側ではご用意いたしません。お手持ちの中でご対応をお願い致します。

なお、基本設備にはバックパネルのご用意はありません。装飾備品等をご持参される場合は、自立できるようご準備ください。

○ 電源容量：300W 以上をご希望の場合、事前にご相談ください。

*開催までのスケジュール

< 全体進行 >

参加申込書ご提出	9月14日(金)	参加目標シート含む
出展者決定	9月27日(木)	
出展可否通知	9月28日(金)以降、順次	
展示内容等の調整	10月1日(月)以降、順次	
出展レイアウトの確定	10月15日(月)	

< 大阪開催 >

搬入・設営	12月17日(月)	時間：14:00～17:00
1日目	12月18日(火)	時間：10:00～16:00
2日目	12月19日(水)	時間：10:00～16:00
撤去・搬出	12月19日(水)	時間：16:00～18:00

< 福岡開催 >

搬入・設営	1月8日(火)	時間：14:00～17:00
1日目	1月9日(水)	時間：10:00～16:00
2日目	1月10日(木)	時間：10:00～16:00
撤去・搬出	1月10日(水)	時間：16:00～18:00

< 東京開催 >

搬入・設営	2月12日(火)	時間：14:00～17:00
1日目	2月13日(水)	時間：10:00～16:00
2日目	2月14日(木)	時間：10:00～16:00
撤去・搬出	2月14日(木)	時間：16:00～18:00

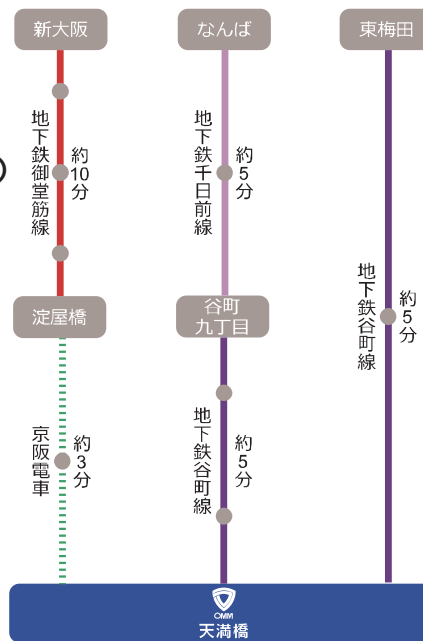
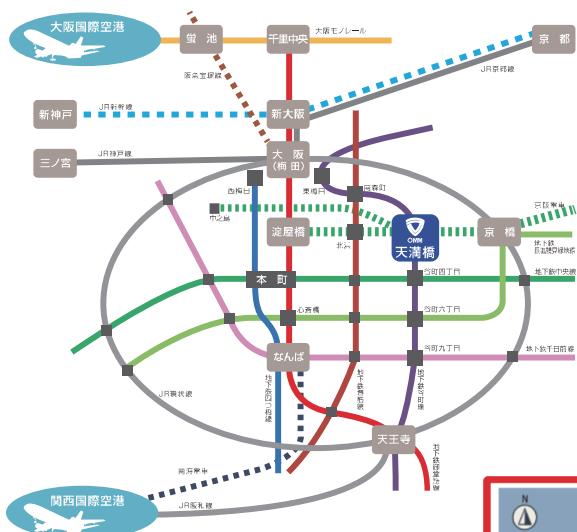
*大阪会場 大阪マーチャндаイズマート Aホール

1. 会場アクセス

大阪府大阪市中央区大手前 1-7-31

< 公共項中期間のご案内 >

- 地下鉄谷町線「天満橋」駅北改札口
 - 京阪電車「天満橋」駅東改札口
- ⇒ OMM 地下2階に連絡
(改札を出るとすぐに案内表示があります)

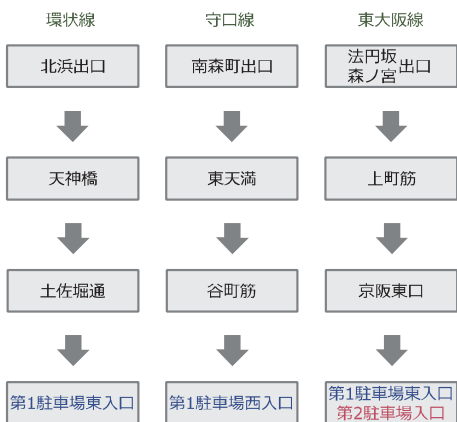


< 車でお越しの場合 >

名神高速

豊中 I.C. より阪神高速 (市内) 乗継

阪神高速



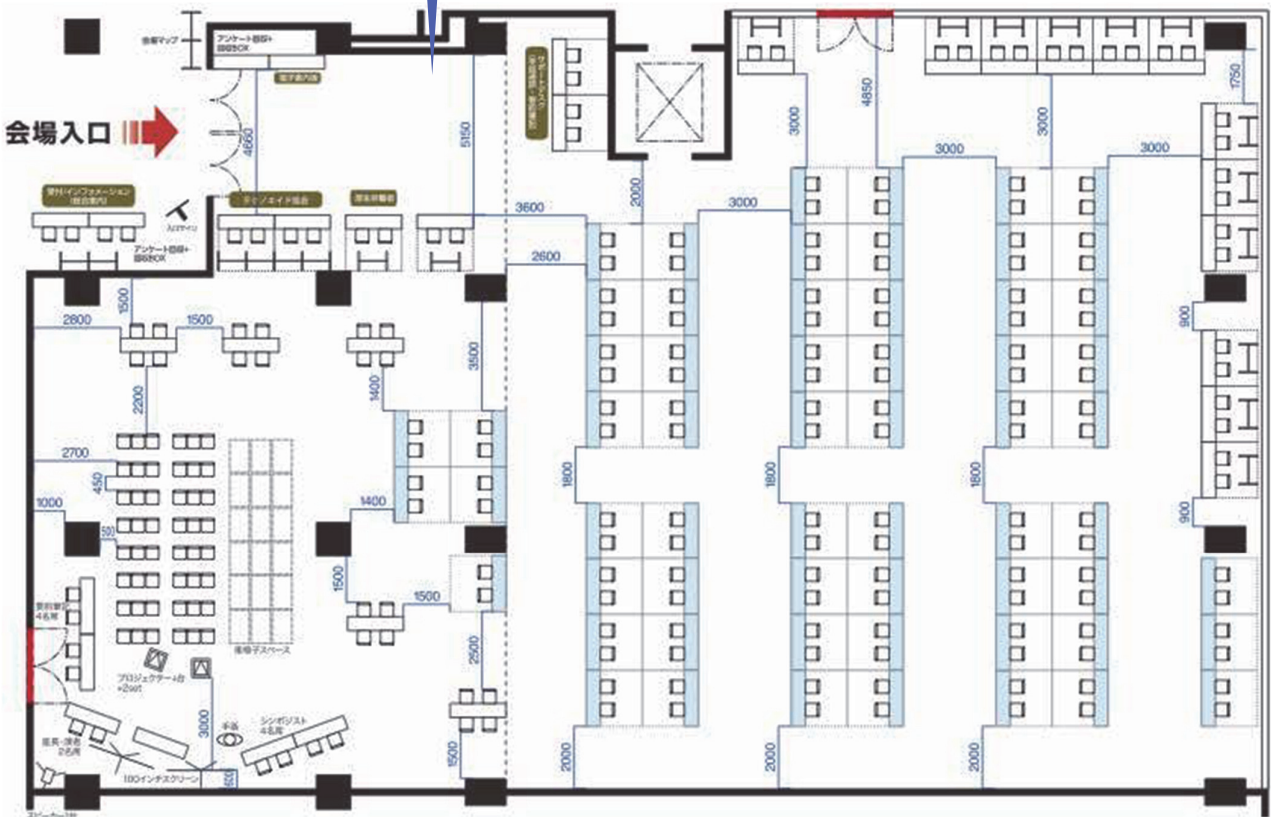
< 駐車場のご案内 >

営業 (出入庫可能) 時間	【第1】7:00~23:00	【第2】24時間
台数 (時間貸)	【第1】282台	【第2】175台
サイズ制限	長さ4.7m、幅1.7m、高さ2.1m。 重量2t以内。	
料金	全日 8:00~20:00 30分:300円 20:00~8:00 60分:100円 駐車後24時間まで最大料金2,200円	
備考	クレジットカード利用可。 領収書即時発行可。	

*大阪会場 大阪マーチャндаイズマート Aホール

2. 会場レイアウトイメージ

※レイアウトは昨年度のイメージになります。

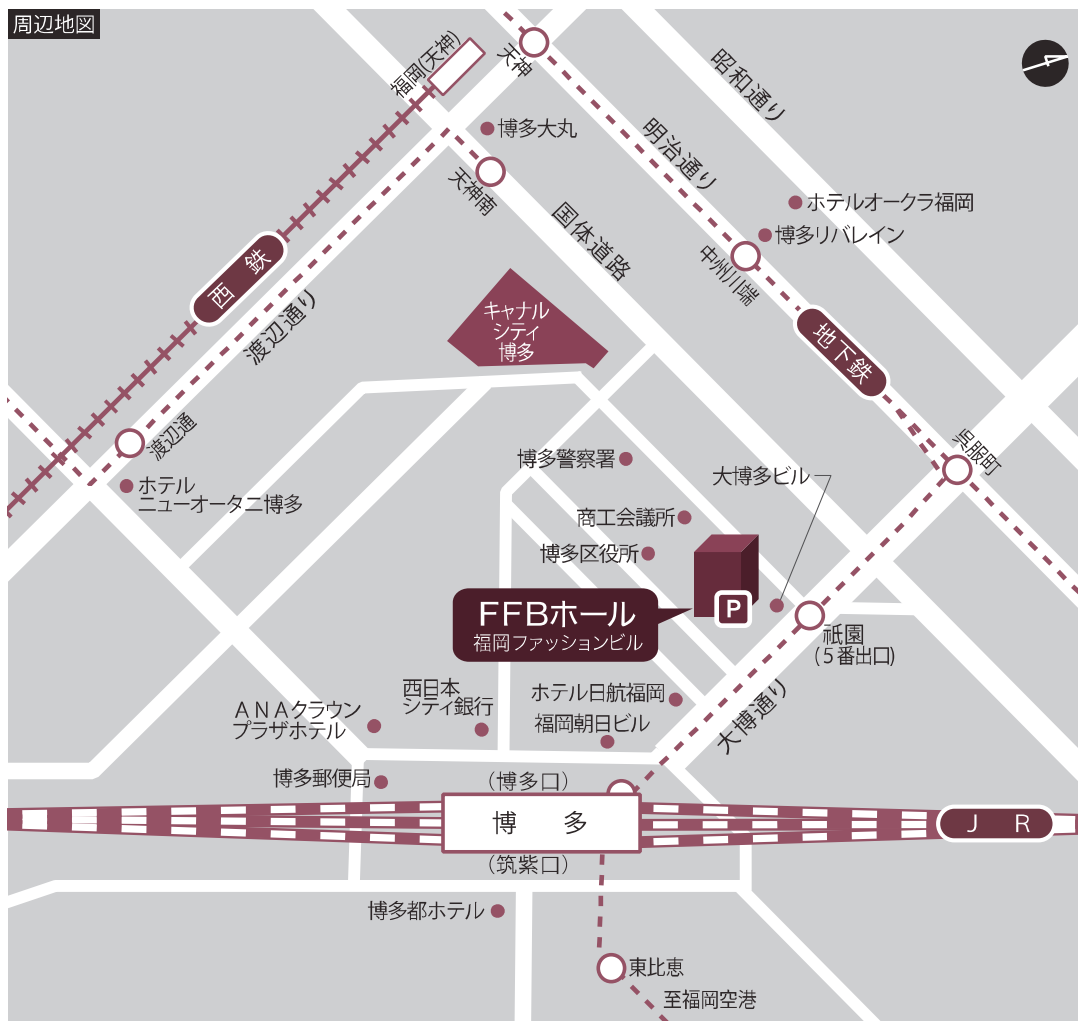


< 身体障害者用トイレ >
2F エレベーター裏に設置してあります。

*福岡会場 FFB ファッションビル 8階 Aホール

1. 会場アクセス

福岡県福岡市博多区博多駅 2-10-19



交通機関のご案内

- JR 博多駅より徒歩 7 分
- 福岡空港より地下鉄で 7 分
- 地下鉄祇園駅より徒歩 1 分 (5 番出口)
- 天神より地下鉄で 4 分

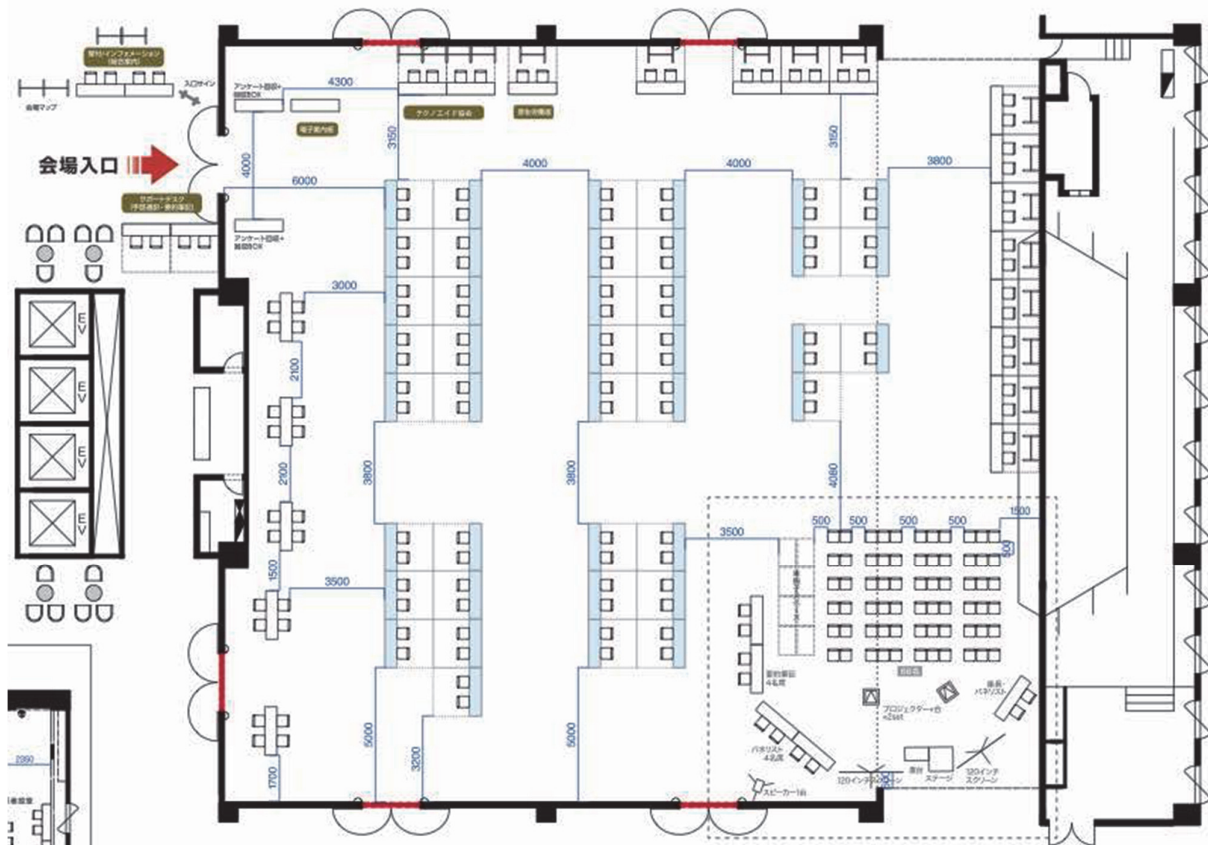
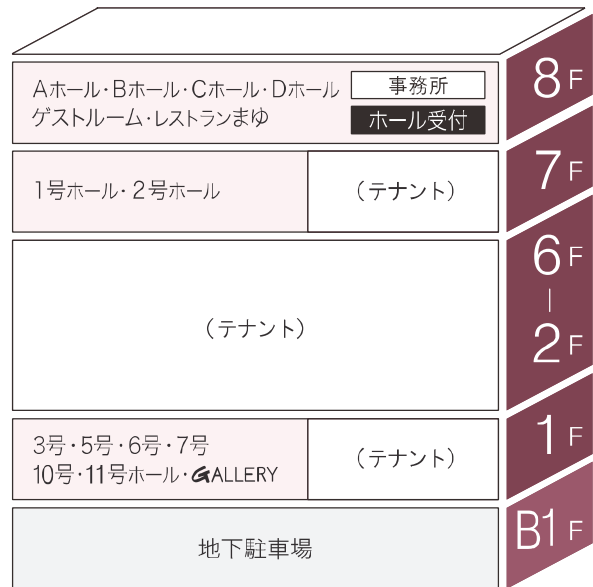
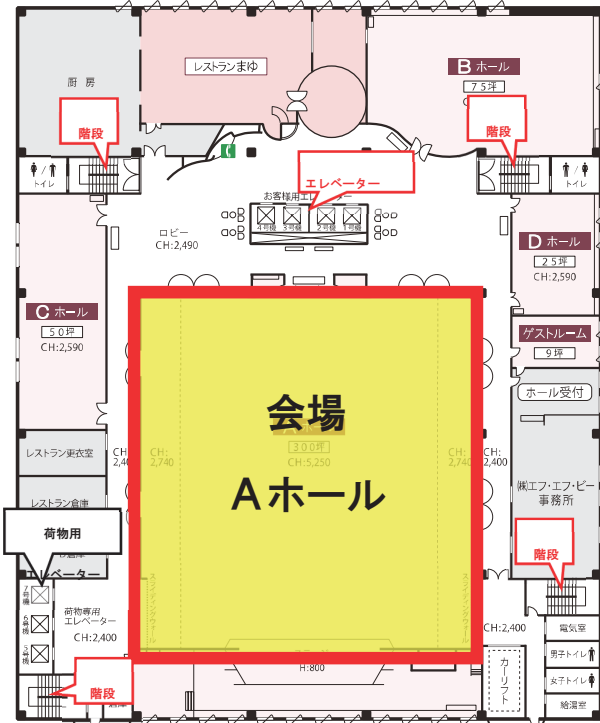
都市高速最寄出口のご案内

- 太宰府方面からは「千代」出口
- 前田方面・香椎方面からは「呉服町」出口

*福岡会場 FFB ファッションビル 8階 Aホール

2. 会場レイアウトイメージ

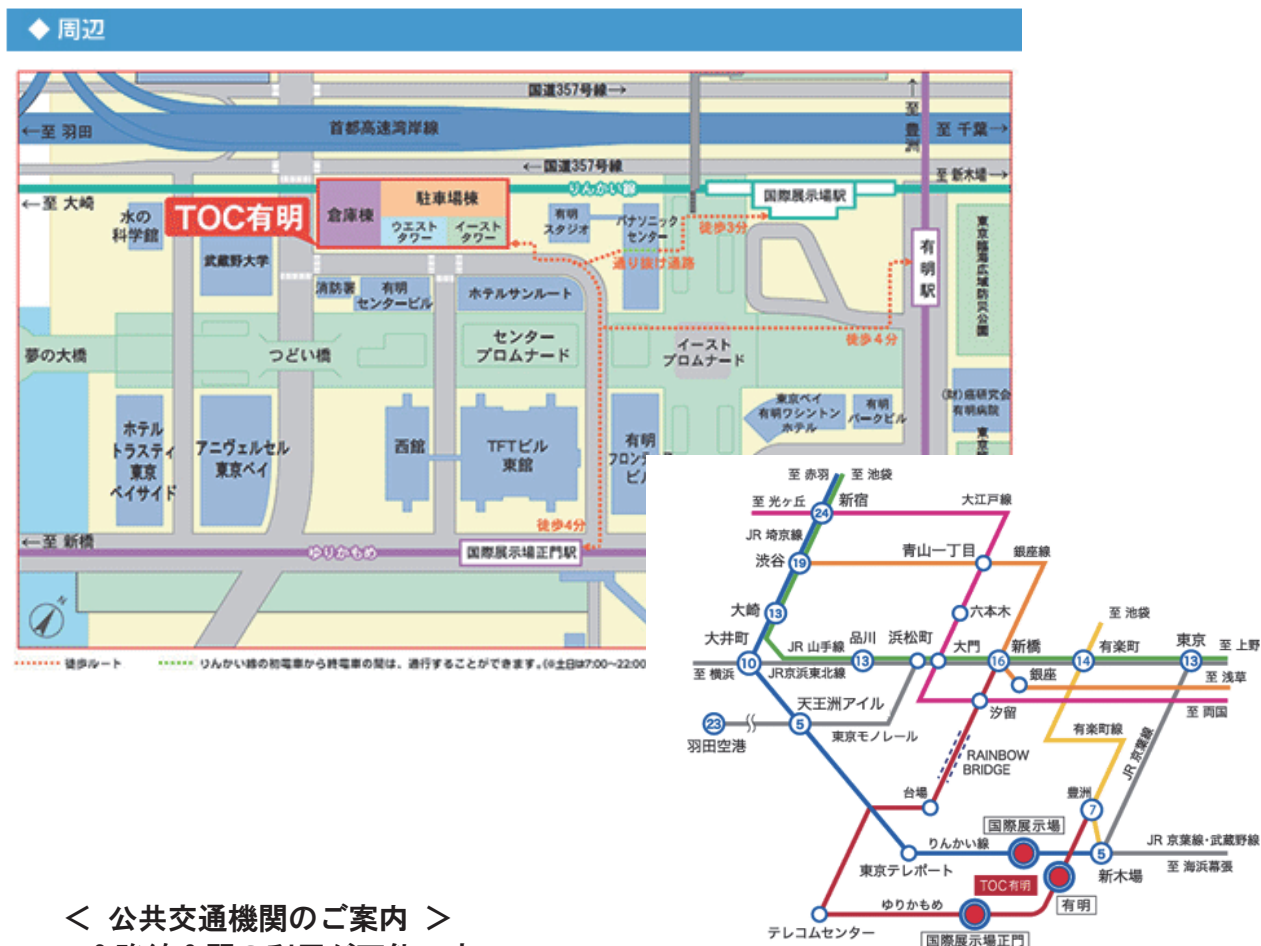
※レイアウトは昨年度のイメージになります。



*東京会場 TOC 有明 4F コンベンションホール

1. 会場アクセス

東京都江東区有明 3-5-7



< 公共交通機関のご案内 >

2 路線 3 駅の利用が可能です。

- りんかい線国際展示場駅から徒歩 3 分
- ゆりかもめ国際展示場正門・有明駅から徒歩 4 分

< 車でお越しの場合 >

- 首都高速湾岸線「有明」出口より約 5 分(新木場方面より)
- 首都高速湾岸線「臨海副都心」出口より約 5 分(大井方面より)
- 首都高速 11 線「台場」出口より約 5 分(レインボーブリッジ方面より)

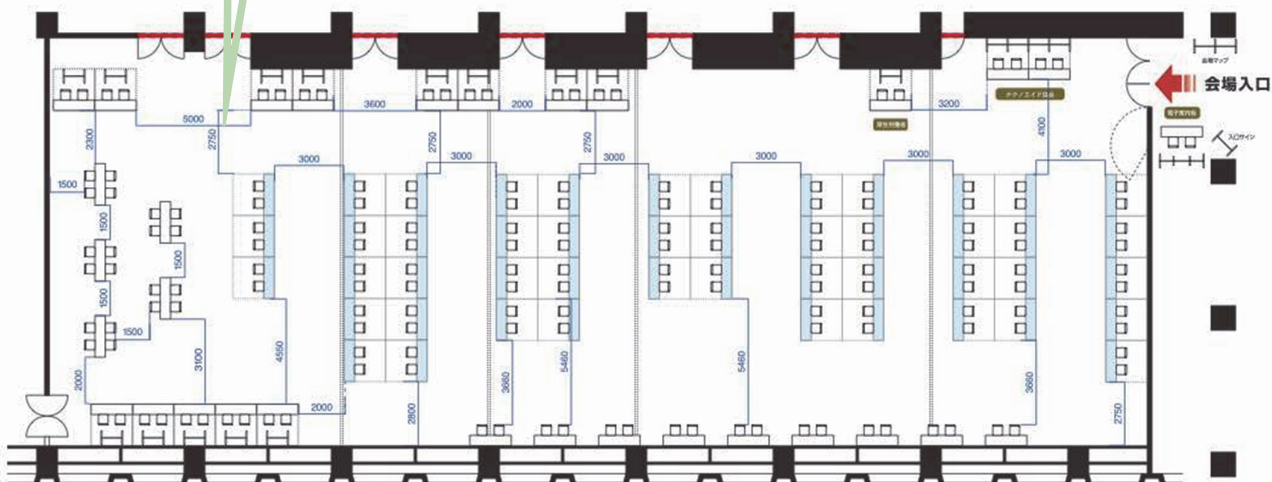
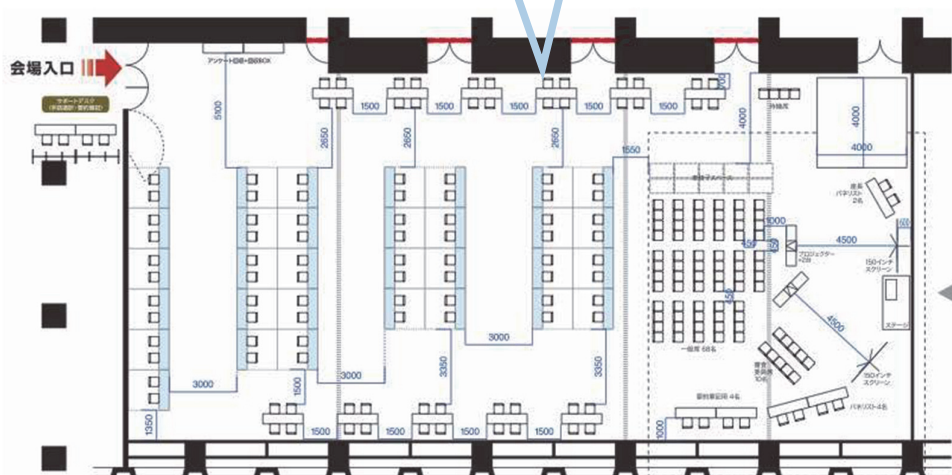
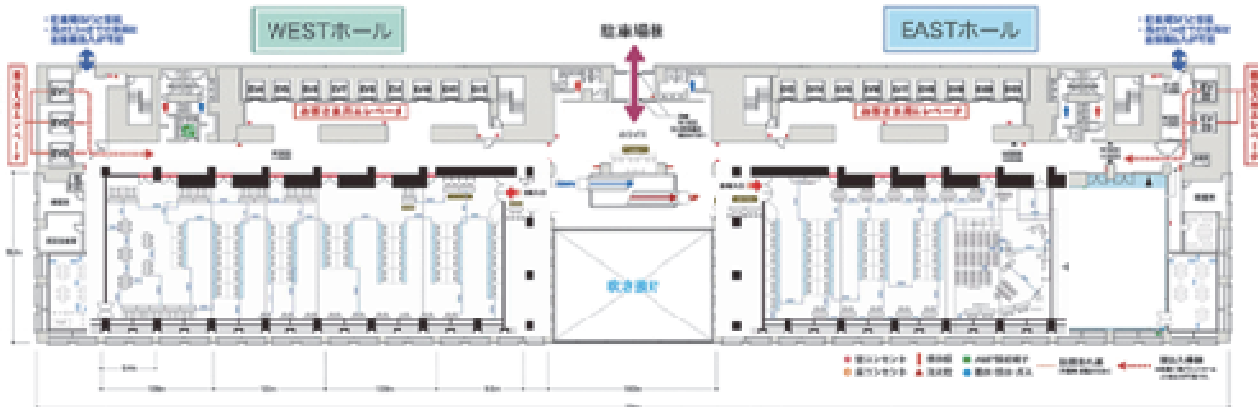
< 駐車場のご案内 >

業務棟 1~5 階と接続されている大規模自走式駐車場(有料)をご利用ください。

*東京会場 TOC 有明 4F コンベンションホール

2. 会場レイアウトイメージ

※レイアウトは昨年度のイメージになります。



< 身体障害者用トイレ >

コンベンションホール4階(交流会会場)に設置してあります。

* 注意事項（１）

1. 出展の申込み

出展申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局にメールにてお送りください。なお、出展内容が本展示会の開催趣旨にそぐわないと主催者が判断した場合、主催者は出展受付のお断り、また出展受付の取り消しができます。これにより生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負いません。

2. 出展の取消し

出展の取り消しは、展示開催日の2週間前までに書面（任意様式）により事務局に通知しなければなりません。主催者の判断により正式な取り消しとなります。

3. 小間位置の決定

主催者は、出展者の業種、出品物の種別、会場の構成などを勘案のうえ、小間の割り当てを行い出展者に連絡いたします。また主催者は入場者整理の都合上、または展示効果向上のために小間の割り当てを変更する場合がございます。出展者は、小間の割り当ておよびその変更に対する異議申し立てならびに賠償責任等を問うことはできません。

4. 小間の転貸等の禁止

出展者は、自らの小間を主催者の承諾なしに転貸、売買、交換あるいは譲渡することはできません。

5. 会場内の行為の制限

出展者は主催者の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

6. 駐車場

搬出入等で車をご利用の場合は、会場の駐車場をご利用ください。

7. 管理保全

主催者は管理者としての注意を持って会場全般の管理にあたります。ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。また、主催者は出展物の損害に対しての一切の保証責任を負いません。

* 注意事項（2）

8. 損害賠償

出展者およびその代理人が他社の小間、主催者の運営設備または展示会場の設備および人身等に損害を与えた場合、また搬出入時や交流会時に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、主催者は一切の責任を負いません。出展物の輸送および展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策をお願い致します。

9. 消防・安全

出展者は、会場に適用される消防および安全にかかわる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

10. 展示会の中止

主催者は天災などの不可抗力により、展示会開催が困難と判断した場合、展示会の開催を延期または中止することがあります。また、その際に生じた損害について主催者は責任を負わないものとします。

11. 法的保護等

本展示会におけるアイデアの模倣および交流時等に関するトラブルについては、主催者は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

12. 法令、規約の厳守

出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、主催者が定める一連の規約（出展申込書、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。万一、法令、規約に違反した場合、主催者は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負わないものとします。

13. アンケート調査へのご協力をお願い

テクノエイド協会では、今後更なる課題解決に役立つ福祉機器開発を促進したく、皆様のシーズやニーズ情報を収集させて頂きたいと考えております。交流会会場等で、アンケートや調査を実施させて頂きますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

*参加予定の団体一覧 (予定)

■招待団体

(1) 障害当事者団体

- ①公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
- ②一般社団法人 日本 ALS 協会
- ③社会福祉法人 日本盲人会連合
- ④一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ⑤ポリオの会
- ⑥特定非営利活動法人 自閉症サポートセンター
- ⑦特定非営利活動法人 日本失語症協議会
- ⑧社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ⑨社会福祉法人 全国盲ろう者協会

(2) 開発支援機関等

- ①国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)
- ②国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)
- ③国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ④独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 中央障害者雇用情報センター
- ⑤厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
- ⑥事務局 (公益財団法人 テクノエイド協会)

お問い合わせ先

◆本事業の全体について

公益財団法人テクノエイド協会
162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 4 階
企画部 谷田・篠・五島
TEL : 03-3266-6883

◆出展に関する詳細について 受付時間：平日 9 時～17 時

シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 運営事務局
(担当：MS&AD インターリスク総研株式会社 田中・大瀧(おおたき))
メールアドレス：shogai-kiki2@techno-aids.or.jp
TEL : 03-5296-8976 FAX : 03-5296-8941

みんなで考えよう！障害者自立支援機器
「シーズ・ニーズマッチング交流会 2018」
～作る人と使う人の交流会～
出展にあたってのご案内

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ（作る人）・ニーズ（使う人）のマッチング交流会を開催いたします。

交流会では、開発や改良を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、さらにはこの分野への新規参入の促進を図ります。

< 大阪開催 >

- 開催日 / 2018年12月18日（火）～19日（水）
- 時間 / 10:00-16:00
- 会場 / 大阪マーチャンダイズマート Aホール

< 福岡開催 >

- 開催日 / 2019年1月9日（水）～10日（木）
- 時間 / 10:00-16:00
- 会場 / FFB HALL 福岡ファッションビル 8階Aホール

< 東京開催 >

- 開催日 / 2019年2月13日（水）～14日（木）
- 時間 / 10:00-16:00
- 会場 / TOC有明4F コンベンションホール

* 目次

* 本事業の概要	2
* 交流会 目的と概要	3
* 出展小間 仕様・設備	4
* 開催までのスケジュール	5
* 大阪会場 大阪マーチャライズマート	6
* 福岡会場 FFB ファッションビル	8
* 東京会場 TOC 有明	10
* 注意事項	12
* 参加予定の団体一覧（予定）	14

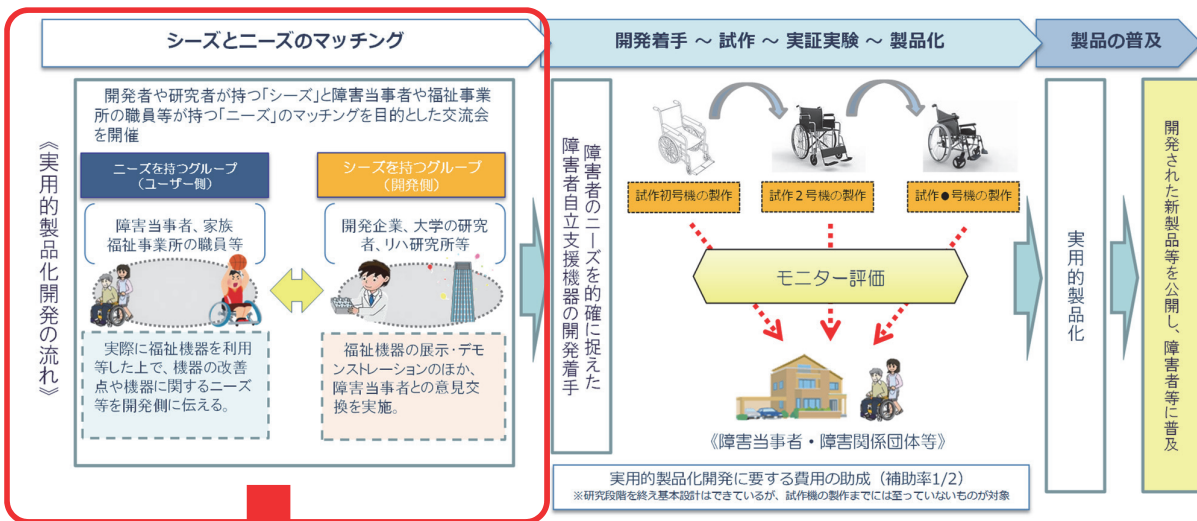
* 本事業の概要

障害者自立支援機器等開発促進事業の目的

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠であります。障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化（ソフトウェアを開発する場合を含む。以下同じ。））が進んでいない状況にあります。

このことから、本事業は、マーケットが小さく事業化が困難であること、あるいは技術開発は終了しているが経費的な問題からモニター評価（被験者による評価試験）が行えないといった理由から、実用的製品化が進まない機器について、障害当事者のモニター評価等を義務付けた実証実験等を行うことで、障害当事者にとって使いやすく適切な価格で販売される機器を、企業が障害当事者と連携して開発する取組みに対して助成を行うことによって、障害者の自立や社会参加の促進に資することを目的とします。

障害者自立支援機器等開発促進事業の概要



ニーズ・ニーズマッチング交流会 2018



* 交流会 目的と概要

1. 交流会の目的

障害者・高齢者福祉に係る事業の実施にあたりましては、日頃より、格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当協会では、2014年度から続く「シーズ・ニーズマッチング交流会(以下、本交流会)」を今年度も開催する運びとなりました。

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と開発企業、大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。

「**障害当事団体**」の皆様におかれましては、最新の試作機に触れるとともに、日常生活上の課題や機器に対する要望を伝える機会として活用してください。

また、「**開発支援機関**」の皆様におかれましては、開発補助事業の概要や成果の報告、また、「**国立障害者リハビリテーションセンター研究所**」様には、研究状況を報告等する場として、本交流会を活用いただきご参加いただきますようお願い申し上げます。

2. 開催概要

イベント名称：障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2018」

開催日程・場所：<大阪開催>

■ 開催日 / 2018年12月18日(火)～19日(水) 10:00-16:00

■ 会場 / 大阪マーチャングダイズマート Aホール

<福岡開催>

■ 開催日 / 2019年1月9日(水)～10日(木) 10:00-16:00

■ 会場 / FFB HALL 福岡ファッションビル 8階Aホール

<東京開催>

■ 開催日 / 2019年2月13日(水)～14日(木) 10:00-16:00

■ 会場 / TOC有明4F コンベンションホール

内容：(1) 開発中機器の展示、デモンストレーション
(2) 来場者や他出展者との交流
(3) 障害者自立支援機器導入好事例プレゼンテーション及び一般投票
(4) シンポジウム(大阪・福岡)/ 開発促進事業の成果報告(東京)

出展料：「無料」(但し、搬入出に係る費用は自己負担です)

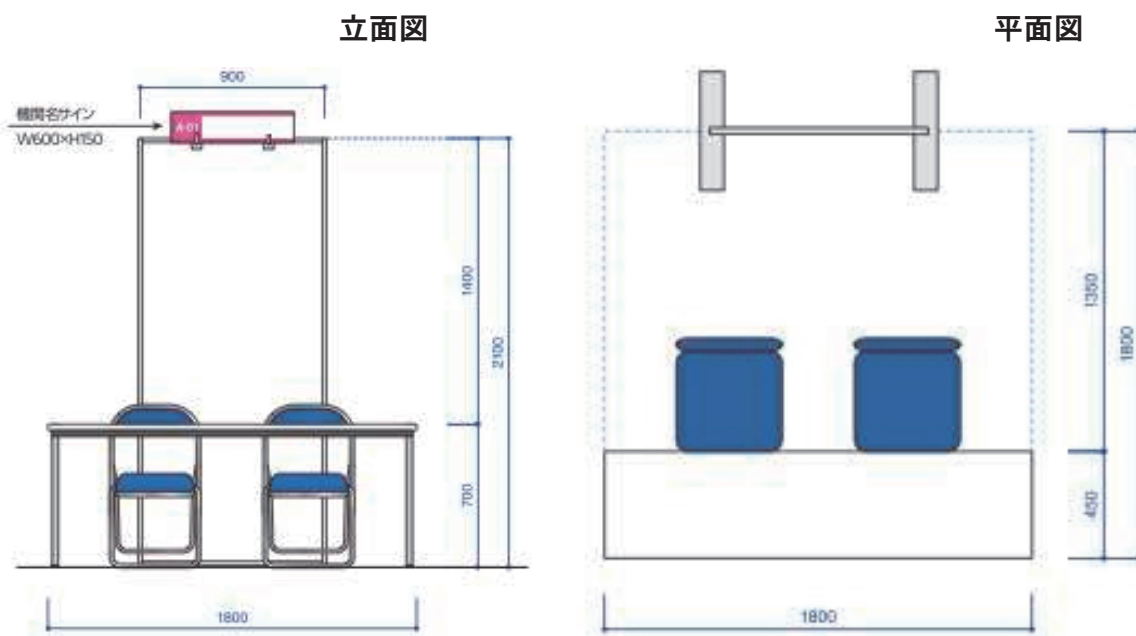
来場予定：障害当事者/障害者家族/障害施設職員/障害団体/開発企業/産業振興組織
大学関係者/研究者(研究機関)/行政/その他自立支援機器に興味のある方

主催：公益財団法人テクノエイド協会

* 出展小間 仕様・設備

1. 出展小間イメージ

下図の備品は基本設備となります。



2. 仕様・設備

1. 小間仕様詳細
展示スペース：1800mm×1800mm
2. 基本設備
テーブル 1 台 (W1800mm×D450mm×H700mm)
椅子 2 脚
コンセント 2 口 (電気容量:300W)
機関名サイン (バックパネル掲示用)
バックパネル (W99cm×H210cm)
3. 追加備品 (事前申込)
○ テーブル/椅子/コンセントの必要数を事前にお申し付けください。
○ 電源容量：300W 以上をご希望の場合、事前にご相談ください。

*開催までのスケジュール

< 全体進行 >

出展可否通知 9月14日(金)

展示スペース等の調整 10月1日(月)以降、順次

※各会場それぞれの担当代表者(1名)及びご連絡先をお知らせください

※各会場それぞれの設置・対応内容についてもお知らせください

< 大阪開催 >

搬入・設営 12月17日(月) 時間:14:00~17:00

1日目 12月18日(火) 時間:10:00~16:00

2日目 12月19日(水) 時間:10:00~16:00

撤去・搬出 12月19日(水) 時間:16:00~18:00

< 福岡開催 >

搬入・設営 1月8日(火) 時間:14:00~17:00

1日目 1月9日(水) 時間:10:00~16:00

2日目 1月10日(木) 時間:10:00~16:00

撤去・搬出 1月10日(水) 時間:16:00~18:00

< 東京開催 >

搬入・設営 2月12日(火) 時間:14:00~17:00

1日目 2月13日(水) 時間:10:00~16:00

2日目 2月14日(木) 時間:10:00~16:00

撤去・搬出 2月14日(木) 時間:16:00~18:00

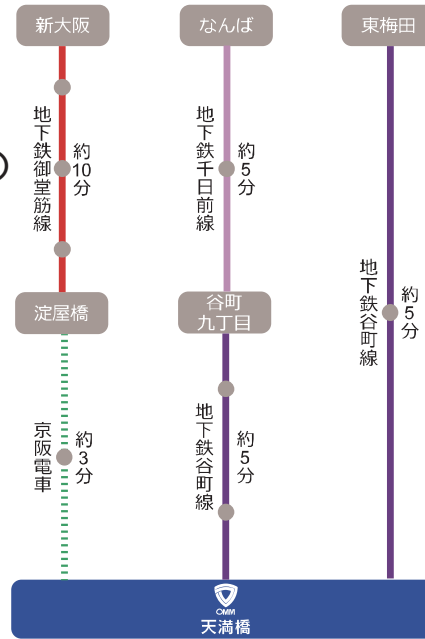
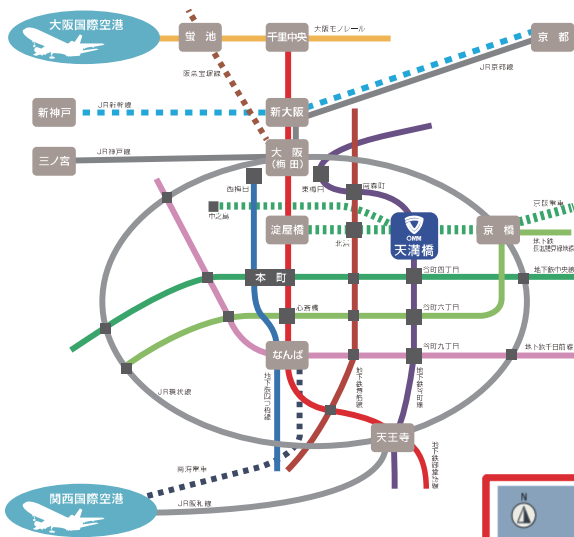
*大阪会場 大阪マーチャндаイズマート Aホール

1. 会場アクセス

大阪府大阪市中央区大手前 1-7-31

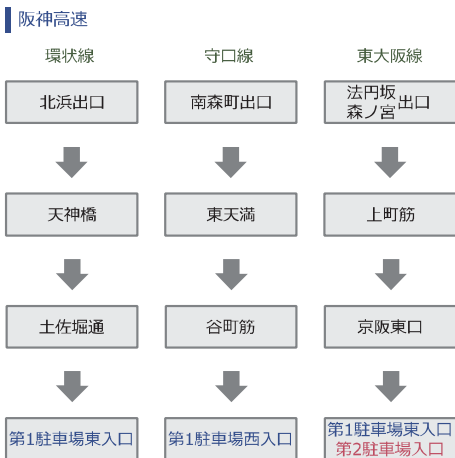
< 公共項中期間のご案内 >

- 地下鉄谷町線「天満橋」駅北改札口
 - 京阪電車「天満橋」駅東改札口
- ⇒ OMM 地下2階に連絡
(改札を出るとすぐに案内表示があります)



< 車でお越しの場合 >

名神高速
豊中 I.C. より阪神高速 (市内) 乗継



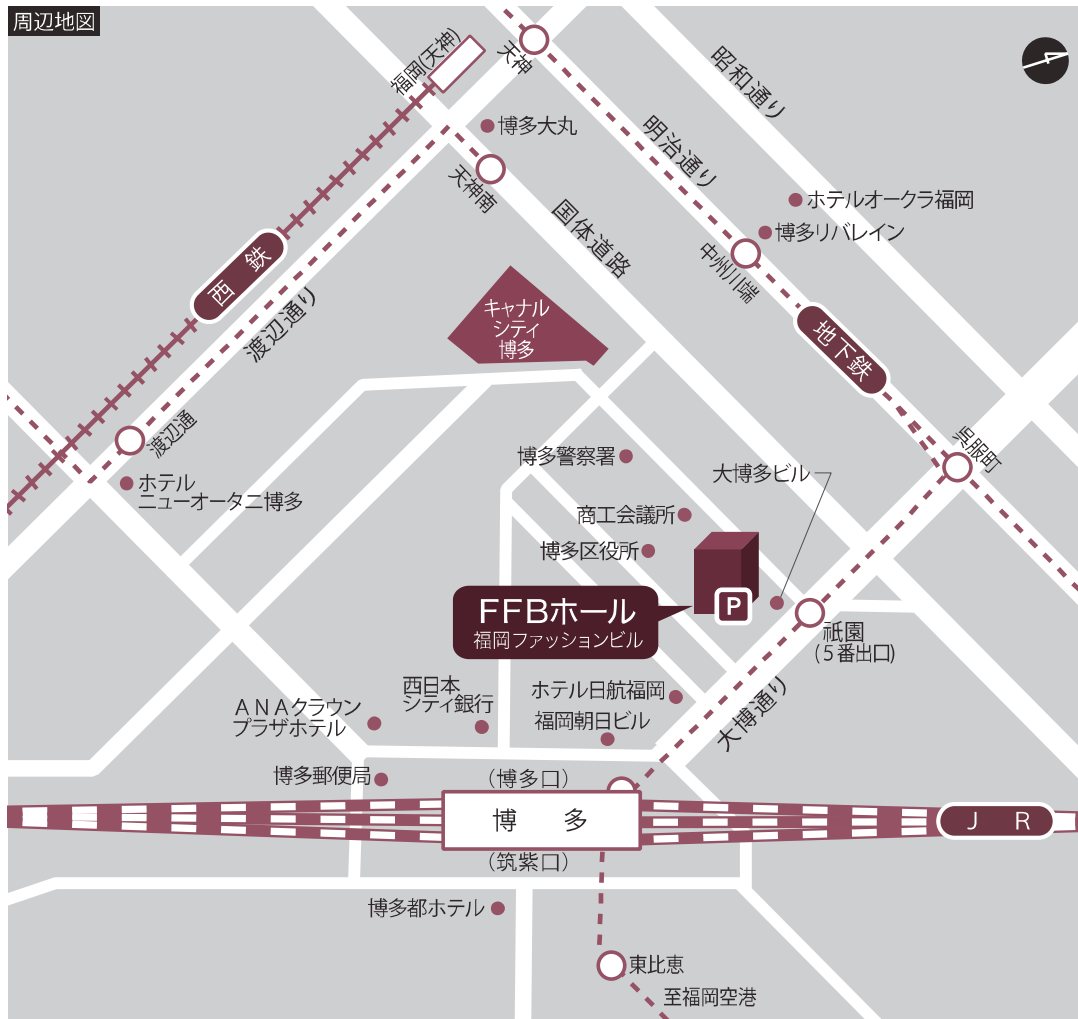
< 駐車場のご案内 >

営業 (出入庫可能) 時間	【第1】7:00~23:00	【第2】24時間
台数 (時間貸)	【第1】282台	【第2】175台
サイズ制限	長さ4.7m、幅1.7m、高さ2.1m。 重量2t以内。	
料金	全日 8:00~20:00 30分:300円 20:00~8:00 60分:100円 駐車後24時間まで最大料金2,200円	
備考	クレジットカード利用可。 領収書即時発行可。	

*福岡会場 FFB ファッションビル 8階 Aホール

1. 会場アクセス

福岡県福岡市博多区博多駅 2-10-19



六本機目のマーク

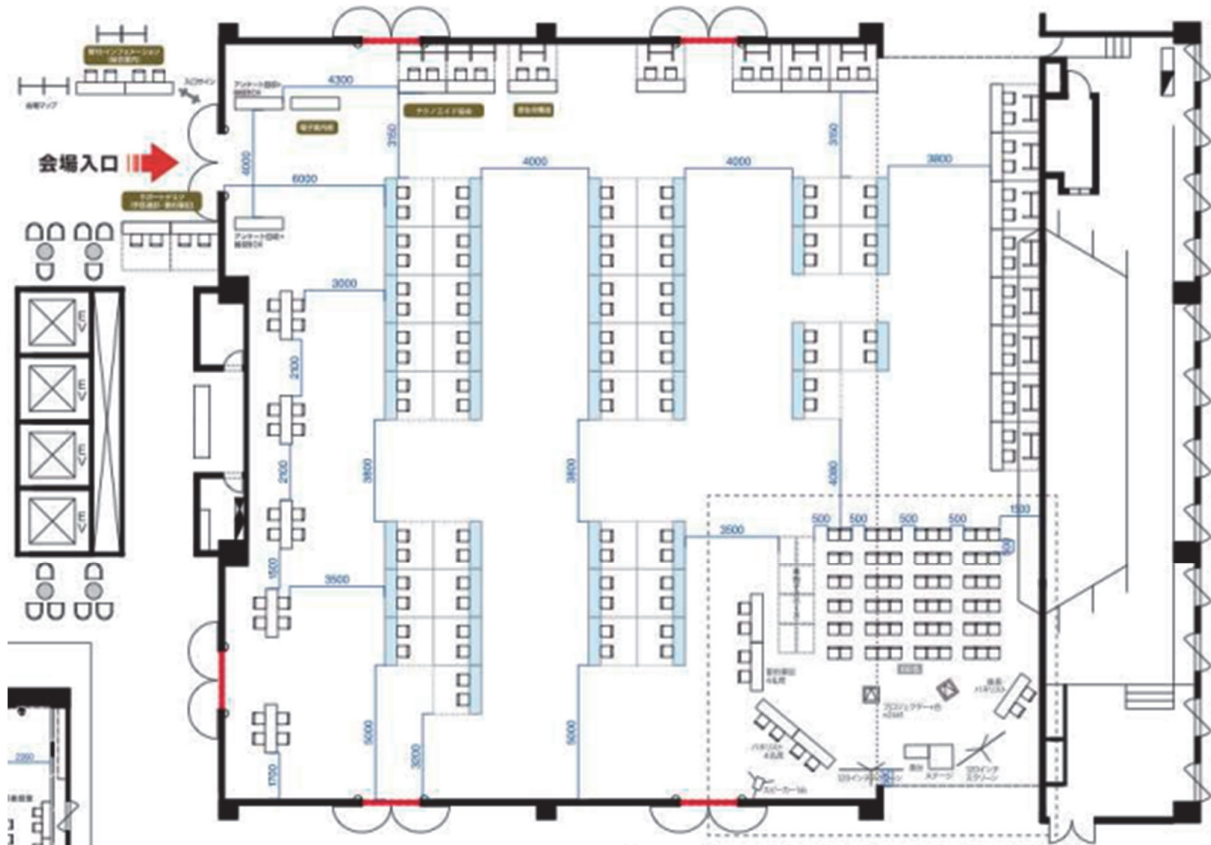
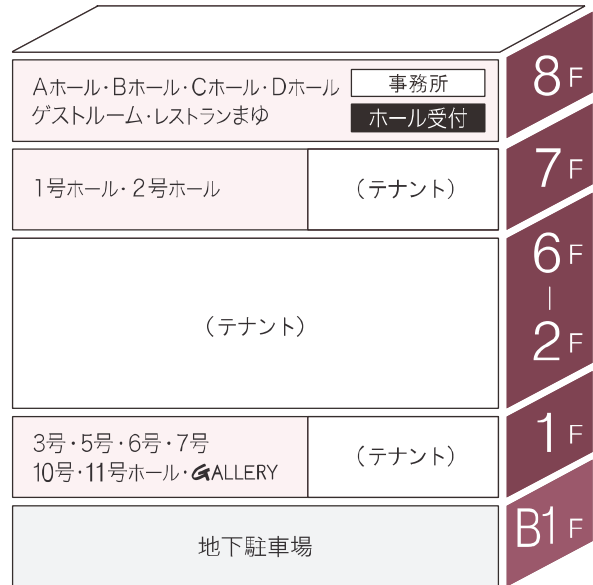
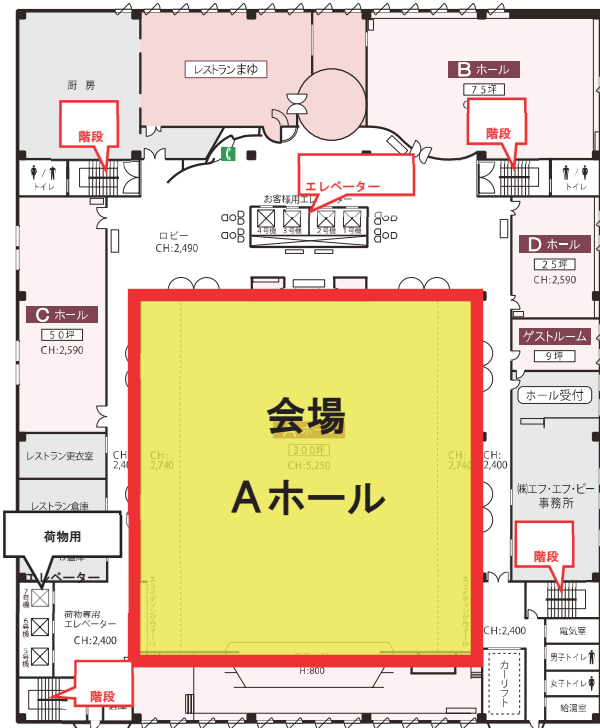
- JR 博多駅より徒歩 7 分
- 福岡空港より地下鉄で 7 分
- 地下鉄祇園駅より徒歩 1 分 (5 番出口)
- 天神より地下鉄で 4 分

出入口のマーク

- 太宰府方面からは「千代」出口
- 前田方面・香椎方面からは「呉服町」出口

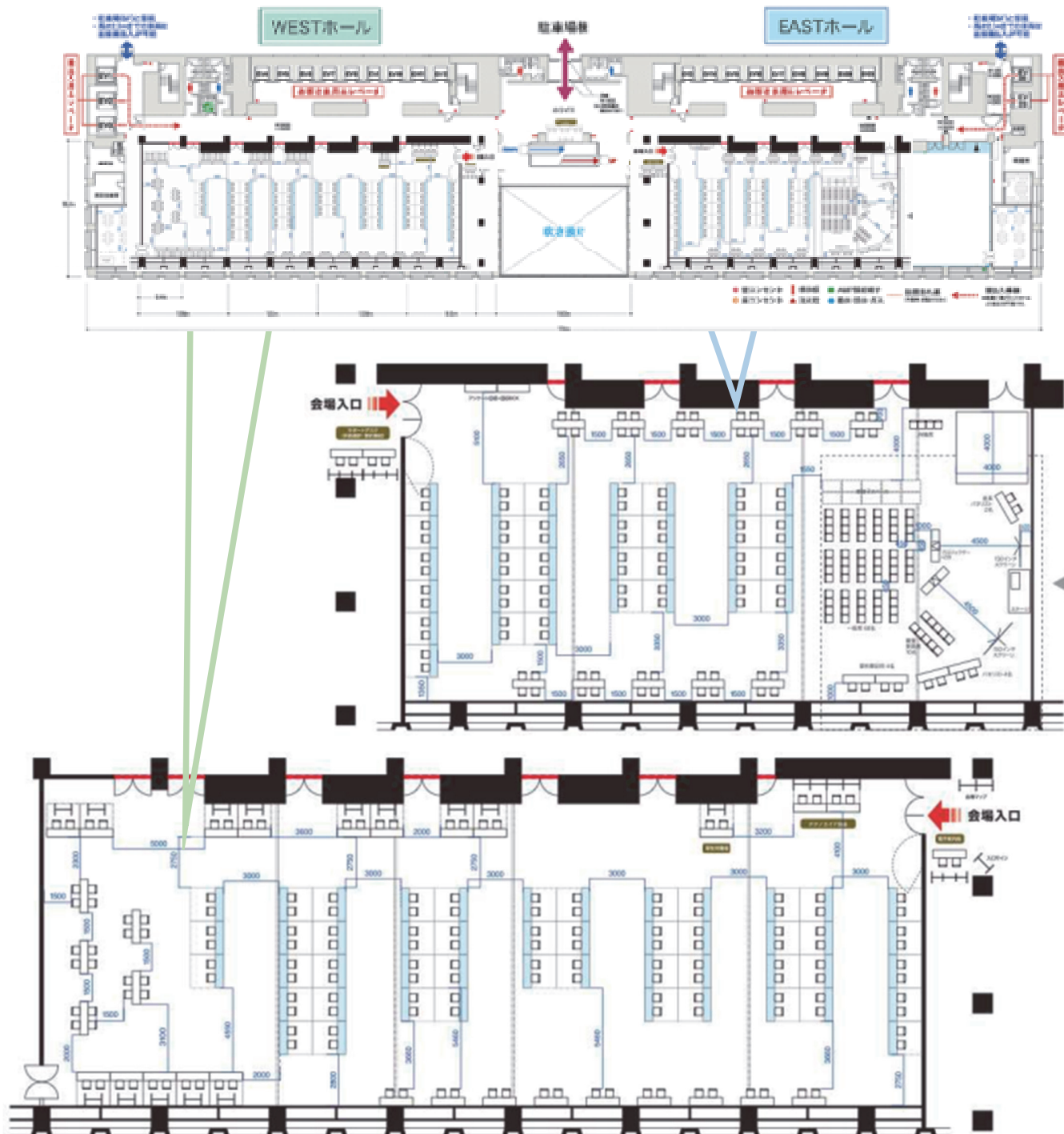
*福岡会場 FFB ファッションビル 8階 Aホール

2. 会場レイアウトイメージ



*東京会場 TOC 有明 4F コンベンションホール

2. 会場レイアウトイメージ



< 身体障害者用トイレ >
 コンベンションホール4階(交流会会場)に設置してあります。

* 注意事項（１）

1. 出展の申込み

出展申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局にメールにてお送りください。なお、出展内容が本展示会の開催趣旨にそぐわないと主催者が判断した場合、主催者は出展受付のお断り、また出展受付の取り消しができます。これにより生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負いません。

2. 出展の取消し

出展の取り消しは、展示開催日の2週間前までに書面（任意様式）により事務局に通知しなければなりません。主催者の判断により正式な取り消しとなります。

3. 小間位置の決定

主催者は、出展者の業種、出品物の種別、会場の構成などを勘案のうえ、小間の割り当てを行い出展者に連絡いたします。また主催者は入場者整理の都合上、または展示効果向上のために小間の割り当てを変更する場合がございます。出展者は、小間の割り当ておよびその変更に対する異議申し立てならびに賠償責任等を問うことはできません。

4. 小間の転貸等の禁止

出展者は、自らの小間を主催者の承諾なしに転貸、売買、交換あるいは譲渡することはできません。

5. 会場内の行為の制限

出展者は主催者の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

6. 駐車場

搬出入等で車をご利用の場合は、会場の駐車場をご利用ください。

7. 管理保全

主催者は管理者としての注意を持って会場全般の管理にあたります。ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。また、主催者は出展物の損害に対しての一切の保証責任を負いません。

* 注意事項（2）

8. 損害賠償

出展者およびその代理人が他社の小間、主催者の運営設備または展示会場の設備および人身等に損害を与えた場合、また搬出入時や交流会時に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、主催者は一切の責任を負いません。出展物の輸送および展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策をお願い致します。

9. 消防・安全

出展者は、会場に適用される消防および安全にかかわる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

10. 展示会の中止

主催者は天災などの不可抗力により、展示会開催が困難と判断した場合、展示会の開催を延期または中止することがあります。また、その際に生じた損害について主催者は責任を負わないものとします。

11. 法的保護等

本展示会におけるアイデアの模倣および交流時等に関するトラブルについては、主催者は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

12. 法令、規約の厳守

出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、主催者が定める一連の規約（出展申込書、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。万一、法令、規約に違反した場合、主催者は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負わないものとします。

13. アンケート調査へのご協力をお願い

テクノエイド協会では、今後更なる課題解決に役立つ福祉機器開発を促進したく、皆様のシーズやニーズ情報を収集させて頂きたいと考えております。交流会会場等で、アンケートや調査を実施させて頂きますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

*参加予定の団体一覧（予定）

■招待団体

(1) 障害当事者団体

- ①公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
- ②一般社団法人 日本 ALS 協会
- ③社会福祉法人 日本盲人会連合
- ④一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ⑤ポリオの会
- ⑥特定非営利活動法人 自閉症サポートセンター
- ⑦特定非営利活動法人 日本失語症協議会
- ⑧社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ⑨社会福祉法人 全国盲ろう者協会

(2) 開発支援機関等

- ①国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
- ②国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）
- ③国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ④独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 中央障害者雇用情報センター
- ⑤厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
- ⑥事務局（公益財団法人 テクノエイド協会）

お問い合わせ先

◆本事業の全体について

公益財団法人テクノエイド協会
162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 4 階
企画部 谷田・篠・五島
TEL：03-3266-6883

◆出展に関する詳細について 受付時間：平日 9 時～17 時

シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 運営事務局
（担当：MS&AD インターリスク総研株式会社 田中・大瀧（おおたき））
メールアドレス：shogai-kiki2@techno-aids.or.jp
TEL：03-5296-8976 FAX：03-5296-8941

こうりゆうかい らいじょうしゃさま
シーズ・ニーズマッチング交流会2018 ご来場者様アンケート

この度は交流会にご来場いただき、誠にありがとうございます。このアンケートは、来場された皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるものです。ご提出にご協力をお願いいたします。

※ 代筆などの支援をご希望される方は、インフォメーションまでお越しください。

I. あなたご自身についてうかがいます	
あてはまる項目に○をつけてください (一つに○)	1. 障害者 2. 障害者家族 3. 施設関係者 4. 医療関係者 5. 支援機器開発企業 6. 行政 7. 研究機関・団体 8. 学校・教育関係者 9. 一般企業 (今後、支援機器の開発を目指す企業を含む) 10. その他 ()
ご参加いただいた日数について教えてください (一つに○)	1. 1日のみ (1日目・2日目いずれかのみ) 2. 2日間

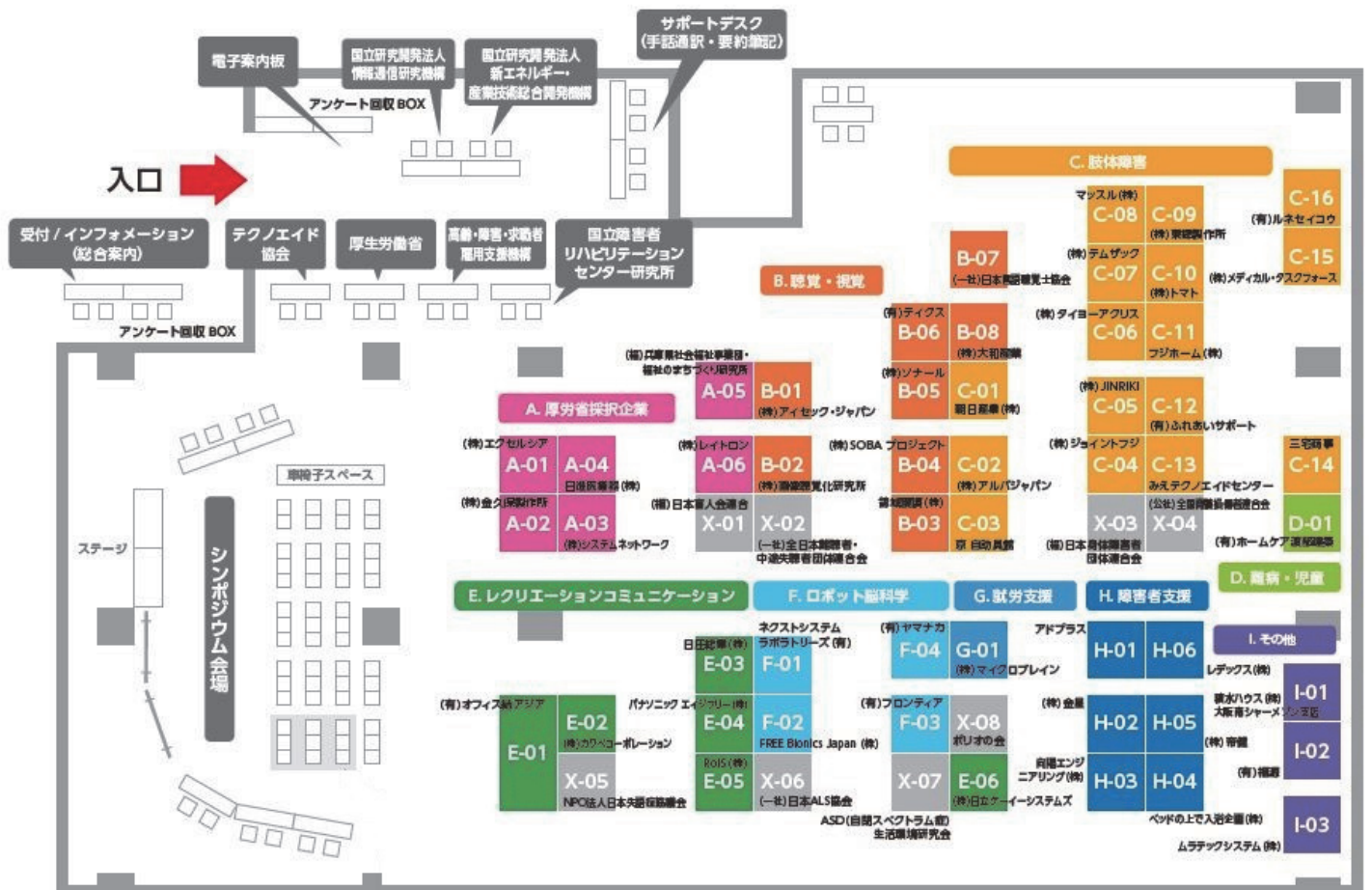
II. 交流会についてうかがいます	
この交流会のことをどのように知りましたか	1. テクノイド協会からの案内 2. テクノイド協会のホームページ 3. 所属する障害団体からの案内 4. 経済振興団体からの案内 5. 所属する職能団体からの案内 6. 自治体などからの案内・広報誌など 7. 友人・知人からの紹介 8. 新聞・テレビ・ラジオなど 9. その他 ()
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1. 具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった 2. 機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった 3. 特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった 4. 普段困っていることについて相談したかった 5. その他 ()
どのような交流や意見交換ができましたか	()
目的の達成度を教えてください	1. 大いに達成した 2. ある程度達成した 3. どちらとも言えない 3. あまり達成しなかった 5. 全く達成しなかった
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
来年も参加したいと思えますか	1. ぜひ参加したい 2. 参加したい 3. どちらともいえない 4. 参加したくない 5. 全く参加したくない

III. 運営・交流会全般についてうかがいます	
交流会全般に関する意見・感想・今後来て欲しい企業などがあれば記載してください	()

⇒ 裏面に続きます

IV. 交流した企業・団体についてうかがいます

かすのなかで、^{こうりゅう}交流したすべての企業・団体のブース部分に○をつけてください



^{きょうりょく}ご協力ありがとうございました。^{かえ}お帰りの際に会場入り口付近の回収箱にご提出ください。

シーズ・ニーズマッチング交流会2018 ご来場者様アンケート

この度は交流会にご来場いただき、誠にありがとうございます。このアンケートは、来場された皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるものです。ご提出にご協力をお願いいたします。

※ 代筆などの支援をご希望される方は、インフォメーションまでお越しください。

I. あなたご自身についてうかがいます	
あてはまる項目に○をつけてください (一つに○)	1. 障害者 2. 障害者家族 3. 施設関係者 4. 医療関係者 5. 支援機器開発企業 6. 行政 7. 研究機関・団体 8. 学校・教育関係者 9. 一般企業 (今後、支援機器の開発を目指す企業を含む) 10. その他 ()
ご参加いただいた日数について教えてください (一つに○)	1. 1日のみ (1日目・2日目いずれのみ) 2. 2日間

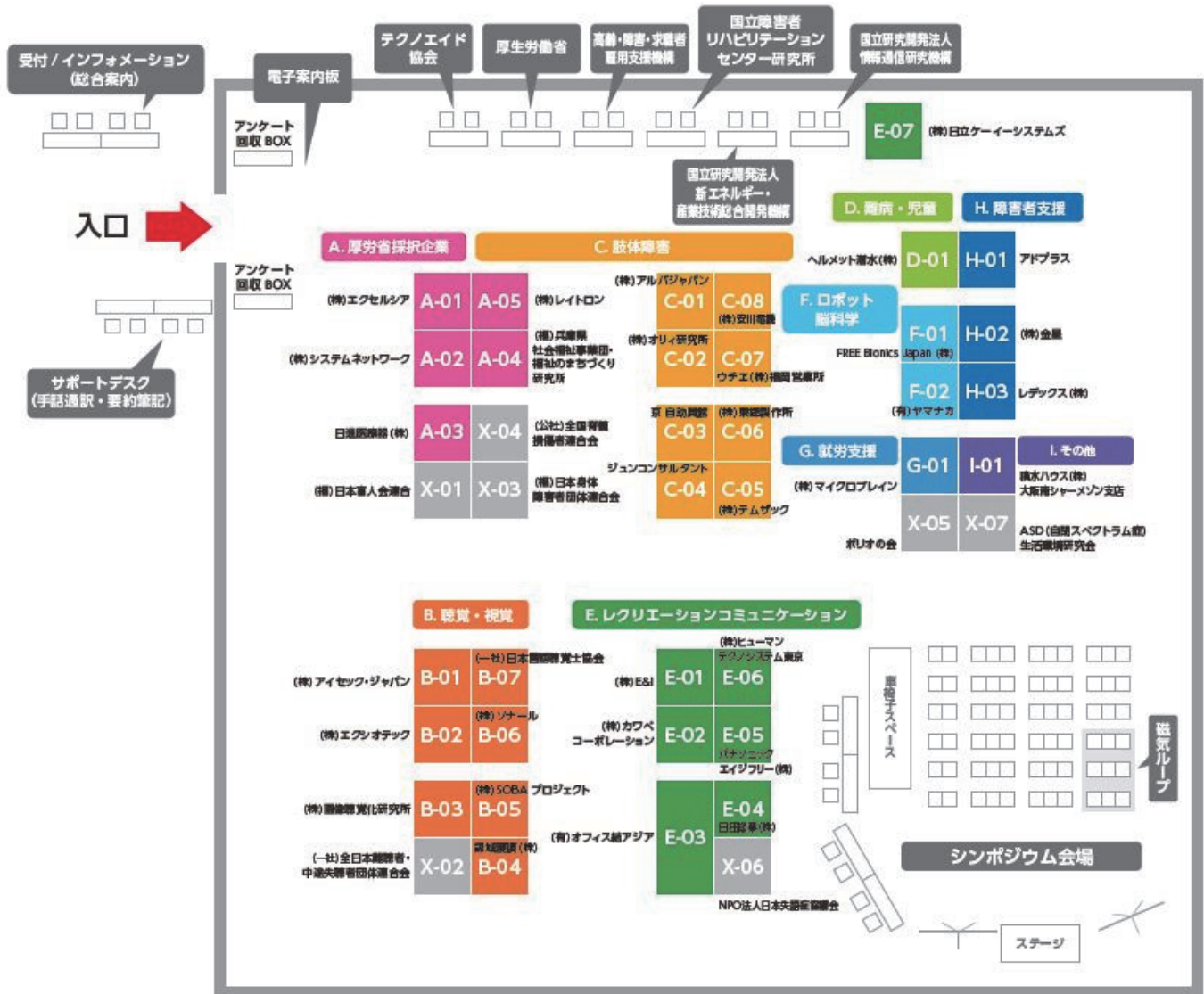
II. 交流会についてうかがいます	
この交流会のことをどのように知りましたか	1. テクノエイド協会からの案内 2. テクノエイド協会のホームページ 3. 所属する障害団体からの案内 4. 経済振興団体からの案内 5. 所属する職能団体からの案内 6. 自治体などからの案内・広報誌など 7. 友人・知人からの紹介 8. 新聞・テレビ・ラジオなど 9. その他 ()
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1. 具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった 2. 機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった 3. 特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった 4. 普段困っていることについて相談したかった 5. その他 ()
どのような交流や意見交換ができましたか	()
目的の達成度を教えてください	1. 大いに達成した 2. ある程度達成した 3. どちらとも言えない 3. あまり達成しなかった 5. 全く達成しなかった
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
来年も参加したいと思いませんか	1. ぜひ参加したい 2. 参加したい 3. どちらともいえない 4. 参加したくない 5. 全く参加したくない

III. 運営・交流会全般についてうかがいます	
交流会全般に関するご意見・感想・今後来て欲しい企業などがあれば記載してください	()

⇒ 裏面に続きます

IV. 交流した企業・団体についてうかがいます

かす 下図のなかで、^{こうりゅう}交流したすべての企業・団体のブース部分に○をつけてください



きょうりょく ご協力ありがとうございました。お帰りの際に会場入り口付近の回収箱にご提出ください。

シーズ・ニーズマッチング交流会2018 ご来場者様アンケート

この度は交流会にご来場いただき、誠にありがとうございます。このアンケートは、来場された皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるものです。ご提出にご協力をお願いいたします。

※ 代筆などの支援をご希望される方は、インフォメーションまでお越しください。

I. あなたご自身についてうかがいます	
あてはまる項目に○をつけてください (一つに○)	1. 障害者 2. 障害者家族 3. 施設関係者 4. 医療関係者 5. 支援機器開発企業 6. 行政 7. 研究機関・団体 8. 学校・教育関係者 9. 一般企業 (今後、支援機器の開発を目指す企業を含む) 10. その他 ()
ご参加いただいた日数について教えてください (一つに○)	1. 1日のみ (1日目・2日目いずれのみ) 2. 2日間

II. 交流会についてうかがいます	
この交流会のことをどのように知りましたか	1. テクノエイド協会からの案内 2. テクノエイド協会のホームページ 3. 所属する障害団体からの案内 4. 経済振興団体からの案内 5. 所属する職能団体からの案内 6. 自治体などからの案内・広報誌など 7. 友人・知人からの紹介 8. 新聞・テレビ・ラジオなど 9. その他 ()
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1. 具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった 2. 機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった 3. 特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった 4. 普段困っていることについて相談したかった 5. その他 ()
どのような交流や意見交換ができましたか	()
目的の達成度を教えてください	1. 大いに達成した 2. ある程度達成した 3. どちらとも言えない 3. あまり達成しなかった 5. 全く達成しなかった
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
来年も参加したいと思えますか	1. ぜひ参加したい 2. 参加したい 3. どちらともいえない 4. 参加したくない 5. 全く参加したくない

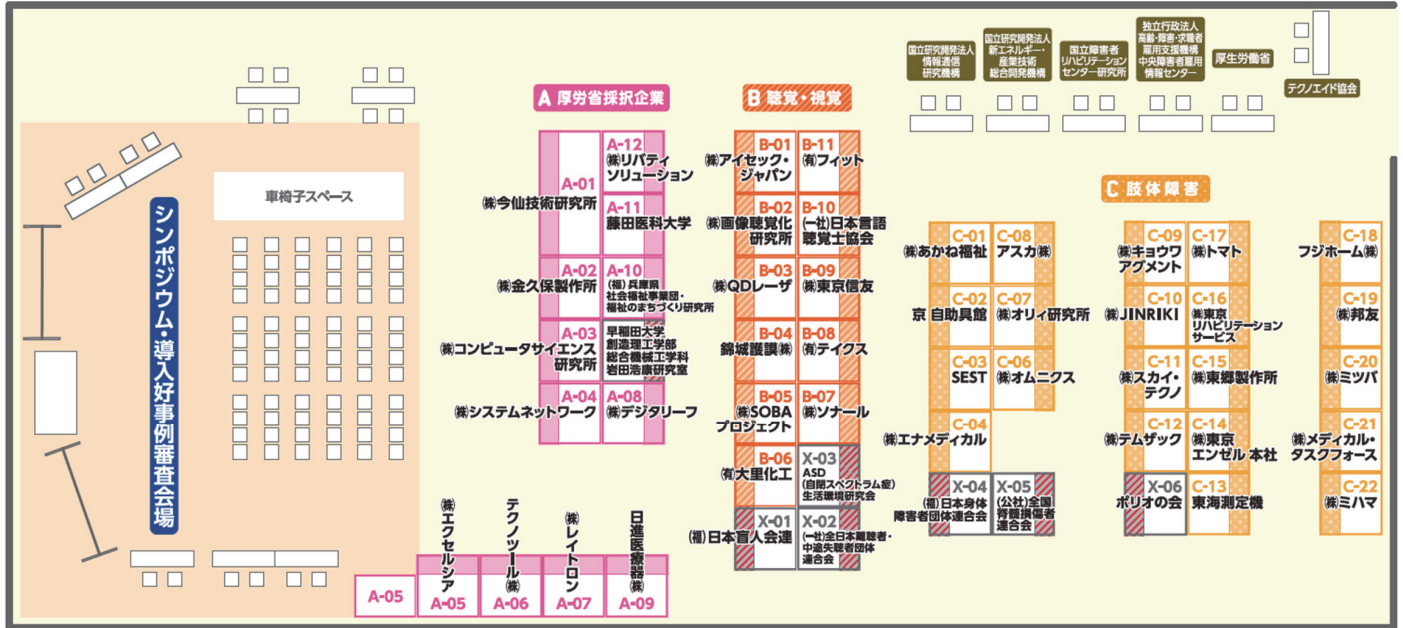
III. 運営・交流会全般についてうかがいます	
交流会全般に関するご意見・感想・今後来て欲しい企業などがあれば記載してください	()

⇒ 裏面に続きます

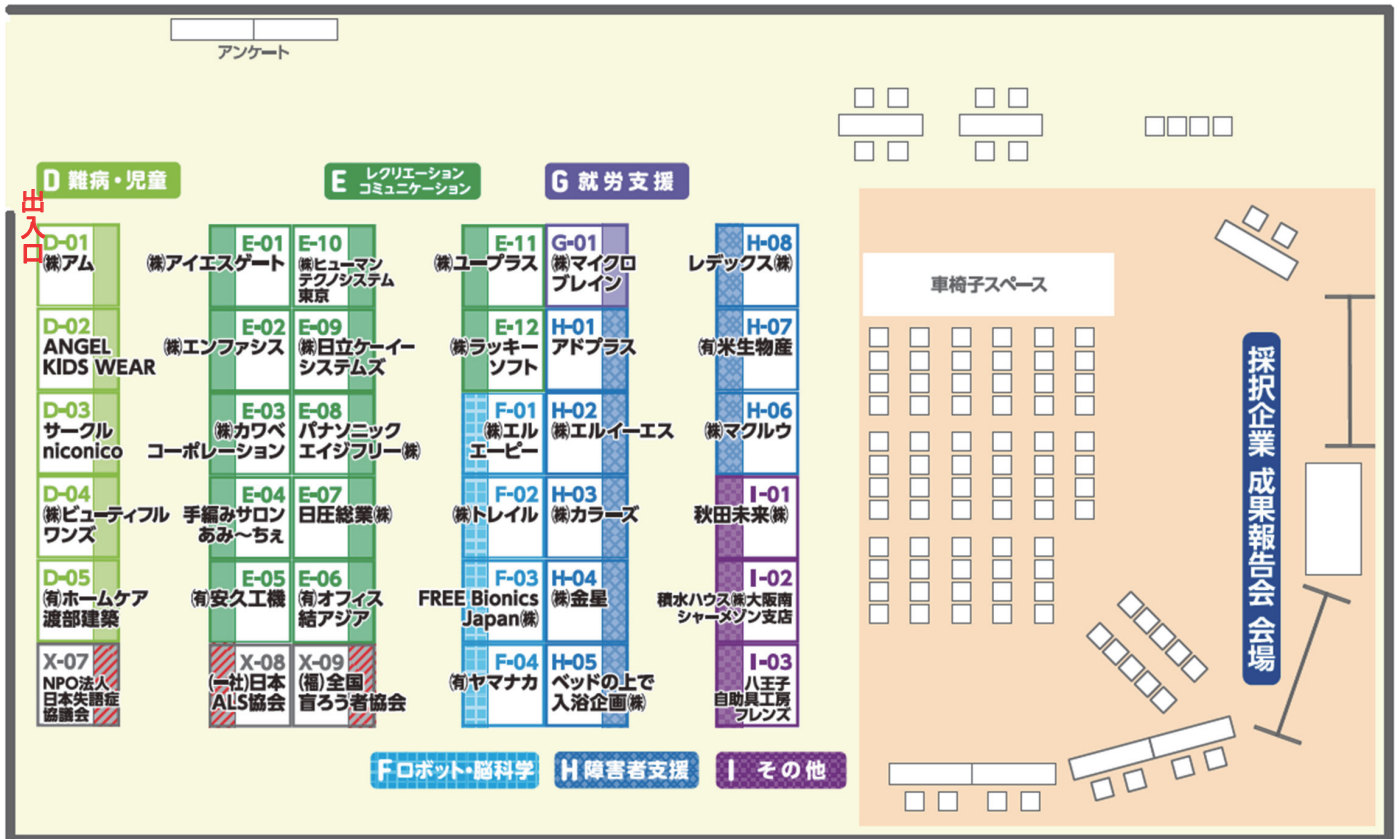
IV. 交流した企業・団体についてうかがいます

かすのなかで、交流したすべての企業・団体のブース部分に○をつけてください

WESTホール



EASTホール



ご協力ありがとうございました。お帰りの際に会場入り口付近の回収箱にご提出ください。

5. アンケート結果

(1) 来場者のアンケートの結果

本交流会では来場者に対し、交流会参加の目的や目的の達成度、満足度についてアンケート調査を実施した。アンケート結果は以下の通りである。

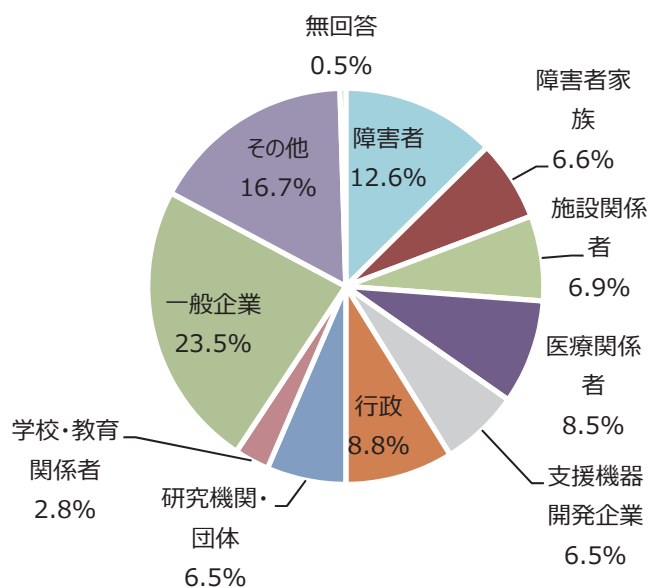
<アンケートの回収結果>

	参加者数	回収数	回収率
大阪開催	320人	237件	74.1%
福岡開催	127人	122件	96.1%
東京開催	362人	275件	76.0%
全体	809人	634件	78.4%

○来場者の属性

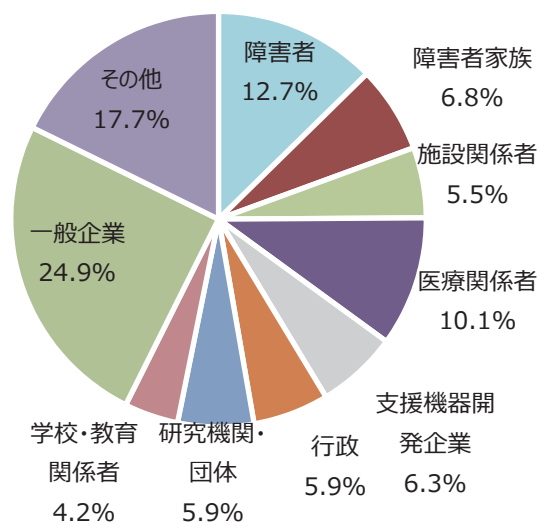
【全体】

No.	選択肢	件数	割合
1	障害者	80	12.6%
2	障害者家族	42	6.6%
3	施設関係者	44	6.9%
4	医療関係者	54	8.5%
5	支援機器開発企業	41	6.5%
6	行政	56	8.8%
7	研究機関・団体	41	6.5%
8	学校・教育関係者	18	2.8%
9	一般企業	149	23.5%
10	その他	106	16.7%
	無回答	3	0.5%
	合計	634	100.0%



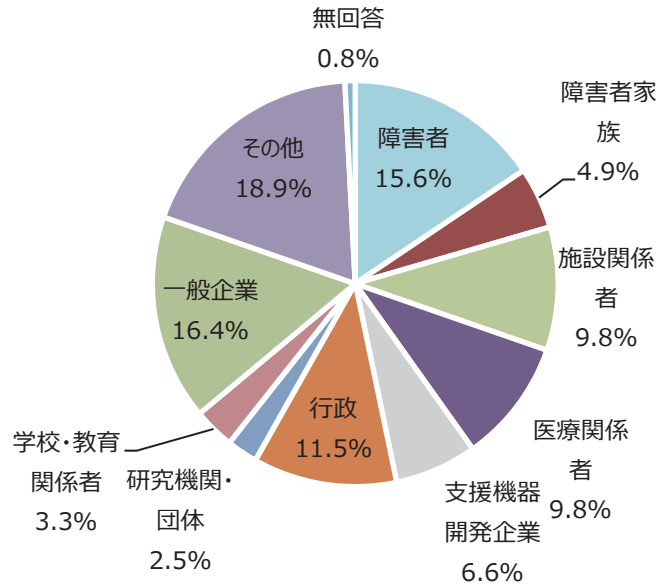
【大阪開催】

No.	選択肢	件数	割合
1	障害者	30	12.7%
2	障害者家族	16	6.8%
3	施設関係者	13	5.5%
4	医療関係者	24	10.1%
5	支援機器開発企業	15	6.3%
6	行政	14	5.9%
7	研究機関・団体	14	5.9%
8	学校・教育関係者	10	4.2%
9	一般企業	59	24.9%
10	その他	42	17.7%
	合計	237	100.0%



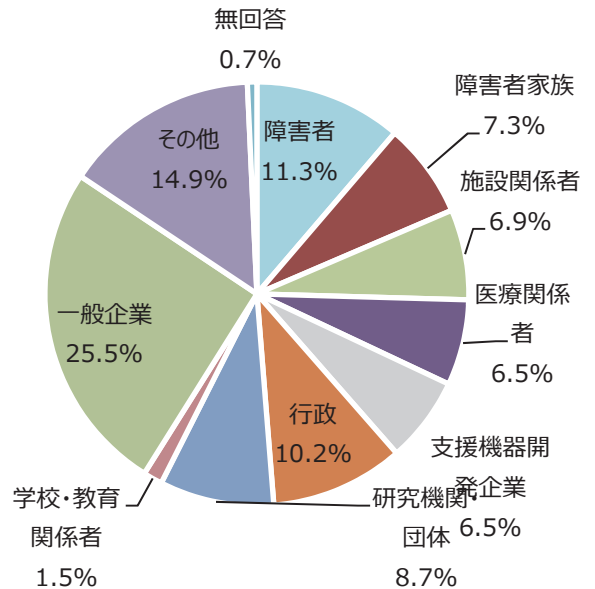
【福岡開催】

No.	選択肢	件数	割合
1	障害者	19	15.6%
2	障害者家族	6	4.9%
3	施設関係者	12	9.8%
4	医療関係者	12	9.8%
5	支援機器開発企業	8	6.6%
6	行政	14	11.5%
7	研究機関・団体	3	2.5%
8	学校・教育関係者	4	3.3%
9	一般企業	20	16.4%
10	その他	23	18.9%
	無回答	1	0.8%
	合計	122	100.0%



【東京開催】

No.	選択肢	件数	割合
1	障害者	31	11.3%
2	障害者家族	20	7.3%
3	施設関係者	19	6.9%
4	医療関係者	18	6.5%
5	支援機器開発企業	18	6.5%
6	行政	28	10.2%
7	研究機関・団体	24	8.7%
8	学校・教育関係者	4	1.5%
9	一般企業	70	25.5%
10	その他	41	14.9%
	無回答	2	0.7%
	合計	275	100.0%

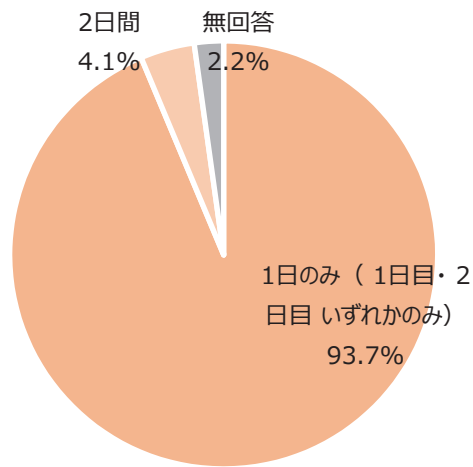


※その他：コンサル、建築関係、展示会運営団体など。

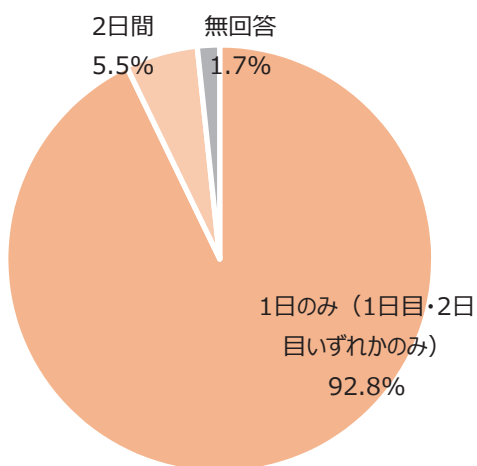
※一般企業は今後、支援機器の開発を目指す企業を含む。

○参加日数

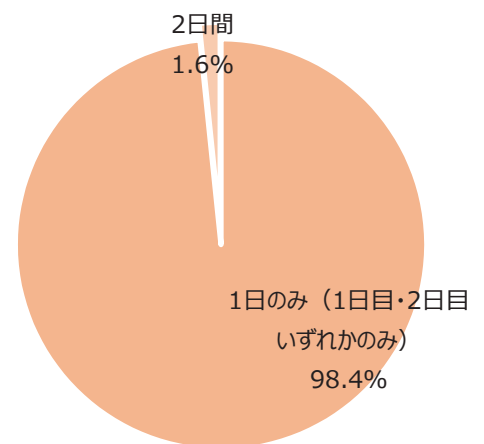
【全体】(n = 634)



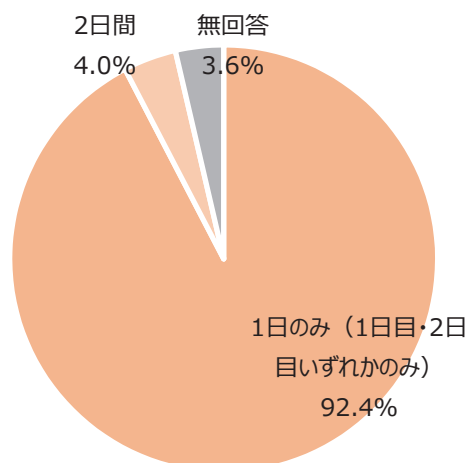
【大阪開催】(n = 237)



【福岡開催】(n = 122)

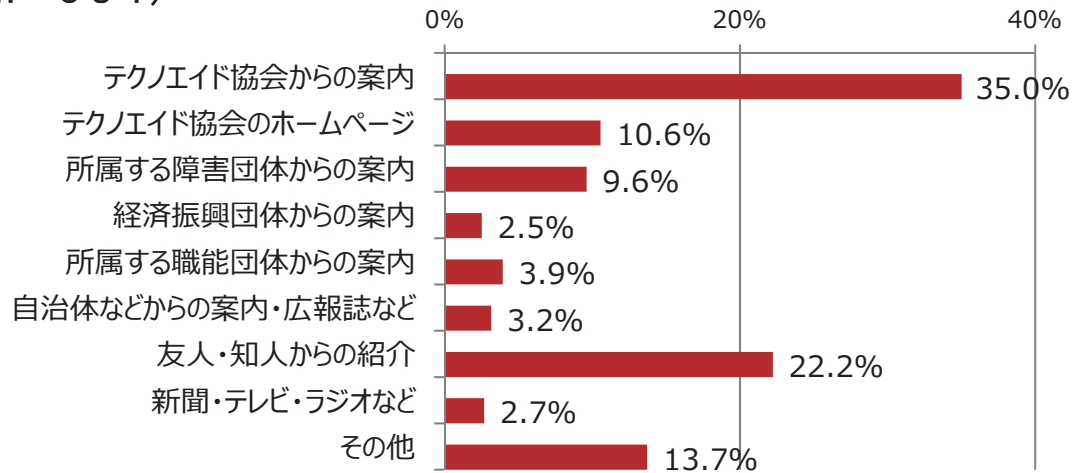


【東京開催】(n = 275)

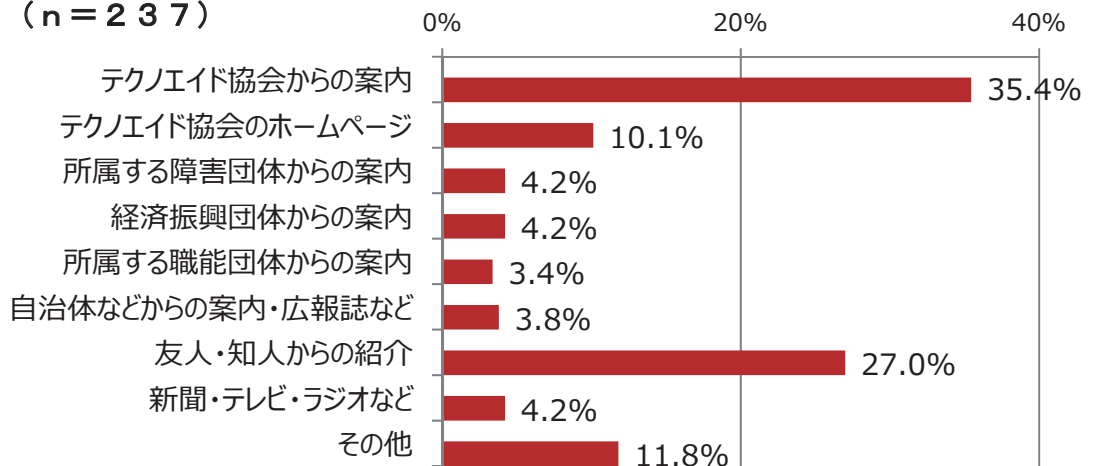


○交流会をどのように知ったか

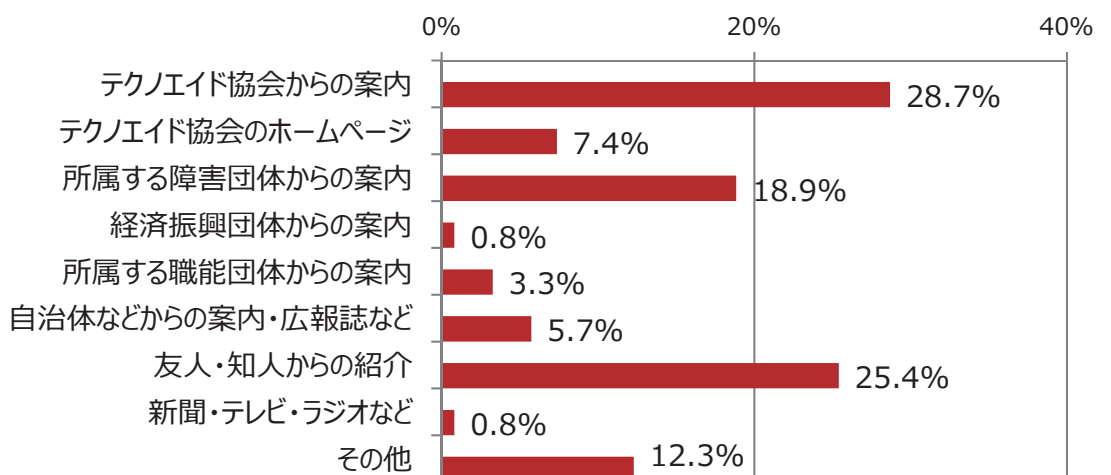
【全体】（n = 634）



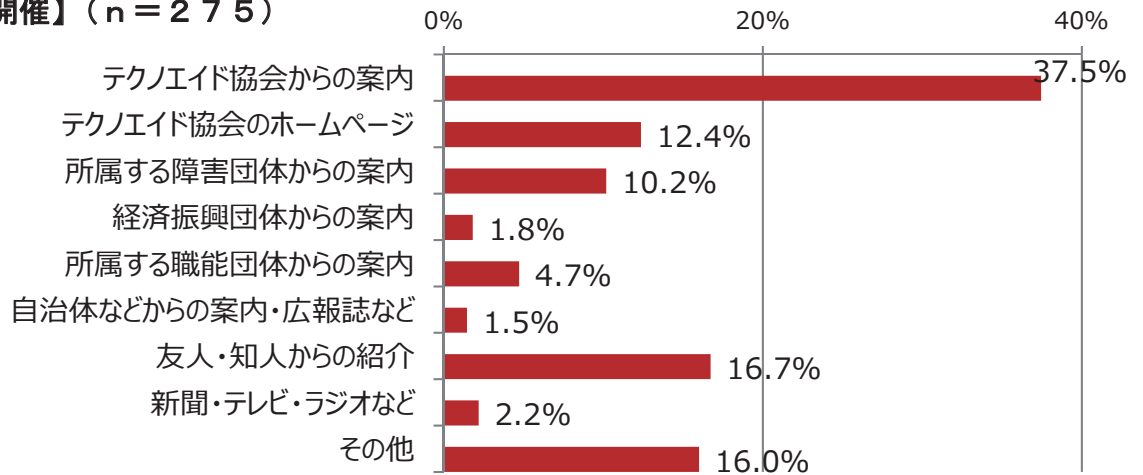
【大阪開催】（n = 237）



【福岡開催】（n = 122）



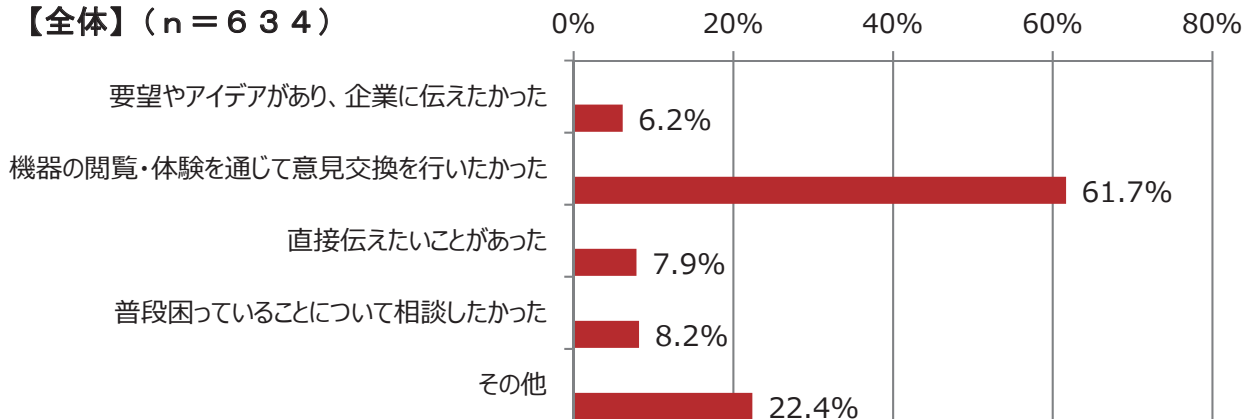
【東京開催】（n = 275）



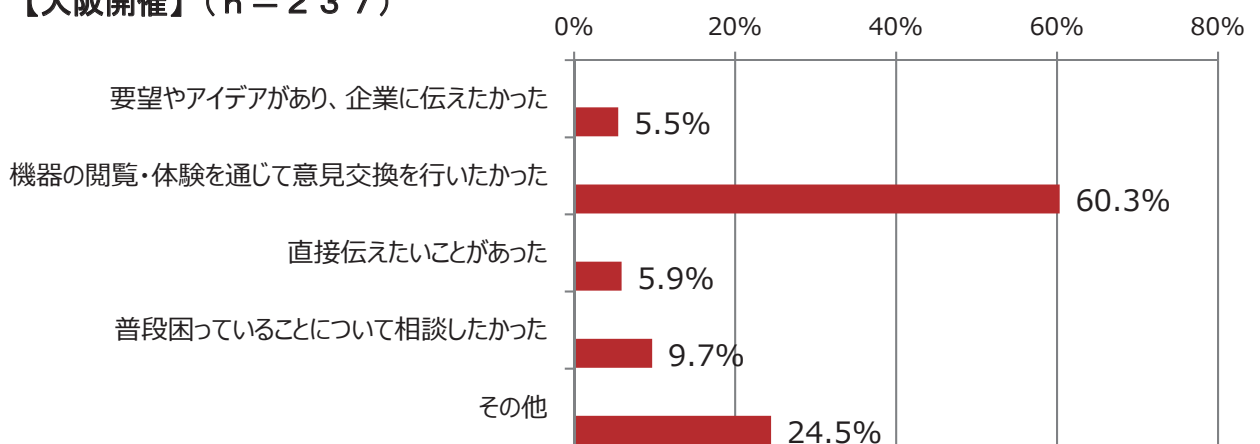
その他：厚生労働省HP、前回の参加、協力企業の紹介、出展者からの紹介、フェイスブックなど

○どのような目的で来場したか

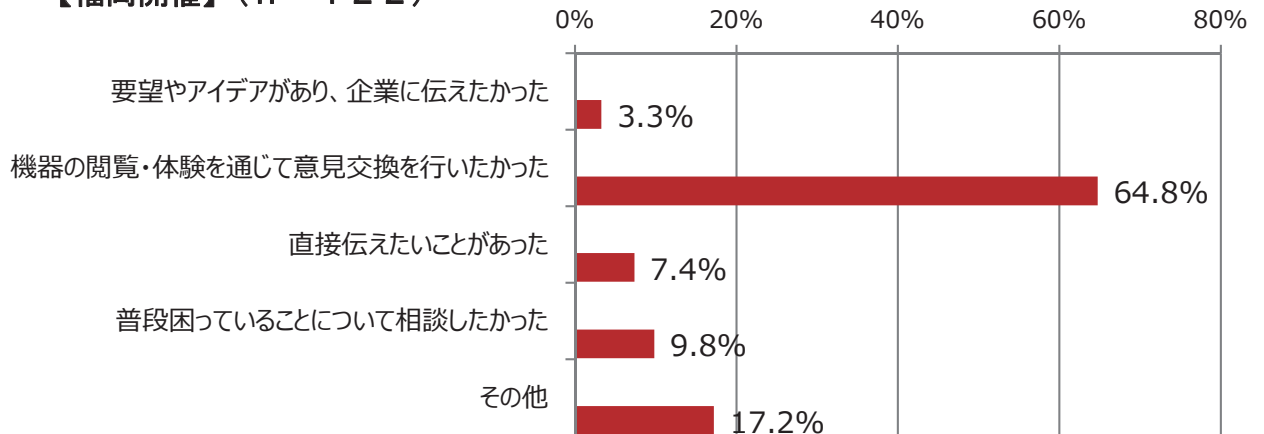
【全体】（n = 634）



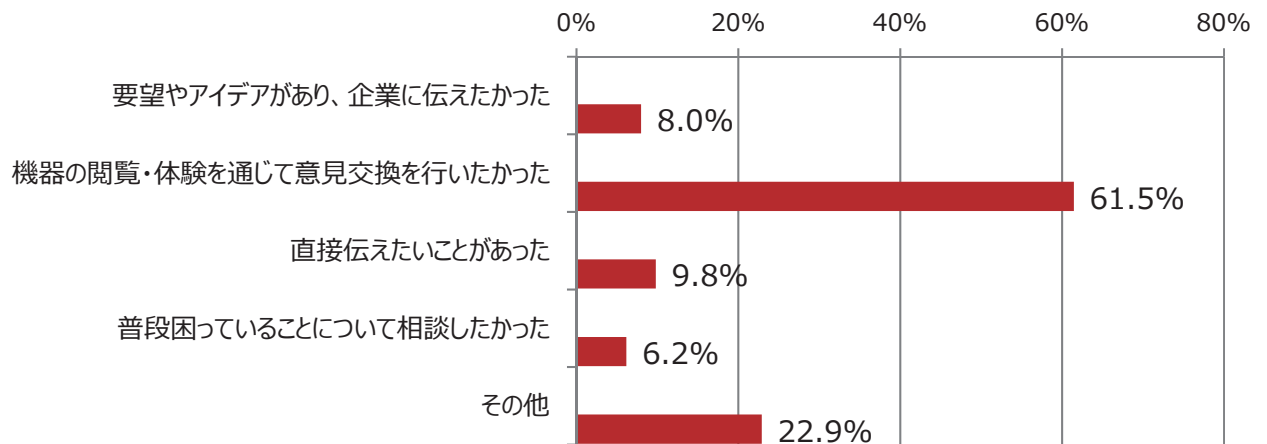
【大阪開催】（n = 237）



【福岡開催】（n = 122）



【東京開催】（n = 275）



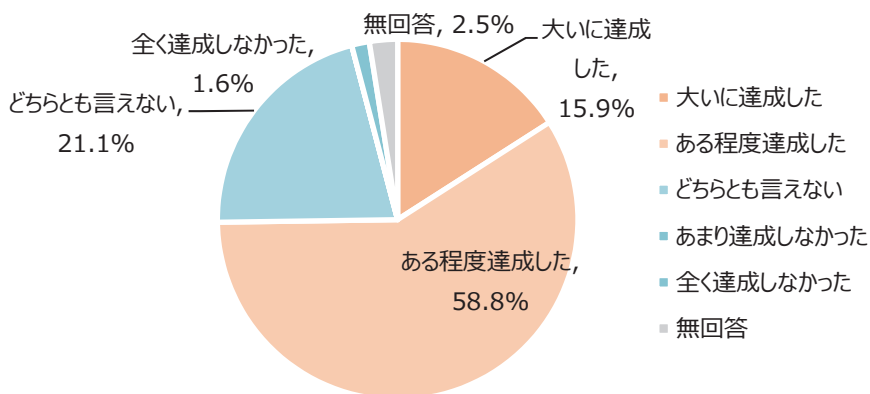
その他：新しいサービスの開発調査の為、カタログ入手、協力体制の検討、技術動向・市場調査、情報収集、プレゼンを見に来たなど

○どのような交流や意見交換ができたか（自由記述）

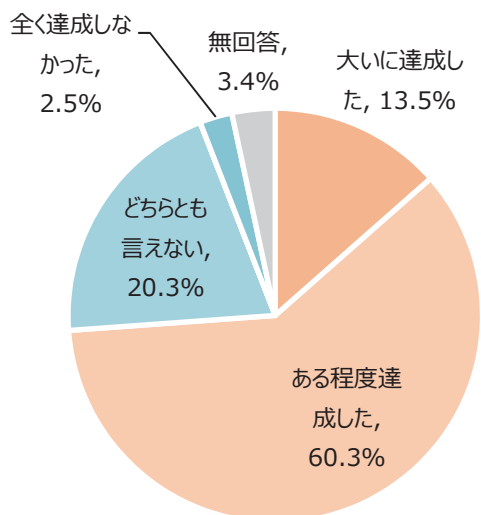
- 現場における現状の悩み、お困りを解決するための対応策と現状について。
- 商品に触れて、学校に設置するかどうかを参考にできた。
- 新しいアイディア、点字機器の別用途のアイディア提供。自分の専門以外の分野のニーズと機器の現状。
- 障害者目線で物を作られている企業のポイントとなるところ、こだわりを伺うことが出来た。
- 半日の参加でしたが、時間が足りませんでした。
- 本人が興味あるものに触れさせることが出来、よかった。これからそれらを使って活用できたらいいなと思った。
- 支援機器の使い方について有意義なディスカッションができました。
- 開発時のねらいやモニタリング方法、実使用での利用者からのフィードバック。

○目的の達成度について

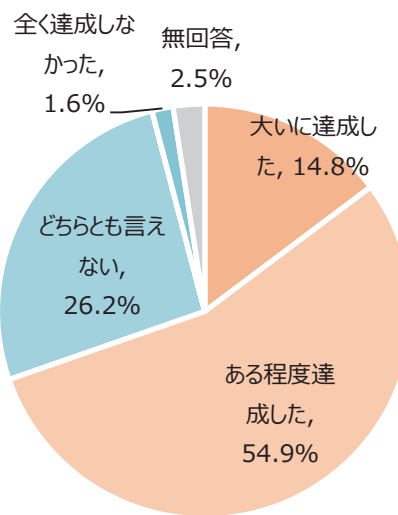
【全体】(n = 634)



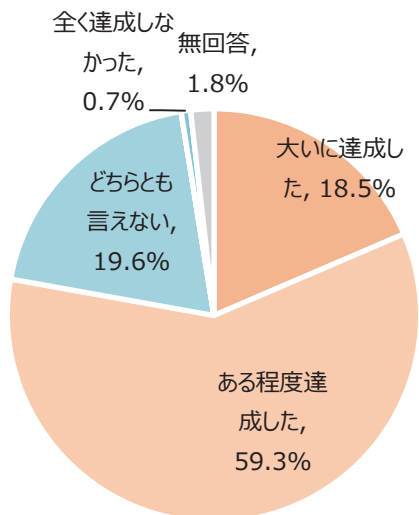
【大阪開催】(n = 237)



【福岡開催】(n = 122)

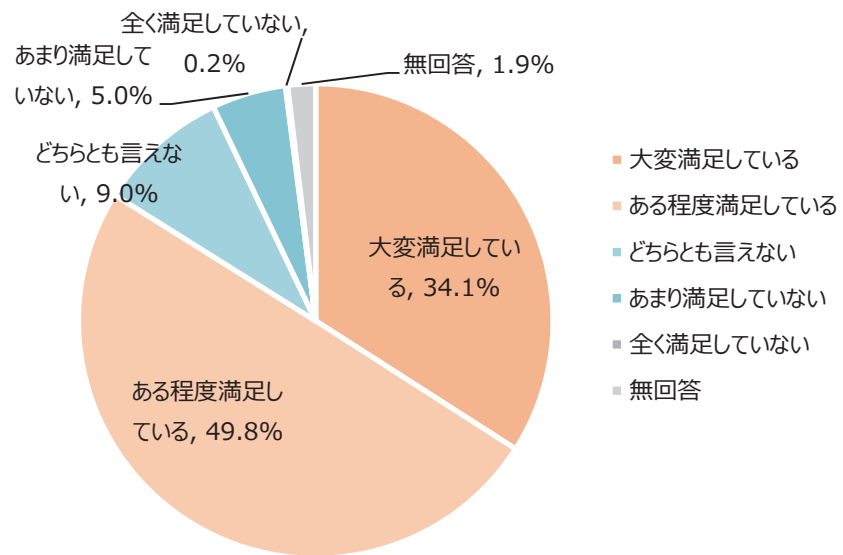


【東京開催】(n = 275)

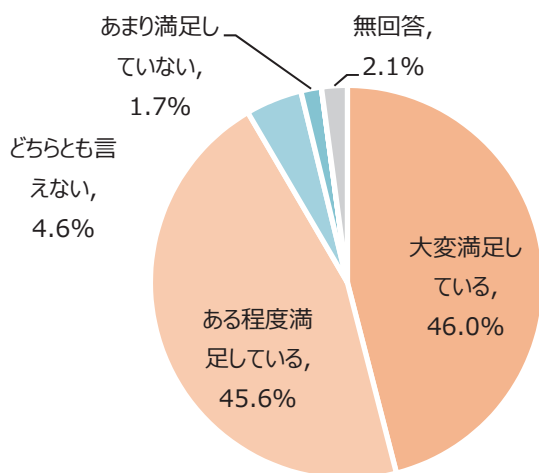


○会場の立地や利便性について

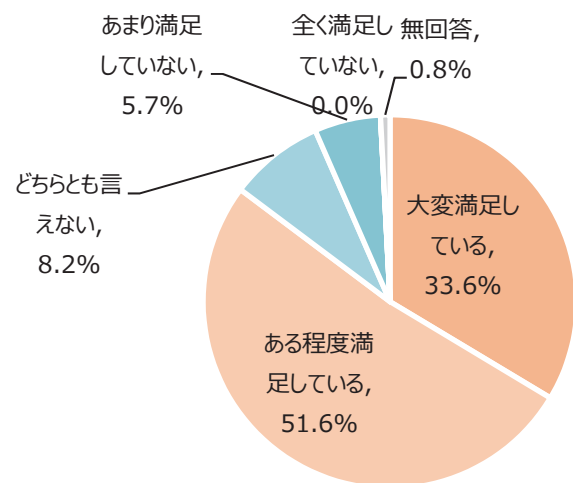
【全体】(n=634)



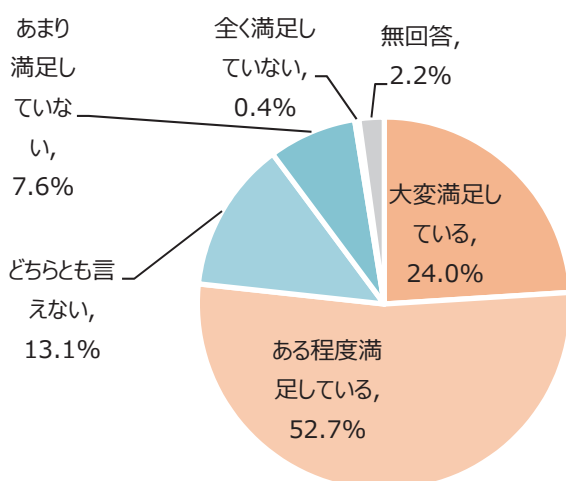
【大阪開催】(n=237)



【福岡開催】(n=122)

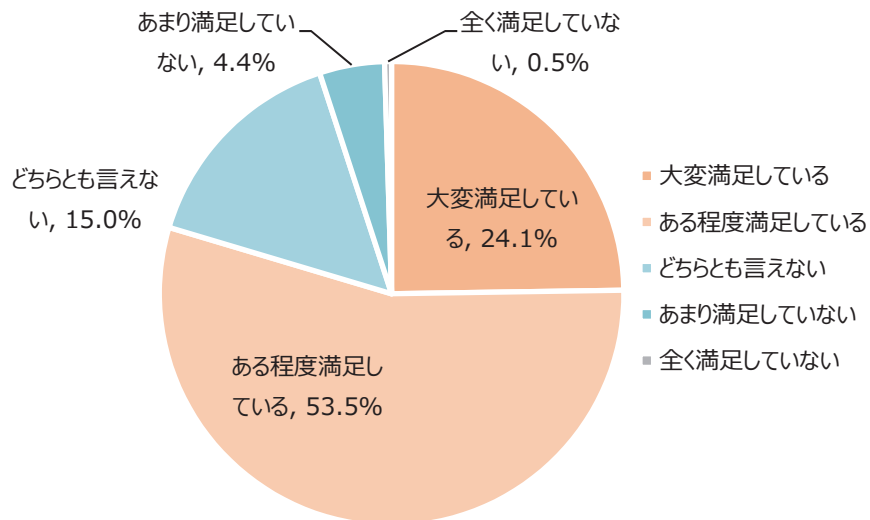


【東京開催】(n=275)

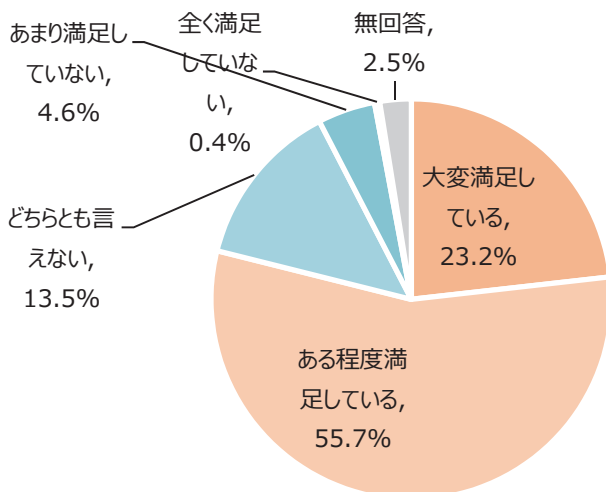


○会場内の配置や展示について

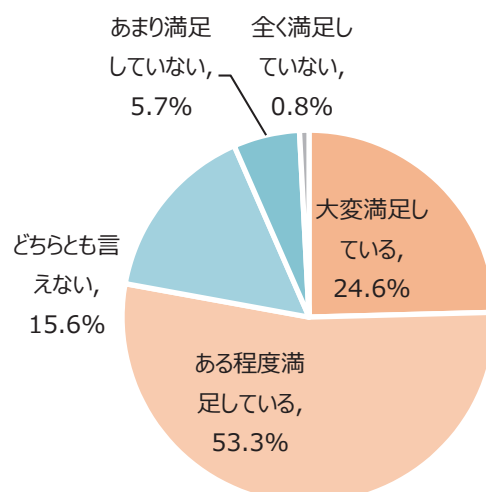
【全体】(n = 634)



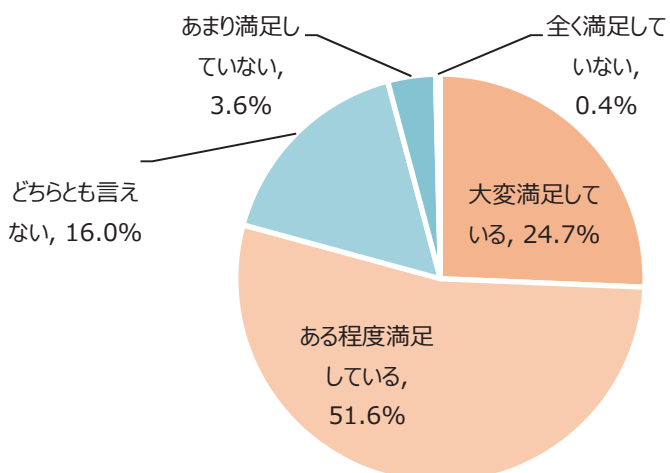
【大阪開催】(n = 237)



【福岡開催】(n = 122)

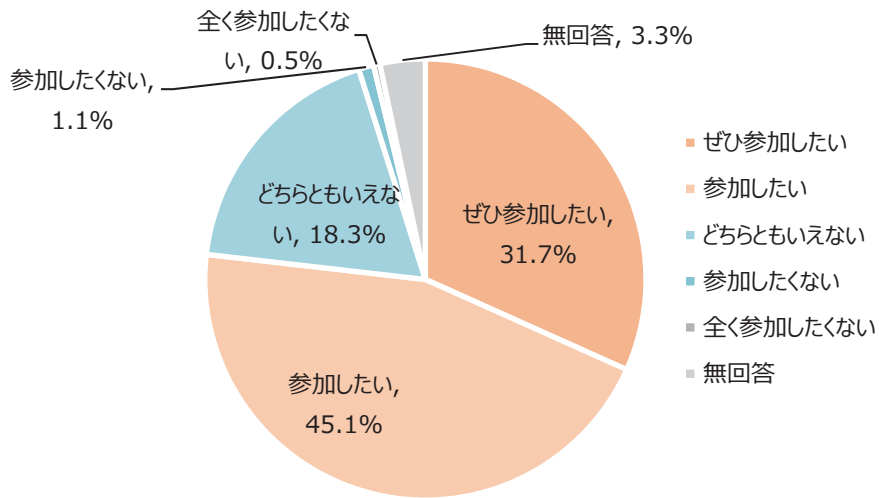


【東京開催】(n = 275)

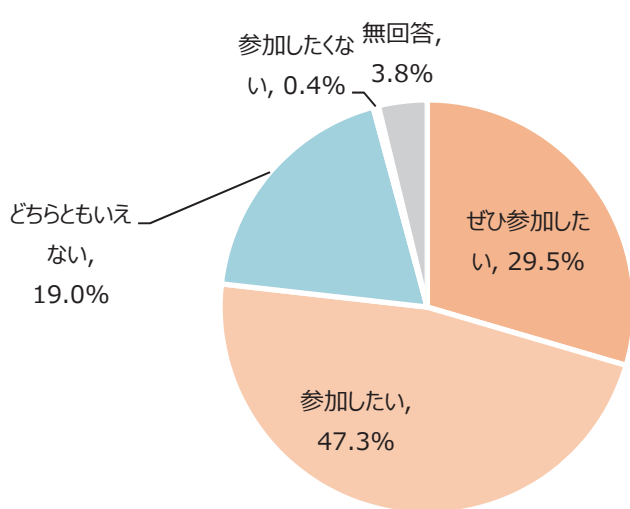


○来年も参加したいか

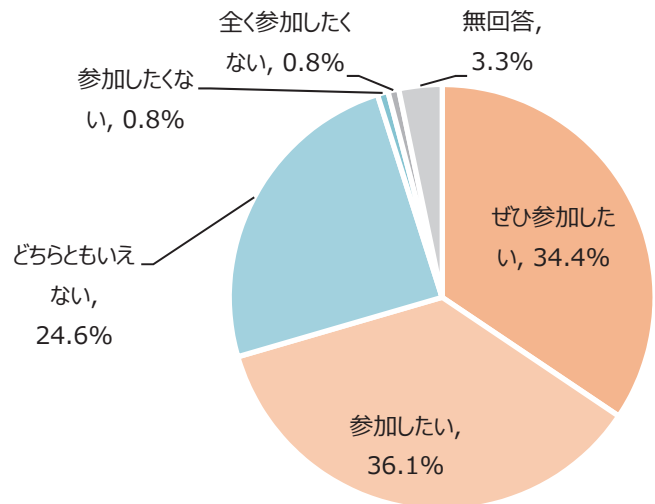
【全体】(n = 634)



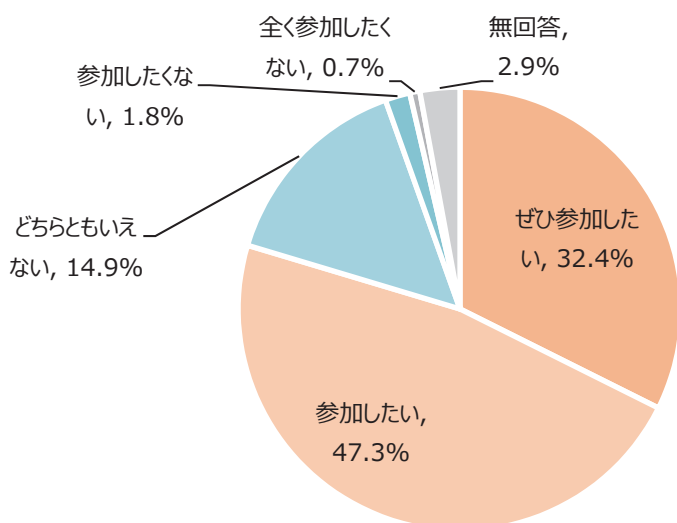
【大阪開催】(n = 237)



【福岡開催】(n = 122)



【東京開催】(n = 275)



○交流会全般に関するご意見・感想・今後來てほしい企業などがあるか（自由記述）

- 企業、エンドユーザー等異業種交流ができ、大変良いと思います
- 見ていてとても面白かった。親身になって話を聞いてくれる企業ばかりだった
- 聴覚障害関係の展示がもっと増えるとよい
- 発達障害のブースがほしい
- 昨年も来ましたが、今年は来場者も出展者も多くなったような気がします。ぜひ広報に力を入れていただき、ニーズのある人の生活がさらに便利になることを願っています。
- かかわりのあるような機器が隣り合わせになっているところが複数あって、大変良いと思いました。
- 食生活関係の分野も見なかった
- 絵画などの創作活動で活かせるような道具等があれば良いなと思いました

(2) 出展企業・団体のアンケートの結果

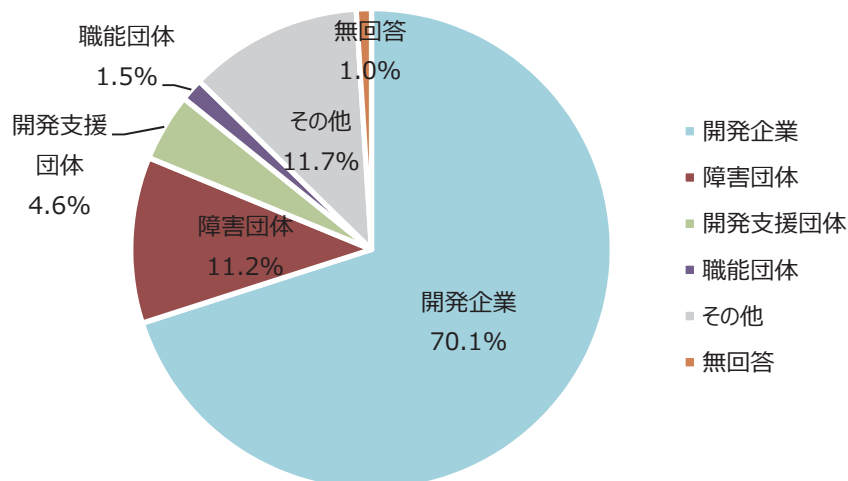
出展企業・団体に対し、交流会での成果や来場者、他の出展企業・団体との交流の状況についてアンケート調査を実施した。アンケート結果は以下のとおりである。

<アンケートの回収結果> ※重複を除く出展企業及び団体の総数は113件

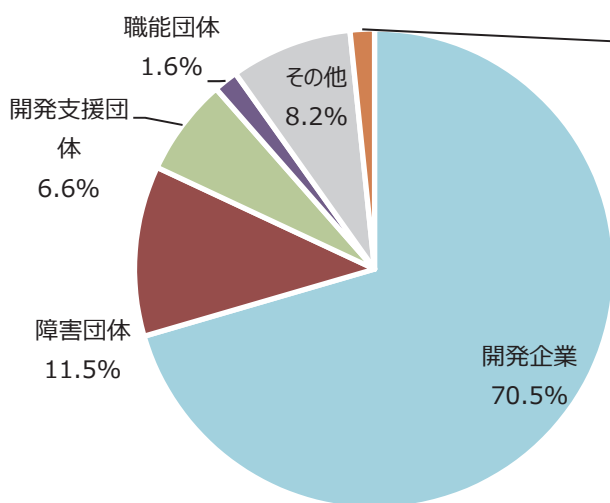
	参加者数	回収数	回収率
大阪開催	61件	61件	100%
福岡開催	46件	46件	100%
東京開催	90件	90件	100%
全体	197件	197件	100%

○出展者の属性

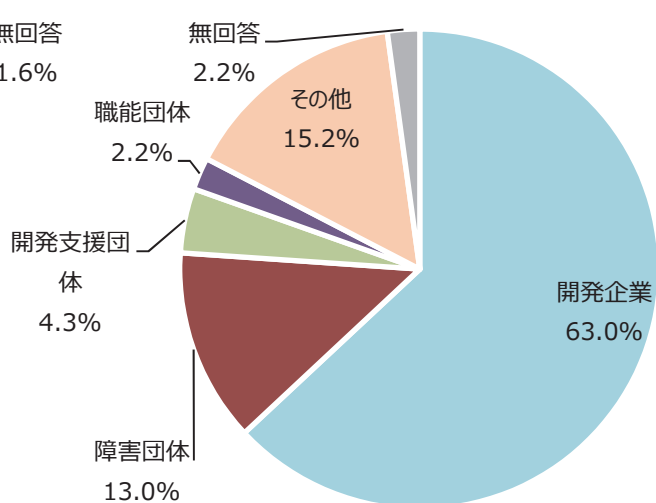
【全体】(n=197)



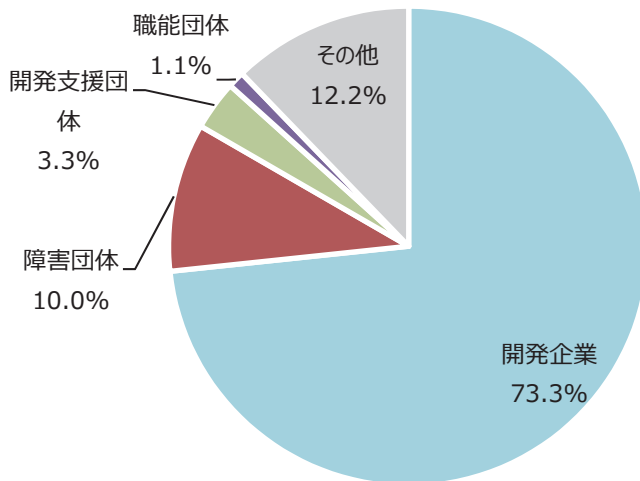
【大阪開催】(n=61)



【福岡開催】(n=46)

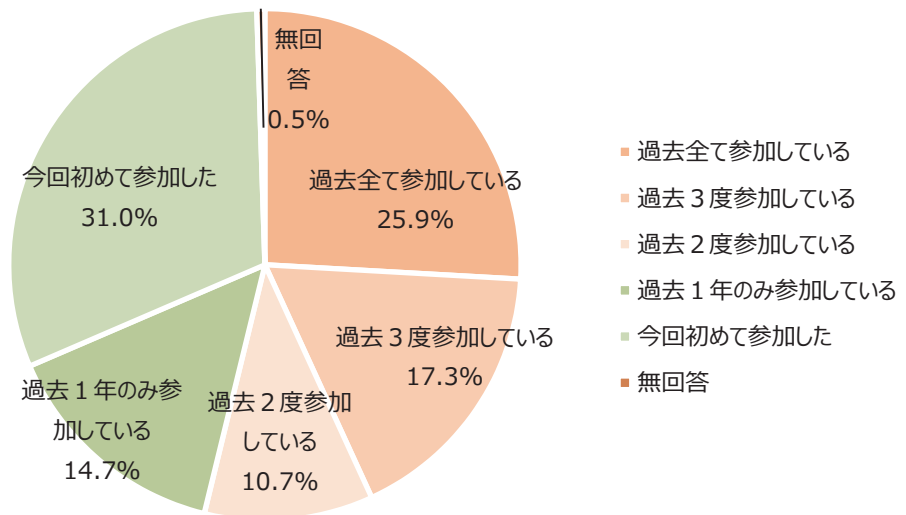


【東京開催】 (n = 90)

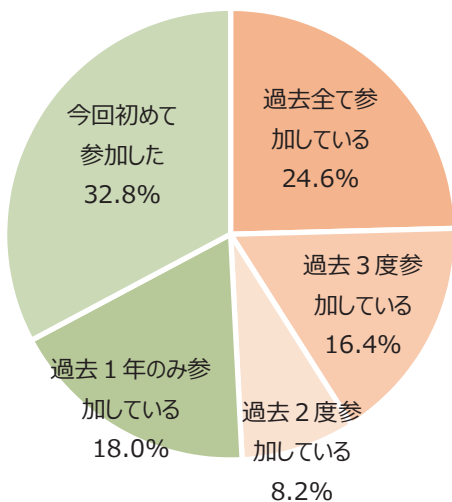


○過去の参加状況について (2014年度から2018年度の4回)

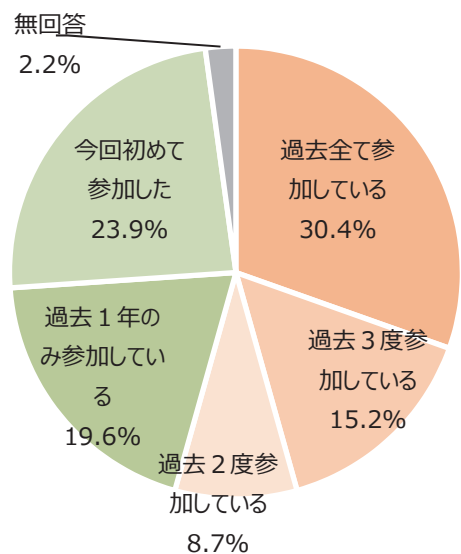
【全体】 (n = 197)



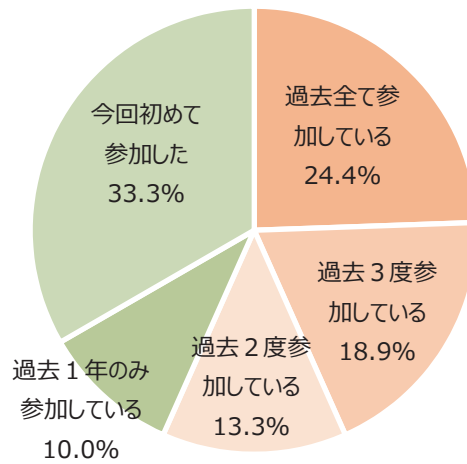
【大阪開催】 (n = 61)



【福岡開催】 (n = 46)

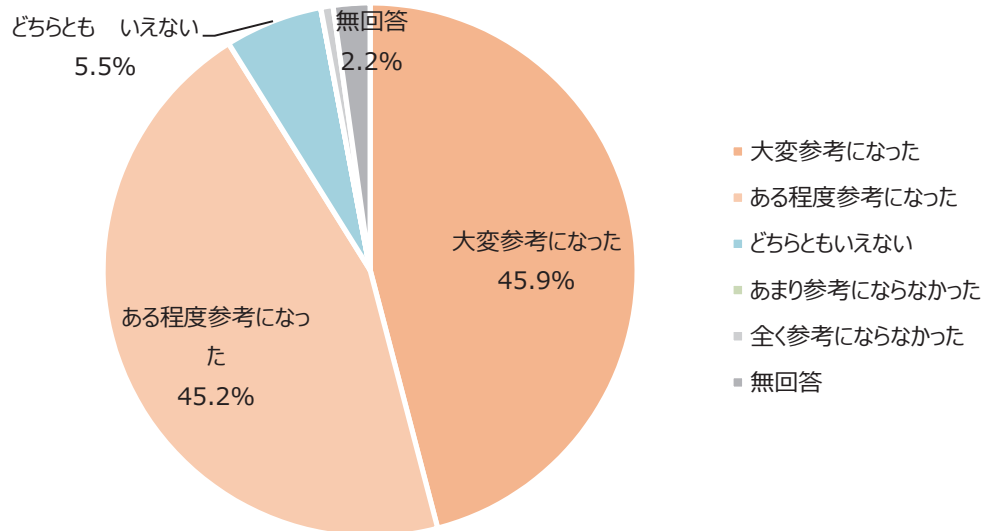


【東京開催】 (n = 90)

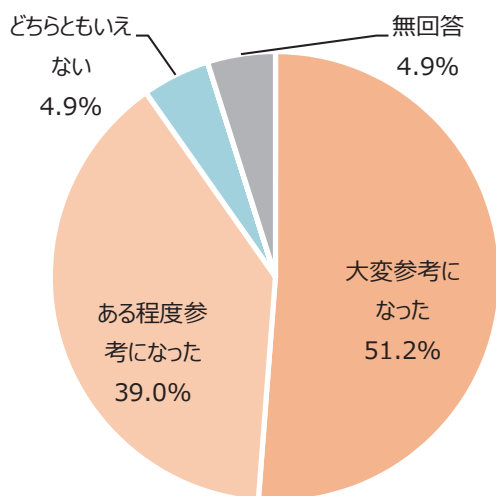


○その後の機器開発や団体の活動において参考になりましたか (初めて参加した方は除く)

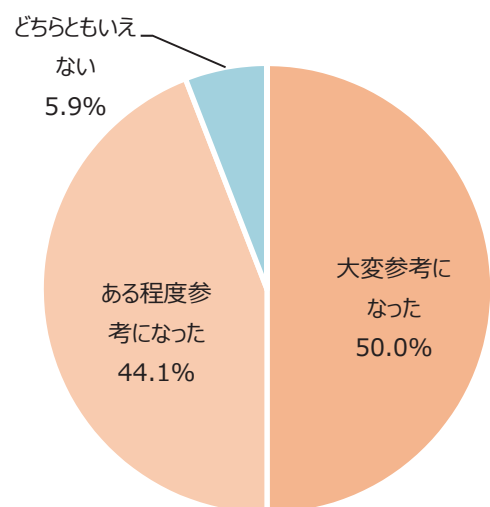
【全体】 (n = 135)

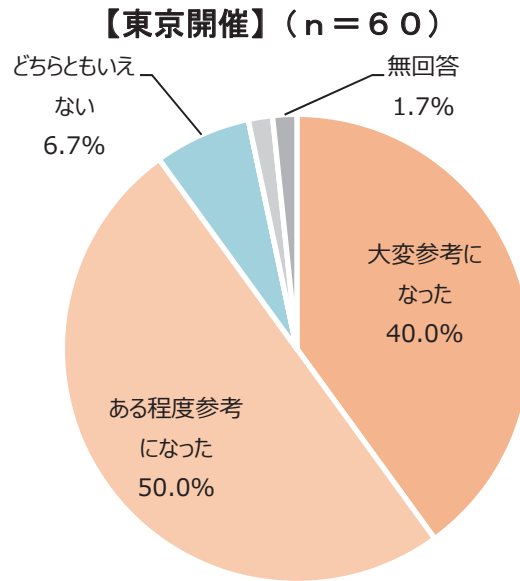


【大阪開催】 (n = 41)

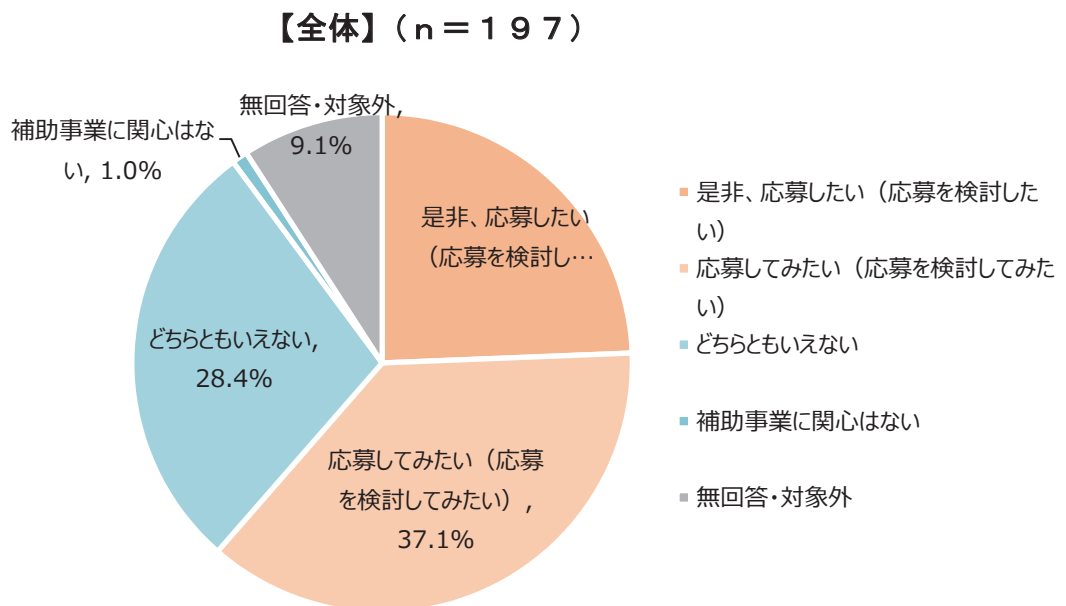


【福岡開催】 (n = 34)

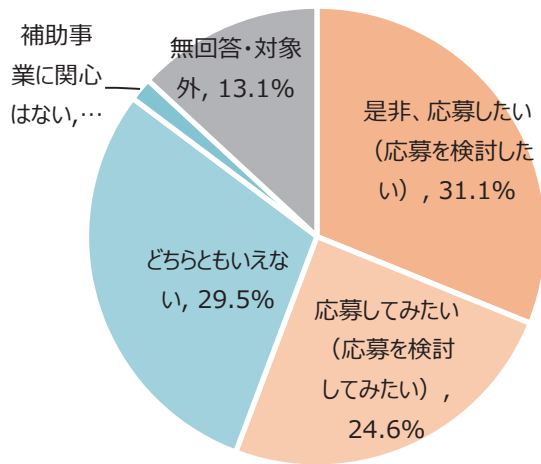




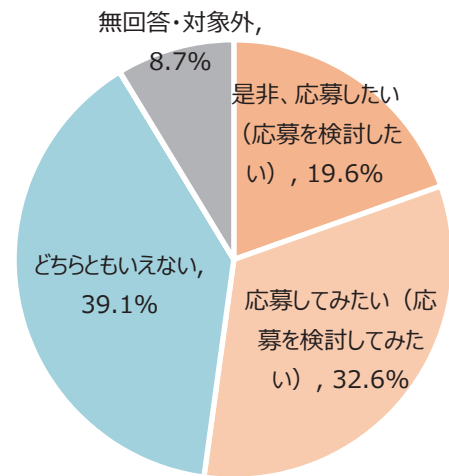
○交流会を通して「障害者自立支援機器等開発促進事業」に応募したいと思いましたが



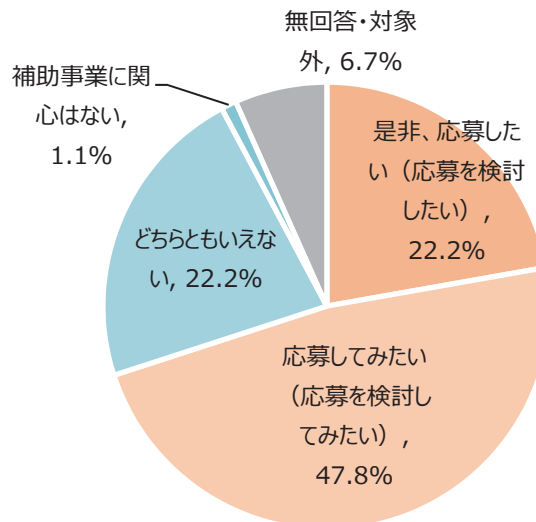
【大阪開催】(n = 61)



【福岡開催】(n = 46)

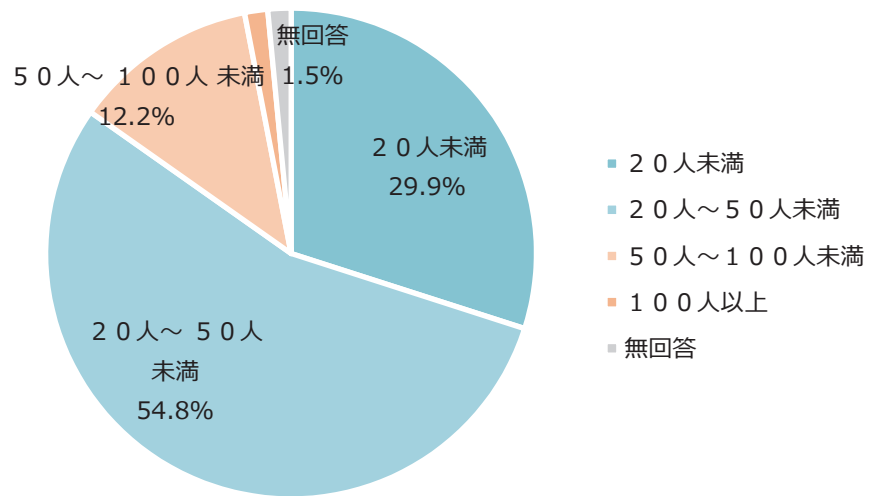


【東京開催】(n = 90)

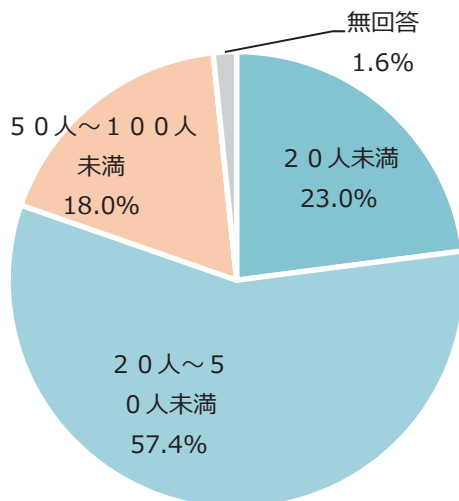


○交流を行った概ねの人数について教えてください

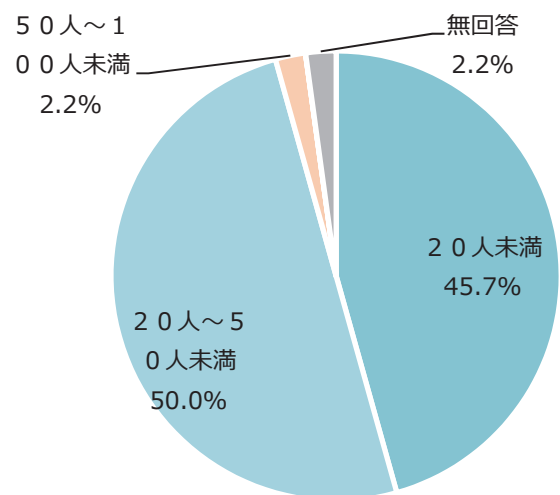
【全体】(n=197)



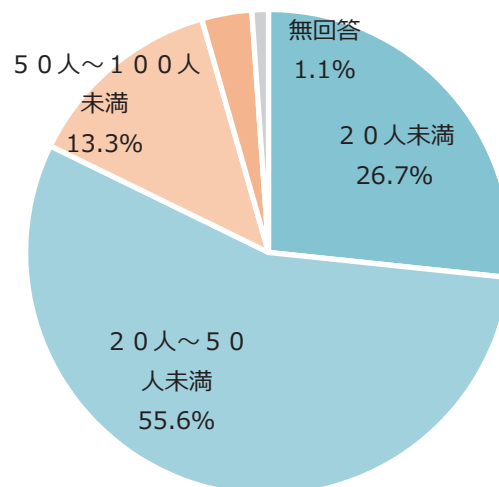
【大阪開催】(n=61)



【福岡開催】(n=46)

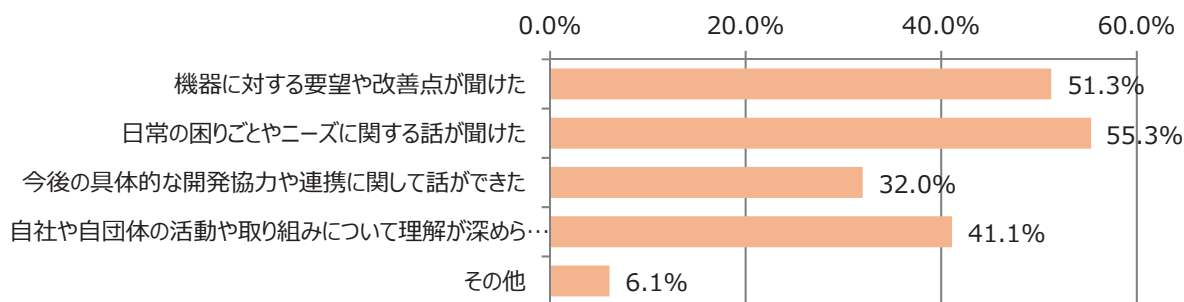


【東京開催】(n=90)

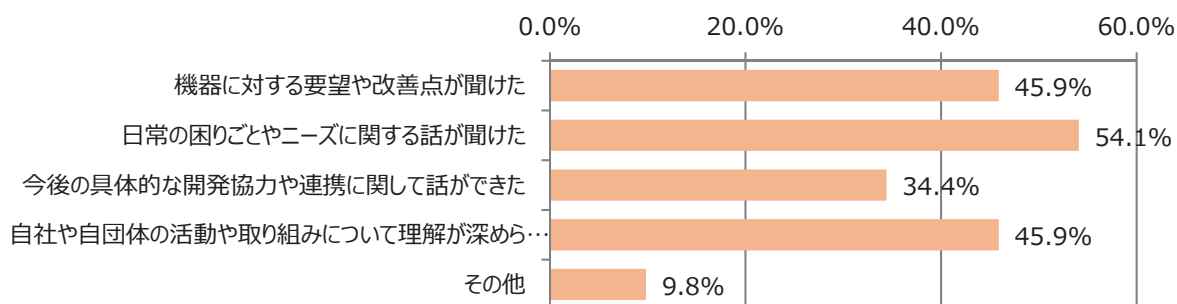


○交流の具体的な内容について教えてください

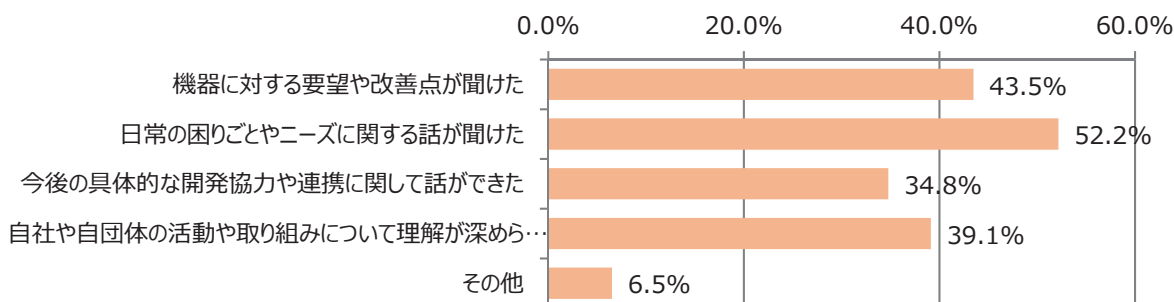
【全体】（n = 197）



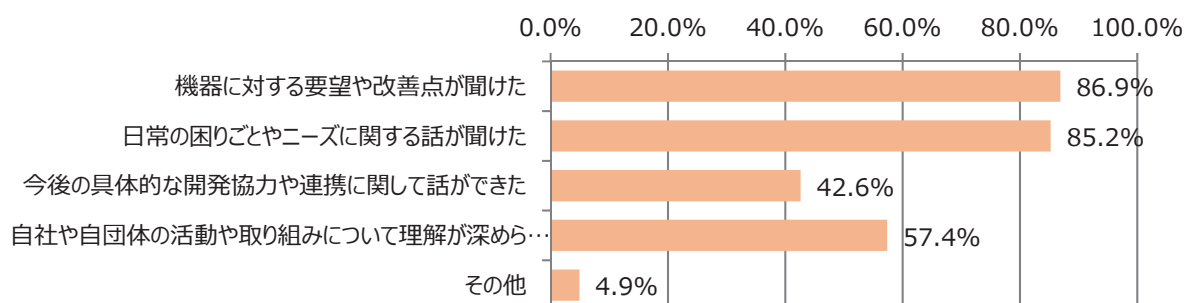
【大阪開催】（n = 61）



【福岡開催】（n = 46）



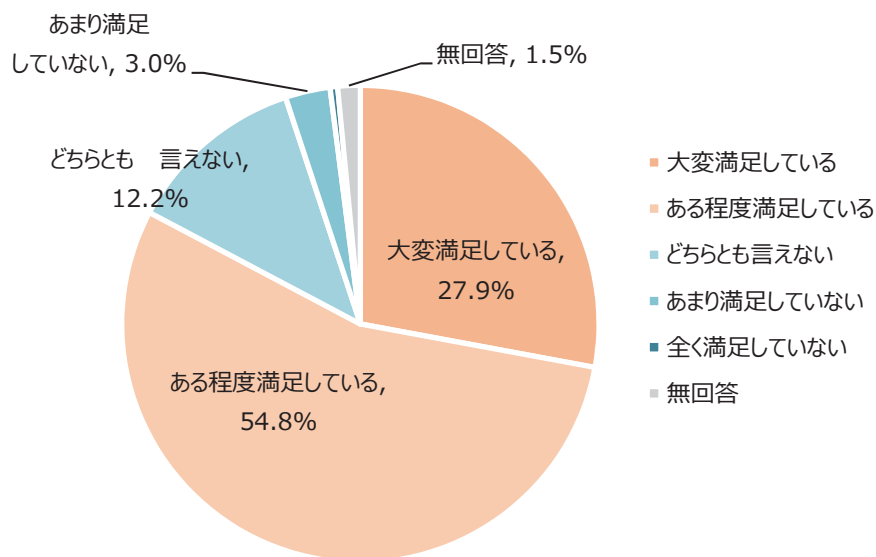
【東京開催】（n = 90）



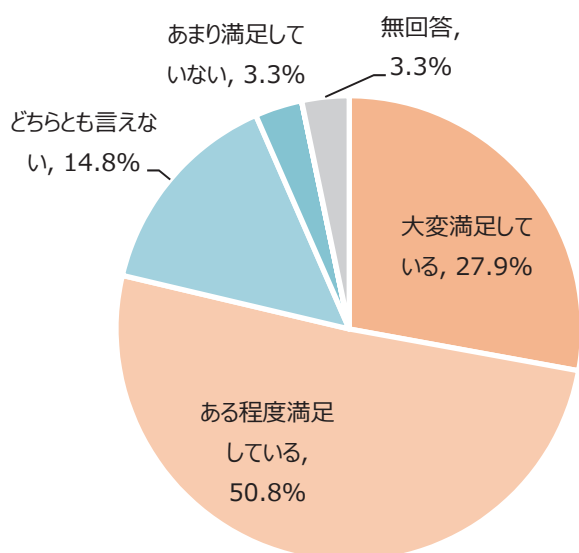
その他：当事者を行政に紹介できる交流ができた、機械の認知度を聞けた、他社や他団体での取り組み方・課題の話が聞けた、など

○交流の満足度について

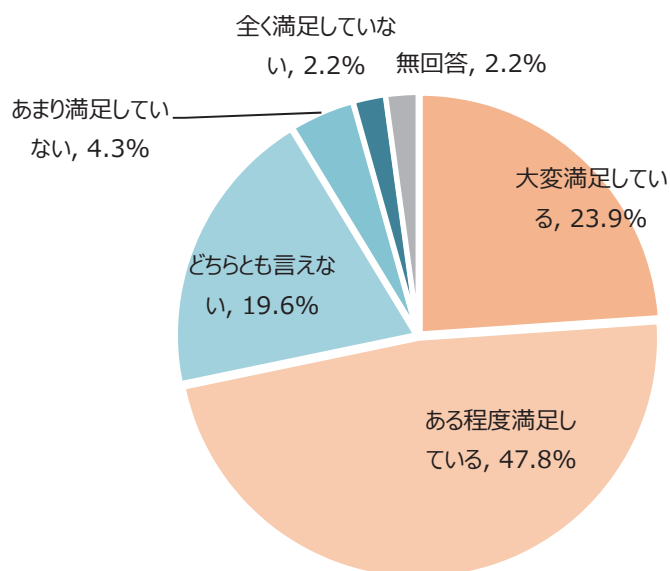
【全体】(n = 197)



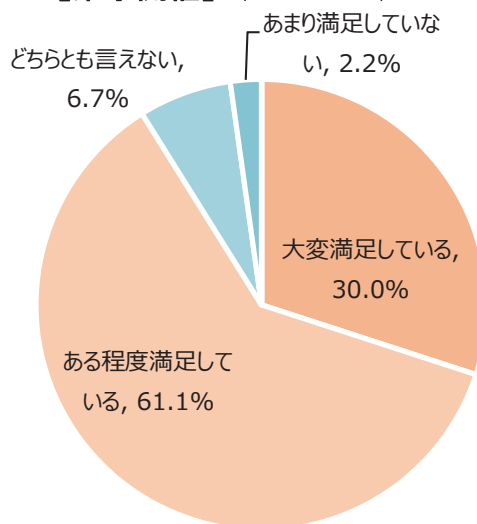
【大阪開催】(n = 61)



【福岡開催】(n = 46)

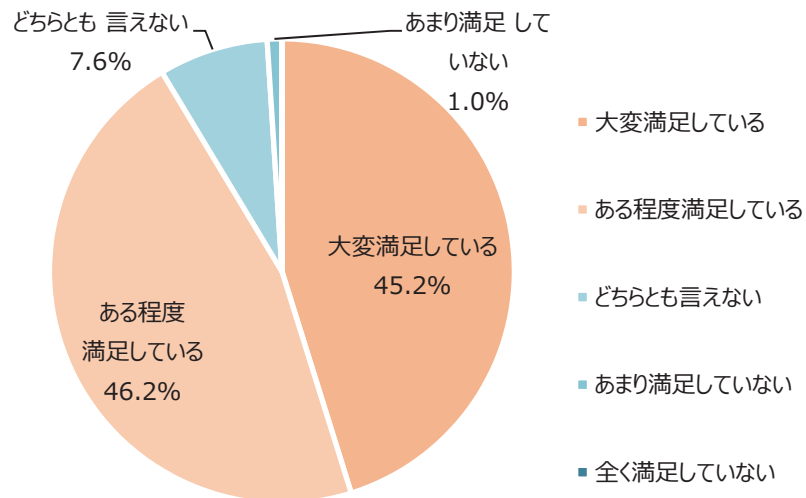


【東京開催】(n = 90)

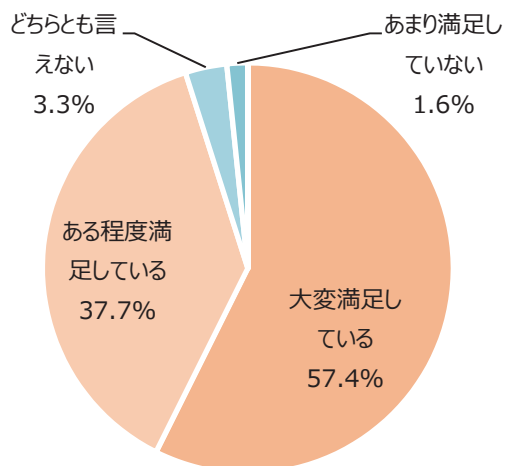


○会場の立地や利便性について

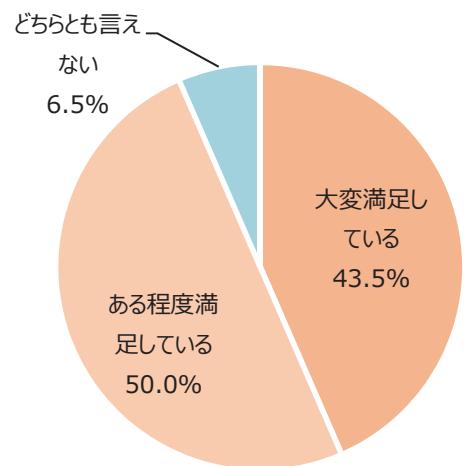
【全体】(n = 197)



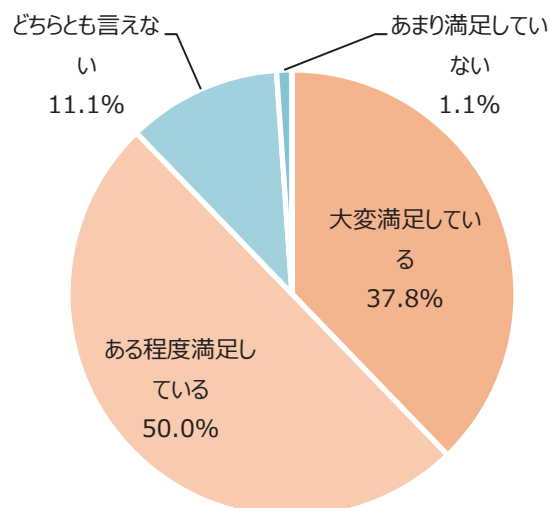
【大阪開催】(n = 61)



【福岡開催】(n = 46)

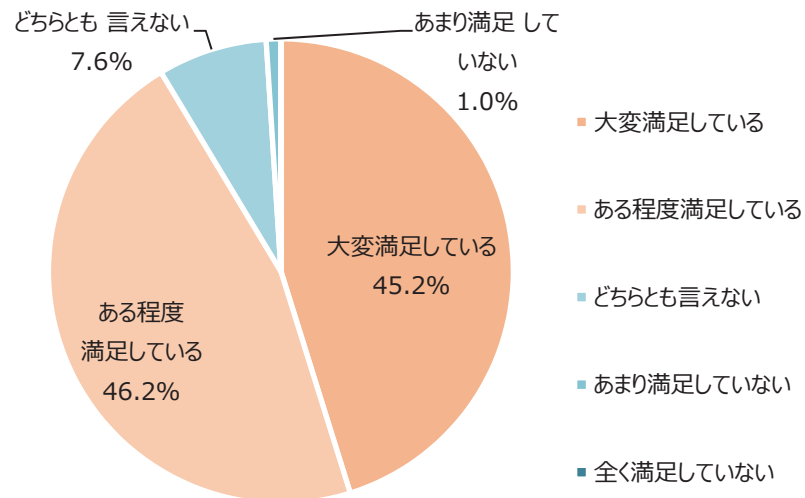


【東京開催】(n = 90)

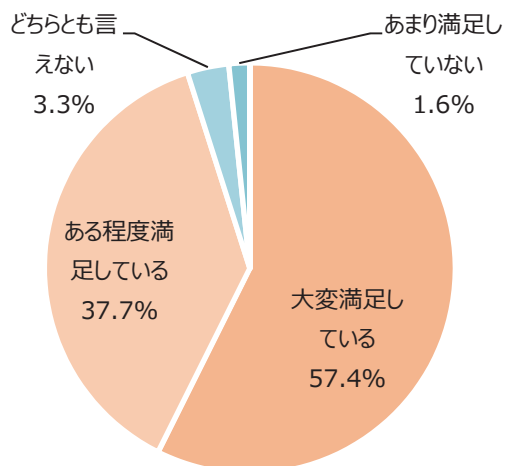


○会場の立地や利便性について

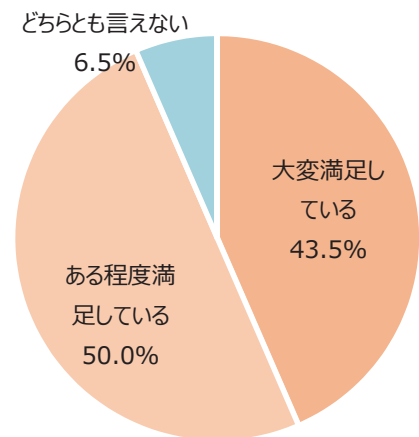
【全体】(n = 197)



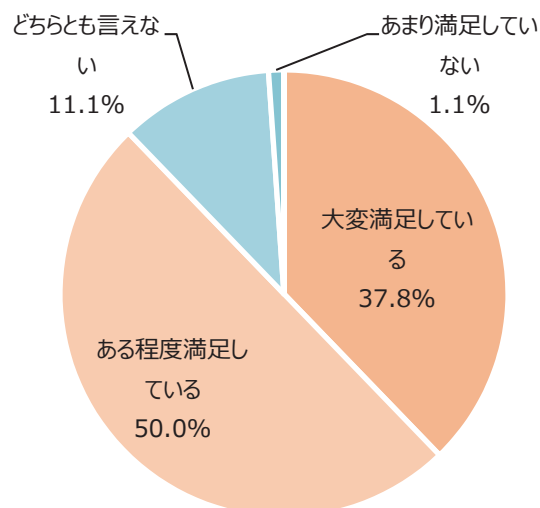
【大阪開催】(n = 61)



【福岡開催】(n = 46)

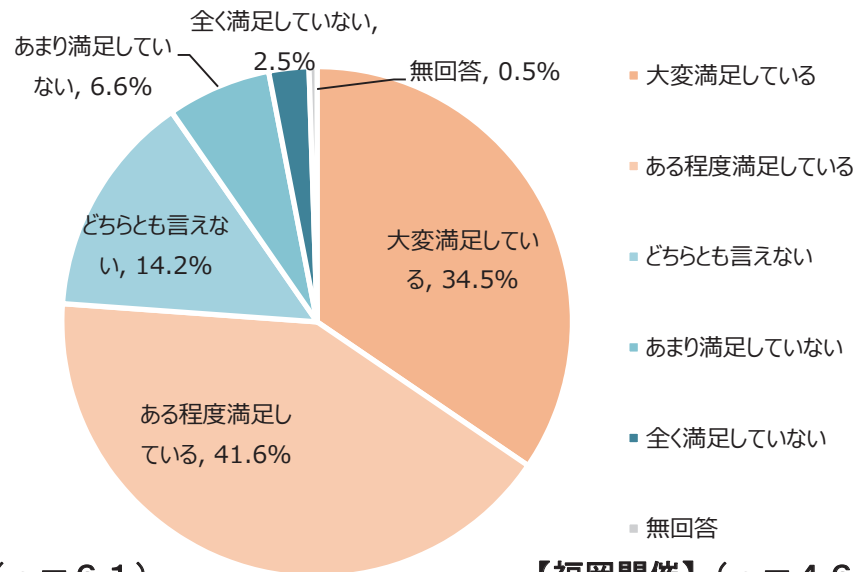


【東京開催】(n = 90)

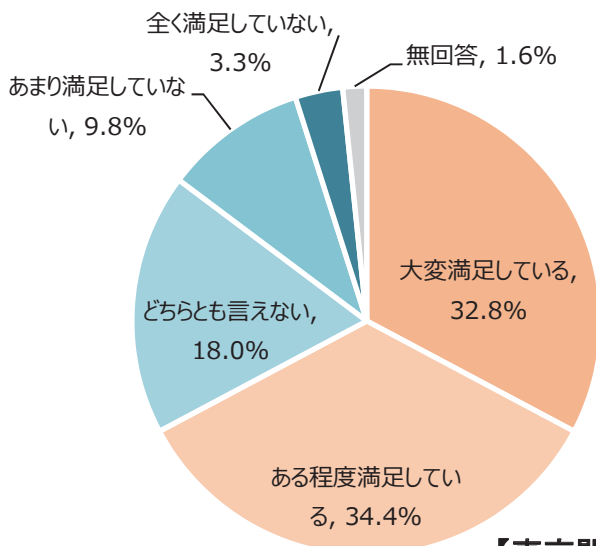


○展示ブースの配置について

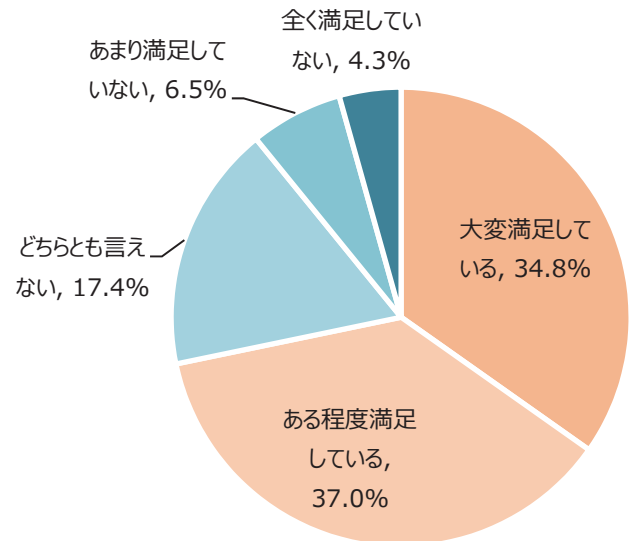
【全体】(n = 197)



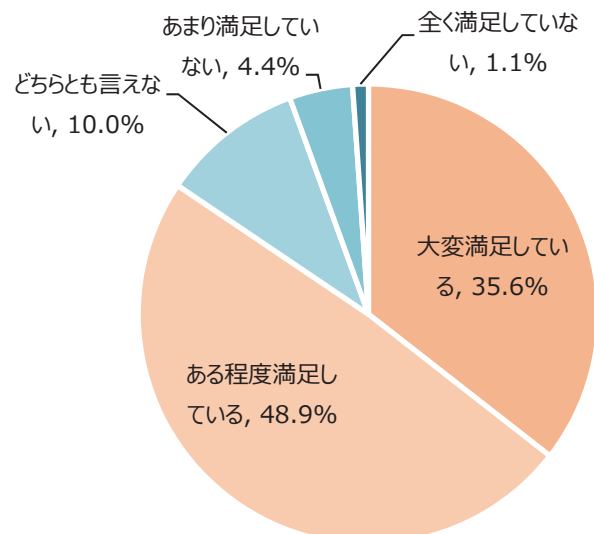
【大阪開催】(n = 61)



【福岡開催】(n = 46)

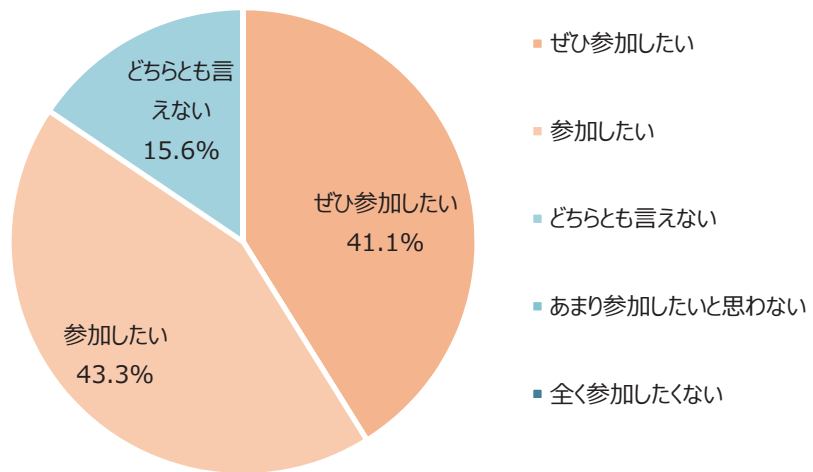


【東京開催】(n = 90)

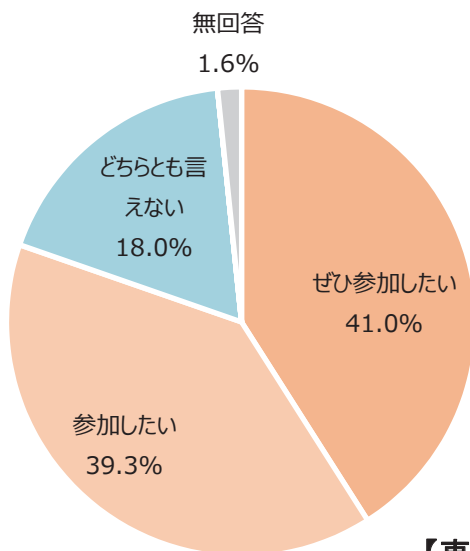


○来年度の出展について

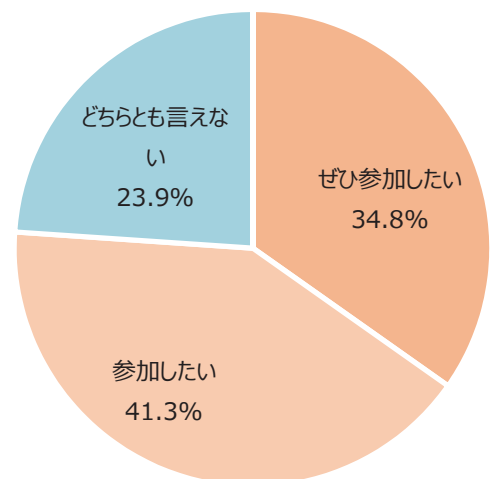
【全体】（n = 197）



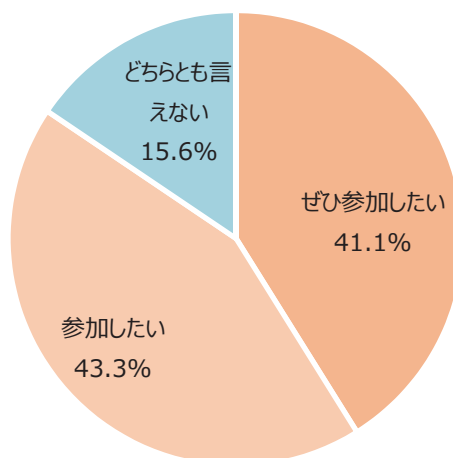
【大阪開催】（n = 61）



【福岡開催】（n = 46）



【東京開催】（n = 90）



○交流会全般に係るご意見・ご感想（自由記述）

- 出展者同士の情報交換も大変参考になった。
- 具体的なニーズをお持ちの方の来場がこれまでよりも多かったように思う。
- 今年はバックパネルがありよかった。
- 開催地が東日本だけなので、東北でも行ってほしい。
- 規模は小さいですが無料でありがたいです。
- 交流色が高まっており、会の主旨に近づいてきていると思います。
- 情報保障（要約筆記、手話通訳）に常時付いていただき、大変助かりました。
- 懇親会をやってほしい。企業の方がもっと積極的に動いてほしい。
- 開催日を金曜日、土曜日としてはいかがでしょうか。その方が来場客が増えると思います。

等

※本シートは参加申込書と一緒に提出ください。

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2018」参加目標シート

※協会 HP (www.techno-aids.or.jp/) からダウンロードしてください。

提出先：メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp / FAX 03-5296-8941

当協会では、交流会にご参加いただき、開発機関及び団体等から交流会での参加目的と目標を立てて頂くことで、より交流の活性化と明確化を図ることに努めるため、皆様から本シートをご提出いただけます。交流会後に記述いただいた目標を達成できたか自己評価をいただき、事務局へご報告いただくことで、本交流会の成果の見える化を図ります。

<属性情報・参加の目的等> ※出展申込書と一緒に提出ください。

企業・団体名			
ご担当者名			
ご連絡先	TEL	FAX	MAIL
主たる支援機器の分野			
現状の課題			
交流会参加の目的			
課題解決に向けた交流会での具体的な目標 (実施内容)			
マッチングを活性化させるための具体的な方策	例：リアルタイムアンケートの実施 など		
希望するマッチングの対象者または、団体			

<交流会後の自己評価> ※交流会終了後、1週間以内に事務局にご提出ください。

交流会の目的の達成度を自己評価してください。	5～1のいずれかを選択してください 達成できた ←—————→ どちらともいえない ←—————→ 達成できなかった <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 1
	達成できた内容を具体的に記載してください
今回の交流会を通じて今後の開発に活かしたいことを教えてください。	

以上

障害者自立支援機器等開発促進事業
シーズ・ニーズマッチング交流会2018

～ 障害当事者からのニーズ ～



当協会では、障害者自立支援機器について、使う人と作る人のマッチングを図るため、障害団体等よりニーズを収集し、交流会の議論の活性化に努める取り組みを行っております。

この度、各団体の皆様のご意見やご要望を本書に取りまとめましたので、実現可能な技術シーズ等をお持ちの開発企業や研究者の皆様に情報発信いたします。マッチング交流等での一助となれば幸いです。

公益財団法人テクノエイド協会

目次

視覚障害者の支援機器について.....	2
聴覚障害者の支援機器について.....	3
盲ろう者の支援機器について	4
脊髄損傷者の支援機器について.....	5
ALS患者の支援機器について	6
ポリオ患者の支援機器について	6
自閉症の支援機器について	9
失語症患者の支援機器について.....	10

視覚障害者の支援機器について

1. 安全な移動を保証してくれる誘導ロボット
2. 視覚障害者でも使いこなせる自動運転車
3. 画像処理されてしまったデータはスクリーンリーダーでは読み込めないため、文字の部分だけでもテキストやワードに変換してくれるアプリ

◆ニーズ提供: 日本盲人会連合

聴覚障害者の支援機器について

1. 運転中に緊急車両が接近したことが分かる機器
2. 電話等の音声を認識し、スマートフォン等で表示できるアプリ
3. 駅のホームでの放送など、音声認識システムを用いて電光掲示板などに表示できる環境
4. かつてのポケベルのようにプッシュホンのピポパ音を使うことで、電話ネットワーク内または他のところでも、文字信号を送信できる機器
5. 家電製品の状況（来客、家の電話、室温・湿度、お風呂、ペット等）をスマホで管理し、必要なタイミングで補聴器や人工内耳に音声・合図音を伝えるシステム
6. スマートスピーカーやそれに類する、音声認識システムを活用する機器について、音声認識結果および音声回答を、文字でも同時に表示するシステム

◆ニーズ提供:全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

盲ろう者の支援機器について

1. 自力で安全に横断歩道を渡るため、触知式信号機や携帯端末等で、赤か青かが振動でわかる機器
2. 画面情報が見えず音声ガイドが聞こえないため、A T Mの画面表示や音声ガイドの情報を点字ディスプレイで読みながらボタン操作できる機器
3. 体温・体重・血圧等の器具を使って自力で健康管理できず、他者に見てもらうにはプライバシーが守られないので、文字情報を点字で読める携帯端末（ブレイルセンス等）に体重等のデータが直接送れる健康管理機器

◆ニーズ提供：全国盲ろう者協会

脊髄損傷者の支援機器について

1. 大がかりな設備や専門職による設定が必要ない、気軽に在宅でリハビリテーションが行える機器やシステム
2. タッチパネル用とキーボード用のマウススティックを使い分ける必要があるので、汎用性のあるマウススティックや音声操作アプリ
3. コンパクトでフレキシブルな設置ができ、尚且つ低価格な昇降機・移乗リフト
4. 自動運転・安全機能、段差解消機能など、高機能・多機能型電動車いす

◆ニーズ提供: 全国脊髄損傷者連合会

ALS患者の支援機器について

1. 使用者の腕の力の方向や、利用者の力を生かすような、腕を吊り上げるためのバルンサー（腕の力や握力が低下することなく、使用できる機器）
2. デジタル透明文字盤について、デジタルではない透明文字盤の方が早いという意見があるので、開発企業にどれほど性能がアップしているか交流を図りたい。

◆ニーズ提供：日本ALS協会

ポリオ患者の支援機器について

1. 電動車椅子ユーザーでも使えるような車椅子と一体型の
レインポンチョ
 - ・ 頭から被れること。
 - ・ 撥水加工でひざ掛け一体型であること。
 - ・ 車椅子後ろの籠まで被せられること。
 - ・ フードの前面に透明ビニールを付けること。
2. 上肢麻痺者のためMOMOは有用だが、より小型化して車
いすに装着して移動できる装置が欲しい。
3. 電動車椅子のまま運転席に乗れる福祉車両は、座席に電動
装置がついているような形状なので、実用性が薄い。体幹
が安定し、尚且つ電動車椅子でも容易に乗れる福祉車両。
また、片足まひ者のため、どちらの足でも使える装置を。
4. 室内用歩行器の小型で体を支えやすいもの。現在の製品は
一般家庭内で使用するには大きすぎる。また、歩行器を道
路で使用すると道の凸凹のために車輪が不安定になり、体
を支えられない。
5. 介助を前提ではなく、自立して移動できる様々な機器や設
備が欲しい。電車やバスの車体からスロープが出るように
する。プラットホームを改良し、車床を低くすることでス

ロープなし介助なしに車いすで乗車できる。

6. 体幹を支える装置の大きさでないもの。
7. 電動車いすのバッテリー仕様が統一されておらず、バッテリー切れを起こした際に、他社のバッテリーが使えない。充電器、充電池の仕様を統一してほしい。
8. リチウムイオンバッテリーとニッカドバッテリーの充電器を共有できるようにしてほしい。また、充電器の規格が統一された際には、飲食店等に充電設備を設けてほしい。

◆ニーズ提供:ポリオの会

自閉症の支援機器について

1. 不快な音を遮断したり、軽減できる環境をつくることができる用具（周りに違和感がなく、携帯でき必要な時に使用できるもの）
2. 耳からの情報や指示より、視覚情報の方が理解しやすいことが多い。より簡単に使いやすい絵文字や写真を手書きできるソフト、スマホアプリ等
3. 「暗黙のルール」を理解しにくいので、他者とのコミュニケーションに苦慮するケースがある。コミュニケーションに関連するスキルを獲得できるロボット等の活用

◆ニーズ提供:

ASD(自閉症スペクトラム症)生活環境研究会

失語症患者の支援機器について

1. 電話での受け答えの際に相手側の言葉を、瞬時に要約し、文字化できる機器（その他、ラジオの音声や会話などを文字化してくれるもの）
2. 役所での手続き（選挙、行政手続き）等で必要事項を簡単な文字表記などで案内してくれるもの（環境）
3. 自動車運転中の緊急時（救急車を呼ぶなど）に、当事者がボタン一つで緊急事態を外部に知らせるためのシステム
4. 会議の発言を即座に要点で示し、失語症者自身の発言も文字化できるようなシステム（または工作中的の作業内容について要点で示してくれるもの）

◆ニーズ提供: 日本失語症協議会

シーズ・ニーズマッチング交流会2018

特別企画① シンポジウム

『福祉機器開発の最前線と現状の課題』

配布資料

大阪会場 平成30年12月18日(火)13:30~15:30
OMM 大阪マーチャンダイズマート Aホール内

福岡会場 平成31年 1月 9日(水)13:30~15:30
FFB HALL 福岡ファッションビル Aホール内

東京会場 平成31年 2月13日(水)13:30~15:30
TOC有明 コンベンションホール WESTホール内

公益財団法人テクノエイド協会

目次

【大阪開催】

- シンポジスト講演① 「多指機構を有する装飾性に優れた量産型筋電義手」
社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所 ……P 1

- シンポジスト講演② 「FREE Walkによって下肢不自由な方をサポートする」
FREE Bionics Japan 株式会社 ……P 1 1

- シンポジスト講演③ 「コミュニケーション支援アプリ UDトーク」
R o i S株式会社 ……P 3 1

- シンポジスト講演④ 「画像聴覚化装置 開発と現状の課題」
株式会社画像聴覚化研究所 ……P 4 5

【福岡開催】

- シンポジスト講演① 「ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発」
株式会社エクセルシア ……P 5 5

- シンポジスト講演② 「脊髄損傷者用歩行アシスト装置『ReWalk』」
株式会社安川電機 ……P 7 3

- シンポジスト講演③ 「指伝話コミュニケーションパック」
有限会社オフィス結アジア ……P 8 5

- シンポジスト講演④ 「聴覚障がい者の QOL の改善に向けて ～遠隔文字通訳 (e-ミミ) ～」
株式会社アイセック・ジャパン ……P 8 9

シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 特別企画①

福祉機器開発の最前線と現状の課題【大阪開催】

～プログラム～

- 13:30 開会
- 13:35-13:40 あいさつ

座長：公益財団法人テクノエイド協会 企画部長 五島 清国

【シンポジスト講演 各20分】

- シンポジスト講演① 「多指機構を有する装飾性に優れた量産型筋電義手」
社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所 本田 雄一郎 氏
- シンポジスト講演② 「FREE Walkによって下肢不自由な方をサポートする」
FREE Bionics Japan 株式会社 巫 震華 氏
- シンポジスト講演③ 「コミュニケーション支援アプリ UDトーク」
Ro i S株式会社 上林 玲子 氏
- シンポジスト講演④ 「画像聴覚化装置 開発と現状の課題」
株式会社画像聴覚化研究所 黒田 昌弘 氏

【パネルディスカッション 40分】

【座長】五島 清国

【マッチングコーディネーター】石崎 洋子 氏

【パネラー】本田 雄一郎 氏／巫 震華 氏／上林 玲子 氏／黒田 昌弘 氏

- 15:30 閉会

「シンポジスト講演①」

多指機構を有する装飾性に優れた量産型筋電義手

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所

本田 雄一郎



福祉機器開発の最前線と現状の課題

-多指機構を有する装飾性に優れた量産型筋電義手-

ロボットリハビリテーションセンターにおける開発スキーム

厚生労働省「平成28~30年度障害者自立支援機器等開発促進事業」



兵庫県立福祉のまちづくり研究所
本田 雄一郎

シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 シンポジウム

筋電義手

4指同時駆動、装飾グローブを装着した量産型筋電義手の動作検証モデル



筋電義手

~ラップの使用~

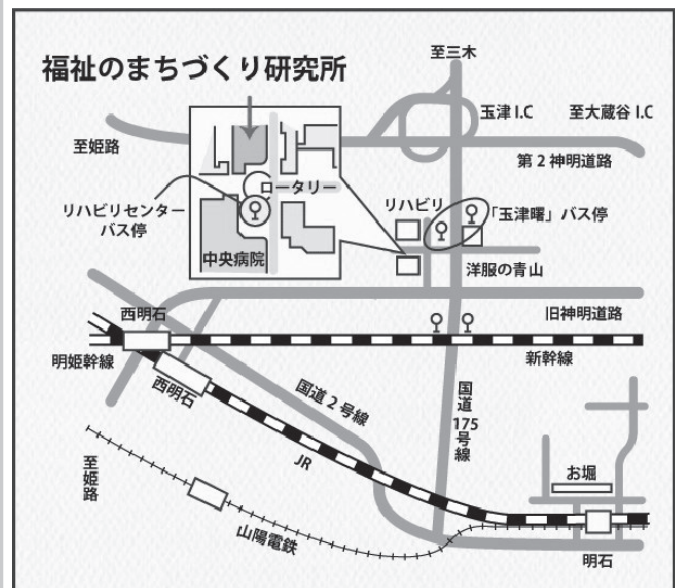


市販の筋電義手での動作

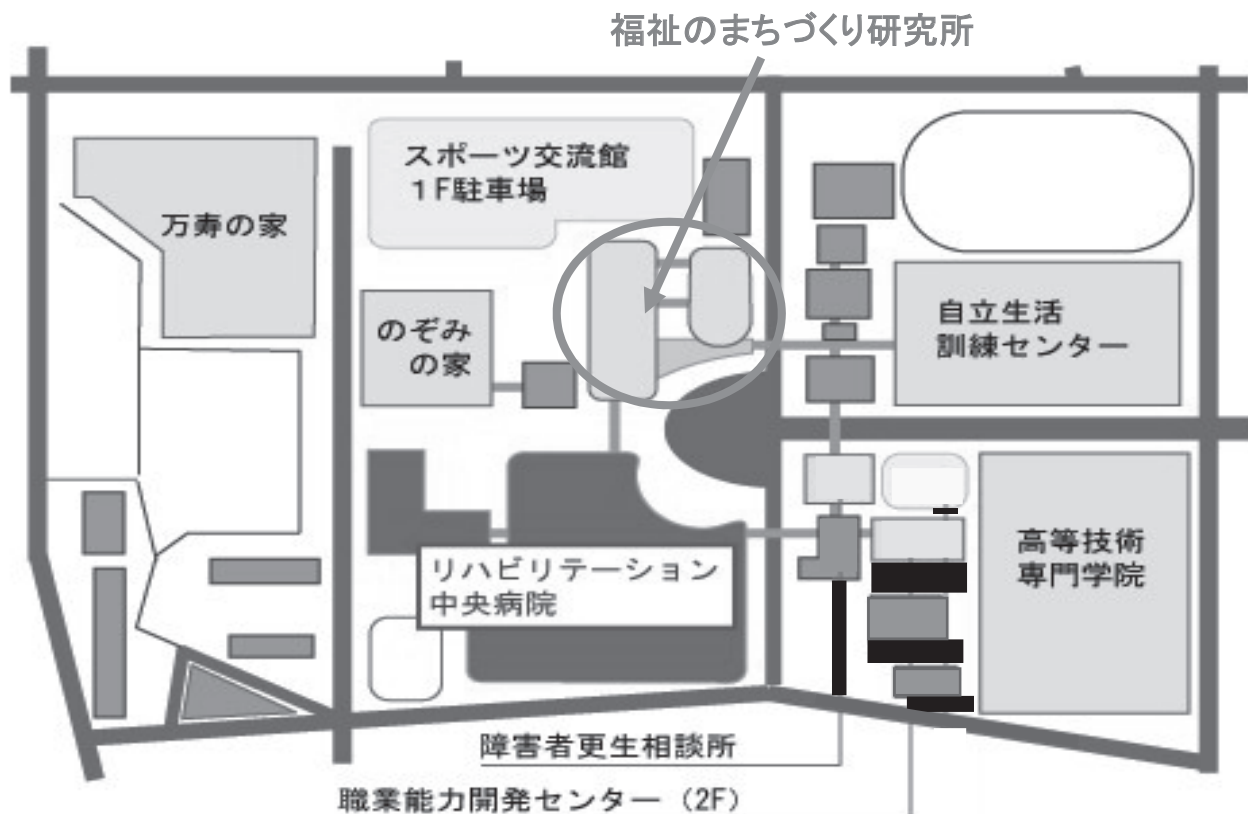


量産型筋電義手での動作

兵庫県立福祉のまちづくり研究所



兵庫県総合リハビリテーションセンター



兵庫県立福祉のまちづくり研究所 ロボットリハビリテーションセンター



兵庫県立リハビリテーション中央病院



兵庫県立福祉のまちづくり研究所

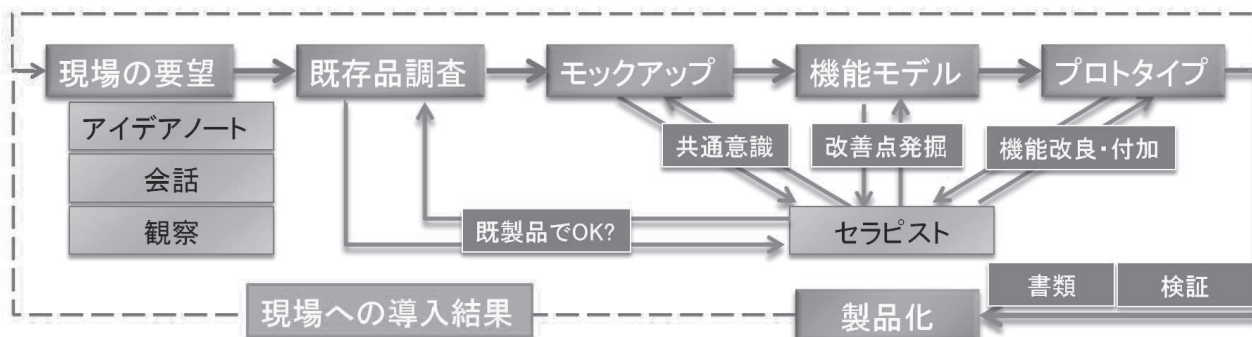
臨床部門 (兵庫県立リハビリテーション中央病院)

➤ 役立つロボット技術を活用し、患者さんに効果的なリハビリテーションを提供することで医学的治療効果を上げ、社会復帰を促進すること

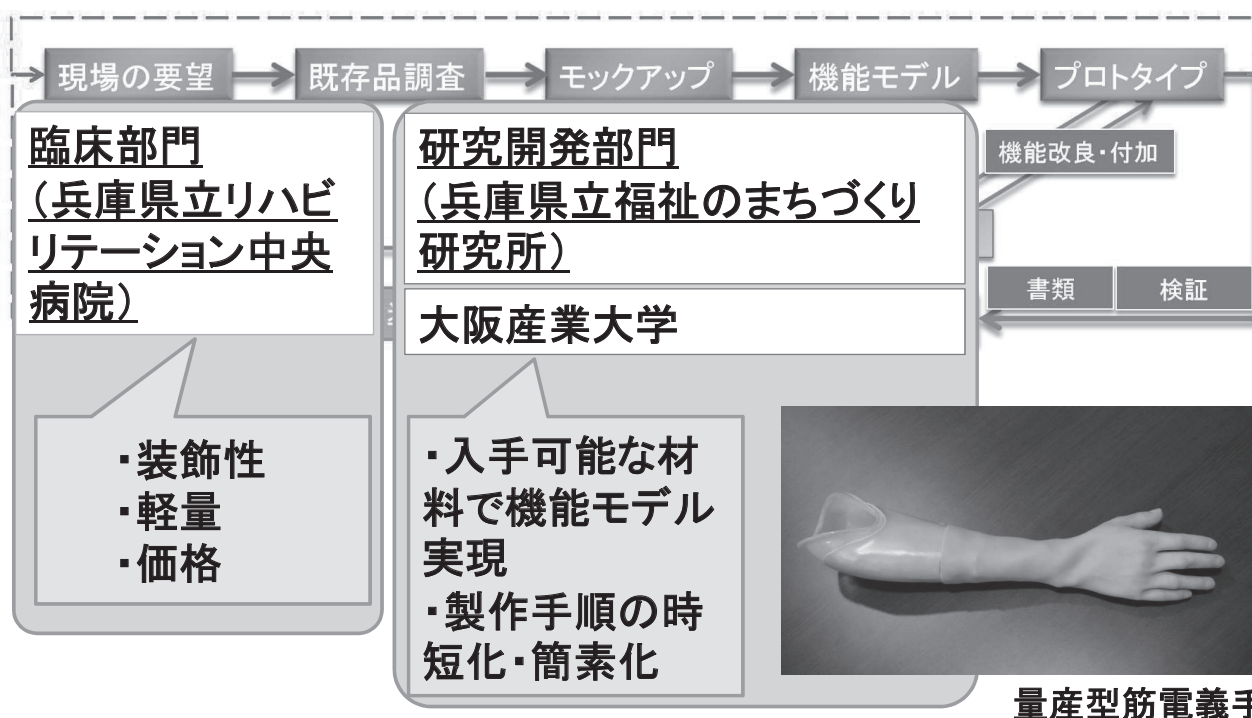
研究開発部門 (兵庫県立福祉のまちづくり研究所)

➤ ニーズをひろいあげ、エンジニアの技術を駆使して役立つロボットあるいはロボット技術を創り出すこと

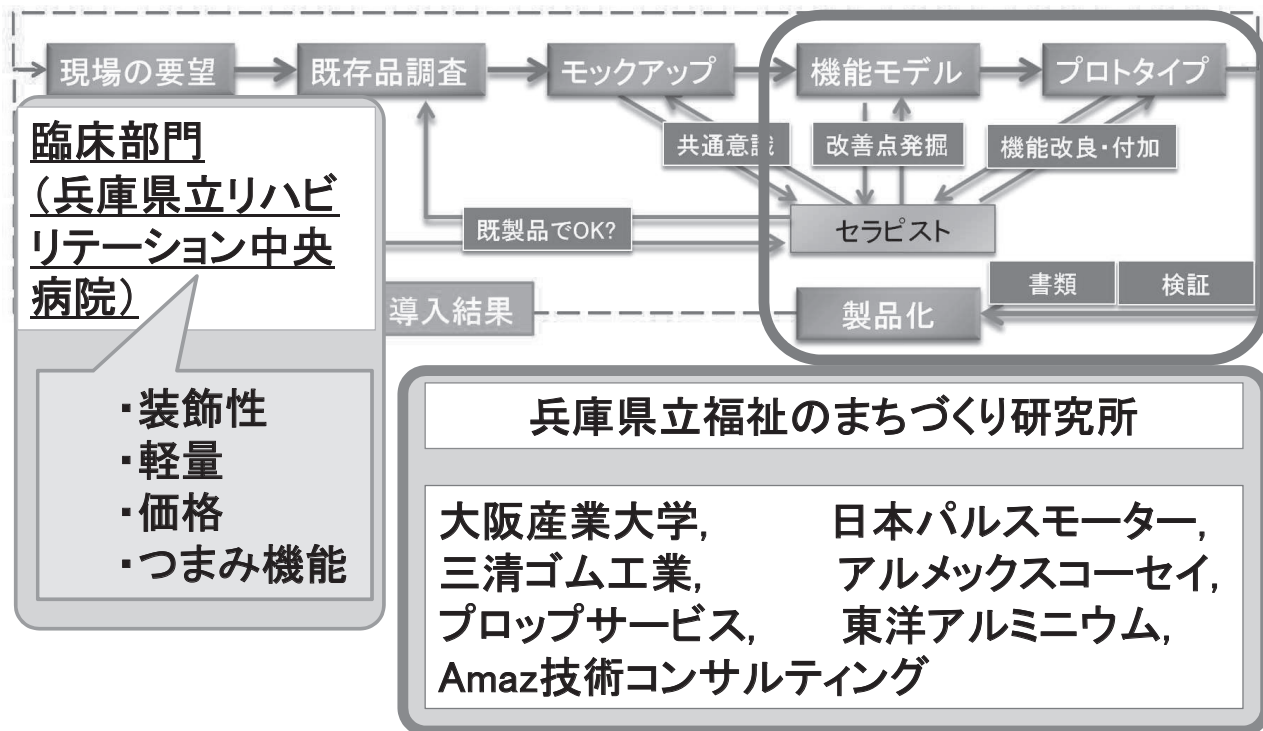
ロボットリハビリテーションセンターの開発スキーム



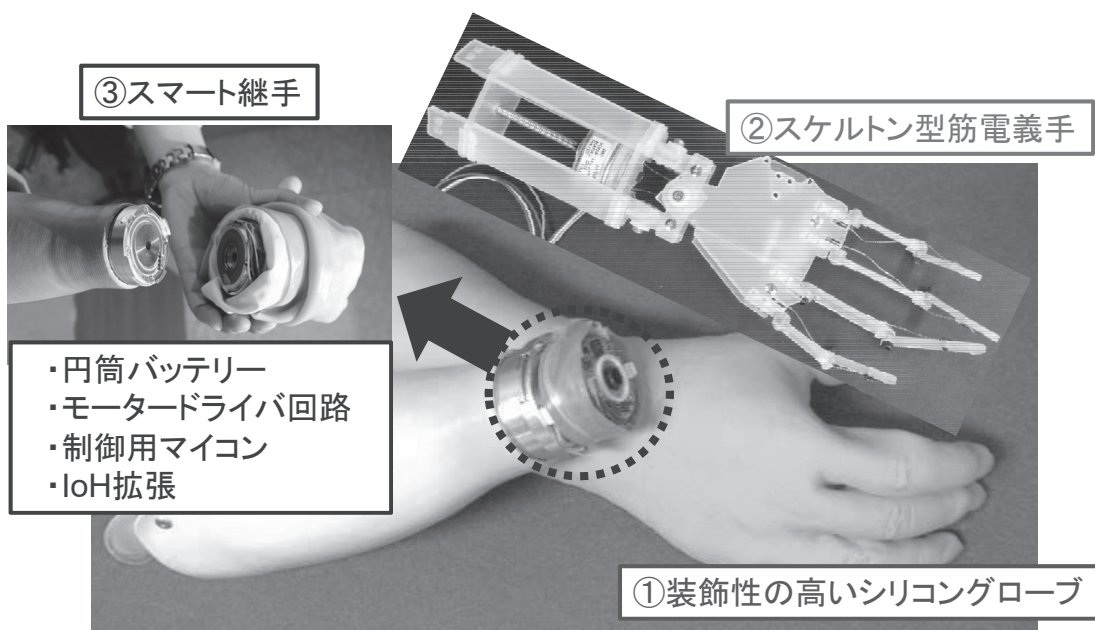
筋電義手の開発 -量産型筋電義手-



筋電義手の開発 -量産型筋電義手-



量産型筋電義手



筋電義手の開発 -開発企業等との連携-

兵庫県立福祉のまちづくり研究所

大阪産業大学, 日本パルスモーター,
三清ゴム工業, アルメックスコーセイ,
プロップサービス, 東洋アルミニウム,
Amaz技術コンサルティング



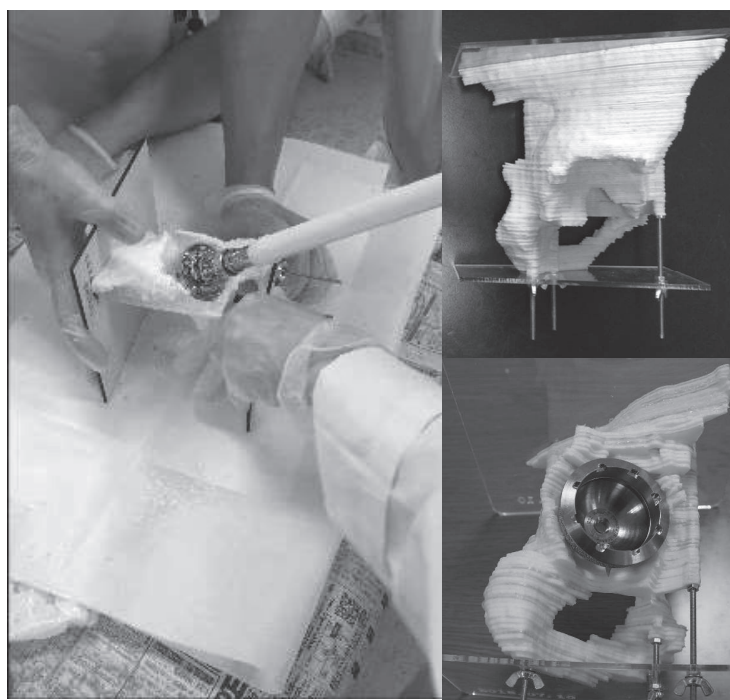
ロボットリハビリテーションセンターの開発スキームの成果の一部



筋電義手訓練用筋電モニター



ESコート(特許取得済)



骨盤モデル
(特許取得済)

開発スキームのさらなる活用

介護ロボットの開発と導入を支援!

次世代型住モデル空間

2018年10月27日 **OPEN**

実際に機器を使用する家庭や施設の住空間を再現し、企業のロボット開発や介護現場への導入を支援します

介護ロボット開発に取り組んでいる企業を応援します

開発企業

- ニーズに適した介護ロボットを開発しているが不安
- 色んな専門家の意見や声を聞きたい
- 自社の技術で介護ロボット分野へ新領域に参入したい

ロボットの開発や新参入に対して、医療・介護工学の専門家が賛助のお手伝いをします!

家庭や施設でロボットを使ってみたい皆さんのお手伝いをします

家庭 専任者への介助の負担が軽くなる可能性がある?

福祉施設 介護ロボットを使って業務の負担軽減とサービスの向上を図りたい

★次世代型住モデル空間って? 介護ロボットを使用する家庭や施設の住空間を再現して、ユーザーが実際に機器を使う場面を想定し、使いやすさや課題を明らかにします。ロボットの開発や導入に役立つよう、専門家のアドバイスが受けられます。


兵庫県立福祉のまちづくり研究所
ロボットリハビリテーションセンター

詳しくは裏面をご覧ください!

MENU

ロボットの使いやすさの評価(企業のロボット開発を支援)

開発しているロボットを、医療・介護・工学など様々な分野の専門家が集まり、実際にロボットを使用する空間で使いやすさなどの評価を行います。ユーザーにマッチした改良点等を見出し現場で役立つロボットの開発につながるようアドバイスします。



開発

開発企業との連携
評価項目(機能)の作成
契約


評価

評価項目の作成
実際の使用空間への入場
評価結果の作成

評価をする上での最低限の安全性が検証されたもので、ロボット技術(センサー系、知能・制御系、対象機器、駆動系の開発技術)を有する機械システム、またはロボット技術が応用され介護者の負担軽減、被介護者の自立支援を目的とした機器

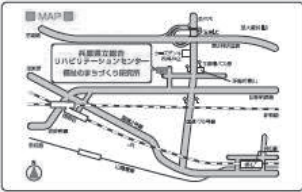
導入に向けた介護現場への支援(家庭や介護施設への導入を支援)

介護ロボットを使ってみたいが、ご自身の住居や施設にどんなロボットが合うのか分からない、実際の使い手を確認したい、それぞれの居住空間を再現し、使いやすい最適なロボットについて専門家がアドバイスします。



お問合せ

兵庫県立福祉のまちづくり研究所
〒651-2181 神戸市西区岡町1070
TEL 078-920-9810
FAX 078-920-9807
E-mail: robo-shien@assistech.hwc.or.jp
URL: <http://www.assistech.hwc.or.jp/>



次世代型住モデル空間



開発スキームのさらなる活用

青緑色 灰 黒 文字サイズ 標準 大

ひょうごKOBЕ介護・医療ロボット開発支援窓口

ホーム 事業案内 相談申込 お問い合わせ・所在地

ROBOT DEVELOPMENT SUPPORTING
Since October 2017

これからの医療・福祉の現場を切り開くロボット技術

ひょうごKOBЕ介護・医療ロボット開発支援窓口

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
兵庫県立福祉のまちづくり研究所内

お問い合わせ
tel.078-927-2755
〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL : 078-927-2755 / TEL : 078-925-9284

メールでのお問い合わせ アクセス

サイトマップ プライバシーポリシー

© ひょうごKOBЕ介護・医療ロボット開発支援窓口

ご静聴ありがとうございました。



2019年10月5-8日
神戸で開催！

リハビリロボット見本市
パラリンピック応援イベント
WHO合同シンポジウム

大会長：陳 隆明
(兵庫県総合リハビリテーション
センター所長)

See you in Kobe !

「シンポジスト講演②」

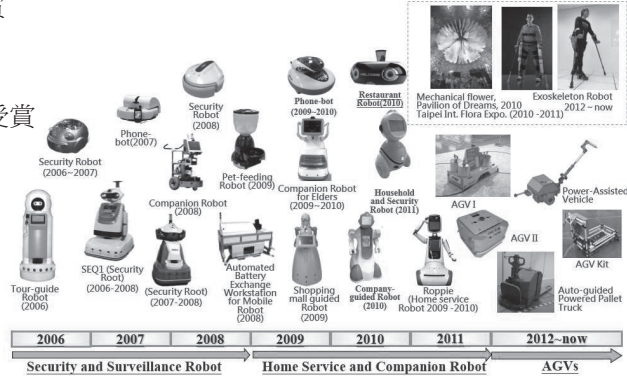
FREE Walkによって下肢不自由な方をサポートする

FREE Bionics Japan 株式会社

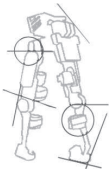
巫 震華

巫震華 Cheng-Hua WU

- FREE Bionics GroupのCEO兼創業者, 2016
- 台湾工業技術研究院 知能ロボット部門リーダー, 2006-2016
 - ・ 2005年に慶応大学 太西公平教授のご指導の下でロボティクステクノロジーを学んでいた
 - ・ 2006年から台湾産業界で20種類以上のロボット研究開発した
- 2010年台湾で優秀若手エンジニア賞を受賞
- 2015年台湾で優秀青年賞を受賞
- 2015年工業技術研究院の最優秀研究賞を受賞
- 2016年アメリカのR&D 100 Awardsを受賞
- 世界中で講演40回
- 論文掲載 (30本)
- 特許取得 (40件)

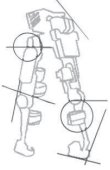


1



-Friendly Robotic ExoskEleon Bionic technology to be one of the elements for re-inspiring our life-

2



FREE Walkによって 下肢不自由な方をサポートする

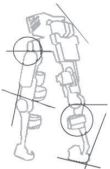
FREE Bionics Japan Inc.

Cheng-Hua WU



Dec. 18th 2018 @ Osaka, Japan

3

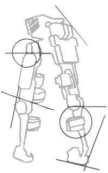


概要

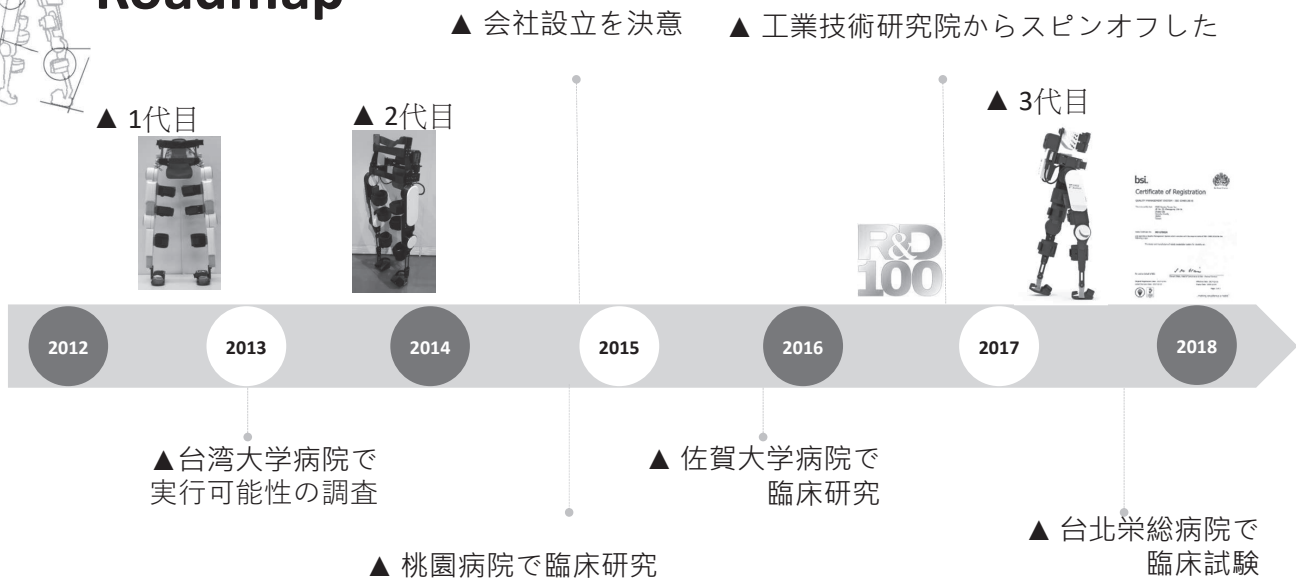
- モチベーションとゴール
- 会社概要
- ソリューション – FREE Walk & FREE Drive
- 臨床レポート
- Q&A

4

モチベーションとゴール



Roadmap



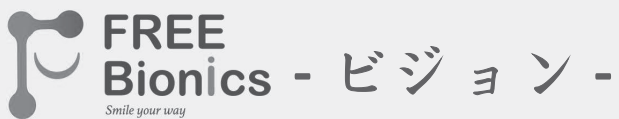
TOTAL : 200+ users, 2,000,000+ steps

その日は..... 今日です



- Not dream anymore
- Disabled walking over 2,000,000 steps

会社概要



Friendly Robotic Exoskeleton Bionic
technology to be one of the elements for
re-inspiring our life





Company profile

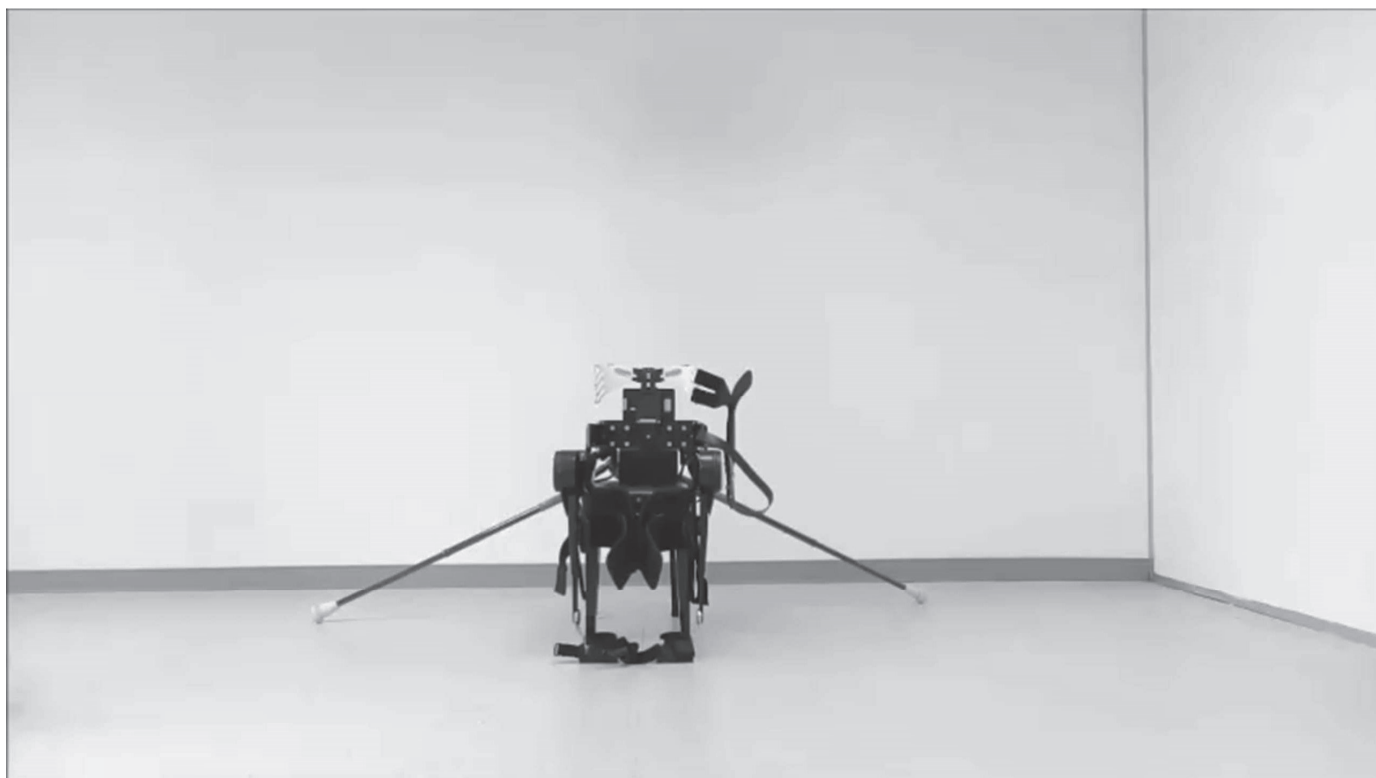
グループ全体社名	FREE Bionics Inc.
事業所	台湾 日本 中国 香港 アメリカ
創立	2016年10月
代表取締役社長	巫 震華(Cheng-Hua, WU)
資本金	15億円
従業員数	45名
事業内容	歩行支援ロボットの研究・開発・販売
協力会社	Wistron株式会社

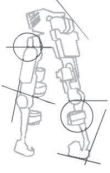
社名	FREE Bionics Japan 株式会社
所在地	東京都江東区有明3-4-10TFTビル西館7階
創立	2017年4月
資本金	1億2000万円
従業員数	5名
販売代理店	USCIジャパン株式会社

社名	FREE Bionics Taiwan Inc.
所在地	30069 新竹市東區公道五路三段1號9樓-G

ソリューション： FREE Walk & FREE Drive

13





使用者の身長

- 140-190cm

使用者の体重

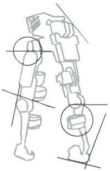
- 100kg



R&D 100 **FREE Walk**
 Awarded 2016 R&D 100
 Award (Washington D.C.)

安全措置

ユーザーの動きをセンサー
 で感知



バッテリー持続時間

- 連続使用：2時間

ロボット重量

- 20kg

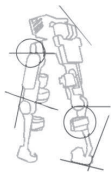


歩行速度

- 2km/hr

スロープ勾配

- 1/10



FREE Walkの特徴

- スマートデザイン
 - 3～5分以内で装着と着脱ができる

17

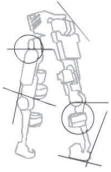


FREE Walkの特徴

- スマートデザイン
 - 右スクラッチのボタンを押してFREE Walkを起こす
 - ユーザーの意図を検出し、音声ガイダンス（通知）を提供する。
 - 左スクラッチのボタンを押して、確認する。

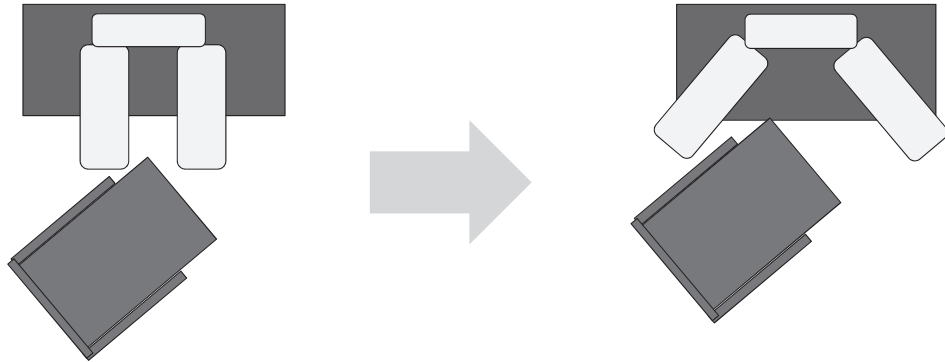


18

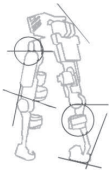


FREE Walkの特徴

- ユーザー単独で使用可能

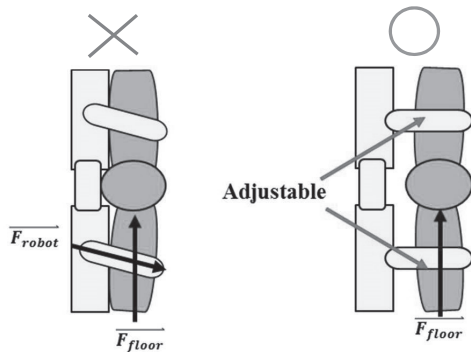


19

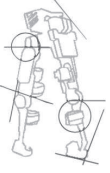


FREE Walkの特徴

- 下肢の褥瘡予防
- 人間工学に基づいたストラップ

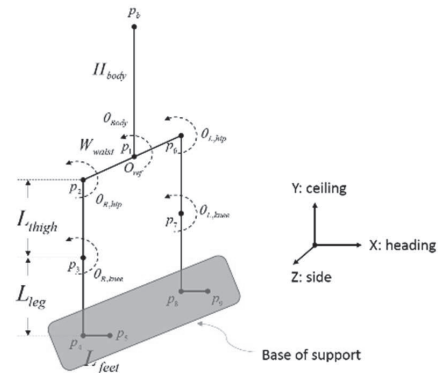


20

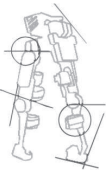


FREE Walkの特徴

- 安全なデザイン
 - マルチレイヤー構造設計でユーザーの意向を認識し、指示を確認する
 - アンバランスな状況が検出できる
 - 蹴った状況を検出できる

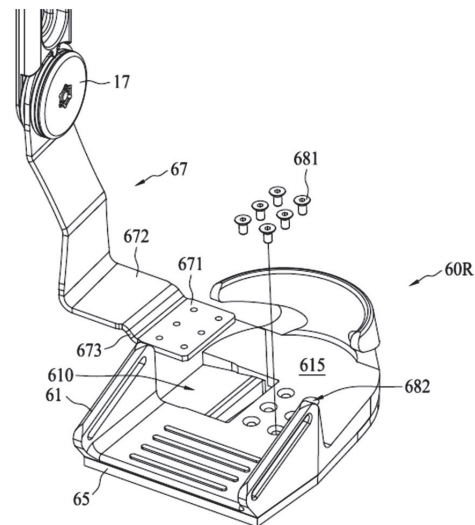


21

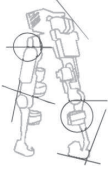


FREE Walkの特徴

- 安定なデザイン
 - 革新的なフットプレート設計
 - 完全に地面に密着
 - 足が落ちないようにする



22



Medical Device Single Audit Program



Technical Compliance Statement
CE EMC Test Report

For the Addressing information: **FEZ Bionics** (FEZ Bionics, LLC)

Product Name: FEZ Walk
Model Number: FEZ-W-01
Serial Number: 001
Date of Issue: September 4, 2017

Tested by: FEZ Bionics
Tested on: FEZ Bionics
Tested at: FEZ Bionics

Approved by: [Signature]



TEST REPORT

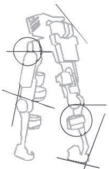
Ref. No: 17-09-WM-123
Address: FEZ Bionics, 1234 Main St, Suite 100, San Diego, CA 92101

RELIABILITY TEST REPORT

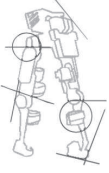
Company: FEZ Bionics, LLC
Address: 1234 Main St, Suite 100, San Diego, CA 92101

VIBRATION AND SHOCK TEST REPORT

Company: FEZ Bionics, LLC
Address: 1234 Main St, Suite 100, San Diego, CA 92101

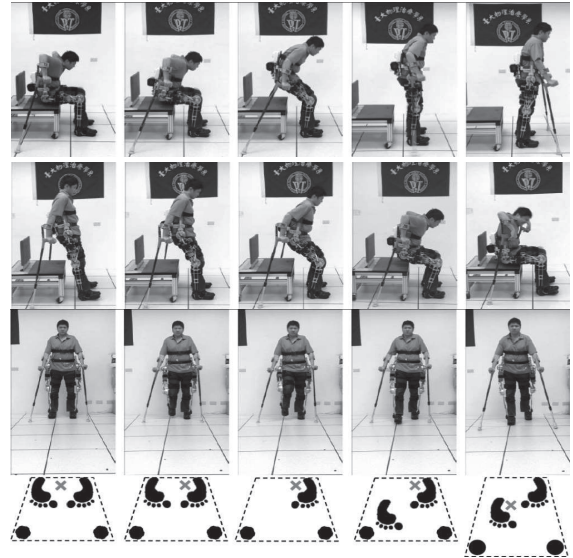


• New symbol for the disabled

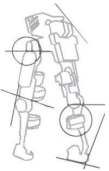


Training protocol

- 装着する
- 立つ/座る
- 重心移動
- ステップを踏む / 歩く
- 回る
- ロボットを装着する/外す



25



RESEARCH

Open Access



The effects of gait training using powered lower limb exoskeleton robot on individuals with complete spinal cord injury

Cheng-Hua Wu^{1,2}, Hui-Fen Mao³, Jwu-Sheng Hu¹, Ting-Yun Wang², Yi-Jeng Tsai² and Wei-Li Hsu^{4,5*}

Abstract

Background: Powered exoskeleton can improve the mobility for people with movement deficits by providing mechanical support and facilitate the gait training. This pilot study evaluated the effect of gait training using a newly developed powered lower limb exoskeleton robot for individuals with complete spinal cord injury (SCI).

Methods: Two participants with a complete SCI were recruited for this clinical study. The powered exoskeleton gait training was 8 weeks, 1 h per session, and 2 sessions per week. The primary outcome was the time taken by the user to don and doff the device. Secondary outcomes were the exertion perceived by participants while using the device, the timed up-and-go test, 10-m walk test, and 6-min walk test. The powered exoskeleton was evaluated on the basis of these outcomes.

Results: The results indicated that the participants could use the powered exoskeleton robot independently with a lower level of exertion when using the powered exoskeleton than when using the manual exoskeleton. No adverse effects were observed during the gait training.

Conclusions: The findings demonstrated that individuals with complete SCI can use the powered exoskeleton robot independently without any assistance.

Trial registration: Trial registration: National Taiwan University Clinical Trial registration number: 201210051RIB.

Name of registry: Hui-Fen Mao.

URL of registry: Not available.

Date of registration: December 12th, 2012.

Date of enrolment of the first participant to the trial: Not available.

Keywords: Complete spinal injury, Exoskeleton robot, Gait training, Powered exoskeleton robot.

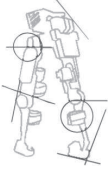
• Journal of Neuro Engineering and Rehabilitation(神経工学とリハビリテーションジャーナル), 2018

• 五年間、SCIポイント : 3.930

• リハビリテーション科学分野: 3/65(ランキング/国際有名ジャーナル数)
=4.6%

• エンジニアリング、バイオメディカル分野: 13/77=16.8%

26



FREE Walk @ 佐賀大学病院

SSKP 脊損 ニュース

10月号

〒134-0085
東京都江戸川区
南葛西5-13-6
(公社)全国脊髄損傷者連合会
電話(03)5605-0871

台湾の政府系研究機関「工業技術研究院」が手掛けた「TRIEXO(イトリエクソ)」は、人が装置を身に着けるようにして、関節の動きや筋力を補う外骨格型ロボットで、膝などを動かして起立や着座、歩行を補助する。

2014年、国立大学法人の付属病院としては全国で初めてロボットリハビリテ-

佐賀大学医学部付属病院リハビリテーション科佐賀市鍋島)は台湾の研究機関と共に、台湾の研究院が協力を依頼した。昨年11月から有効なトレーニング方法を検証しており、数年後の実用化をめざしている。

患者は胸や腹、足にベルトを巻いてロボットを装着し、両手のついで体重を支えながら身体を動かす。つえのボタンを押すと動作が始まる。リハビリの進み具合に合わせて、歩行練習の歩数を設定できる。

脊椎梗塞が原因で08年から車いすを利用している佐賀市のY利さん(69)は、昨年11月からリハビリを始めた。週2回、各1時間のペースで取り組み、50回を超えた現在は理学療法士の補助を受けながら、自力で16歩の歩行が可能になった。

トビックス

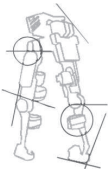
歩行支援ロボ実用化へ リハビリ希望者に提供

トビックス



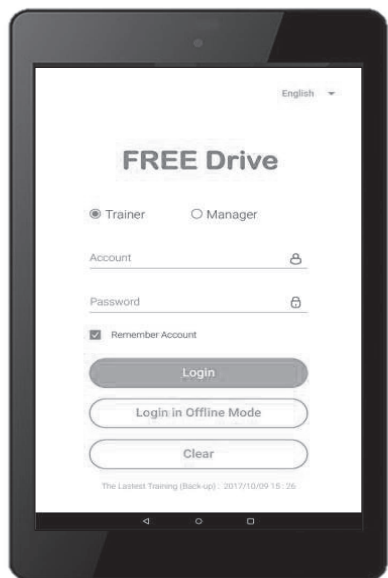
映像・音で誘導◆練習量10倍に

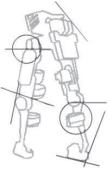
歩行支援ロボット「TRIEXO」は、歩行練習の歩数を設定できる。映像・音で誘導し、練習量10倍に増やせる。歩行練習の歩数を設定できる。映像・音で誘導し、練習量10倍に増やせる。歩行練習の歩数を設定できる。映像・音で誘導し、練習量10倍に増やせる。



FREE Drive

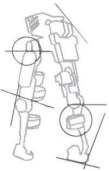
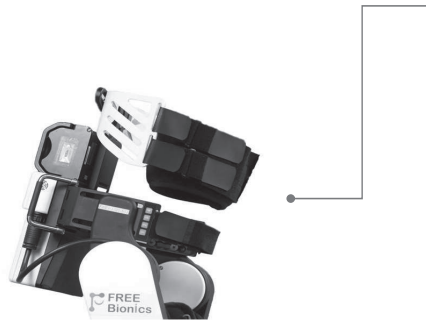
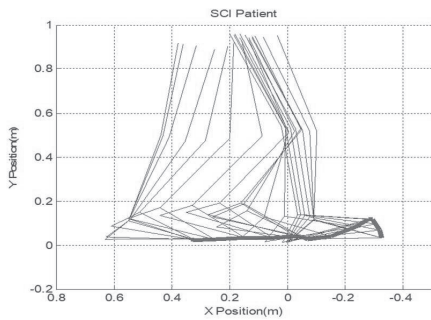
- トレーナーにとってフレンドリーなインターフェース
- 多言語対応





FREE Drive

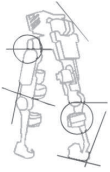
- 多様なユーザーの歩行パターンを実行するため、簡単に調整可能できるパラメータ



FREE Drive

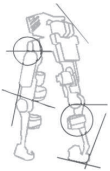
- トレーナーがFREE WALKの状態を認識するための明確な情報





FREE Drive

- 追跡可能な使用履歴

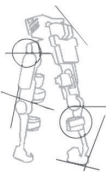


FREE Drive

- 世界中のトレーナーと経験を共有できる




臨床レポート



FREE Bionics

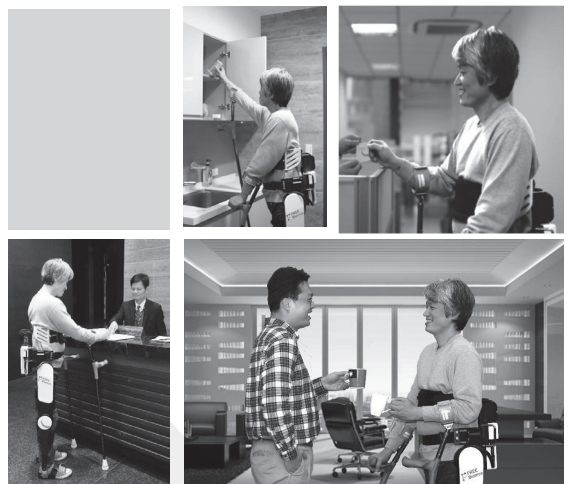
Smile your way

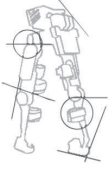


 江郁軒 (Bob Chiang)

 billy1226@freebionics.com.tw

ADD:東京都江東区有明3-4-10
TFTビル西館7階





Smile your way

「シンポジスト講演③」

コミュニケーション支援アプリ UDトーク

RoiS株式会社

上林 玲子

コミュニケーション支援アプリ「UDトーク」

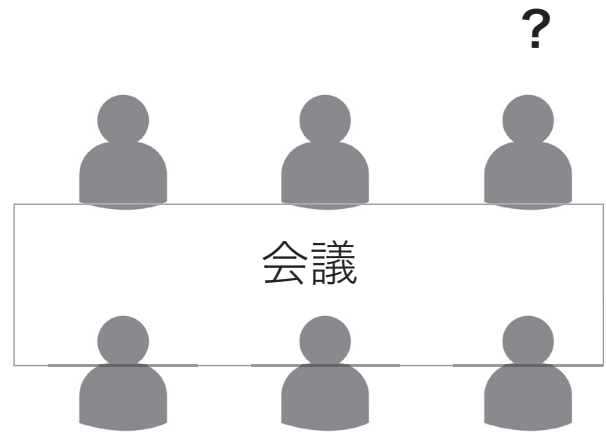
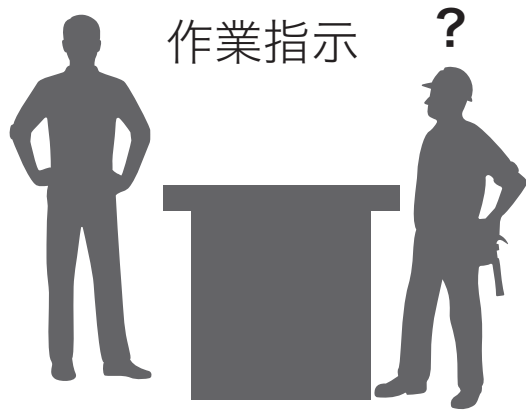
©2018 RoiS Inc.

聴覚障がい者＝手話？

約 1 割

唇を読む、筆談、補聴器等
様々な方法

UDトークで文字支援



4つの特長



1. 音声認識と音声合成でバリアフリーコミュニケーション

耳の不自由な方と目の不自由な方とのコミュニケーション
入力方法は、音声・キーボード・手書き

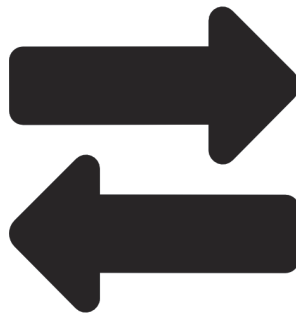
記録を残す

テキストのみ、時間の入ったデータ、手書きデータ
(txt.csv.html)

- ・ 会議録、講演録の作成
- ・ 動画の字幕作成

今日の欠席者はゼロです。
事務局から報告します。
議事に入りたいと思います。
まず第1、各部からの報告です。
今日までやったこと

2017/06/03 12:09:31.932	一時間後。
2017/06/03 12:09:34.370	13時10分です。
2017/06/03 12:09:39.115	いいですか。
2017/06/03 12:09:40.938	1時10分開始です。
2017/06/03 12:09:47.686	それまでをお願いします。
2017/06/03 12:09:51.435	机を外すので、
2017/06/03 12:09:55.924	荷物は置いとかないでください。
2017/06/03 12:10:06.855	美味しいお昼を召し上がって。



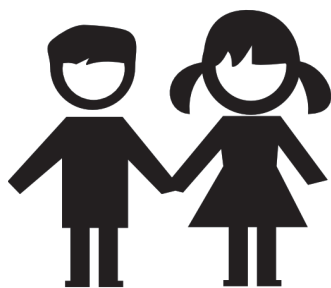
2. 多言語翻訳と音声認識でグローバルコミュニケーション

外国人の方とのコミュニケーション 双方向にリアルタイム多言語翻訳

各端末で翻訳言語を選択→それぞれの言語で見られる。

(翻訳文の音声読み上げもできます)





3. ひらがな変換で世代間コミュニケーション

お子さんとのコミュニケーション 初等教育の学習レベルに応じたよみ表記



学年ごとに漢字のレベルを設定できます。



4. ウェアラブルデバイスやAR機能との連携

メガネ型デバイスへのディスプレイ表示
話している言葉を吹き出しにして表示

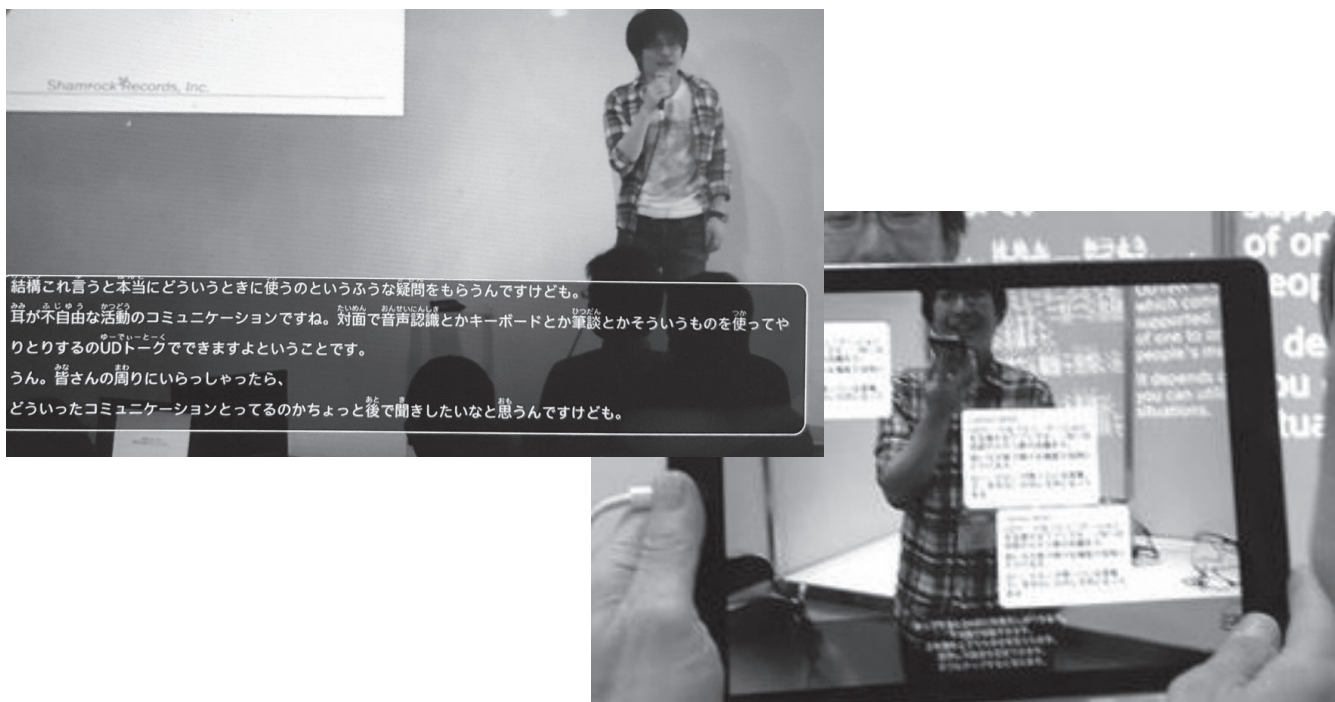
(※iOS11以降のAR機能)

観劇サポート等



- ・ 新能や演劇、映画、プラネタリウム
メガネ型ディスプレイで字幕表示

UDトークAR、VRモード、シアターモード
話した言葉を映像に映画字幕のように、
また、漫画の吹き出しのように表示できます



活用事例

社内コミュニケーション



- ・ 会議にいつでも誰でも参加
（聞こえない方、外国人）
- ・ 作業指示
- ・ 会議録作成
- ・ 遠隔地の会議への参加



ユニバーサルデザインスタイルのプレゼン大会



HillsBreakfast

外国人や聞こえない人が突然参加できる

裁判・法律事務所



難聴の弁護士さんが、会議やクライアントとの打ち合わせ、裁判等で使用。（補聴器機との連携）

教育機関



- ・ 先生が音声入力し、タブレットに表示
- ・ 先生がはっきり話すようになるので、聞こえる生徒も授業がわかりやすくなりクラス全体の成績が上がる効果
- ・ 聞こえない生徒だけでなく、視覚優位の発達障がい児に。

窓口

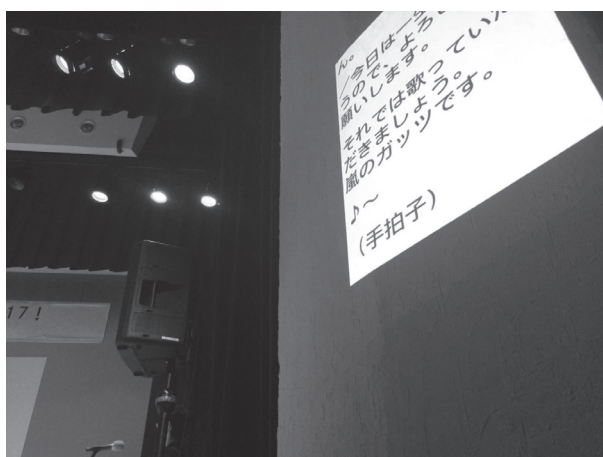


タブレットとマイクで利用



情報保障現場

音声入力しPCで編集



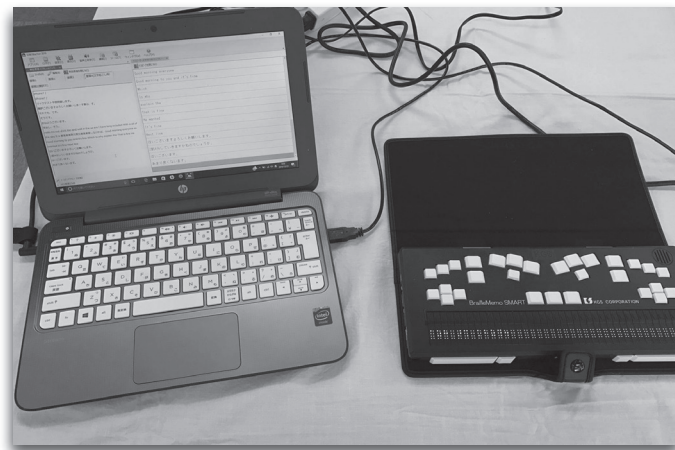
*リスピーク
講演内容を復唱して
声で入力



盲ろう者支援

話した言葉を点字で出力

点字ディスプレイキーボードと連携



UDトーク×静岡福祉大学ノートテイクアプリ「まあちゃん」使用

アプリ「UDトーク」を検索！



iPhone , iPad



Android



*PC版は編集のみ

法人向けアカウント
情報収集・保存をしない



設定から単語登録(端末単体用)を行ったり、法人アカウント入力を行います。

→QRコード読込カメラが起動します。

→QRコードをクイック発行します。

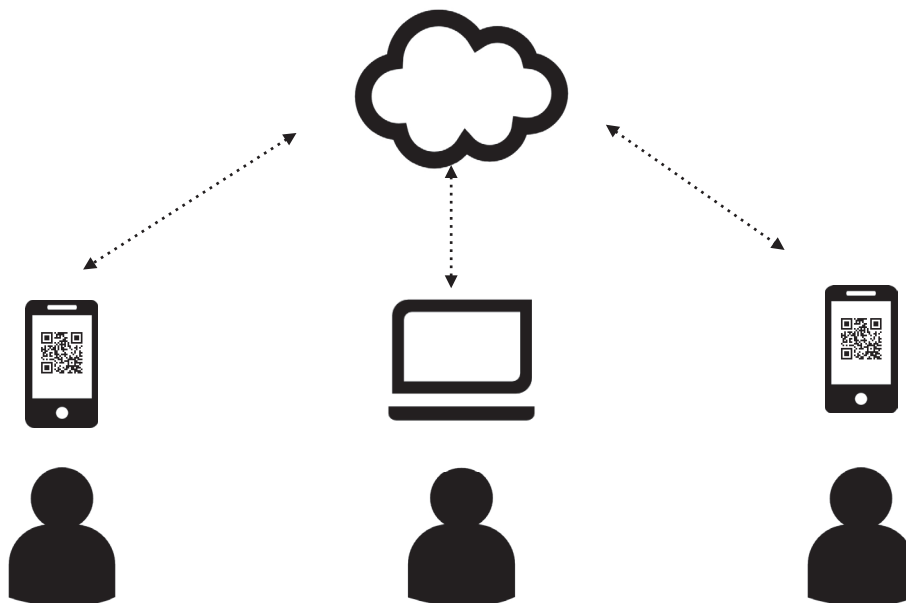
→ユーザーIDを招待してもらい連携します。
(発話画面の共有)

→ 通常ここからトークを始めます。

【ヒント】正しい音声認識結果を出すために

HPでオンラインマニュアルを公開しています

QRコードで繋がり、画面の共有ができます



コミュニケーションの
ユニバーサルデザインで
優しく活気ある環境に！



「シンポジスト講演④」

画像聴覚化装置 開発と現状の課題

株式会社画像聴覚化研究所

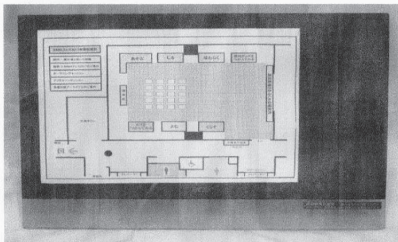
黒田 昌弘

画像聴覚化装置 開発と現状の課題

開発の目的：視覚障害者へ情報入手の新たな手段を提供する

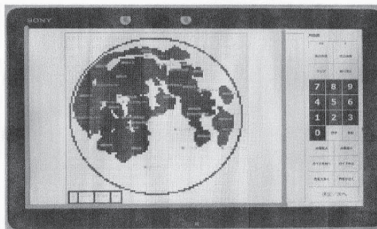
- 製品開発のニーズ (2001年)
 絵画鑑賞の機会を視覚障害者にも → 聴覚と触覚(触図)に感覚代行する基本機能の設計
 「共感する美術館」構想の展開
- 画像聴覚化装置の開発 (2011年)
 画像聴覚化ソフト(OTDS:オトダス)の特許化 プロトタイプの製作と体験展示会の実施 (2013年～)
 性能品質の継続的改善/ユニバーサルデザイン化の推進 (H27年度東京都新製品・新技術開発助成採択事業)
- 画像聴覚化装置の製品化 (2016年、市販パソコンを転用)

電子案内板 《SVG : Sonic Vista Guide》



催事会場案内、駅乗換え案内など (固定画面専用)

電子図鑑 《SVP : Sonic Vista Picture》



絵画、地図、理療図、各種一覧表など (複数ページに対応)

■ 現状の課題

- ① 新商品企画の立案 ② 触図制作の効率向上と製造コスト抑制 ③ 児童生徒へのPR活動





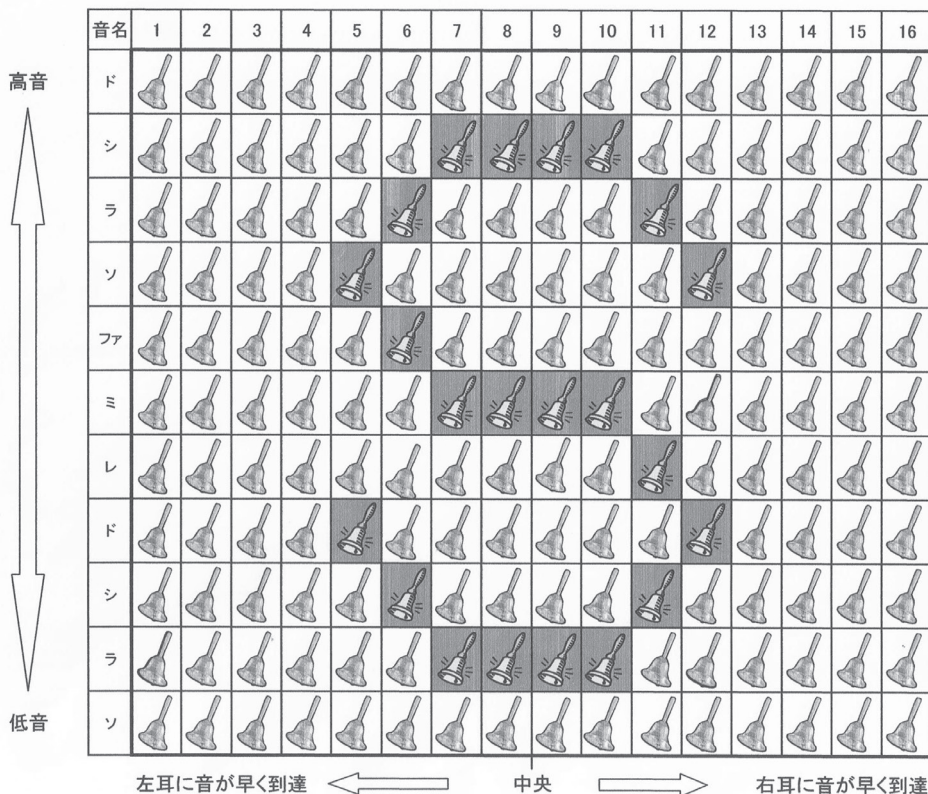
ハンドベルの音による画像イメージ



音が出ているハンドベル



音が出てないハンドベル



「S」をイメージ

画像聴覚化装置の概要

機能	内容
表示部	タッチ画面型パソコンを使用
画面構成	画像表示部、自動走査部、手動操作部
画面のドット数	10,000～130,000ドット（画像の細密度で設定）
ドットの発音時間	標準20ミリsec.(可変) 発音は純音を使用
聴音	ステレオヘッドホンを使用
明度諧調の選択	Max.5諧調(モノクロ変換画像に立体感を付与)
音量調整	Max.5諧調(明度に伴う音量調整)
音源の左右範囲	想定90度(左右各45度)
走査機能	自動および手動(タッチ)を選択
ポイントガイド機能	ドット発音に替えて画像内のドット(ポイント)に音声を挿入
エリアガイド機能	ドットの連続で構成される枠内(エリア)に音声を挿入
発音周波数	最下段部 100～最上段部 1,000Hz(変更可能)
画像編集機能	点(線)の追加・削除

プログラム

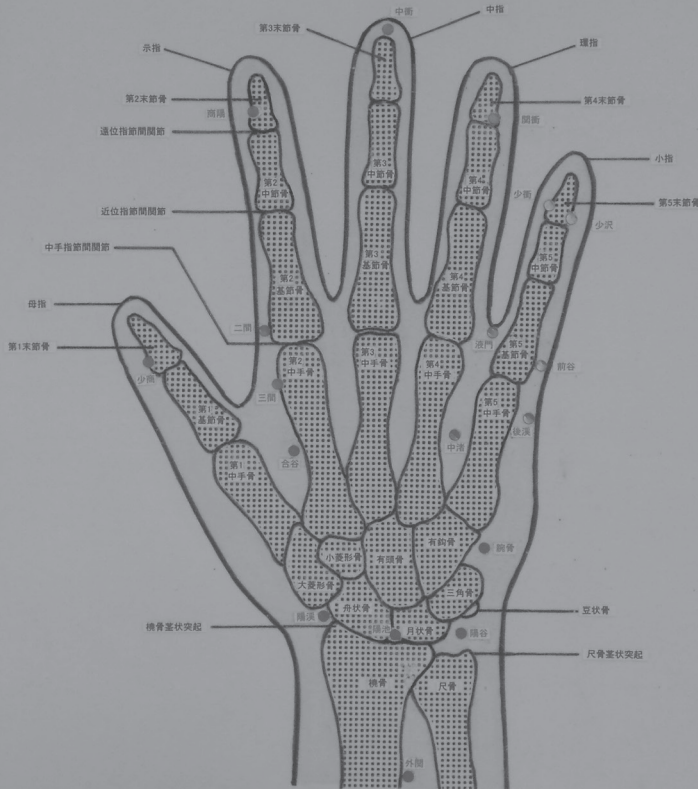
地図、路線図、天文図、理療図、配置図、数学グラフ、ゲーム、絵画、各種一覧表

東京都障害者福祉会館



手の甲のツボと主治・効能

説明
WHO番号・経穴名・主治・効能、骨の名称

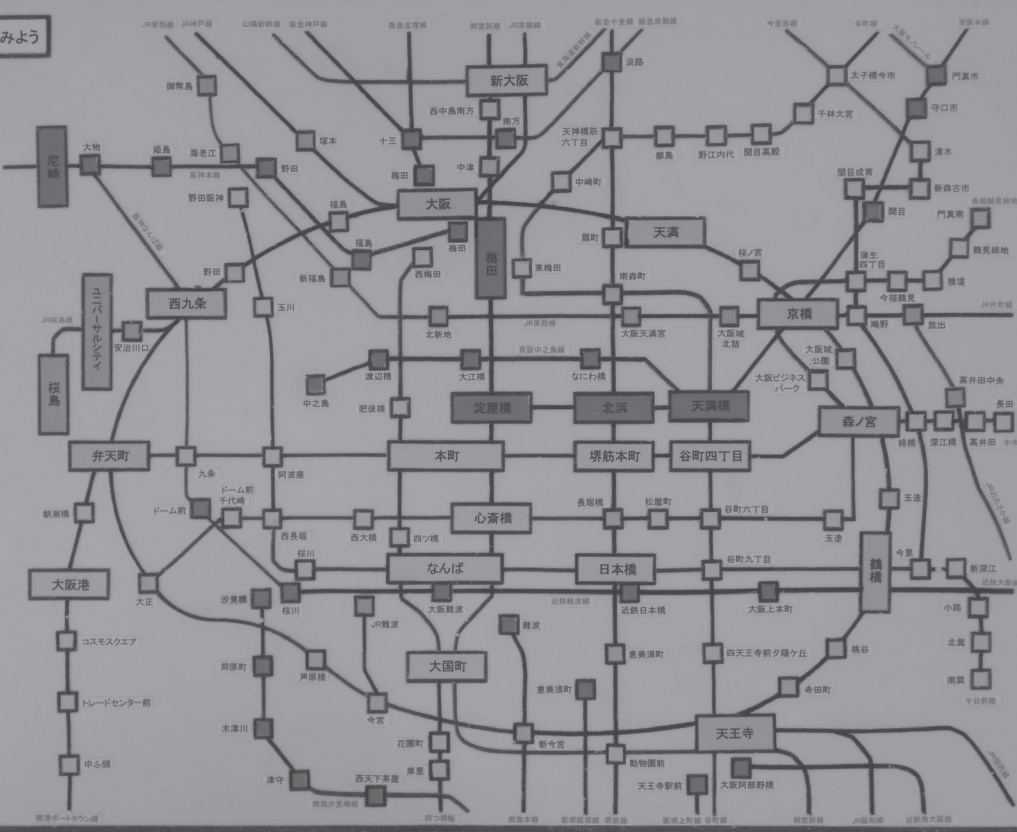


駅や電車の音を聞いてみよう

説明-1
環状線と他の路線名・駅名

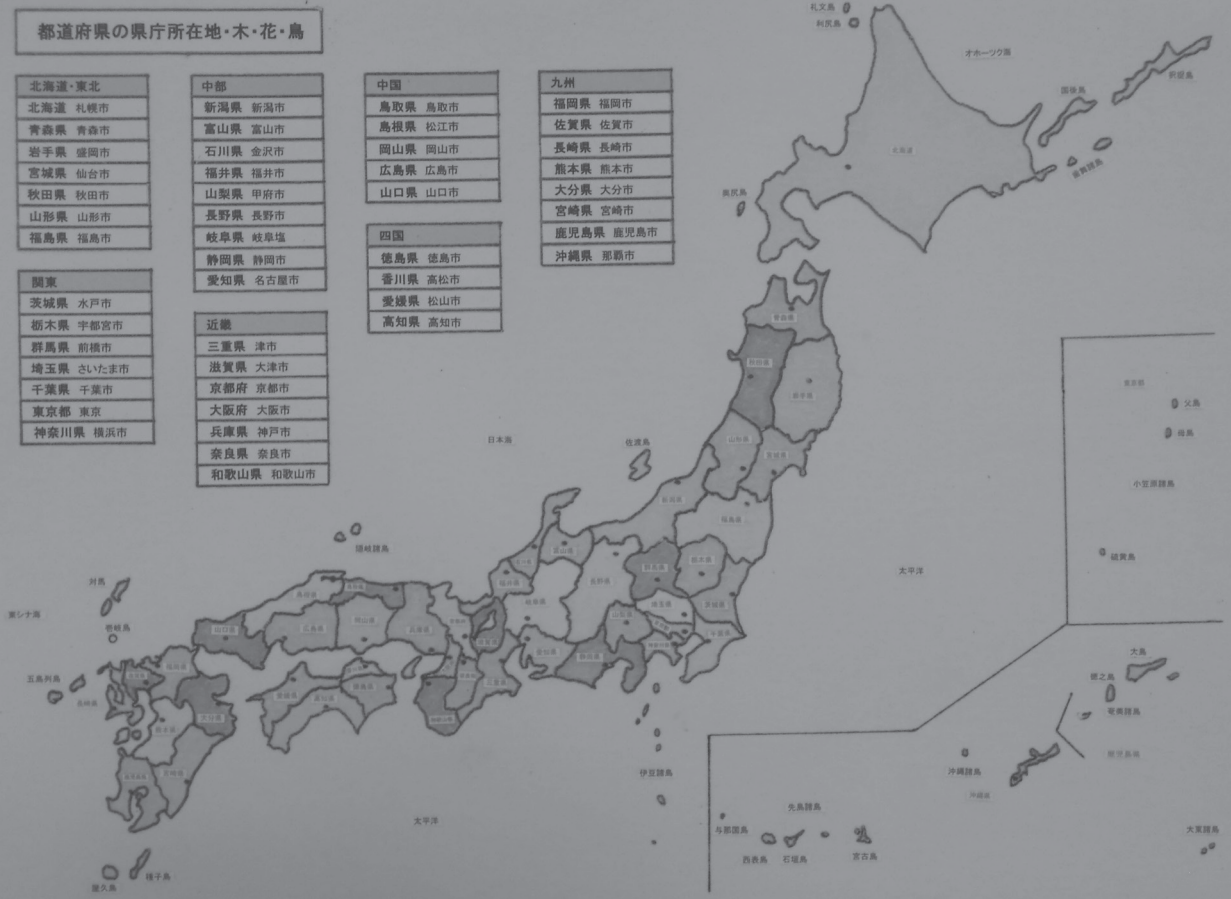
説明-2
発車メロディー他音風景

大阪	西丸線の音	大阪に到着
福島	改札口の音	静かな音
野田	エスカレーターの音	接近案内
西九条	路線案内の音	乗る音
井田町	電車の音	大正の音
大正	プラットフォームの音	大正の音
芦原橋	ワッフルの音	電車の音
今宮	駅の音	列車の音
新今宮	駅の音	列車の音
天王寺	駅の音	列車の音
寺田町	駅の音	列車の音
横濱	駅の音	列車の音
磯崎	駅の音	列車の音
玉造	駅の音	列車の音
藤ノ宮	駅の音	列車の音
大塚公園	駅の音	列車の音
常盤	駅の音	列車の音
飯ノ宮	駅の音	列車の音
天満	駅の音	列車の音



都道府県の県庁所在地・木・花・鳥

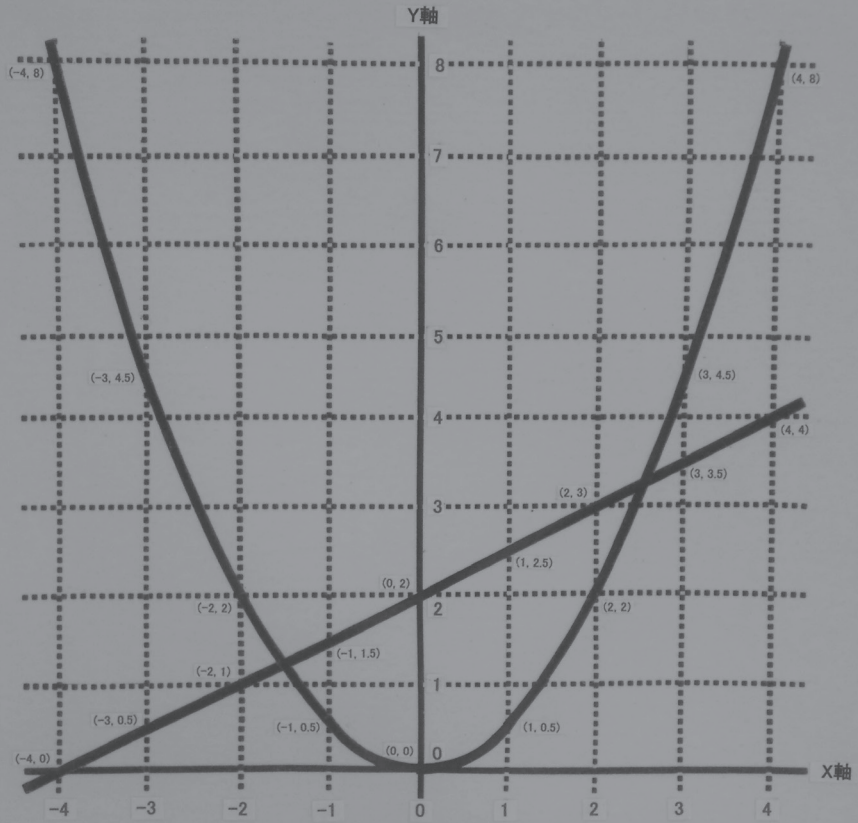
北海道・東北	中部	中国	九州
北海道 札幌市	新潟県 新潟市	鳥取県 鳥取市	福岡県 福岡市
青森県 青森市	富山県 富山市	島根県 松江市	佐賀県 佐賀市
岩手県 盛岡市	石川県 金沢市	岡山県 岡山市	長崎県 長崎市
宮城県 仙台市	福井県 福井市	広島県 広島市	熊本県 熊本市
秋田県 秋田市	山梨県 甲府市	山口県 山口市	大分県 大分市
山形県 山形市	長野県 長野市		宮崎県 宮崎市
福島県 福島市	岐阜県 岐阜市		鹿児島県 鹿児島市
	静岡県 静岡市		沖縄県 那覇市
	愛知県 名古屋市		
関東	近畿	四国	
茨城県 水戸市	三重県 津市	徳島県 徳島市	
栃木県 宇都宮市	滋賀県 大津市	香川県 高松市	
群馬県 前橋市	京都府 京都市	愛媛県 松山市	
埼玉県 さいたま市	大阪府 大阪市	高知県 高知市	
千葉県 千葉市	兵庫県 神戸市		
東京都 東京	奈良県 奈良市		
神奈川県 横浜市	和歌山県 和歌山市		



放物線と直線

放物線 $Y = \frac{1}{2} X^2$

直線 $Y = \frac{1}{2} X + 2$



月の性質 月の表面 画面

共感する美術館

作者の心に触れ、視覚障害者と健常者が共感する空間を創出する

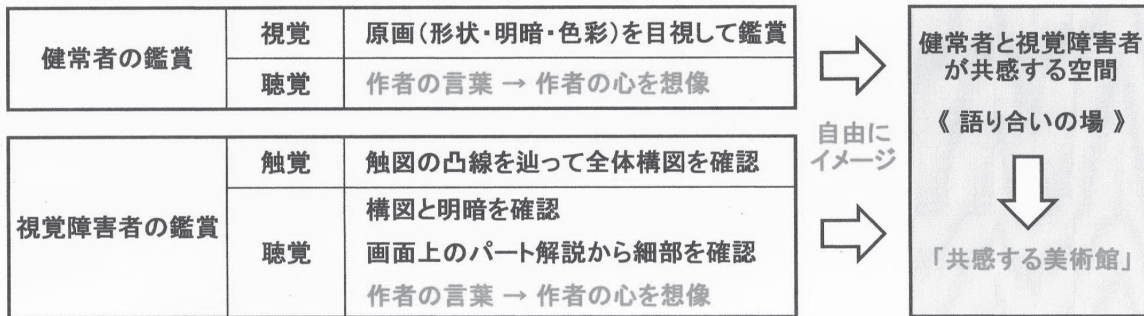
視覚障害者の美術鑑賞方法

現行の方法	立体物	彫刻など実物に直接触る、レプリカに触る	音声ガイド併用
	絵画	立体模型、立体絵画などに触れる	



視覚に頼らず作者の心に視点を移して芸術性を理解する試み

「共感する美術館」の鑑賞方法（画像聴覚化装置を仲介）



原画(カラー)



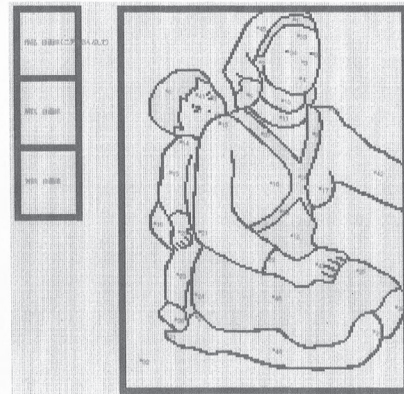
→
・スキャン

ステップ-1: モノクロドット変換



→
・画像の単純化
・解説枠の設置
・音声挿入
ポイントガイド
エリアガイド

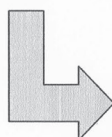
ステップ-2: パソコン画面 (ドット表示画面)



画像ドット数: Max. 130,000ドット(画像によって選択)
「自画像」は約27,000ドット

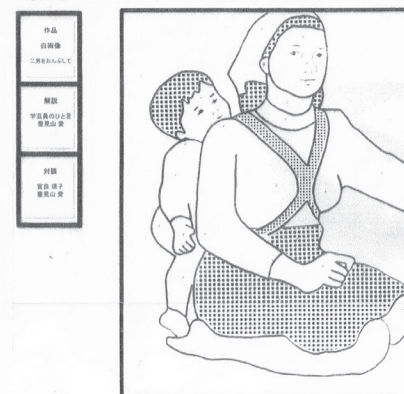
ドットの明度(音量): Max. 5階調(白、灰-1、灰-2、灰-3、黒)
音量小 ← → 大

音域: 150ヘルツ(最下段)~1,150ヘルツ(最上段)



→
・画面サイズに
同じ
・原画に近い
画像
・触覚用の
粗い面の追加

触図 (モノクロ)



2018/12
(株)画像聴覚化研究所

画像聴覚化装置(SVP)の現状と課題 まとめ

■ 製品開発の現状

- ・感覚代行装置として様々な現場に適応できる見通しあり

■ ソフト開発の必要性

- ・新分野開拓と商品企画の充実
- ・子供向けプログラムの開発と教育現場での装置使用の促進
- ・「共感する美術館」構想の推進

■ 触図の制作(補完ツールの開発)

- ・少量ニーズに対応できる細密触図の制作と低コスト化の実現

加えて、次期開発製品として、

■ 画像聴覚化技術の展開(SVP 技術の転用)

- ・GPSに頼らない自立型歩行支援装置(SVW : Sonic Vista Walk 弊社特許技術)の開発に着手

シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 特別企画①

福祉機器開発の最前線と現状の課題【福岡開催】

～プログラム～

- 13:30 開会
- 13:35-13:40 あいさつ

座長：公益財団法人テクノエイド協会 企画部 谷田 良平

【シンポジスト講演 各20分】

- シンポジスト講演① 「ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤によるバリアフリー仮設トイレの開発」
株式会社エクセルシア 足立 寛一 氏
- シンポジスト講演② 「脊髄損傷者用歩行アシスト装置『ReWalk』」
株式会社安川電機 豊田 真 氏
- シンポジスト講演③ 「指伝話コミュニケーションパック」
有限会社オフィス結アジア 高橋 宜盟 氏
- シンポジスト講演④ 「聴覚障がい者の QOL の改善に向けて ～遠隔文字通訳 (e-ミミ) ～」
株式会社アイセック・ジャパン 一瀬 宗也 氏

【パネルディスカッション 40分】

【座長】谷田 良平

【マッチングコーディネーター】北島 栄二 氏

【パネラー】足立 寛一 氏／豊田 真 氏／高橋 宜盟 氏／一瀬 宗也 氏

- 15:30 閉会

「シンポジスト講演①」

ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤による バリアフリー仮設トイレの開発

株式会社エクセルシア

足立 寛一

平成30年度 障害者自立支援機器等開発促進事業

ライフラインを必要としない 高機能な排泄処理剤による バリアフリー仮設トイレの開発

EXCELSIOR

株式会社エクセルシア

ダイオキシン分解技術 川辺町(現南九州市)の実用化プラント

EXCELSIOR
株式会社エクセルシア

プラントの概要



処理能力: 1.5 t/day※
処理対象物: 焼却灰、飛灰、汚染土壌
建設費: 約3億円※

※処理能力と建設費用は状況によって異なります。



環境省「循環型廃棄物処理施設
整備事業補助金」の対象施設

■鹿児島県川辺町でのリサイクル利用例

* 川辺町ではエコレンガへ

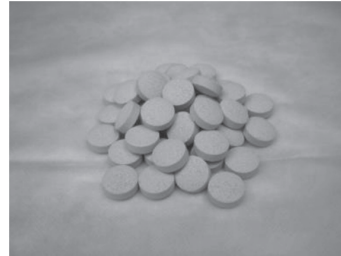
・レンガへの処理土、処理灰添加量: 10~30%



ほっ!トイレタブレット(処理剤)

【ほっ!トイレ】

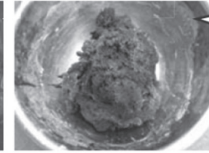
- 当社の『ほっ!トイレ』は、錠剤タイプ。前もっていれておけるので処理後の不快な作業がありません。
- 雑菌を殺菌し悪臭がなくなります。
半年、1年間たっても雑菌がなく、悪臭が発生しません。



ほっ!トイレタブレット



従来の凝固剤



※共に一カ月後の状態です。

従来の凝固剤では、
一カ月後には
臭いも腐敗もまた
元通りになります。

ご使用方法

- ① ビニール袋を
断水した
トイレにセット
します。



- ② ほっ!トイレタブレットを
あらかじめ
ビニールに
入れます。



- ③ 排泄します。



- ④ 口を結んで一般ゴミ
で捨ててください。



しばって
廃棄!!

ほっ!トイレ(携帯トイレ)

【ほっ!トイレ】

- 持ち運び用のほっ!トイレも好評です。
- 帰宅困難者になってもポンチョ付きでどこでも使用できます。
- 巾着に入っています。女性に是非お勧めです。



ほっ!トイレ(採用実績例)

【ほっ!トイレ】

山梨県庁

(富士山での配布として 2014年から4年間実施 今後も実施予定)

内閣府

(熊本地震の支援物資の政府調達として9万袋を納品 窓口:経産省)

陸上自衛隊、海上自衛隊、横浜市、渋谷区

東京電力(東日本地震の福島事故現場での支援物資として)

東京ガス、NTT東日本、成田空港、UR、三菱東京UFJ銀行

三井住友銀行(本社も含め首都圏、関西圏の2500店舗に納品)

楽天(社内備蓄として)、アマゾン(社内備蓄として)

オムロン、三菱地所、三菱重工、日立製作所

NHK報道局、TBS報道局

三越伊勢丹

鉄鋼ビルディング

JPタワー

他多数。

富士山

ほっ!トイレは、2014年～2018年に富士山山梨県富士吉田口で累計で3万個配布されました。

使用後物質の山道でのポイ捨ては“ゼロ”。

使用した方の2014年は95%、2015年は100%の方が臭気が気にならなかったとご回答いただいています。



乗鞍岳頂上小屋



2015年より携帯トイレ『ほっとイレ』の運用を始めている。

のりくら高原



携帯トイレ用仮設BOX



のりくら高原では、3カ所

ほっとイレ

のご使用できる「携帯トイレ用仮設BOX」を設置しています。



2015年よりほっとイレの運用を始めている。



2018年2月ほっとトイレが1万個ペルーの防災備蓄品で納品されました。



Mt. Fuji Toilet とは

- 特殊な排泄物処理剤によって、排泄物を脱臭、除菌、ゼリー状に固化するシステムです。
- 電気や設置工事が不要です。仮設トイレのように移動ができる為、あらゆる場所に設置ができます。
- 排泄物を悪臭なく固化するのでバキュームカー不要です。



Mt. Fuji Toilet のご利用方法

1



袋から取り出した薬剤を事前にボックスに入れた後、ボックスを仮設トイレの下部に設置します。(薬剤量:1~1.5kg)

2



仮設トイレは汚水タンクの代わりに架台に乗っている状態になります。排泄は、通常の仮設トイレと同じになります。

3



仮設トイレの下部に設置したボックスを引き出します。事前に入れた薬剤でゼリー状にし尿が固化します。

4



悪臭なし

ボックスのし尿はビニール袋にまとめて捨てます。高度な薬剤を使用していますので、ほとんど悪臭がしません。

Mt. Fuji Toilet の最終処理方法

最終処理方法は **3** パターンあります。 ※バキュームカー不要です

固化をしたままなら

焼却処理



液状に戻して
(ゼリーを溶解する添加薬剤使用)

し尿処理

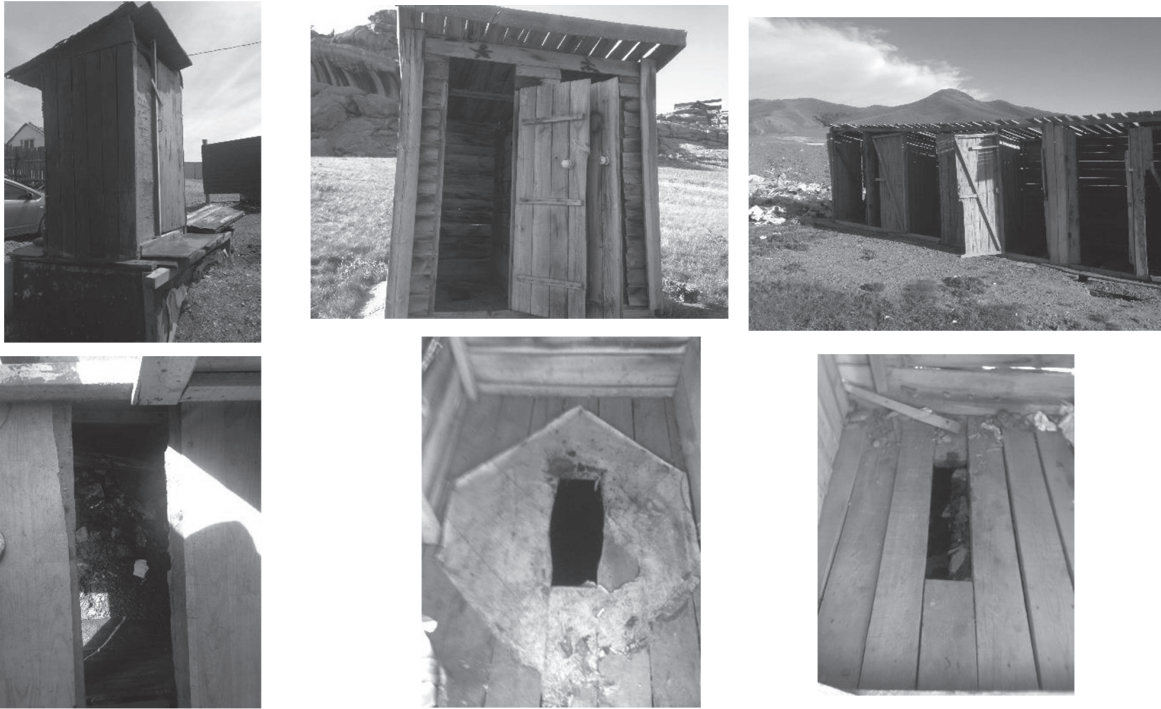


固化をしたまま

肥料化
(土壌還元)



モンゴルのトイレ事情(観光地、別荘地)



基本的には素掘りの土壌還元方式のトイレ

Mt. Fuji Toilet の実績

JICA 2015年度中小企業海外展開支援事業～基礎調査～ ナーダム実証実験 2016年

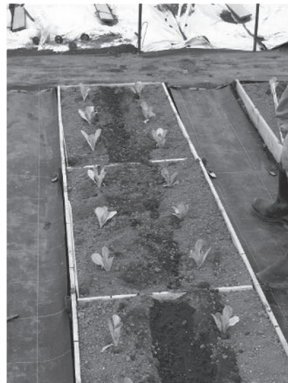


処理後の性状
(悪臭なし)

-27°Cでのウランバートルスワバートル広場のニューイヤーイベントでの仮設トイレの実証



明治大学での 路地栽培試験(タケノコレタス)

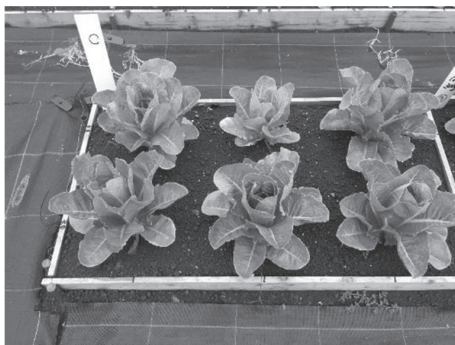


タケノコレタスへのMt. Fuji Toilet処理後のし尿の投入
2016.06.26

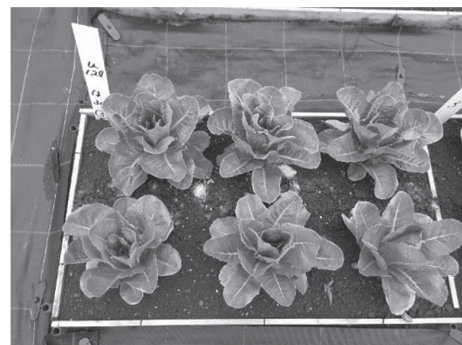
明治大学での 路地栽培試験(タケノコレタス)



タケノコレタスへの成長 2016.07.22



通常の土壌だけ(左)



Mt. Fuji Toilet処理後のし尿の投入(右)

ライフラインフリーのバリアフリー型仮設トイレ (開発イメージ図)

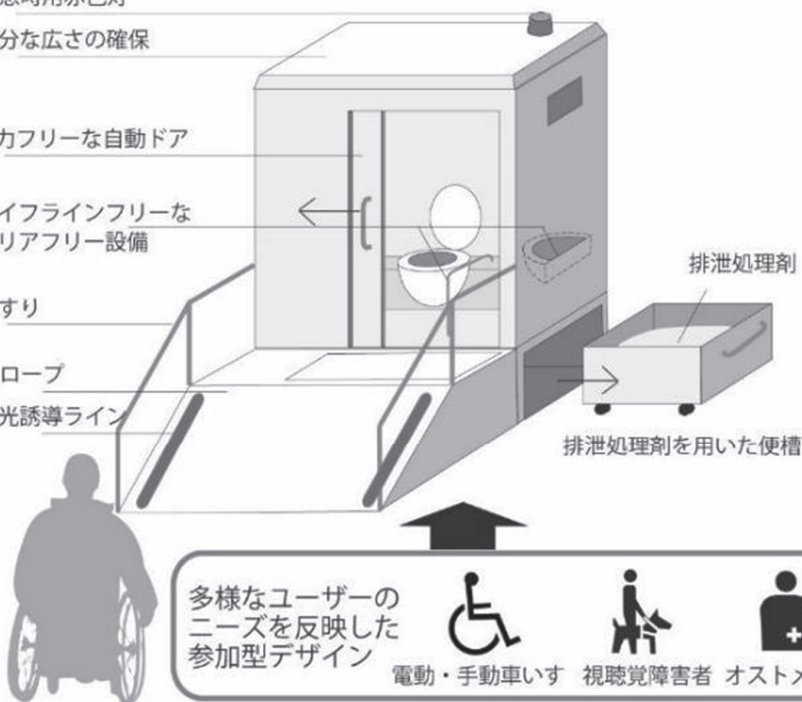
緊急時用赤色灯
十分な広さの確保

電力フリーな自動ドア

ライフラインフリーな
バリアフリー設備

手すり

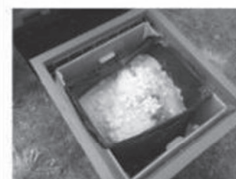
スロープ
蓄光誘導ライン



排泄処理剤を活用した
ライフラインフリーの
仮設トイレの技術



ライフラインフリーの
仮設トイレ (一般用仮
設トイレで実践済)



水を使わない排泄処理剤

多様なユーザーの
ニーズを反映した
参加型デザイン



電動・手動車いす 視聴覚障害者 オストメイト 高齢者 子育て世帯など

設定課題

【課題1】レンタル業で多目的トイレが普及しにくい
(2t車への積載が課題)

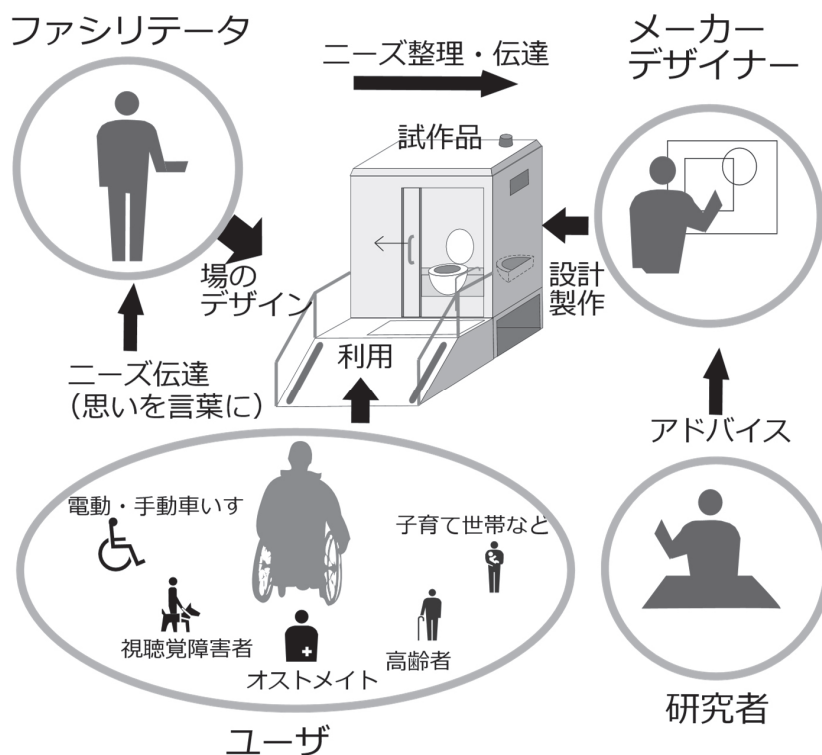
【課題2】ライフライン不要な屋外型バリアフリートイレ

【課題3】悪臭の無い衛生的なバリアフリートイレ

1年目の開発目標

- ワークショップを通じた車いす利用者、視覚障害者の広さに関わる要求機能の確認
- 2t車に積載可能な寸法 全ての障害者の方が使用できる物理的な構造の決定

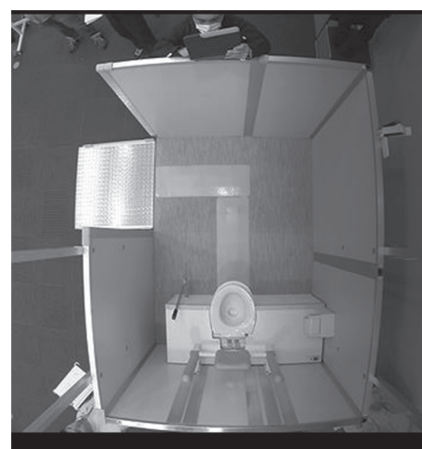
ユーザー、メーカー(レンタル事業者)、アドバイザーによる構成



当事者参加型ワークショップによる製品仕様の決定プロセス

試作素案のチェック (目的: 試作品設計・製作に向けたチェック)

素案となるモックアップを用いた各ユーザーの動作チェックとニーズ確認



実施内容

- ・試作素案モデルを用いたトイレ行動のチェック
- ・設計パラメータの確認

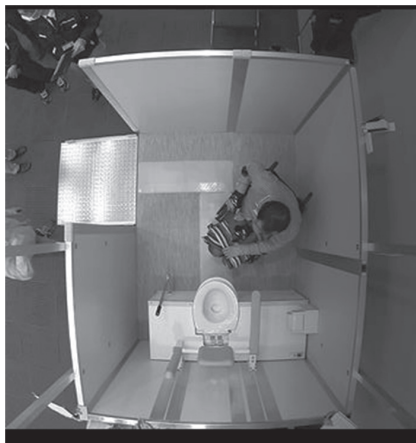
参加者

- 車いす利用者9名
- 視覚障害者6名
- オストメイト1名
- 高齢者 4名

当事者参加型ワークショップによる製品仕様の決定プロセス

試作素案のチェック (目的:試作品設計・製作に向けたチェック)

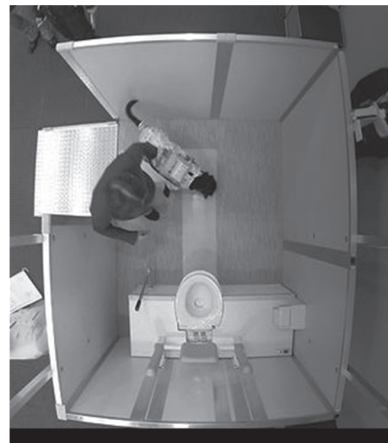
素案となるモックアップを用いた各ユーザーの動作チェックとニーズ確認



手動車いす利用者のケース



電動車いす利用者と
介助者のケース

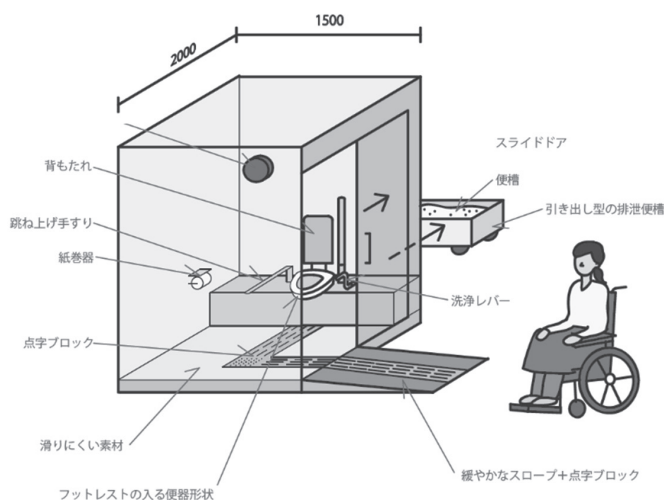


視覚障がい者と盲導犬
のケース

ライフラインを必要としない高機能な排泄処理剤による バリアフリー仮設トイレの開発(1年目)

【1年目の達成結果】

- ① 2t車(幅約1,635mm)積載が可能な寸法での構造決定
- ② ブースの低床化(薬剤処理層を便座直下からブース内に組み入れ)
- ③ モックアップブースで、車いす利用者、視覚障害者の、広さに関わる要求機能が満たされることを確認。(内寸で有効巡回スペース1,500mm×1,500mmを確保)
- ④ 検証用試作機の完成



1年目の課題はその制約の中で、下記の4点の課題解決を目指す。

課題	課題の内容	解決手法
便座位置	便座を片寄にするかの検証	モニター評価 (当事者参加で 実施)
当事者の方の より使い易い機 能の追及	①I字手すり ②簡易水洗レバー ③音声ガイダンス ④緊急警告灯等の検討	
処理後物質の 取扱方法	①処理後物質の取出方法 ②処理剤投入方法 ③取出時期のモニタリング方法の確立	専門業者と設計 製作 伊藤工業 日野興業
ロックダウン方 式の確立	トイレブースのパネルロックダウン方式によ り、輸送がより容易となる。	

23

ワークショップに参加したユーザ

回数	実施日	場所	電動車い す	手動車い す	杖利用	白杖利用	盲導犬利 用	計
第1回	10月2日(火)10:30~12:00	東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)	2	1		1		4
第2回	10月10日(水)~12日(金)	東京国際展示場	3		1			4
第3回	11月14日(水)13:30~17:00	東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)		3				3
第4回	11月24日(土)13:30~17:00	川崎市生活文化会館 てくのかわさき		1			4	5
第5回	12月5日(水)13:30~15:00	川崎市北部リハビリテーションセンター		2	4			6
		計	5	7	5	1	4	22

障害種別	障害名	人数
肢体不自由	神経難病	2
	頸椎損傷	5
	脳性マヒ	1
	高次脳機能障害	1
	四肢マヒ	1
	半身まひ	5
	骨形成不全症	1
	先天性多発性関節拘縮症	1
	パーキンソン症候群	0
	小計	17
視覚障害者	全盲	5
	小計	5
	合計	22

24

ワークショップの概要



説明・同意書記入



試作機ブースの確認

トイレ動作・設備チェック項目

No	項目
1	スロープを上げる動作
2	扉を開けて入る動作
3	便器へのアプローチ
4	便器への移乗動作のしやすさ
5	スペースの広さは十分か
6	荷物置き場の位置
7	手すりの利用
8	トイレトーパー位置
9	お尻の清拭・洗浄
10	洗浄レバーの使用
11	退出時の扉の開閉
12	非常用ボタンの位置
13	音声誘導の内容
14	その他、コメント、不便を感じた点

25

ワークショップの概要

実施内容

- ・ 試作素案モデルを用いたトイレ行動に即した使いやすさのチェック
- ・ 音声誘導の内容チェック



電動車いす利用者のケース



手動車いす利用者のケース



視覚障がい者のケース

26

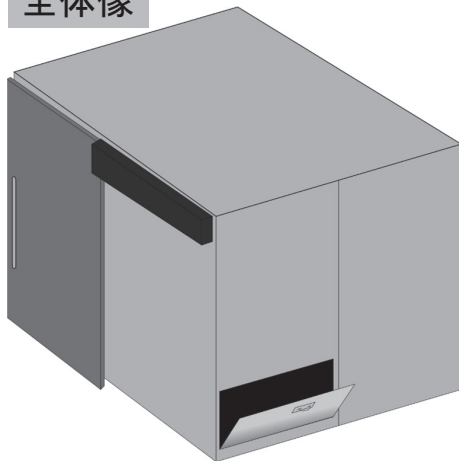
【課題3】

①処理剤で固化した処理後物質の取出し方法

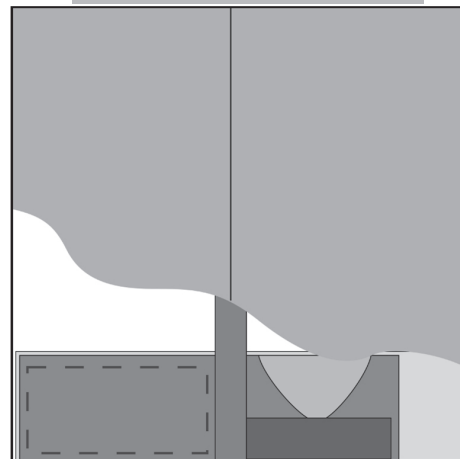
- ・ 低床化にした分処理槽の容量を確保する課題が残る
- ・ パネル式構造にするため側面中央に柱がある。また簡易水洗があるため便器直下に処理槽を設けることに問題。

→処理槽をスライドして取り出すことで解決

全体像



取り出し口側の側面



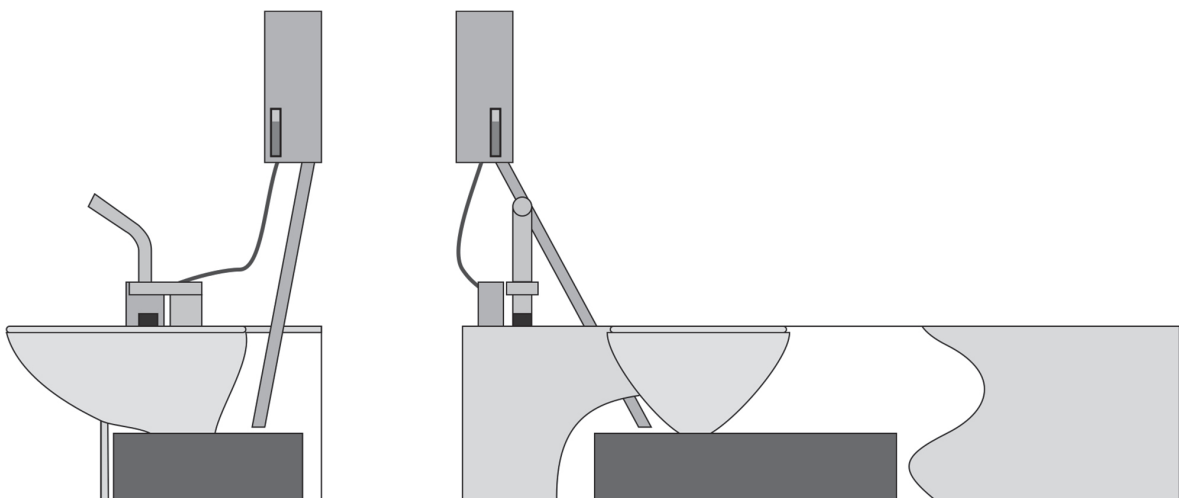
赤点線枠が取り出し口

【課題3】

②処理剤の投入方法

→簡易水洗のレバートリガーにして薬剤を投入する機構とする

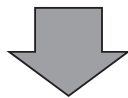
薬剤投入機構



水洗レバーの動作を利用。無電源で動作する。

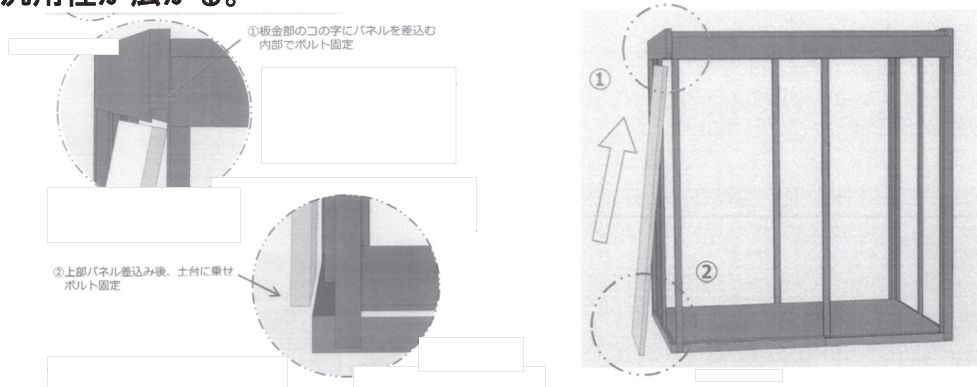
【課題4】

より運搬しやすい現場組立型、ノックダウン方式の確立



パネル方式の確立により

- ① 2tユニック車を用いなくも平ボディの2t車で輸送ができる。
- ② 処理後物質の取出窓の構造部分の強度を解決
- ③ パネルの交換だけで、処理剤方式とバキューム方式を兼用できるようなるため、汎用性が広がる。



→すでに設計終了。構造の改修作業を始めている。

29

当社は、JICAの中小企業支援基礎調査にも採択をされこれまでモンゴルで屋外トイレの実証を行ってきた。当該製品はインフラ脆弱な国でも適用ができる。本年10月の国際福祉機器展(HCR)「福祉機器開発最前線」コーナーにも出展をした。個人の方で購入を希望する方もいた。

平成31年3月 開発終了

平成31年中 複数の展示会に出展

展示会で実品を展示、試用をユーザに体験してもらう。平成32年の東京オリンピックパラリンピックに採用となるよう、商品のアピールを行う。本商品は国内山岳地域や海外のインフラの脆弱な地域のトイレとしても可能性があり、特に観光地のバリアフリートイレとしての海外展示会の出展も検討する。当社は浦安市と災害協定を締結しているが浦安市長からパラリンピックのキャンプ地になっており多目的トイレが足りないとの発言があった。また、盲導犬総合支援センターを通じて視覚障害者の団体との協業によって、本製品の周知を図る。

販売予定価格	150万円
年間販売目標	20数台

30

- これまで当社が携帯トイレ普及に携わってきた乗鞍岳でバリアフリートイレ採用の
具体的検討に入った。

乗鞍岳は日本で唯一、3000m近くの標高までバスで登頂でき、年間10万人以上の方が来訪する。下記写真の
畳平ではトイレが故障をしているため新しいトイレの設置の検討に入っている。岐阜県環境企画課では、昨年
バイオトイレの実証を行ったが、夏でも既存の低い山岳地域では、故障やメンテナンスが頻繁に起き、バイオ
トイレについての採用が懐疑的となっている。そこで有力な選択肢として当社のⒶ Mt. Fuji Toilet 方式が有力な
選択肢となってきている。バリアフリートイレを常設として繁忙期に仮設トイレを増設できるので柔軟に対応が
できる。



31

「シンポジスト講演②」

脊髄損傷者用歩行アシスト装置 『ReWalk』

株式会社安川電機

豊田 真

シーズ・ニーズマッチング交流会2018

脊髄損傷者用歩行アシスト装置 「ReWalk」

2019年1月9日

株式会社 安川電機

営業本部 ヒューマトロニクス営業部

© 2018 YASKAWA Electric Corporation



目次

- 会社概要
- ReWalk概要
- 導入実績
- まとめ

目次

- 会社概要
- ReWalk概要
- 導入実績
- まとめ

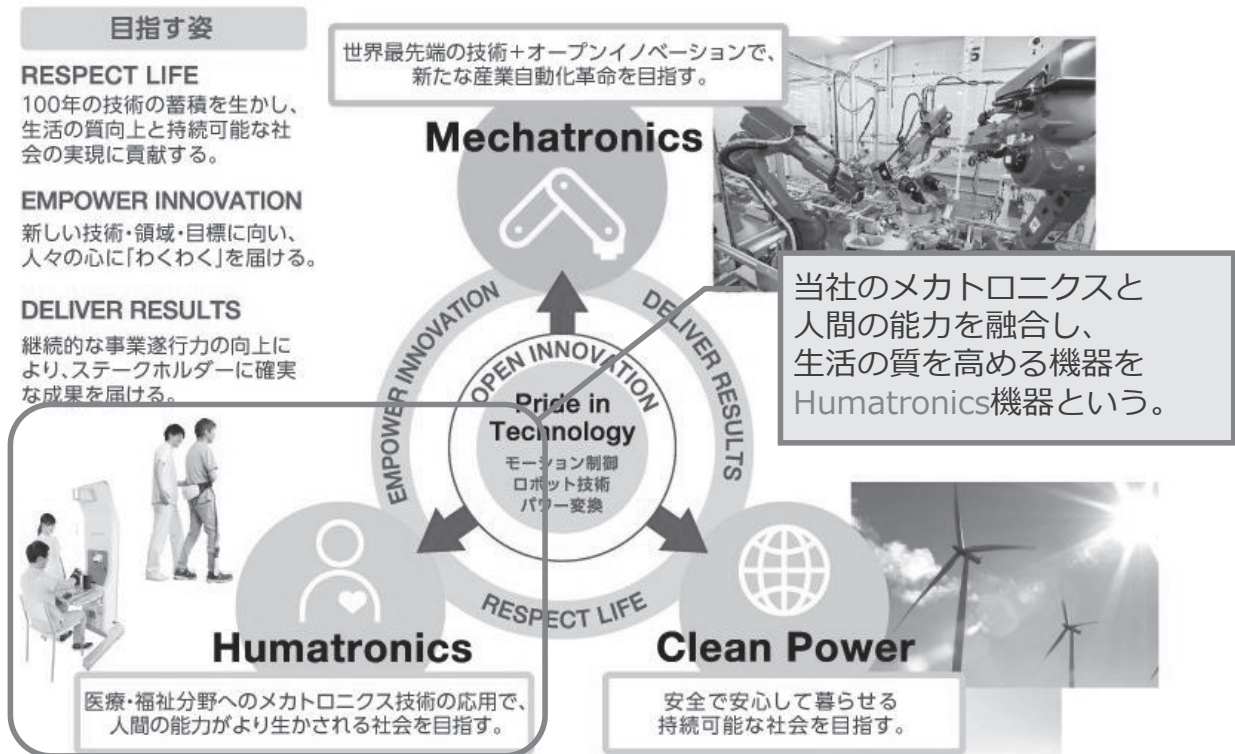
会社概要

(2018年2月28日現在)

- 商号 : 株式会社安川電機
YASKAWA Electric Corporation
- 創立 : 1915年(大正4年)7月16日
- 本社所在地 : 福岡県北九州市八幡西区黒崎城石2番1号
- 資本金 : 306億円
- 従業員数 : 連結 15,287名 ※臨時従業員含む
- 売上高 : 連結 4,485億円 (2018年2月期)
- 主な事業 : ・モーションコントロール (サーボ、インバータ)
・ロボット
・システムエンジニアリング



2025年ビジョン(長期経営計画)



CoCoroeブランド



CoCoroe

人の気持ちを“心得る”・・・
人とロボットのより良い環境づくり
を目指して・・・
安川電機は医療・介護・福祉機器を
リリースいたしました。

“COCOROE”（ココロエ）は安川電機 医療・介護・福祉機器の製品ブランドです。



上肢リハビリ装置
CoCoroe AR2
(2017年10月発売)



足首アシスト装置
CoCoroe AAD
(2018年1月発売)



前腕回内外訓練装置
CoCoroe PR2
(臨床研究中)



脊髄損傷者用
歩行アシスト装置
“ReWalk”
(2015年5月発売)

目次

- 会社概要
- ReWalk概要
- 導入実績
- まとめ

メーカー概要

企業名 ReWalk Robotics Ltd.
 国 イスラエル
 創業者 Amit Gofer博士 (CTO)
 CEO Larry Jasinski
 事業領域 ロボット技術を用いた
 健康・福祉事業



Amit Gofer博士 (CTO) (※写真中央)

1997年 交通事故により頸髄損傷
 2001年 会社設立
 2011年 ReWalk製品化

ReWalkとは？

**脊髄損傷者の継続的な歩行訓練を可能にする製品！！
日常生活の中で「歩いて移動したい！」という願望を叶えます！！**

治療器とは違い、これを装着すれば歩けない人が歩ける。



安倍首相
イスラエルご訪問時

天皇皇后両陛下の「安川電機みらい館」ご視察時

ReWalkの構成

脊髄損傷による両下肢麻痺者に、立位、歩行、着座等を実現する外骨格型の下肢装具で、電動制御によって膝と股関節の動きを補助し、歩行をサポートする。

- バックパック
 - ・バッテリー
 - ・コントローラ



- ロフトランドクラッチ
 - ・バランス保持



- ティルトセンサー
 - ・動作トリガー



- リモートコミュニケーター
 - ・動作選択



- ReWalk本体
 - ・モーター, ギア

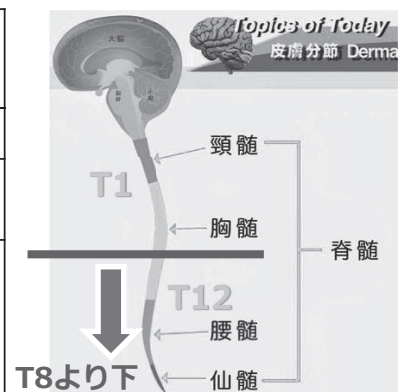


ReWalkの仕様



対象者	脊髄損傷による下肢麻痺者 (脊髄完全損傷 T8より下)
身長制限	160cm ~ 190cm 下腿部・大腿部長の基準値あり
最大連続歩行時間	3時間半
可能動作	椅子からの起立・着座、歩行

座位	直立	歩行	手動
上記のモードからは下記のモードに移行することができます。			
直立 または 手動	歩行、座位	直立モード のみ	座位モード 及び 緊急時に 使用可



ReWalkの特徴

ReWalkは脊髄損傷者の健康をサポートする製品

脊髄損傷者の大部分が自宅での生活に戻る。
日常的に2次疾病を予防する必要がある。

<車椅子生活による二次的合併症>

- ・ 糖尿病
- ・ 心疾患
- ・ 排泄機能低下による膀胱直腸障害
- ・ 筋肉量の減少/脂肪量の増加
- ・ メタボリックシンドローム
- ・ 骨粗鬆症

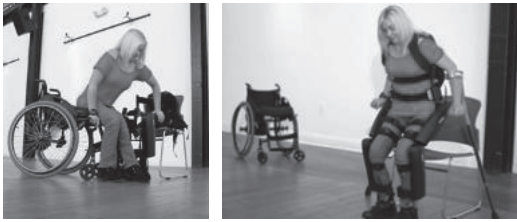


	お薬の減少
	メンタルヘルス
	排泄機能改善
	筋肉量増加と痩性減少
	体脂肪量減少
	疼痛改善

ReWalkのトレーニングプログラム

ユーザーと介助者に対し、トレーニングプログラムが準備されている。

BASIC CLINICAL TRAINING



- ・座学 16 時間（2日間）
- ・装置の空歩行と健常者での歩行を 20 時間×2名の患者を歩行させる



施設内使用の資格付与

Advanced CLINICAL TRAINING



- ・座学 8 時間（1日）
- ・実情に近いトレーニング（階段等） 30 時間×1～2名の患者を歩行させる



個人使用の資格付与

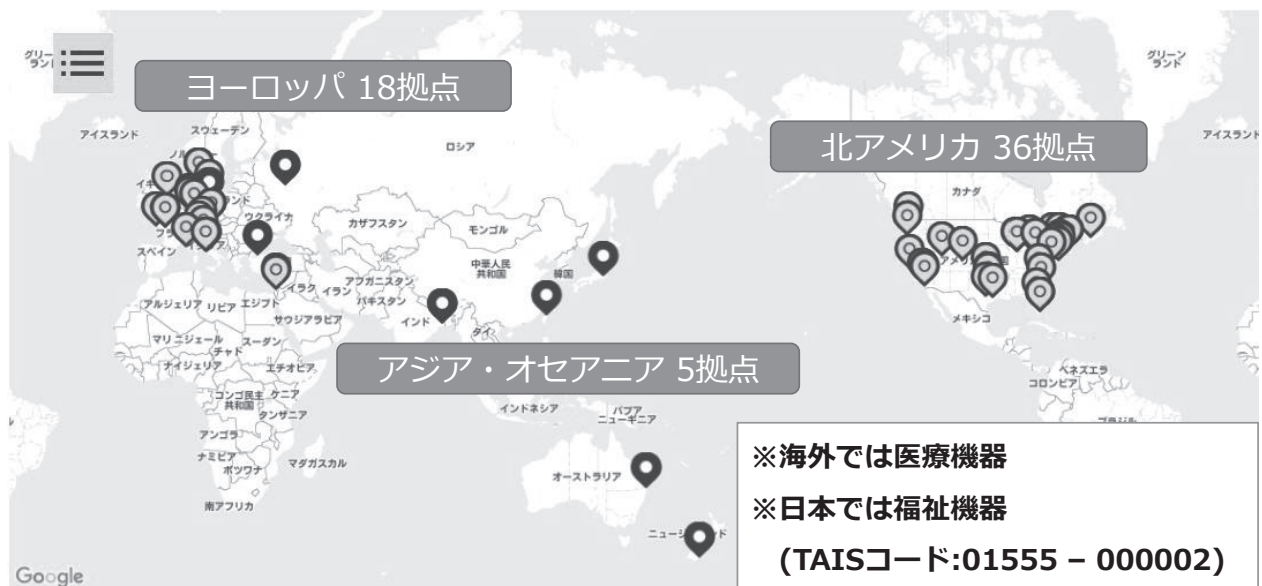
吉備高原医療リハビリテーションセンター、神奈川リハビリテーション病院で受講可能

目次

- 会社概要
- ReWalk概要
- 導入実績
- まとめ

海外の納入状況

個人ユーザー：70名 外来での使用者が1000名程度
PTが1人の小さなクリニックから大きなリハビリ施設まで導入されている。



国内での導入実績

施設への導入実績（2018年12月時点）

- 吉備高原医療リハビリテーションセンター
ReWalkトレーナー：3名
使用患者：16名
- 神奈川リハビリテーション病院
ReWalkトレーナー：6名
使用患者：21名



トレーニングの様子

ReWalk研究会

国内でのReWalk臨床応用・研究を促進し、
病院及び施設、個人での使用に向けた
安全性確保と使用効果の最大化を図る為に発足



ReWalk研究会（第6回）の様子
（2018年12月3日実施）

目次

- 会社概要
- ReWalk概要
- 導入実績
- まとめ

まとめ

- ReWalkは継続的な歩行訓練を通して、
脊髄損傷者の健康をサポートします。
- 国内外での導入実績があり、
車椅子生活による二次的合併症の予防が期待できます。

ReWalkに関するお問合せ等ございましたら、
弊社ヒューマトロニクス営業部までお問合せください。

TEL : 03-5402-4663

E-mail : cocoroe@yaskawa.co.jp

謝辞

ReWalkの運用に関して

数多くのアドバイスを頂きありがとうございます。

東京女子医科大学

吉備高原医療リハビリテーションセンター

神奈川リハビリテーション病院

和田 太 先生

古澤 一成 先生

横山 修 先生

YASKAWA

「シンポジスト講演③」

指伝話コミュニケーションパック

有限会社オフィス結アジア

高橋 宜盟



iPadで使うコミュニケーションアプリ

使う人に合わせたカスタマイズが容易に行える「アプリの余白」を多く持ち、従来の五十音表をベースにした意思伝達装置とは異なるアプローチで「使いこなす」のではなく「楽しんで使う」ことを目的とした、機能とコンテンツが一体となったソフトウェアパッケージです。

iPadのスイッチコントロールとの親和性が高いので、画面タップでもスイッチを使った操作でも、すぐに使い始めることができます。



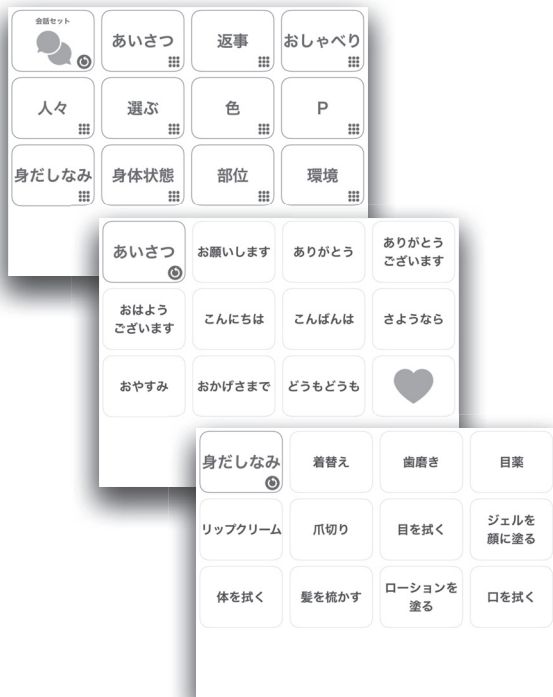
指伝話コミュニケーションパックのメインメニュー

流暢な合成音声で自然な会話を楽しむ

「箸の端を持って橋の端を走った」と聞いて頭の中に漢字を思い浮かべられるほどに流暢な日本語の合成音声で、自分の声でお話しをすることが難しい方でも、日常生活の中で自然な会話を楽しんでいただいています。

音程や速度、話者を1つの文章の中で変えて、物語の読み聞かせや、気持ちの表現のために声色を変化させるなど、工夫した使い方ができます。

合成音声を採用したのは、誰が作っても品質を一定に保てることと、一度作ったものを変更したり再利用しやすいことが理由です。



会話セットのサンプル

3つの指伝話アプリ

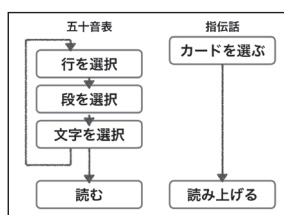
指伝話コミュニケーションパックには、カードタイプの指伝話メモリの他、文字タイプの指伝話プラス、文字盤タイプの指伝話文字盤の3つのアプリがセットになっています。

五十音表からひらがなを選択して文章を作るのは、特にスイッチで操作する場合には時間がかかります。毎回同じことばを一文字ずつ選択して話すのは大変です。よく使うことばは1枚のカードに登録しておくことですぐに選択して伝えることができ、カードにないことばは五十音表から文字を選択して伝えるという使い分けが可能です。もちろん、新たにカードを作ってもよいです。

指伝話メモリのカードから、直接他のアプリを起動

することができるので、ホーム画面に戻って他のアプリを起動する手間が省けます。他にもURLスキームに対応したアプリは直接カードから呼び出すことができ、カードに戻ることができるようになりました。

余分な操作を省くことで体力を温存し、ここぞという時にその力を使っていただけます。



カードを選ぶ操作は簡単



指伝話文字盤



指伝話プラス



スマートスピーカーに話しかける

「ただいま」と玄関で声をだせば、部屋の電気とエアコンがつき好きな音楽が流れる時代、便利な世の中は「声を使う」ことが多くなりました。自分の声でお話ししづらい方は不便になってしまうと思うかもしれません。そんな時には指伝話の音声をお使いください。

スマートスピーカーに話しかけても認識される流暢な音声です。

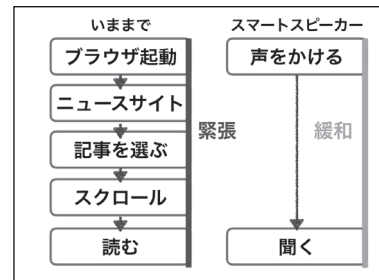
いままでは、パソコンでニュースを読む場合には、ブラウザを起動し、ニュースサイトを開き、記事を選び、スクロールしながら読むなどさまざまな動作があり、常に緊張して操作をする必要がありました。スイッチでの操作はととても大変です。

カードを1枚選ぶと「最新のニュース」とスマートスピーカーに声をかけます。後は目を閉じてリラックスしてニュースを聞くことができます。

スマートスピーカーを介してエアコンやテレビなどの環境制御ができるようになってきましたが、これらの機器を組み合わせることで、カードの選択だけで指示することもできるようになります。



「OK Google, 最新のニュース」



ニュースを読む操作の違い

複雑な操作を1枚のカード選択に置き換え

iOS 12の「ショートカット」機能は、複雑な操作をタップ1つにまとめて簡単に使うことができます。指伝話メモリのカードを選ぶことでそのショートカットを呼び出すことが可能です。

パパに電話をかける、ママにFaceTimeする、パパに「はやく帰ってきて」とメッセージを送る、といった操作を、カード1枚選択するだけでできるようになります。

iPadのスイッチコントロールで、ほぼすべてのiPadの操作をスイッチで行うことはできますが、一つ一つは大変な手間です。

ショートカットを呼び出すだけなら簡単です。

カードを選ぶ操作は、ことばで伝えることだけでなく、音楽をかけたリエアコンを操作するといった身の回りのことを行う操作にもなります。



「アレクサ、リビングの電気をつけて」

「障害があるから使う機械」から「誰もが楽しめる機会」へ

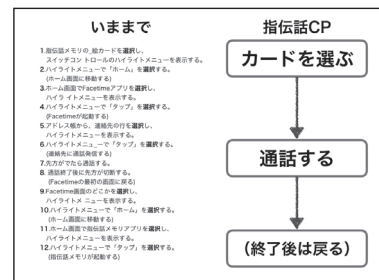
ICTは生活の中の不便を解消する格好いいものです。私たちの望みは「障害者向けの〇〇」「病気だから〇〇を使う」という区別をすることではなく、ICTの恩恵を受けるのは誰もが一緒であり、笑顔を共有できる世の中が普通になることです。

コミュニケーションは、病気の種類や障害の有無に関係なく誰にでも関わり誰にでも必要なことです。コミュニケーション機器を使うこと自体が目的ではありません。会話をすることで、相手に興味を持ち、近づき、知れば、尊敬できる相手だとわかるでしょう。そして誤解や偏見がなくなり、一緒に笑顔になることができます。

コミュニケーション機器が従来の「専用機」の枠組みを越えてiPadのような一般的な製品を使って普及し始めたことは、まさにその一歩だということができます。

指伝話コミュニケーションパックは、こういった考えを背景に作られ、そして利用者と一緒に成長して参ります。

「これは 機械 ではなく 機会 です」



スイッチ操作で電話をかける手順の違い



正解は1つではない、人生と同じ

<https://www.yubidenwa.jp/>



「シンポジスト講演④」

聴覚障がい者の QOL の改善に向けて ～遠隔文字通訳(e-ミミ)～

株式会社アイセック・ジャパン

一瀬 宗也

聴覚障がい者のQOLの改善に向けて ～遠隔文字通訳(e-ミミ)～

2019/1/9

株式会社 アイセック・ジャパン

代表取締役 一瀬 宗也

Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

1

1. 代表者プロフィール

- ・ 現住所 沖縄県うるま市宇堅
- ・ 1956/4 福井県小浜市生まれ
- ・ 1979/3 名古屋大学理学部数学科卒
- ・ 1979/4 日本アイ・ビー・エム入社 以下の職を歴任
 - 小売業担当営業課長
 - 流通業担当取締役補佐
 - ストアシステム営業部長
 - ibm.com営業部長
 - ibm.com中小企業担当事業部長
- ・ 2003 IBMアジアパシフィック出向
 - ibm.comセールス・イニシアティブ担当
- ・ 2004 日本アイビーエム・イーコミュニケーションズ 代表取締役社長
- ・ 2005/4 日本IBM BTO事業 M-comプロジェクト責任者
- ・ 2006/4 アイセック事務所代表 上記BTOプロジェクト支援
- ・ 2008/9 沖縄県産業振興公社「平成20年度ベンチャー連携育成事業」認定
- ・ 2008/9 株式会社アイセック・ジャパン 代表取締役社長(現職)
- ・ 2013/5 沖縄中小企業家同友会理事 健障者(障害者問題)委員会委員長(～2017)



Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

2

2. 会社概要



弊社は、2008年9月にITを活用した社会貢献活動を事業とし、沖縄に設立した会社です。
2012年日経ビジネス誌「日本を救う次世代ベンチャー100社」の1つに選ばれております。

会社名	株式会社アイセック・ジャパン
所在地	沖縄県うるま市川崎468番地 いちゅい具志川じんぶん館1F
設立	2008年9月1日
資本金	3,990万円
代表者	一瀬 宗也(いちせ むねや)
業種	情報通信サービス
主要事業	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔型リアルタイム文字配信サービス(e-ミミ)事業 ・電話リレーサービス ・スピード文字起こし ・インターネットショップ「美ら国」
連絡先	電話:098-972-6888 FAX:098-987-5627 E-mail:iscec-j@iscecj.co.jp



Copyright © 2017 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

2012年ビジネス「日本を救う次世代ベンチャー100」



2012.10.8

日経ビジネス

日本を救う
次世代ベンチャー
100

中国12都市・消費者調査
尖閣デモ、絶望の中で見えた光
インテリジェント 藤井正志(フロンティアインテリジェント代表取締役)
それでも中国で作って売る

特集

23 介護の方への悩みを解消
24 ネット時代の格差解消
25 経営者層へ資料に文字
26 老人の手書き文字も認識
27 ヘルパーが顔に同行
28 中高年の婚活支援
29 少子化も防ぐ環境

さらに、高齢化対策分野では、人々の「死後のカネの悩み」に応える新興企業も登場している。
日本消費者協会によると、葬儀費用の全国平均額は126万7000円。介護同様、一般家庭にとっては決して安い金額ではない。インターネットで検索すれば数十万円程度で葬儀を依頼する者も増えている。実際には「贈与費用」「安置料金」「ドライアイス」など追加料金が加算され、結局、100万円を超える請求が発生するケースが少なくない。

格差問題を考える1万件
そんな中、「認知症は一切不要」を合言葉に、福利金で葬儀を依頼するベンチャー企業が盛況を博している。2005年設立のユニクエスト・オンライン(大阪市、田中智也社長)は、過去、各別式を完結せず、直葬(火葬のみ)というプランを推せば、わずか1万8000円。ほかにも、火葬だけでなくお墓がないという顧客のために、「火葬+直葬」のプランも設けているが、それぞれ13万8000円、49万8000円と競

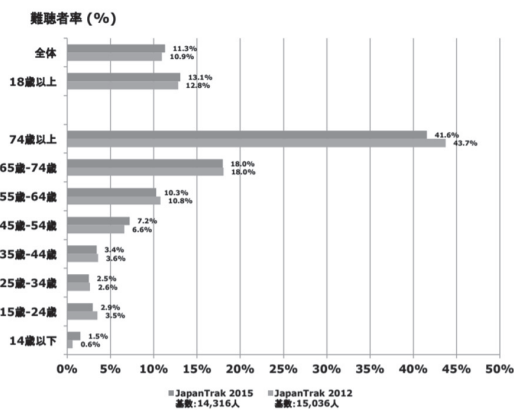
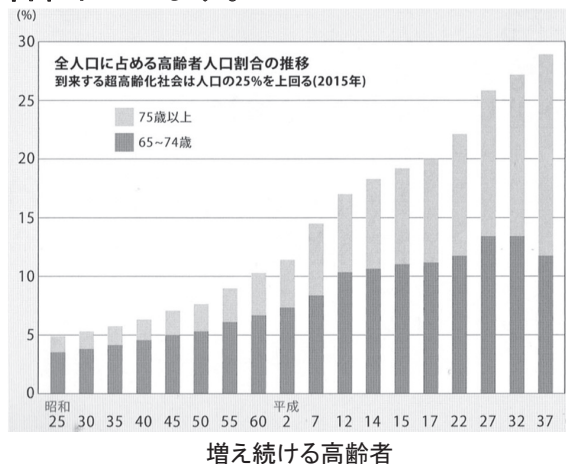
格の価格を打ち出している。
自社で葬儀場を持たず、全国5000の葬儀場、900の葬儀社とのネットワークを築き事業展開する独自のスタイルも、価格破壊ができる理由の一つだ。ネットとコールセンターで24時間365日注文を受け、全国の葬儀場をすべてに手配する。2012年7月期は年間で注文件数が1万件を突破。葬儀部門の手数料収入が5億5000万円に上った。
「葬法」と称し、「人生の最後」を選べる準備を前向きに進める人が増えている。そうした中には、子供や親戚に経済的な負担をかけたくないと、自ら高品質の葬儀を依頼する人も少なくない。そんな高齢者にとって、ユニクエスト・オンラインのような企業は貴重な存在と言える。
介護、アンチエイジング、社会参加支援、2000億円の市場規模、エンゲル率増大...日本社会の高齢化が一段と進む中、次世代起業家を支援する最先端ベンチャーから、アイデア豊富なユニークなベンチャーまで、様々な「新しい不安解消ベンチャー」が今後も活躍するのは間違いない。

Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

3. 聴覚障害者のおかれた環境

■ 1 聴覚障害者のおかれた環境

聴覚障害は外からはその障害が見えないため社会から認知されにくく、障害者のQOLを大きく損ねています。その数は高齢化社会の進展とともに1000万人を超えると言われています。



難聴と自覚する人の割合

日本補聴器工業会 (JapanTrack 2015)

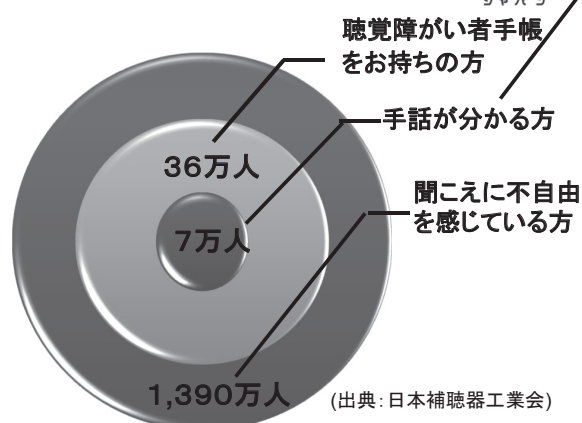
アイセックグループは、「e-ミミ」で聴覚バリアフリー社会の実現を目指しています！

耳の不自由な方の現状

聴覚に障がいがある身体障がい者手帳を交付されているのは約36万人です。

そのうち手話が分かるのは約20%弱の7万人程度です。約29万人の方は筆談や口話でコミュニケーションをとっています。

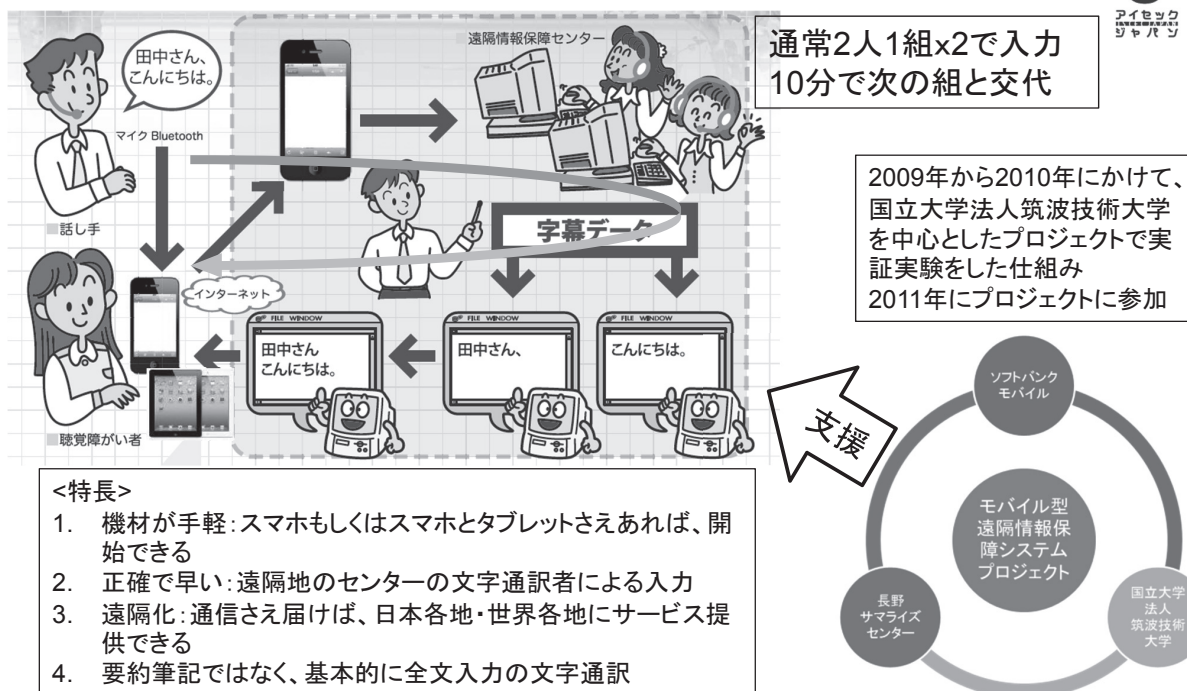
高齢化社会を迎えている我国では、障がい者手帳をもっていなくても聞こえに不自由を感じている方は1,390万人近くいると言われています。(出典:日本補聴器工業会)



3/3/2015 WHO

- ・全世界で3.6億人の聴覚障害者
- ・11億人の若者が難聴のリスク
- ※中高所得国、12~35歳
- 原因 50%⇒オーディオ
- 40%⇒イベント

5. 「モバイル型情報保障サービス(e-ミミ)」とは



Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

7

特長



1. 機材が手軽: スマホもしくはスマホとタブレットさえあれば、開始できる
→特別なスペースも必要なし、交通費も不要
2. 正確で早い: 遠隔地のセンターの文字通訳者による入力
→毎日仕事として、情報保障を実施している専門の入力者が対応。
3. 遠隔化: 通信さえ届けば、日本各地・世界各地にサービス提供できる
→交通の便の悪いところや離島、海外でも対応が可能
4. 要約筆記ではなく、基本的に全文入力の文字通訳
→要約ではなく、全文入力を心がけており、利用者の要望があれば、(拍手)や(笑)などにも対応。そのまま議事録速報としても利用可能。
要約の仕方により意味が違って伝わる心配がない。

Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

8

3. 「e-ミミ」サービスの展開エリア



<議会>



- ・武雄市議会(佐賀県) ・南城市議会(沖縄県)
- ・千代田区議会(東京都) ・沖縄県議会(沖縄県)
- ・福井県議会(福井県) ・大田区議会(東京都)

<高校・大学>



- ・小平高校/大森高校(東京) ・名桜大学(沖縄)
- ・沖縄国際大学(沖縄) ・琉球大学(沖縄)
- ・神奈川工科大学(神奈川) ・筑波技術大学(茨城)

<各種イベント>



- ・国連防災世界会議(2015年・宮城県)
- ・シンポジウム・セミナー・学会
- ・結婚式 ・ミュージカル ・トークショーなど

<TVやラジオのライブ字幕>



- ・ミキオポスト OnRadio(毎週木曜日20時～)
- ・2016年リオオリンピック(ボランティア)
- ・2016年福井放送年末特番

Copyright © 2017 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

9

今後の課題と解決策



- ・ 価格と費用
 - 速さと正確性を担保するため、2名ペアでの入力。長時間入力には複数ペアで対応
- ・ AI技術の取り込み
 - 音声認識ソフトの活用がうたわれているが、現行ではご認識も多く、人と違いご認識でも文章を表示してしまうので、当事者が間違った認識をしてしまう恐れが高い
 - 音声認識と人とのコラボレーションによる対応

Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

10

人と音声認識のデモ



Copyright © 2013 株式会社アイセック・ジャパン
All Rights Reserved

11

シーズ・ニーズマッチング交流会2018

特別企画① シンポジウム

『福祉機器開発の最前線と現状の課題』

配布資料

東京会場 平成31年 2月13日(水)13:30～15:30
TOC有明 コンベンションホール WESTホール内

公益財団法人テクノエイド協会

～目次～

【東京開催】

➤ シンポジスト講演①

「ロボティックモビリティによる移動サポート」

パナソニック株式会社……………P1

➤ シンポジスト講演②

「対麻痺者用歩行補助ロボットWPAL(ウーパル)について」

アスカ株式会社……………P7

➤ シンポジスト講演③

「視線や目・瞼の動きによる操作支援スイッチ eyeSwitch(アイスイッチ)」

株式会社エンファシス……………P11

➤ シンポジスト講演④

「OTON GLASS」

株式会社オトングラス……………P19

シーズ・ニーズマッチング交流会2018 特別企画①

福祉機器開発の最前線と現状の課題【東京開催】

～プログラム～

■ 13:30 開会

■ 13:35-13:40 あいさつ

座長:公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾

【シンポジスト講演 各20分】

- シンポジスト講演① 「ロボティックモビリティによる移動サポート」
パナソニック株式会社 笹井 裕之 氏
- シンポジスト講演② 「対麻痺者用歩行補助ロボットWPAL(ウーパル)について」
アスカ株式会社 樋口 励 氏
- シンポジスト講演③ 「視線や目・脛の動きによる操作支援スイッチ eyeSwitch(アイスイッチ)」
株式会社エンファシス 大島 佑介 氏
- シンポジスト講演④ 「OTON GLASS」
株式会社オトングラス 高橋 昌希 氏

【パネルディスカッション 40分】

【座長】宇田川 竜吾

【マッチングコーディネーター】松尾 清美 氏

【パネラー】笹井 裕之 氏／樋口 励 氏／大島 佑介 氏／高橋 昌希 氏

■ 15:30 閉会

「シンポジスト講演①」

ロボティックモビリティによる移動サポート

パナソニック株式会社

笹井 裕之

ロボティックモビリティによる 移動サポート

2019年 2月 13日

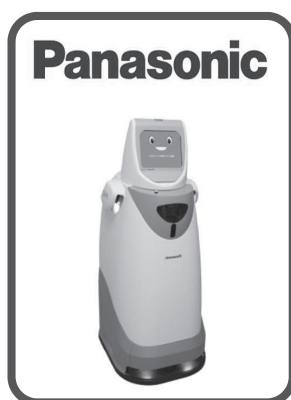


パナソニック株式会社 マニュファクチャリングイノベーション本部

ロボティックモビリティの特徴

2

パナソニック(株)とWHILL(株)との共同開発で新たなモビリティを実現



Panasonic



WHILL

=



ロボット技術

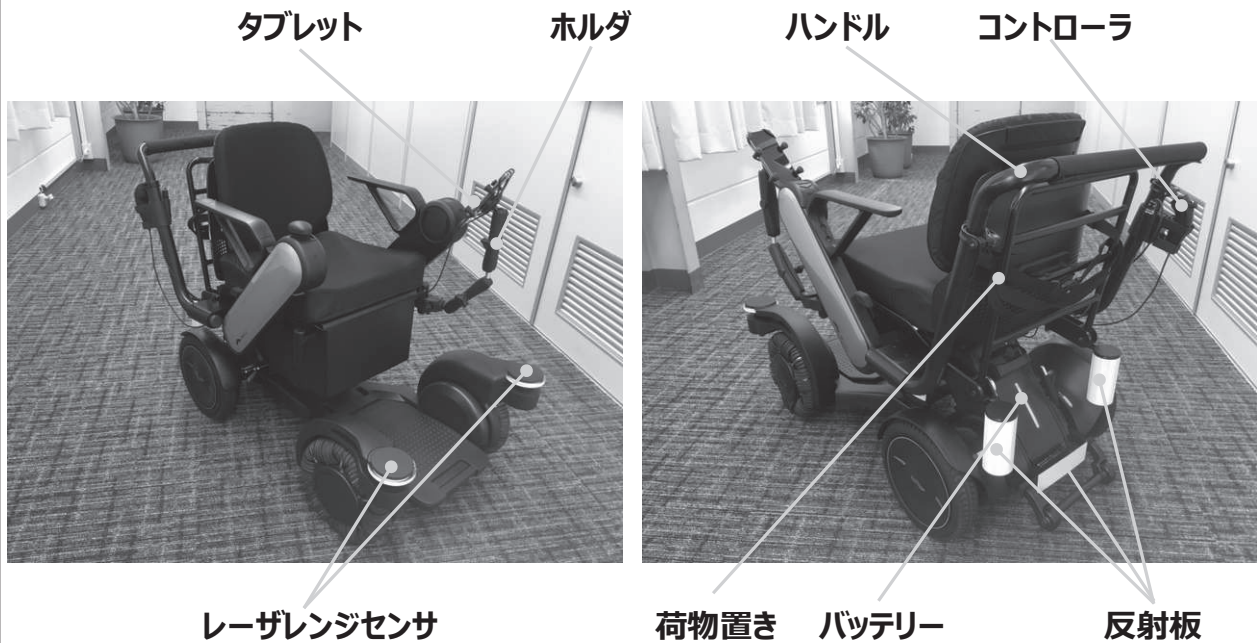
モビリティ技術

WHILL NEXT

- ・パナソニックの安全で信頼性の高い自律移動技術
- ・WHILLの先進的なデザイン、これまでにないイメージの車いす

■ WHILL NEXT
先進的なデザインと安心・安全の移動機能を有する斬新なモビリティ

WHILL本体にセンサやタブレット等を搭載し、ロボティクス機能を実現



ロボティクスモビリティによる移動サポート

- ◆ 車いすのサポートや配置管理などの業務負荷は大きい
- ◆ ロボティクス技術で安全で快適な移動を実現するパーソナルモビリティ

現状課題

- 移動サポートの作業負荷が大
- 移動サポートを要する患者様の増加
- 車いす電動化に対する安全面の不安

目指す姿

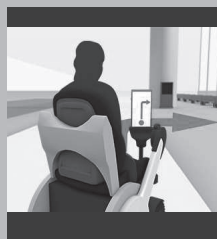
- 自動停止で操縦ミス等による衝突を防止
- 自律移動で検査室等まで迷わずご案内
- 自動配車で車いす配置管理業務を軽減

① 自動停止機能



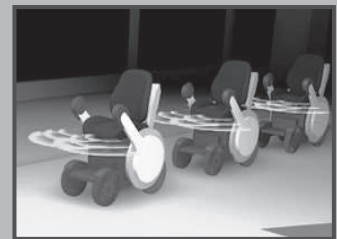
- モビリティが衝突の恐れがあると判断すると自動停止
- 操縦に不慣れた搭乗者でも安心して利用可能

② 自律移動機能



- 地図情報を元に自己位置認識
- 目的地までの経路案内が可能
- 目的地を指示すれば、自動で経路を選択して移動

③ 追従走行



- グループでの移動も複数台で連携し、一体で移動
- 使用後もまとめて回収することで回収業務の業務負荷を軽減

空港内での使用を想定した場合の『未来の空港移動シーン』



搬送ロボット：HOSPIの導入実績



【導入実績】

獨協医科大学病院

埼玉医科大学国際医療センター

松下記念病院

シンガポール チャンギ総合病院など

世界に先駆けて、ロボットの国際安全規格の認証取得

世界初のロボット安全規格
ISO13482の認証取得

ロボット技術を応用した離床支援の
ロボット介護機器「リショーン」



世界初の自律移動ロボットの
ISO13482対応JIS規格の認証取得

院内搬送ロボットHOSPIがJIS規格を取得
「JIS B 8445」(ISO13482翻訳版)
「JIS B 8446-1」(タイプ別規格)



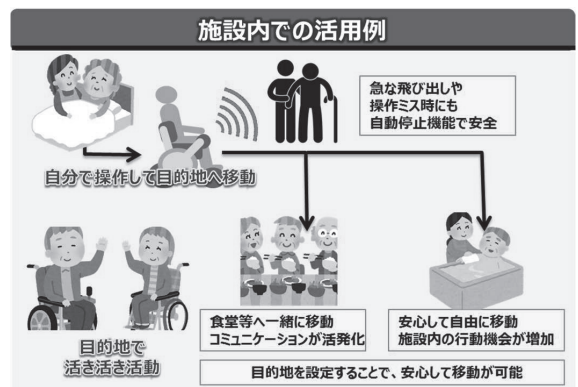
福祉関連施設でのご活用イメージ

- ◆ 施設内で自ら移動される方々には、自動停止機能で衝突を防止
- ◆ 来院される方々（患者様、ご家族様）を、目的地まで自動送迎

【ご利用イメージ①：施設での活用】

対象の方々 施設入居者/訪問者
ご利用方法

- ・自動停止機能により、人や壁面への衝突を防止
- ・操作サポートで安心してエレベータ搭乘
- ・安心移動で、行動機会の活発化期待



【ご利用イメージ②：診療時の活用】

対象の方々 入院患者、外来患者、お見舞いに来られたご家族 など
ご利用方法 自律移動機能により、検査室や診察室などの目的地へ送迎



Panasonic

「シンポジスト講演②」

「対麻痺者用歩行補助ロボットWPAL(ウーパル)について

アスカ株式会社

樋口 励

シーズ・ニーズマッチング交流会 特別企画 ①

対麻痺者用歩行補助ロボット WPAL (ウーパル) について



於：TOC有明 4F コンベンションホール
アスカ株式会社 開発本部 樋口 励
2019.01.13



ASKA アスカ株式会社 概要

自動車部品事業
1954～

配電盤事業
1963～

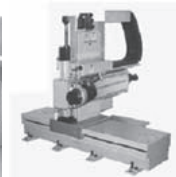
ロボット事業
1986～



ボディー部品



分電盤、制御盤



産業用ロボットシステム



本社工場 (愛知県刈谷市)

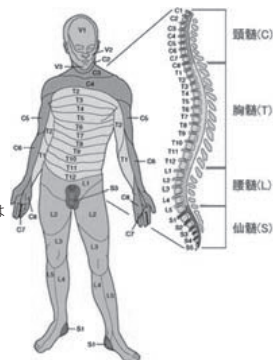
2000～
開発本部 Start

対麻痺について

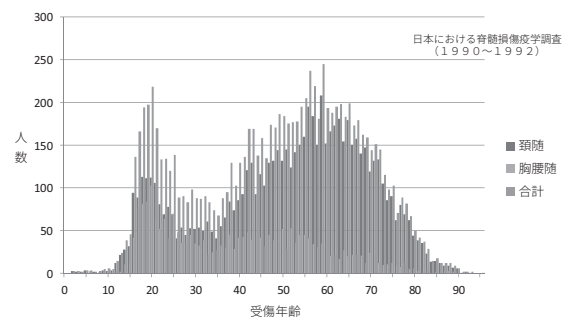
脊髄損傷などによる対麻痺は現在の治療技術ではその回復は困難であり、車いすが唯一の実用的移動手段である。長期間の車いす生活は下肢骨に負担がかからず、下半身の血液循環が低下するために、骨粗鬆症や便秘など、内臓疾患の一因になっている。

低い目線での生活による心理的ストレスは想像以上に大きく、「再び立って歩きたい」という願望はきわめて大きい。

この希望を叶えるためにWPALの開発が始まりました。



脊椎損傷の発生頻度



毎年5000人以上発生
車いす利用者は全国で10万人以上

対麻痺者歩行装具

外側系装具



HGO

RGO

対麻痺者の歩行再建手段として装具が利用されてきた。

外側系装具の特徴：
股関節は骨盤の外側に位置します。主に欧米で使われてきました。脚の振り出しは容易ですが、体幹部が拘束されるので装着したまま座位をとると苦しい、車いす上で装着できない、等の問題があります。

内側系装具



HALO

Primewalk

内側系装具の特徴：
股継手が両下肢の間に位置します。体幹が拘束されない、車いすとの併用が容易、立位が安定するなどの特徴があり、日本で最も広く利用されています。

WPALはPrimewalkを発展させて開発されました。

装具の問題点とその解決策



従来の問題点として、装具に力源が無いために歩行時の上肢負担が大きい、膝・足関節が動かないので車いすからの起立・着座が困難である。

この問題を解決するために、内側股継手付き長下肢装具の股・膝・足関節の各々にモータを付付け、パワーアシストすることにより上肢の負担を軽減し、車いすからの起立・着座と歩行が再現できる。

内側系装具



各関節に
モータを付加

+



=



2005年 開発開始
2007年 実証試験開始
2013年 販売

WPAL-G ロボット部の基本構造



【機構部】

- ・内側・外側両面手具の優れた特徴を踏襲
- ・股、膝、足趾に各自開発のサーボモータ搭載
- ・各関節はモジュール化、パイプにより連結
- ・各モジュール間のパイプを伸縮することにより様々な身長対応



【装具部】

- ・大腿カフは前後調整機構及び内カフのサイズ大小により様々な脚のサイズに対応
- ・下腿カフは前後と上下左右の位置調整、角度調整機構によりO脚・X脚、可動域制限がある膝に対応
- ・足趾に専用の簡便なしっかりとした固定を両面構造、補強機構により安定した立位とスムーズな歩行を実現

本体装着条件：身長155～180cm 体重80kg以下

WPAL-G ウォーカの基本構成

ウォーカと制御部



【タブレット】

パラメータの転送、モニタリング
Bluetoothにより
WPAL制御バッグと通信

【操作スイッチ】

レバーとボタンにより
起立・着座・歩行のモード選択
スタート/ストップ

【表示パネル】

動作モード表示
操作スイッチとしても使用可能

【制御バッグ】

制御装置・バッテリー
歩行者から取り外して
ショルダーバッグ形式で
使用可能

高さ86cmから100cmの調整が可能

WPALマネージャ 操作手順



移乗なし・介助なし



装着



本体、ウォーカ、制御バッグ



起立

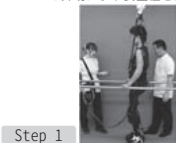
歩行

WPAL 歩行練習プログラム事例

対麻痺者の練習は医師の診断及びPT指導のもとでの計画的練習が必要です。
下記STEPは上記のもと実施された事例です。

平行棒での起立・着座・足踏み・歩行練習
PTの介助により安全性を確保

懸垂装置+ウォーカによる歩行練習



Step 1

トレッドミルでの連続歩行練習



Step 2

ウォーカによる自立歩行練習



Step 3



Step 4

WPALの対象症例

連続歩行時間及び距離

Code	神経レベル	性別	年齢※	時間 [分]	距離 [m]
HT	L1	男	36	120	2,375
MT	T12	男	22	60	1,362
KT	T12	男	32	64	1,095
MY	T12	男	60	51	1,052
SKA	T12	男	33	18	220
IS	T11	男	23	54	983
TK	T11	男	47	10	40
OS	T11	男	54	9.5	76
YA	T10	男	22	10	143
AA	T10	女	34	84	1,513
SH	T9	男	49	12	99
WH	T8	男	53	3	20
SKE	T6	男	43	8	80
IY	T6	男	60	4.5	30
KM	T6	女	61	10	80

※記録時の年齢

(2017年)



実証試験： 5施設で実施中、のべ40名以上の患者が参加

実施施設： 藤田医大、藤田医大七栗、中部ろうさい病院、総合せき損センター（福岡）、愛健医院（長崎）

WPAL-G 販売について



WPAL-Gは現在販売中です。(2013年1月30日より)
リハビリ病院向けに臨床研究を目的として販売します。
購入先病院は、研究・倫理承認を得て使用して頂きます。
WPALは、汎用型モデルで複数の患者様に対応します。

藤田保健衛生大学の練習マニュアルに従い、医師及び
理学療法士に実施講習を行い、使用して頂きます。
実地講習を兼ねてWPALセミナーを定期的で開催しています。

選択基準

- ・ 対麻痺, L1~T4
- ・ 身長155cm~180cm
- ・ 体重80kg以下

購入前に十分に検討できるよう、モニター機の貸し出しや
レンタル制度も充実させています。

販売元：東名ブレース(株)
製造元：アスカ(株) ロボットシステム事業部

15

「シンポジスト講演③」

視線や目・瞼の動きによる操作支援スイッチ 「eyeSwitch(アイスイッチ)」

株式会社エンファシス

大島 佑介

視線や目・瞼の動きによる 操作支援スイッチ 「eyeSwitch (アイスイッチ)」

株式会社エンファシス
企画開発部

(C) Emfasy Corporation. 2019 *Emfasy*

■アイスイッチとは

ALSなど四肢の不自由な方が、視線や目・瞼の動きで外部機器を操作できる新たな入力スイッチです。今まで受け身で待っていた方が、自発的に助けや人を呼ぶことができ、身の回りにある機器の操作が自らできます。



(C) Emfasy Corporation. 2019 *Emfasy*

■アイスイッチの「視線による操作」

登録した視線の方向に視線を向ける度、スイッチON操作となります。
例えば、左方向の視線を登録した場合、左方向を見る度にスイッチON操作となります。

チラッ！
と見る。



「普段は。。」



「スイッチ操作したい時だけ」



(C) Emfasy Corporation. 2019 Emfasy

■アイスイッチの「目・瞼の動きによる操作」

目や瞼の動きの大きさを予め登録(測定)し、動きの大きさが登録(測定)した時より大きくなる度に、スイッチ操作ができます。

例えば瞼の動きで、動きの大きさが登録(測定)した時より大きければスイッチON操作となります。

パチッ！
と瞑る。



「普段は。。」



「スイッチ操作したい時だけ」



(C) Emfasy Corporation. 2019 Emfasy

■アイスイッチの機能

■視線や目・瞼の動きで、コール機器や環境制御装置(TV/照明等)や意思伝達装置の操作ができます。

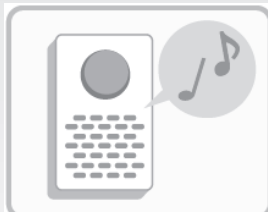
■本スイッチ単体で、環境制御ができます。

■装着物不要で、暗所でも使用できます。

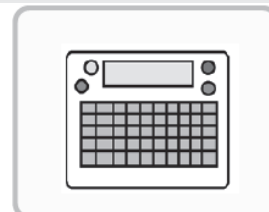
■使用前の準備は、登録ボタンを押すのみです。

■ユーザーに合わせ、感度等の調節ができます。

■パソコン等の外部機器と連携します。



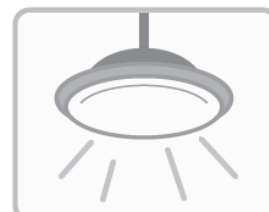
コール機器



コミュニケーション機器



テレビ

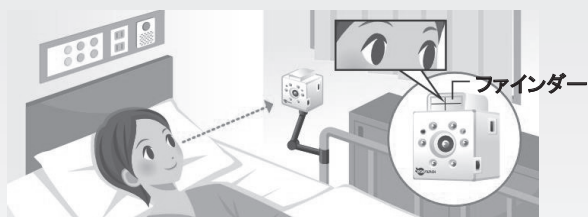


照明

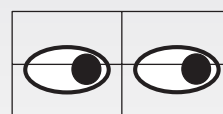
(C) Emfasy Corporation. 2019 Emfasy

■アイスイッチの設置

ファインダーでユーザーの目を確認しながら設置します。



OK



ブザーと状態LEDで検知を確認しながら登録します。



NG



(C) Emfasy Corporation. 2019

■アイスイッチの登録

・「視線」による操作の場合

登録ボタンを押下し、視線の方向(目標物を見る)を登録します。

・「目・瞼の動き」による操作の場合

登録ボタンを押下し、目・瞼の動きの大きさを登録(計測)します。



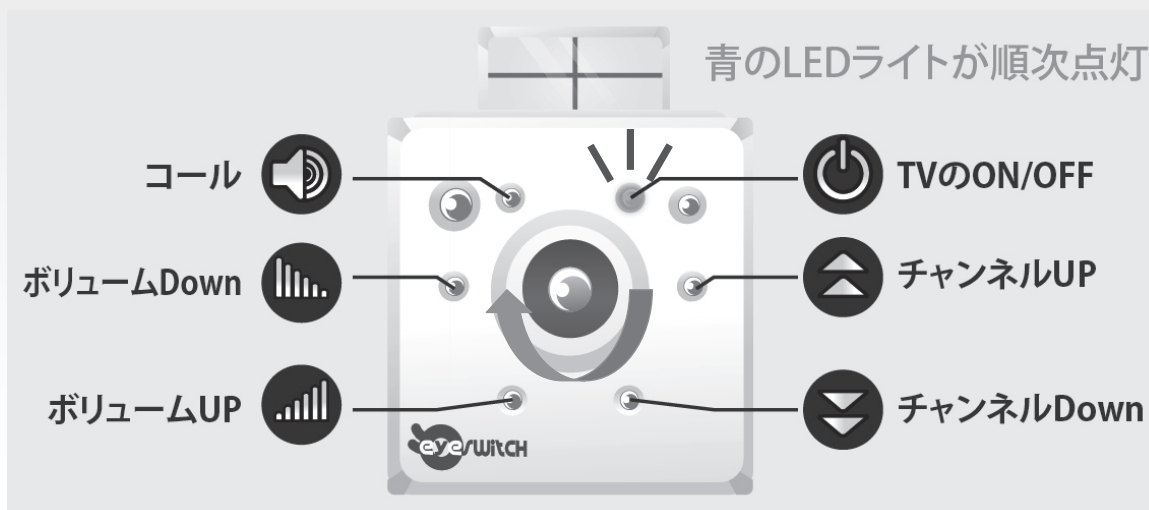
登録用ボタンを押下

(C) Emfasys Corporation. 2019

■アイスイッチの特徴

【環境制御ができます】

本スイッチ単体で、TV等の環境制御ができます。6つのLEDが順次点灯し、当該リモコンコードを送信します。(下記は一例です)



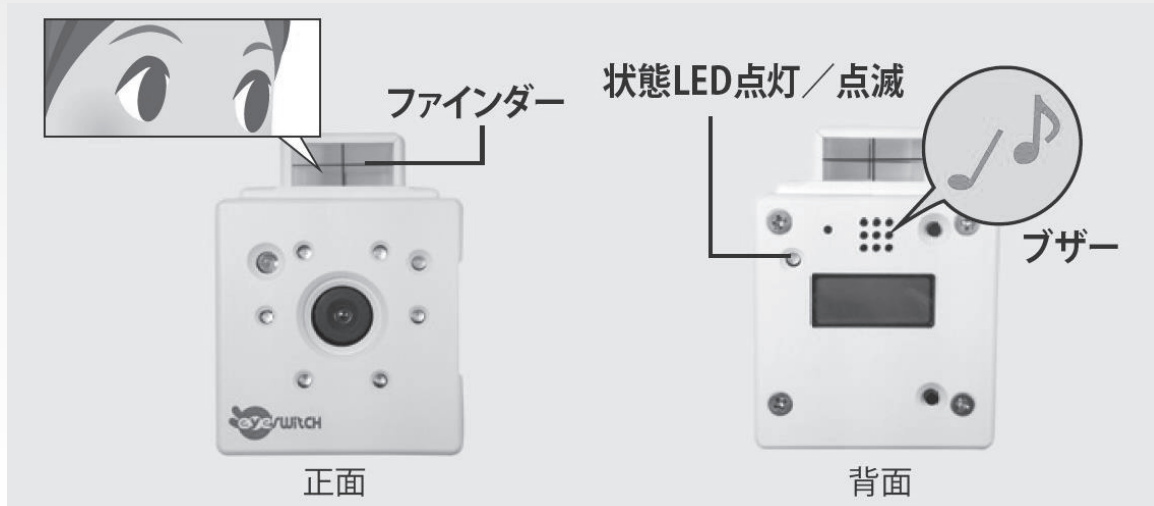
(C) Emfasys Corporation. 2019

■アイスイッチの特徴

【設置/登録が簡便に】

ファインダーでユーザーの目を確認しながら設置します。

ブザーと状態LEDで検知を確認しながら登録します。

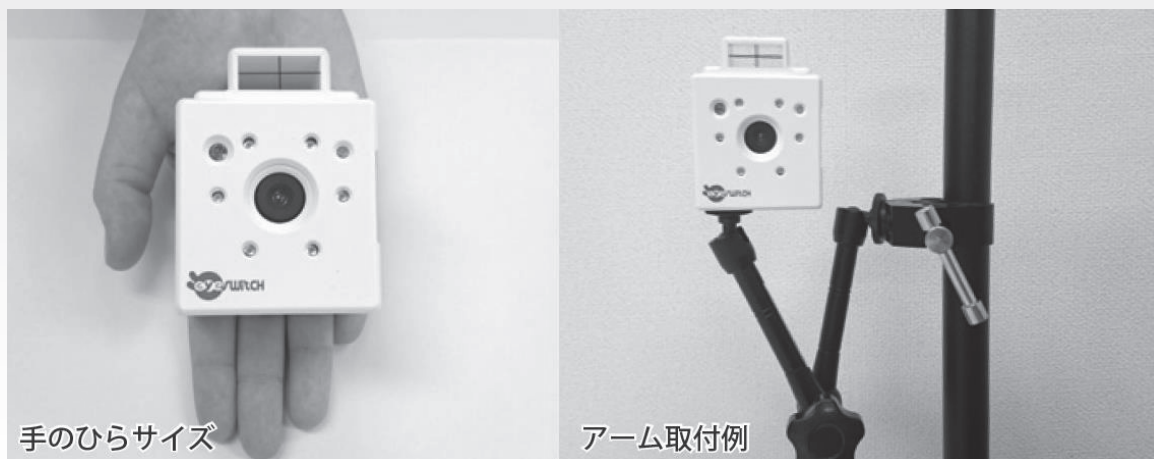


(C) Emfasys Corporation. 2019

■アイスイッチの特徴

【使いやすくてコンパクト】

小型で、身体への装着物は不要です。市販のアームや三脚に固定でき、ベッドサイド等に設置します。

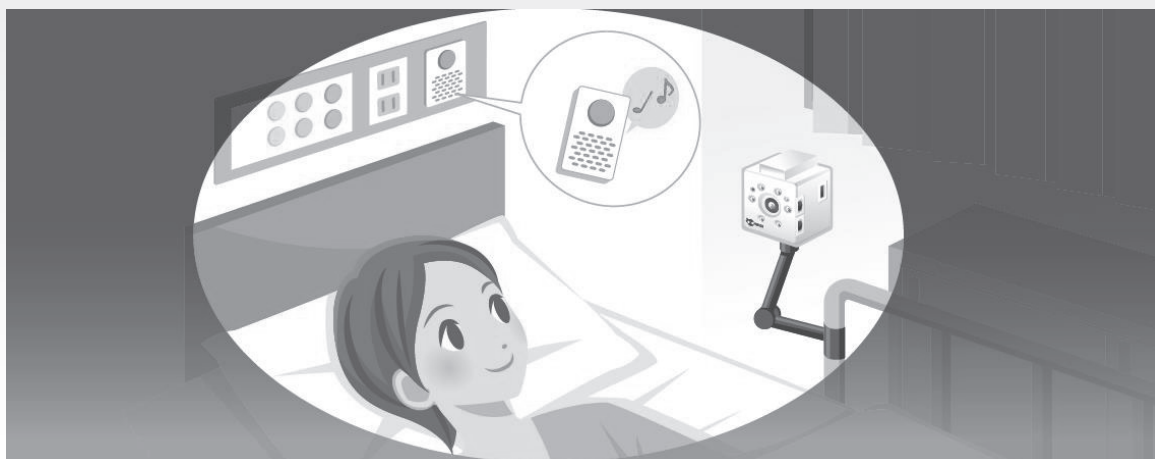


(C) Emfasys Corporation. 2019

■アイスイッチの特徴

【暗い中でも使えます】

暗くなると、目に見えない光を自動照射するので、暗い中でも使用でき、お休みの妨げをしません。

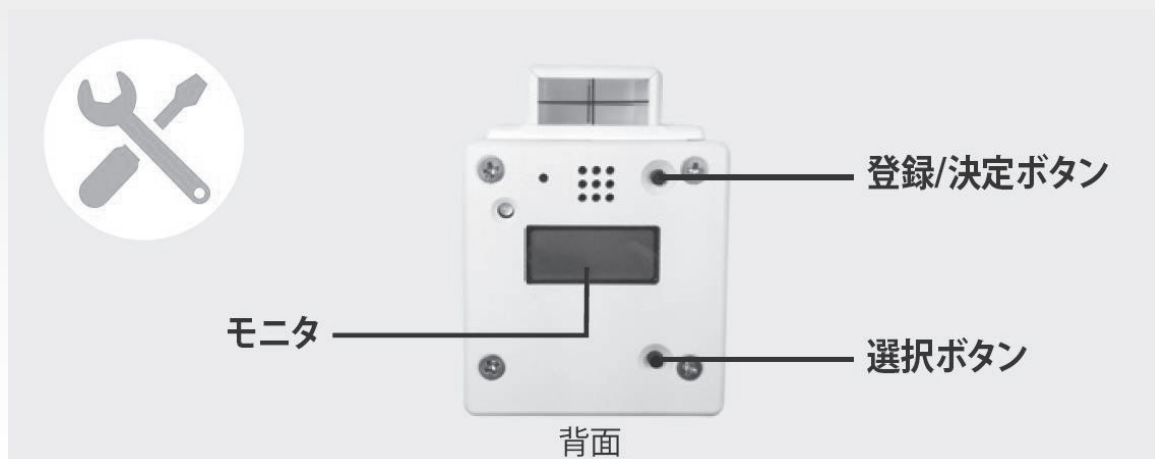


(C) Emfasys Corporation. 2019

■アイスイッチの特徴

【ユーザーに合わせて設定できます】

本スイッチ単体で、ユーザに合せた設定ができます。背面のモニタを確認しながら、選択/決定します。



(C) Emfasys Corporation. 2019

■アイスイッチの特徴

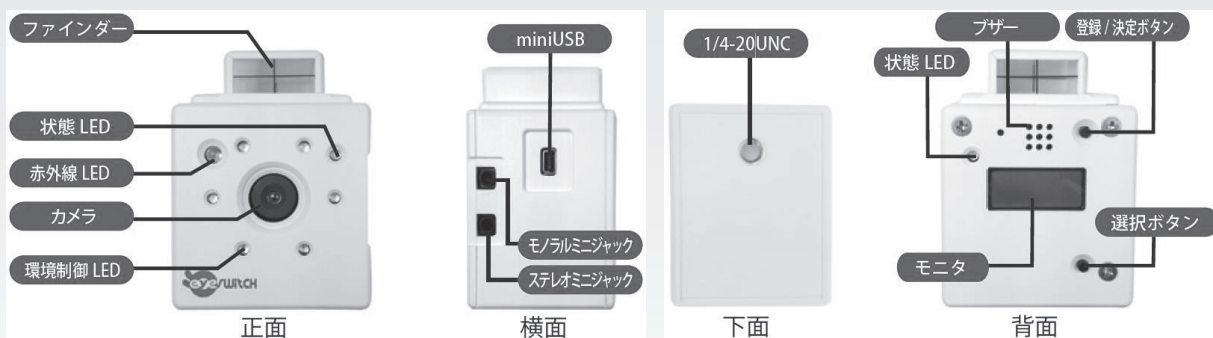
【目以外の操作も】

口や手の動きなど、運動機能や用途に合わせた操作ができる機能も研究しています。



(C) Emfasys Corporation. 2019 Emfasys

■アイスイッチの仕様



<<仕様>>

- 寸法: W58.5mm × H79mm × D46mm
- 重量: 約160g
- 電源端子: USB電源5V(変換アダプタ利用可)
- 接続端子: 3.5φステレオミニプラグ(スイッチ出力用)
3.5φモノラルミニプラグ(環境制御用)
- 固定方法: 1/4-20UNC(カメラ固定用アーム等)

(C) Emfasys Corporation. 2019

「シンポジスト講演④」

OTON GLASS

株式会社オトングラス

高橋 昌希

OTON GLASSのご紹介

株式会社オトングラス



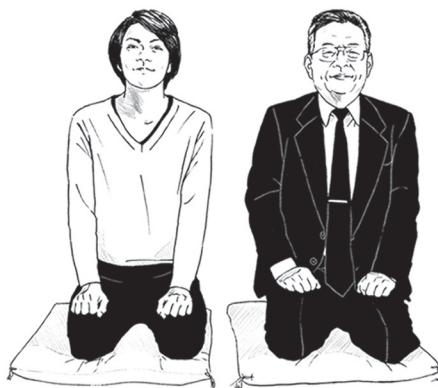
1. OTON GLASSの製品開発と社会実装

1

- 1-1. 製品紹介
- 1-2. 社会実装
- 1-3. 今後の展望

動機：開発のきっかけは父の失読症

- 2012年に脳梗塞の後遺症で言語野に障害が残り、読む能力が低下
- 2018年現在はリハビリテーションの末、ほぼ完治
- しかし視覚障がい者を中心に眼科医療福祉の業界でOTON GLASSが強く求められており、現在はその業界での社会実装を実践



2

CONFIDENTIAL

課題：文字を読むことに困難を抱える視覚障がい者

- 日本での視覚障がい者手帳保有者は31万人、その内62%の19万人が重度の1級2級
- 全盲は10%、弱視が90%
- 弱視はかすみ、中心暗点、視野搾取など様々な見え方がある
- 視覚障がいの80%が後天性で、点字識字率は13%
- 視覚障がい者の85%が読むことに困難を抱える
- 毎週オトグラス社に当事者や家族から製品の問い合わせあり



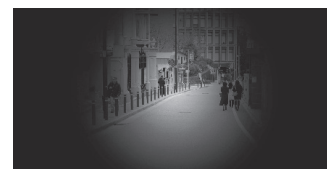
正常



かすみ



中心暗点




周辺視野狭

3

CONFIDENTIAL

出所：日本眼科医会、日本盲人会連合、総務省

解決：文字を音声に変換する眼鏡型機器

装着型	 <p>スマートグラス</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚障がい者に特化した操作性ではないため当事者にとって利用が難しい 汎用性のある機器は福祉機器として認定されないため低価格化が不可能 	 <p>OTON GLASS</p> <ul style="list-style-type: none"> 装着して持ち運んでどんな場面でも即座に使える機動性 対象物に顔を向けてフレームのボタンを押すだけという簡単な操作性 ちょっとしたものを読むときや外出時の買い物や看板などとにかく気軽に読める点が特徴 	4
持ち運び・置型	 <p>スマートフォン</p> <ul style="list-style-type: none"> スマホを使いこなせる当事者が全体の8%と少ない 対象物をカメラで正確に捉えて撮影することが難しい 操作が煩雑になるため気軽に使うことができない 	 <p>拡大読書器 音声読書器</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅や職場などで長い文章を正確に読む際には適する 卓上での利用に限定され持ち運びができず使用場面が限定される 	
	汎用品	視覚障害者専用	出所：みずほ情報総研

CONFIDENTIAL

CONFIDENTIAL

使用事例：10歳の時に全盲になった50代男性



映像： <https://drive.google.com/file/d/1U9SIQ7uaFtwR8aNAIlg1ZiVbPEKZyWXNQ/view>

当事者の声：人に頼らず、自然な動作で、気軽に読むことができる

他者への依存度の軽減

郵便物の仕分けをヘルパーに頼ま
ずとも自分で
できる

今まで妻に頼って
読んでもらって
いたが、気を使わ
ず自分ですぐ読
むことができる

日常に溶け込む動作

外で歩く時は白状
で右手が塞がり、
スマホを使うと
両手が塞がるが、
OTON GLASSだとハ
ンズフリーになる

対象物に顔を近づ
けて読む必要があ
り、周りから不自
然に映るが、OTON
GLASSだと周りから
見ても自然に映る

高い機動性・簡単な操作性


既存の読み上げ機
器は持ち運べない
が、OTON GLASSは
簡単に外に持ち運
ぶことができるた
め屋外で使いたい

気軽にちょっとした
ものを読むとき
や外出時の買い物
や看板などを読む
際に使いたい

社会実装：自治体と制度を設計し低価格で購入可能に

視覚障がい者用福祉機器は2種類に分別

日常生活用具



拡大読書器などを
対象とし市町村の
各自治体が認定を
管轄

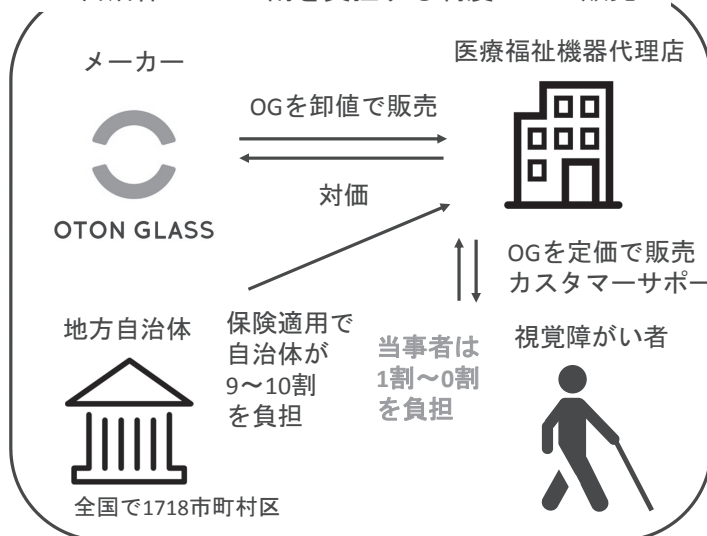
補装具



杖や医療用眼鏡な
どを対象とし実質
厚労省が認定を管
轄

出所：点字図書館

自治体が9~10割を負担する制度上での販売



社会実装事例：兵庫県豊岡市で認定が確定

- 日本ないし世界で始めてOTON GLASSを認定する自治体になる予定
- 今年6月の議会にかけられ、問題がなければ7月から制度が適用され、当事者は低価格で購入できるようにする

新規

事業名	視覚障害者を対象とした文字を読み上げる眼鏡（オトングラス）	標準予算額	8,045 万円
-----	-------------------------------	-------	----------

- 事業目的、趣意等

1 視覚障害者に対する日常生活上の支援を目的とし、自治体の自治体の中で初めて日常生活用視覚補助装置の対象品目に追加するとともに、国産メーカーも誘致する。

2 本機は、文字認識と音声変換機能の両方を備えているため、視覚障害者向けに開発された眼鏡で、カメラを装着した文字を音声で読み上げるものである。

3 価格：1台当たり298,000円（税別）

4 事業費：804万円（税別）

5 交付回数（表込分）：25台 ※拡大読取器の給付実績（19年度から24年度）を参考

6 本機導入に当たっては、W・F・Iが必要
- 事業期間

平成30年度～
- 事業主体

豊岡市
- 今後のスケジュール

ア 本年度：日常生活用具給付事業実施要綱の改正

イ 7月 市議会、防災行政無線等でPR

エ 全体事業費（経費率・費率等）

ホ 804万円（国庫）2020年度実績39.3%、県1/422万円（平成28年度実績19.2%）
- その他事業費

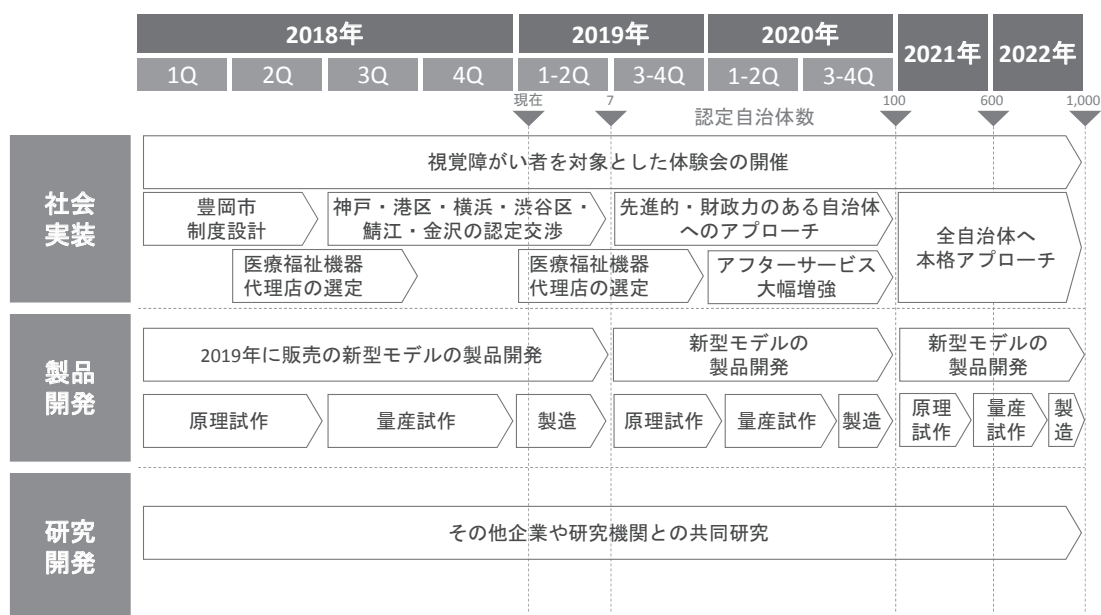
【日常生活用具給付事業】

介護・訓練支援用具（車椅子等）、自立生活支援用具（入浴補助用具等）、在宅管理支援用具（在宅介護支援用具）、健康・生活支援用具（拡大読取器）、福祉管理支援用具（スマートフォン器具等）、在宅生活支援用具（防災無線など小規模な在宅改修）を給付し、障害者（児）の日常生活上の障壁を軽減する。

問い合わせ：【社会福祉課】伊藤3981

CONFIDENTIAL

展望：認定を拡大し来年本格販売、同時に基礎研究



CONFIDENTIAL



Copyright © OTON GLASS Inc. All rights reserved.

障害者自立支援機器の開発と利活用の好事例を募集し、表彰します！

－ 募集概要 －

公益財団法人テクノエイド協会

1. 募集の目的

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器（以下「支援機器」）は、障害者の活動や参加等を促す観点から、極めて有用なものです。

一方、障害者の身体状況や置かれている生活環境は、多種・多様であり支援機器に求められるニーズも複雑多岐にわたります。

こうしたなか、技術シーズを持つ開発企業等については、障害者のニーズに基づき開発を進めるものの、製品化後の販路開拓に苦慮するケースは少なくなく、支援機器の効果的な活用方法や利活用にあたっての好事例を普及啓発することが求められております。

当協会では、これまで「開発促進事業」及び「シーズ・ニーズマッチング強化事業」を行い、支援機器に対する開発補助を行うとともに、障害者ニーズを的確に捉えた製品開発を促す観点から交流会を開催すること等により、開発の初期段階から製品化の一手前までの支援を行ってきましたが、今年度より新たに、障害者ニーズを的確に踏まえて支援機器を開発し製品化した企業や研究機関、さらには支援機器を効果的に導入し利活用している福祉事業所等を全国各地から募り、全国の見本となる好事例を表彰する事業を行うこととしました。 (<http://www.techno-aids.or.jp/>)

本事業では、支援機器の開発及び普及の裾野を広げる取組みを全国規模的に行うことにより、支援機器分野への新規参入を促すとともに開発意欲を喚起し、また福祉事業所等における支援機器の適切かつ効果的な利活用を推進することと致します。

支援機器の開発メーカーや支援機器を利用している福祉事業所等の皆様におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、ご応募いただければ幸いに存じます。

2. 事業名

障害者自立支援機器導入好事例普及事業

3. 主催・協力

<主催> 公益財団法人テクノエイド協会

<協力> 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国身体障害者施設協議会

日本身体障害者団体連合会

シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会

※この公募は、厚生労働省が行う「平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業」の実施団体にあたる「公益財団法人テクノエイド協会」が行うものです。

※最新情報は、協会ホームページで確認してください。

4. 対象となる支援機器

既に製品化されており、障害者福祉サービス（在宅・施設）事業所または行政において、実用的に使用されている支援機器を原則とします。

具体的には、以下の全ての要件を満たすもの。

(1) **目的要件**：障害者（児）の活動や参加を促す機器又は、障害者の自立支援を行いやすくなる機器であること。（ソフトウェアを含む。）

(2) **分野要件**：（以下のいずれか1つ以上に該当すること。）

- ・ 肢体不自由者の日常生活支援機器
- ・ 視覚障害者の日常生活支援機器
- ・ 聴覚障害者の日常生活支援機器
- ・ 盲ろう者の日常生活支援機器
- ・ 難病患者等の日常生活支援機器
- ・ 障害者の就労支援機器
- ・ 障害者のコミュニケーションを支援する機器
- ・ 障害者のレクリエーション活動を支援する機器
- ・ 障害児の生活を豊かにする支援機器
- ・ ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器
- ・ 脳科学の成果を応用した支援機器
- ・ 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器
- ・ その他

(3) **実績要件**：

応募時点において、定価が付いて販売されているものを原則とします。

自助具など個々の利用者のニーズに応じて製作するものについては、利用者からオーダーがあった場合、製作できるものとします。

※製作できるものとは：材料及び工作法が明確となっていること。

5. 応募資格及び基準

募集する部門により応募資格者及び基準が異なります。各部門の詳細は以下のとおりです。

◆技術開発研究部門

○**応募資格**：国内の開発企業又は研究機関等

○**応募基準**：既に販売実績（自助具の場合は製作実績）があり、以下のいずれかに該当すること

- 障害者のニーズを的確に捉えて開発した機器
- 技術革新やメーカー等の製品開発努力等により、新たに開発されたもので、従来の機器では実現できなかった機能等を有する機器

◆導入利活用部門

○**応募資格**：障害者総合支援法による障害福祉サービス（在宅・施設）事業所又は行政等
※個人は除きます。

○**応募基準**：応募時点で支援機器を半年以上、実用的に利用しており、以下のいずれかに該当すること。

- 障害者の参加や活動に役立っていること
- 障害者の支援がより行いやすくなるよう工夫していること

6. 応募方法

当協会のホームページから所定の「応募用紙」をダウンロードいただき、必要事項をご記入のうえ、下記の提出先まで電子メールにて提出してください。

なお、提出された応募用紙は、原則、審査以外の目的に使用しませんが、受賞された案件については、好事例を普及するためのリーフレットや当協会のホームページに掲載させていただく場合があることを承諾してください。

【応募用紙の書類】

- ◎技術開発研究部門 応募用紙 1枚 … メーカー及び研究機関等
- ◎導入利活用部門 応募用紙 1枚 … 障害者（児）の在宅・施設サービス事業所等
個人は除きます

【応募用紙のダウンロード先】

公益財団法人テクノエイド協会ホームページ <http://www.techno-aids.or.jp/>

【応募用紙の提出先】 ※メールでのご提出をお願いします

障害者自立支援機器導入好事例普及事業 運営事務局

（MS&AD インターリスク総研 内）

電話：03-5296-8976（平日9：00～17：00）

担当：田中、大瀧

E-mail：interrisk_bcm2@ms-ad-hd.com

※お問い合わせにつきましても、上記メールアドレスまでお願いいたします。

※データ容量は5MB以内にして送付して下さい。それを超える場合にはデータ便などの手法により提出してください。

7. 応募説明会

会場	東京会場	大阪会場
日時	平成30年8月30日（木） 13時30分～	平成30年8月31日（金） 13時30分～
場所	場所：主婦会館プラザエフ 部屋名：カトレア（7階） http://plaza-f.or.jp/index2/access/	場所：新大阪丸ビル 新館 部屋名：506号室 http://marubiru-honkan-shinkan.com/access.php
内容 （予定）	【説明会の内容（案）】 1. 好事例事業等の概要説明、関係者への周知のお願い（10分） 2. 公募要領と応募書類の記載内容及び方法について（20分） 3. 好事例等の選出と今後のスケジュールについて（10分） 4. シーズ・ニーズマッチング交流会2018の開催について（20分） 5. 質疑応答（5分） 6. 個別相談の実施（30分）	

8. 募集期間

平成30年8月6日（月）～平成30年9月21日（金）12時必着

9. 表彰位 ※件数は目安です。応募状況や内容によって異なります。

○最優秀賞（1件）

応募案件のうち、障害者のニーズを適切に捉え、支援機器の普及啓発に最も寄与するものに授与 ※優秀賞の案件の中から選考します。

○優秀賞（1～5件）

全国の見本となる優れた事例であり、優秀とされるものに授与

○好事例賞（8件程度）

支援機器の適切な普及と利用の定着、開発に寄与するものに授与

10. 審査の観点

◆技術開発研究部門

- 障害者の自立支援に適用する範囲
- 具体的なニーズに対する対応策
- 導入に伴うサポート
- 実績

◆導入利活用部門

- 支援機器活用による新たな自立支援方法や体制の工夫
- 支援機器活用を利活用するための教育
- 障害者及び支援者の参加や活動に対する安心感・満足度
- 実績

11. 審査の方法

当協会に設置した有識者等から構成する選考委員会の審査を経て、受賞者を決定します。具体的には以下の手順となります。

（1）一次審査（書面審査）

応募書類による書面審査

※この際、事務局から応募者へ質問する場合があります。



（2）現地調査

審査の観点に基づき適用状況を確認する場合があります。



（3）二次審査（選考）

好事例及び優秀賞の決定

※好事例や優秀賞を紹介するリーフレットを作成配付します。

（優秀賞者へのお願い）

※優秀賞の決定者には各交流会にてプレゼンテーションをお願いします。



（4）最優秀賞の決定

最優秀賞の決定

※優秀賞の中から一般投票の結果を加味して決定します。

12. 表彰式

シーズ・ニーズマッチング交流会（東京開催）において予定

13. 全体スケジュール(予定)

	内容	予定する時期
1	応募期間	8月6日（月）～9月21日（金）
2	応募説明会	東京会場：8月30日（木）主婦会館プラザエフ 大阪会場：8月31日（金）新大阪丸ビル新館
3	応募締切	9月21日（金）12時必着
4	一次審査（書面審査）	10月上旬
5	現地調査	10月中旬
6	二次審査（選考）	11月上旬
7	好事例及び、優秀賞の発表	11月上旬 テクノエイド協会HPにて公表 リーフレットの作成・配付
8	一般投票	各シーズ・ニーズマッチング交流会にてプレゼンテーション ・大阪開催 平成30年12月19日（水）一般投票 ・福岡開催 平成31年 1月10日（木）一般投票 ・東京開催 平成31年 2月14日（木）一般投票 等
9	最優秀賞の決定	平成31年2月14日（木）
10	表彰式	

14. 問い合わせ窓口

(1) 応募用紙の提出に関すること

障害者自立支援機器導入好事例表彰事業 運営事務局

(MS & AD インターリスク総研 内)

電話：03-5296-8976（平日9：00～17：00）

担当：田中、大瀧

E-mail：interrisk_bcm2@ms-ad-hd.com

※メールにてお願いいたします。

(2) 本事業の全体に係わること

公益財団法人テクノエイド協会 企画部

電話：03-3266-6883（平日9：00～17：00）

担当：谷田、篠、五島

シーズ・ニーズマッチング交流会の開催案内を挿入

<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

技術開発研究部門 応募用紙

※太枠部分についてご記入ください。(部門毎に応募用紙が異なりますのでご注意ください)

会社名		製品写真を貼り付けてください
住所	〒 -	
ご担当者	所属: 氏名:	
連絡先	TEL: E-mail:	

1. 特徴

製品の特徴 (500文字以内)	
-----------------	--

2. 適用、応策、サポート等について

障害者の自立支援に適用する範囲 (500文字以内)	
具体的なニーズに対する対応策 (500文字以内)	
導入に伴うサポート (500文字以内)	
実績 (500文字以内)	

※ご記入いただき、誠にありがとうございます。本データは、事務局までメールにてお送りください。

■送信先 事務局メールアドレス ⇒ interrisk_bcm2@ms-ad-hd.com

導入利活用部門 応募用紙

※太枠部分についてご記入ください。(部門毎に応募用紙が異なりますのでご注意ください)

事業者・自治体名		製品写真を貼り付けてください
住所	〒 -	
ご担当者	所属: 氏名:	
連絡先	TEL: E-mail:	

1. 概要

導入の背景 (500文字以内)	
-----------------	--

2. 支援方法、満足度、実績等について

支援機器活用による新たな支援方法及び体制の工夫 (500文字以内)	
支援機器を利活用するための教育 (500文字以内)	
障害者及び支援者の参加や活動に対する安心感・満足度 (500文字以内)	
実績 (500文字以内)	

※ご記入いただき、誠にありがとうございます。本データは、事務局までメールにてお送りください。

■送信先 事務局メールアドレス ⇒ interrisk_bcm2@ms-ad-hd.com



受賞案件
紹介ガイドブック

平成30年度

障害者自立支援機器導入 好事例普及事業

～障害者自立支援機器の普及と利用促進に向けて～



優秀賞

好事例賞

主催:

公益財団法人テクノエイド協会

協力:

社会福祉法人 全国身体障害者施設協議会 全国社会福祉協議会
社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会

<http://www.techno-aids.or.jp/>

障害者自立支援機器の開発と利

1. 事業目的

障害者の自立を支援する障害者自立支援機器(以下、支援機器)は、障害者の活動や参加等を促す観点から、極めて有用なものです。

一方、障害者の身体状況や置かれている生活環境は、多種・多様であり支援機器に求められるニーズも複雑多岐にわたります。

こうしたなか、技術シーズを持つ開発企業等については、障害者のニーズに基づき開発を進めるものの、製品化後の販路開拓に苦慮するケースは少なくなく、支援機器の効果的な活用方法や利活用にあたっての好事例を普及啓発することが求められております。

当協会では、これまで「開発促進事業」及び「シーズ・ニーズマッチング強化事業」を行い、支援機器に対する開発補助を行うとともに、障害者ニーズを的確に捉えた製品開発を促す観点から交流会を開催すること等により、開発の初期段階から製品化の一手前までの支援を行ってきましたが、今年度より新たに、障害者ニーズを的確に踏まえて支援機器を開発し製品化した企業や研究機関、さらには支援機器を効果的に導入し利活用している福祉事業所等を全国各地から募り、全国の見本となる好事例を表彰する事業を行うこととしました。

本事業では、支援機器の開発及び普及の裾野を広げる取組みを全国規模的に行うことにより、支援機器分野への新規参入を促すとともに開発意欲を喚起し、また福祉事業所等における支援機器の適切かつ効果的な利活用を推進することと致します。

2. 事業名称

平成30年度 障害者自立支援機器導入好事例普及事業

3. 主催・協力

主催 公益財団法人テクノエイド協会

協力 社会福祉法人 全国身体障害者施設協議会 全国社会福祉協議会

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

シーズ・ニーズマッチング交流会企画委員会

活用の好事例を募集・表彰します。

4. 対象となる支援機器

既に製品化されており、障害者福祉サービス(在宅・施設)事業所または行政において、実用的に使用されている支援機器を原則とします。

具体的には、以下の全ての要件を満たすもの。

(1) 目的要件

障害者(児)の活動や参加を促す機器又は、障害者の自立支援を行いやすくなる機器であること。
(ソフトウェア含む。)

(2) 分野要件

- 肢体不自由者の日常生活支援機器
- 視覚障害者の日常生活支援機器
- 聴覚障害者の日常生活支援機器
- 盲ろう者の日常生活支援機器
- 難病患者等の日常生活支援機器
- 障害者の就労支援機器
- 障害者のコミュニケーションを支援する機器
- 障害者のレクリエーション活動を支援する機器
- 障害児の生活を豊かにする支援機器
- ロボット技術を活用した障害者の自立支援機器
- 脳科学の成果を応用した支援機器
- 障害者の支援をより行いやすくなる支援機器
- その他

(3) 実績要件

応募時点において、定価が付いて販売されているものを原則とします。

自助具など個々の利用者のニーズに応じて製作するものについては、利用者からオーダーがあった場合、製作できるものとします。

※製作できるものとは:材料及び工作法が明確となっていること。

5. 表彰部門/審査観点

技術開発研究部門

国内の開発企業又は研究機関等

- 障害者の自立支援に適用する範囲
- 具体的なニーズに対する対応策
- 導入に伴うサポート
- 実績

導入利活用部門

障害者総合支援法による障害福祉サービス(在宅・施設)

事業所又は行政等

※個人は除く

- 支援機器活用による新たな自立支援方法や体制の工夫
- 支援機器活用を利活用するための教育
- 障害者及び支援者の参加や活動に対する安心感・満足度
- 実績

平成30年度 障害者自立支援機器導入好事例普及事業 受賞一覧



株式会社ミクニライフ&オート … P.5・6

表彰位	部門	事業者名・社名・団体名	タイトル	
優 秀 賞	技術開発研究部門	株式会社ミクニライフ&オート	・足の不自由な方の自動車運転をサポートする3つの装置 ・ジョイスティック運転装置「ジョイ・カー」	… P. 7・8
		パナソニック エイジフリー株式会社	高性能とシンプルさを両立させた 意思伝達装置	… P. 9
		株式会社日立ケーイーシステムズ	人のつながりを支援する機器	… P. 10
	導入利活用部門	仙台市重度障害者コミュニケーション 支援センター	コミュニケーション支援機器が 患者の生活と介助を変えた	… P. 11
		社会福祉法人幸生会 障害者支援施設 はくちょう園	新リフター導入により 「支援の統一」「腰痛予防」を実現	… P. 12
好 事 例 賞	技術開発研究部門	有限会社安久工機	視覚障がい者が触りながら描ける筆記具	… P. 13
		株式会社マイクロブレイン	発達障害者へ治療の不安や恐怖を 軽減するソフトウェア	… P. 14
		リオン株式会社／奈良県立医科大学	伝音難聴者に福音！ 身体への負担が少ない軟骨伝導補聴器	… P. 15
		有限会社オフィス結アジア	「会話」だけでなく、 次のステップに進むためのきっかけに	… P. 16
		株式会社沖ワークウェル	障害者の在宅勤務を支援する コミュニケーションシステム	… P. 17
		シェルエレクトロニクス株式会社	患者が自立した排泄行動を サポートする装置	… P. 18
		かえるキッズのお助け隊	人工呼吸器を使う “子ども”も“家族”も笑顔になる簡易浴槽	… P. 19
	導入利活用部門	NPO法人iCare!ほっかいどう	“声を失ったパーソナリティ”が ラジオ番組を継続	… P. 20



受賞案件紹介

障害者自立支援機器 導入好事例普及事業

最優秀賞は 株式会社ミクニライフ&オートが受賞!



<優秀賞プレゼンテーション参加企業・団体>



仙台市重度障害者
コミュニケーション
支援センター
府中氏



パナソニック
エイジフリー株式会社
松尾氏



株式会社日立
ケーイーシステムズ
清水氏



社会福祉法人幸生会
障害者支援施設はくちょう園
布川氏

<優秀賞プレゼンテーションを終えて>



山内審査委員長

全 33 件の応募の中から 5 件の優秀賞、8 件の好事例賞を選定いたしました。そして今回は、シーズ・ニーズマッチング交流会の同時開催特別企画として、その 5 件の優秀賞の内容をプレゼンテーションの形でご発表いただきました。優秀賞を受賞された 5 件はどれも素晴らしく、この中から最優秀賞を決めることに大変困りましたが、ルールに従い、委員の投票だけではなく、一般からの投票も加味した形で選定した結果になります。次点となった好事例賞を受賞された活動や製品の中にも素晴らしい取り組みもあり、また応募のなかった中にも良いものがあり、来年以降もこの事業が継続されると考えておりますので、是非ともご応募をいただけることを願っております。



株式会社ミクニライフ&オート
清水氏

「3人でもニーズが挙げれば作ってみよう。」という創設者の精神を培い、少しでも困っている人の力になればとの思いから商品が生まれてきました。運転装置や手装具一つにも、快適に運転をしていただくために、実際に使用するユーザーに話を伺いながら、一人一人に最適な商品に仕上げていきます。そのため、大量生産が出来ず効率が良いとは言えませんが、満足していただくものをご提供する事に重きを置いています。

栄えある賞をいただき光栄です。数々の素晴らしい製品や取り組みの中で、当社を選んでいただいたことに、感謝とともに感奮興起いたしました。

聞いていただいている方に分かりやすい内容を第一に心がけました。専門用語や技術的な要素は抑え、背景やコンセプトを伝え、商品の使用シーンを見ていただくことで、出来る限り“他人事”ではなく“自分事”にさせていただけるように意識しました。

当社が推進しているのは障がい者の自立です。従来の物理的なバリアの解消は引き続き取り組むとともに、これからは意識的なバリアや周辺環境の改善にも力を入れていきたいと考えております。

障がい者が毎日を楽しく、人生をもっと自由に送れるように、社員一丸となり一生懸命取り組んでまいります。



足の不自由な方の自動車運転をサポートする3つの装置

ジョイスティック運転装置「ジョイ・カー」

[技術開発研究部門] 株式会社ミクニライフ&オート



車いす電動収納補助装置「オートボックス」

車いすの電動収納、手動運転、移乗サポート 足の不自由な方の行動を広げる補助装置

「オートボックス」は、運転席に座ったまま、屋根上のボックスへ車いすを電動収納する補助装置です。重たい車いすも、ラクらく収納できるだけでなく、スライド式カーゴによってよりスムーズに吊り上げ・収納できます。展開時には雨よけ(傘の代わり)にもなります。オプションで車の色に合わせた塗装も可能です。左ハンドル車、助手席側にも対応した左側展開タイプも用意しています。

足の不自由な方の為の「AP ドライブ」は、手動レバーの前後操作でアクセル・ブレーキをコントロール可能にする手動運転補助装置です。グリップ部の形状は、多種用意されているので、ご自身にあった手動装置を選べます。また、ハイデラックスグレードには、ウィンカー、ホーン、ハザード、ライト上下切替、ブレーキロック、アクセル状態をキープするエレック等の機能が組み込まれています。

「サイドサポート」は、車いすから運転席への移乗をサポートする為の台座となります。車両へしっかりと取り付けることにより、車いすと運転席の間にできてしまう空間を埋め、安心して移乗を行う為のサポートをします。走行時には折り畳め、必要のない時には簡単に取り外しできます。

より多くの方へ自動車運転サポートを… その思いを実現するカスタマイズ性

移乗から車いすの収納や運転までのトータルサポート

お問い合わせ先

[事業者名 / 社名 / 団体名]

株式会社ミクニライフ&オート

住 所 | 〒349-1145 埼玉県加須市間口456-1
担当所属・氏名 | 営業課 白石 康隆

電話番号 | 0480-72-7221

E-mail | yasutaka_shiraishi@mikuni-la.co.jp

する事により、身体の状態に合わせた部品をカスタマイズし、多くの方への自動車運転への自立をサポートしております。

たとえば「AP ドライブ」では、障がいに合わせて手動装置をカスタマイズすることにより、より多くの方が自動車運転への自立が可能となります。

また、今迄、車いすをご自身で車内へ収納できなかった方は、人の手を借りることでしか、車いすを収納する方法はありませんでしたが、「オートボックス」の開発により、完全に一人での移動が可能となりました。

こうしたカスタマイズを可能とすることにより、より多くの方々が自動車での移動が可能となり、どこへでも一人で出掛けられ社会参加を可能とする自立を支援しています。

創業45年に渡る架装実績の安心感 自治体により助成制度や減税のサポートも

昭和48年2月に前進のニッシン自動車工業(株)が身障者用自動車運転補助装置「AP ドライブ」を開発、東京陸運支局の認可取得。創業45年に渡る架装実績となり、現在の運転補助装置の年間販売実績は約4000台です。また屋根上の車いす収納装置「オートボックス」は、平成12年4月に開発に成功し、アメリカ、オーストラリア、カナダ、EU国での国際特許を取得。現在、累計約1万2000台の販売実績となります。

カスタマイズ相談に関しては、全国17ヶ所の代理店網により日本全国をカバーしています。

また、各自治体により、運転免許取得費用の貸付や助成制度、自動車購入資金の貸付、自動車改造費の助成制度、自動車燃料費の助成制度、有料道路の交通料金の割引制度、駐車禁止規制の適用除外等がサポートされ、税制度では、消費税の非課税や、自動車税の減免、自動車取得税の減免等がサポートされます。



手動運転補助装置
「APドライブ」



移乗を行うための補助台座
「サイドサポート」



専用電動車いすウィーラー

ジョイスティックによる操作で 軽い力でも自動車運転を実現

ジョイ・カーは、今まで免許取得が難しかった両下肢障がいかつ手の力の弱い方が、電動車いすのジョイスティック操作と同じように、軽い力での操作で自動車を運転することができる運転補助装置です。

さらに車いすから運転席への移乗ができない方も、乗降用リフトを組み合わせることにより、専用電動車いすのまま運転席への乗り込みをご自身のみで行えます。

「2レバータイプ」では、2本のレバーで、それぞれアクセル&ブレーキ操作とステアリング操作が可能です。

「丸ハンドルタイプ」では、ステアリング操作を小径ハンドルにすることで、腕を動かす範囲を小さくして操作が可能です。

「1レバータイプ」では、1本のレバーで、アクセル&ブレーキとステアリング操作が可能です。

ひとりひとりに最適な移乗・移動をサポート より多くの方々へ運転の喜びを

ひとりひとりの身体の状態に合わせた部品をカスタマイズし、最適な移乗・移動をトータルサポートする事で、多くの方への自動車運転への自立をサポートしております。

ジョイ・カーの導入によって、今まで免許取得が難しかった先天性障がいの方にも自動車運転の可能性を広げることができました。

ひとりでも多くの方の自動車での移動を実現し、いつ

でもどこへでも一人で出掛けられて社会参加を可能とする自立を支援しております。

文部科学大臣科学技術賞など、様々な受賞実績

ジョイ・カーは平成21年に開発に成功し、翌年には第4回ロボット大賞「サービスロボット部門優秀賞」受賞、平成25年に福祉機器コンテスト2013「機器開発部門優秀賞」受賞、平成27年に「文部科学大臣 科学技術賞」受賞と、普及と共に様々な実績を積み上げてまいりました。



ジョイ・カー 2レバータイプ



アクセル&ブレーキ
(レバー)



ステアリング(レバー)



ステアリング
(丸ハンドル)



ジョイ・カー
1レバータイプ
(アクセル&ブレーキ・ステアリングレバー)

優秀賞

高性能とシンプルさを両立させた
意思伝達装置

[技術開発研究部門] パナソニック エイジフリー株式会社



意思伝達装置「レッツ・チャット」

会話、コール、リモコンなど
“必要かつ十分な機能”に特化

重度障害者が身体のわずかに動く部位で操作のできる意思伝達装置です。専用機という特徴を活かした、以下のような特徴を備えています。

①1スイッチオートスキャン方式で操作可能な、業界唯一の意思伝達専用機。②定価16万8千円(非課税)と、他社製品の約1/3の価格で提供。③「会話」「コール」「テレビリモコン」等、「意思伝達装置」本来の機能に絞る事で“トラブルの無い機器”を提案。④入力スイッチ1つで電源のONから終了まで、利用者一人で操作可能。⑤直感的な操作方法、全ての動作に音声ガイドが有り、機器を見なくても操作可能。⑥ACアダプタと乾電池(単3×4本)で駆動、乾電池でも約10時間の連続駆動。⑦本製品を介してパソコンやiPad等とも連携。パソコン、iPadのフリーズ時も本製品でのコール、意思発信が出来て安心。

本体は、このように携帯性、安定性に加え、高性能な機器との連携を可能とした事で、幅広い症状の障害者が利用できる機器となりました。

支援者のスキルに関係なく機器の導入、活用が可能

従来の意思伝達装置はパソコンタイプであったため、機器の設置、起動に時間を要し、また、ソフト・ハードのトラブルも避けられないため支援者に大きく依存せざるを得ず、自立にはほど遠い状況にありました。

本製品はトラブルの少ない専用機であり、支援者のス

キルに関係なく機器の導入が可能かつ、コンパクトなことで様々な場面での活用を可能としました。

例えば、在宅時は、本製品にパソコンなども接続、連携して様々な活動に参加可能です。支援者は必ずしも必要ありません。外出時には、本製品だけを持ち出すことで、移動しながら支援者と外での会話を楽しめます。そして、入院・入所時は、自室で会話、コール、テレビリモコン等を安定して使えるので、支援者が機器を知らなくても安心して利用できます。

導入直後は「シンプル」に、慣れてくればパソコンと
連携して「メール」「インターネット」も

ニーズは「健常者と同等な活動ができるほど高い性能」ですが、それは「トラブルのないシンプルさ」が大前提。本製品は、この相反する目標を実現しています。

導入初期には「シンプルなもの」として本製品を使っていた患者が、慣れてくると「メール」や「インターネットをしたい」と次の要望が出てくるものです。その場合でも、本製品を1スイッチで操作できるタイプのパソコンやiPadと連動させて、それらの機器の操作が可能です。

トラブル例は極少ながらサポート体制も充実

フリーズ等のトラブル例は少なく、いつでも電源OFFにできる製品となっています。その上、本体側面のすべての接続端子には、その機能を示す表記があり、接続ミスはないように設計されています。また、本体背面に簡易取説を印刷、それを見ながら、本体の4色のボタンを音声ガイドに従って押すことで設定変更が完了するので、機器の苦手な方でもフォローが可能です。もちろん電話によるサポートも対応。製品本体から発せられる音声ガイドを利用して、事細かにフォローできる体制を取っています。

以上のサポート体制から電子機器に特有の「良くわからない」ということになるケースは極めて少なく、小さなお子様からご高齢の方まで、様々な障害のある方に愛用されています。



携帯性、安定性に加え、高性能な機器との連携も可能。軽度から重度まで、幅広い障害者のコミュニケーションの安心をもたらしている

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

パナソニック エイジフリー株式会社

住 所 | 〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048 B22 棟
担当所属・氏名 | ケアプロダクツ事業部 松尾 光晴

電話番号 | 06-6903-1205

E-mail | matsuo.mitsu@jp.panasonic.com

優秀賞

人のつながりを支援する機器

〔技術開発研究部門〕 株式会社日立ケーイーシステムズ



重度障害者用意思伝達装置「伝の心」イメージ

利用者様の「意思を伝えたい」を可能にします

「伝の心」は、重度の両上下肢麻痺や言語障がいがあり、発話や筆談が困難な方を対象にコミュニケーションを支援する重度障害者用意思伝達装置です。

症状に合わせて、様々なセンサー・スイッチ(押しボタン式、ピエゾ式、光電式等)の接続に対応しています。

身体の一部をわずかに動かして、センサー・スイッチを操作し、文字盤を用いて文章を作成するほか、日立独自の音声合成で、自分の気持ちを伝えることができます。

日常的によく使う文章は、予め定型句登録をしておき選択するだけでスピーディーに意思伝達ができます。

また、症状が進行したときは、UI(ユーザインターフェイス)を変えずに視線入力センサーをスイッチとして使用可能になりました。この為、継続して同じ意思伝達装置を使用することができます。

本体についても使用する環境への対応を考慮し、大きな画面でお使いいただけるノート型と、薄型・軽量で車椅子に取り付け、持ち運びしやすいパネル型を用意して、ご利用者様のニーズによって選択できるようにしています。

意思伝達だけでなく、エアコンやテレビのリモコン操作にも対応

「伝の心」によって自立支援したい範囲は大きく2つです。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

株式会社日立ケーイーシステムズ

住所 | 〒275-0001 千葉県習志野市東習志野7-1-1

担当所属・氏名 | 組込システム本部 組込エンジニアリングセンター 廣瀬 貴裕

電話番号 | 047-472-6638

E-mail | dennoshin@hke.jp

●積極的な社会参加を支援

「伝の心」の電子メール機能やSNS支援操作機能により、外部とのコミュニケーションを容易に図ることができるので、これまでの仕事を継続したり、新たな活動を創出することが可能になります。

●QOL向上

リモコン操作機能によりテレビやエアコン、照明器具などの環境制御を人に頼らずご自身で簡単に操作を行うことができます。

導入後は、サポート窓口へ届くメールや販売会社を通して、もしくは、展示会や講習会でお聞きしたニーズを検討項目として社内で管理し、ご意見の多い機能や時代の流れに沿った機能等を定期的なバージョンアップで対応しています。

販売して20年、販売数は8000台

新機能の説明会も随時開催

「伝の心」は1997年12月の販売開始から昨年20周年を迎え、累計販売8000台を達成しております。

「伝の心」を実際に導入(販売)している、販売会社へのサポートは、トラブル時の問い合わせ対応だけでなく、講習会を随時開催しています。

販売会社向けの講習会では、新機能の説明や過去のトラブルシュートの紹介等を行っています。

また、既にお使いの方だけでなく、これから導入を検討されている方、支援者の方等、伝の心に興味がある方々でも参加いただける伝の心の機能体験講習会を年に数回開催しています。

機能体験講習会では、基本操作や設定から、応用操作、新機能の体験等を行っており、利用者・支援者・販売会社のレベルアップを図っています。

機能体験講習会では、販売会社にも参加いただき、講習会後に、利用者・支援者・販売会社・メーカーの交流会を開催し、実際の導入に関する相談にもその場で乗っていただける、シーズニーズの機会を設けている講習会になっています。

優秀賞

コミュニケーション支援機器が
患者の生活と介助を変えた

[導入活用部門] 仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター



コミュニケーション支援機器「伝の心」

神経難病患者に生きる希望と勇気を与える
コミュニケーション機器の導入

当センターは平成23年度、意思疎通の困難な神経難病の患者に対するコミュニケーション支援について仙台市から委託を受け事業を開始しました。ALS(筋萎縮性側索硬化症)等の神経難病の患者は、運動神経や筋肉の萎縮・変性による身体機能の低下に伴い、話すことや書くことだけでなく、苦しさ、痛み、かゆみ等さえる確に訴えきれず、とても辛く、また不便な思いを味わっています。介助する側にとっても、何度も繰り返し患者に確認しながらの介護は時間と精神的な負担となっています。

そんな厳しい状況に置かれていた中、近年のICT機器(Information & Communication Technology:情報通信技術)の進歩・発展は神経難病の患者に生きる希望と勇気を与えるものとなってきています。

私たちは、患者のこれまでの生活の維持・発展に役立つことを願って様々なコミュニケーション機器の導入に至りました。

当センターの保有機種は、トーキングエイド、ペチャラ、レッツチャット、伝の心、オペナビ、視線入力装置(マイトビー、TCスキャン)等です。

患者の目的・身体機能の状況を鑑みて、
機器を選択使えるようになるまで指導する

新規患者に対しては、居住している自宅や施設、病院を定期的に訪問し、意思伝達装置(以下、意思伝)の機能

(文字入力、メールやSNS、電子書籍の利用、リモコン操作)に関して本人の希望・使用目的を聞きながら操作可能となるまで指導を継続します。また、病状が進行して使用している操作スイッチ等の機器が使えなくなった場合は、身体機能の状況と本人の希望を取り入れて機器を選択して再指導を繰り返します。

家族や介助者に対しては、意思伝の設置方法や取り扱い方、簡単な機器のトラブル解決の仕方などの説明会を開いて周知に努めています。

また、意思伝は現場で介護にあたっている関係者間でもその存在自体の認知度が低く、また行政や福祉関係者などの間でも詳細な点までは認識されていないことが少なくありません。そのため、行政や患者団体主催、看護・介護事業所単位での講習会などで様々な機器を紹介し取り扱い方の説明と体験会を催しています。さらに、大学と連携して、介護福祉士をめざしたり、ICTを学ぶ学生に対して、神経難病患者及び意思伝の紹介と取り扱い方の基本を講義の1つとして取り入れています。

意思疎通を図ることで介護ケアに安心感
これまで通りの生活継続を可能にした例もあり

患者は、意思伝を使ってリアルタイムに介助者と意思疎通を図ることで介護ケアに安心感を持っているようです。介助する側からも、患者から事前に連絡をもらうことで介助者間でのケアの統一対応ができ、安心してケアに当たられるとの声が聞かれます。

患者のなかには、インターネットを活用して自宅にいて会社経営に参画して収入を得、これまで通りの生活を継続できている方もいます。大学や講演会に講師として出席し、自らの体験について意思伝を使って紹介するという例もあります。

メディアやSNSを活用して、ALS等希少な疾患である神経難病の認知度を高め、医療の進歩に期待を寄せるなどの積極的な行動を通して、疾患の普及・啓発活動に寄与することを生きがいの1つとしている方もいます。

コミュニケーション支援機器
「トーキングエイド」コミュニケーション支援機器
「ペチャラ」

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター

住 所 | 〒981-0936 仙台市青葉区千代田町1-5 コーポ千代田108 号室
担当所属・氏名 | 府中 勝博

電話番号 | 022-779-6873

E-mail | k-fuchu@san.or.jp

新リフター導入により 「支援の統一」「腰痛予防」を実現

[導入活用部門]

社会福祉法人幸生会 障害者支援施設 はくちょう園



天井走行式リフターの導入によって部屋内の移動がスムーズになった

「スタッフの腰痛者の増加」と「利用者への支援のばらつき」を解決すべく新リフターを導入

近年、福祉業界での労災は腰痛が一番となっており、当施設も例外なく、現場スタッフの腰痛者が年数を重ねる事に増加している状態でした。これまでも、移乗介助の基礎研修、レベルアップ研修、応用研修を開催したり、腰痛防止の為に、昇降式ベッドや可動式リフター、スライディングボードなどを導入し、現場スタッフの腰痛予防の対策をしてきましたが、腰痛者はなかなか減る事はありませんでした。

また、これまで一般的な移動式リフターを利用していましたが、ベッド下などに荷物があると使用できなかったり、その都度その場所に移動し設置してからの介助だった為、時間が掛かり、現場のスタッフからも2人介助で行った方が早いなどの理由から100%移動式リフターは活用されていませんでした。

そこで、平成28年新館増築を機会に、施設長より「支援の統一」及び「スタッフの腰痛予防」という支援方針のもと、「天井走行式リフター」(居室41部屋・41機、トイレ内21か所・21機)の導入に至りました。

念入りの研修と練習を重ねリフター使用者全員に対応

まずスタッフ全員を対象としてリフターを安全に使用してもらう為、販売業者に来ていただき、計5回にわたってリフター操作の研修を実施しました。特にリフターが止まった場合などの緊急対応や、障害形態別等による吊りネットの選別・使用方法など細かく指導していただきました。また、利用者の方に安心してリフターを使っただけよう利用者向けの実施研修や説明会も行ってきました。

スタッフが正確に操作し、どのスタッフでも同じように対応できるよう練習を重ね、時間を掛け利用者ひとり一人の対応方法を利用者と共に研究してきました。その結果、新館でのリフター使用者38名に対して全員に使用できるようになりました。

使い続けることにより導入当初の不安は解消

リフター利用当初は、利用者の方からは「怖い」「痛い」「私たちは荷物ではない」「温かみがない」など、不安の声も少なくありませんでした。また、以前のトランスファー介助より時間が掛かる為、スタッフからも不安な声はあがっておりました。

しかし、新しいリフターを使い続ける事により、利用者の方からも「全てのスタッフが同じ介助方法を実施してくれるので安心」「恐怖心がなくなった」などの声をいただけるようになりました。また、スタッフ側からの意見としても、「腰の負担が軽減された」「(移乗に)時間はかかって、逆に落ち着いて焦らず介助できるようになった」などの意見がでました。

平成28年7月より天井走行式リフターを導入し、以来、現在に至るまで、リフターを必要とする利用者38名全員に利用してもらっています。

今後もこの状況を続けるべく、リフター操作マニュアル、緊急対応マニュアルを作成し活用しております。新任職員研修にもリフター操作研修を導入し、新人でも使用できるよう研修をおこなっています。

天井走行式リフターの導入により、支援方針に掲げた「スタッフの腰痛の軽減」と「利用者への支援の統一」は実現できたと思います。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

社会福祉法人幸生会 障害者支援施設 はくちょう園

住所 | 〒348-0056 埼玉県羽生市上川俣1486-1
 担当所属・氏名 | はくちょう園 生活支援課 布川 大輔

電話番号 | 048-563-2051

E-mail | hakutyouden@kouseikai.net

好事例賞

視覚障がい者が触りながら描ける筆記具

[技術開発研究部門] 有限会社安久工機



小型触図筆ペン「ラピコ」

みつろうインクでどんなものにも安全に描画

女性や子供にも持ちやすいデザインの小型触図筆ペン「ラピコ」は視覚障がい者用に開発した筆記具です。

インクには市販のみつろう粘土が使用され、ペン先を軽く紙等に押し当てると、溶けたみつろうがにじみ出て描画できる仕組みです。描線化したみつろうは、約15秒で完全に固まるので、作図しながら指先で触れることができます。

また、みつろうは粘着性が高く剥がれにくいいため、紙のみならず、プラスチックやガラス等様々な素材に描画できます。ちなみに、描線直後のみつろうに直接触れてもやけどの危険性はなく、また、仮に固まったみつろうを誤って口にしてしまっても、健康に害を及ぼすことはありません。

視覚障がい者同士、または晴眼者とのコミュニケーションにも役立つ

厚生労働省によれば、視覚障がい者支援の今後の課題の一つに「コミュニケーション支援」を挙げており、「ラピコ」はこれの実現に資するものと考えています。

簡単なデザインならば、「ラピコ」を用いて描けばすぐに触知が可能で、その場で一定程度のコミュニケーションが成立します。また、学校教育の現場でも、グラフや回路図等も説明と共に触れられることから、数学や理科の学習指導にも利用できます。他にも、市販の絵本の輪郭部分をペンでなぞって浮き上がらせ、形状を認識できるようにするこ

とや、「ろうけつ染め」の要領で生地に視覚障がい者が描線し、複数種類の染料で染め分けて、最後にみつろうを湯で溶かし、染物を作成することも可能です。

実際、盲学校では児童や生徒が草花や楽器等に触れて、画用紙等に描画をしています。また、みつろうインクには様々なカラーがありますので、弱視の方の場合ならば、色の使い分けも可能です。

視覚障がい者同士、あるいは視覚障がい者と晴眼者が共に「ラピコ」を使用することで、目には見えない心のふれあいを通じ、分け隔てなく、お互いをよりよく理解できるようにすることを目指しています。

東京都より感謝状が授与された実績
今後も製品の有用性を啓蒙していく

「ラピコ」を使用したことのない方や団体に対しては、取扱説明書に加え、使用方法を解説したCD-Rを送付し、基本操作の理解を促しています。また、希望があれば購入予定者と直接面談し、目前でデモンストレーションを行ったり、直接面談が叶わない場合には、サンプルを発送しています。

過去に「ラピコ」の使用経験がある人が購入を希望する場合、具体的な使用目的を確認した後に見積書を作成し、受注後約2週間で納品。納品後は必要なメンテナンスや情報提供等のサポートを継続しています。

また、貸出の希望にも柔軟に対応。使用後はアンケート調査に協力していただくと共に、その内容を販売促進や製品改良に生かしています。生産開始以来、盲学校13校、その他教育機関や支援サークル等を中心に、これまで計38セットを販売しています。

なお、「ラピコ」の開発経緯やワークショップ活動等が評価され、東京都より「福祉のまちづくり功労者に対する知事感謝状」(2012年)が授与された他、小学校の教科書や、書籍『発見! 体験! 工夫がいっぱい! ユニバーサルデザイン』(学研プラス、2017年)の中でも本製品のことが紹介されるなど、私たちの志に対して数多くの方々から賛同をいただいています。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

有限会社安久工機

住 所 | 〒146-0092 東京都大田区下丸子2-25-4
担当所属・氏名 | 代表取締役社長 田中 隆

電話番号 | 03-3758-3727

E-mail | takashi@yasuhisa.co.jp

発達障害者へ治療の不安や恐怖を軽減するソフトウェア

[技術開発研究部門] 株式会社マイクロブレイン



口腔ケア支援ソフト「はっするでんたー」

発達障害者も安心!

タブレットでイラストや動画により治療を事前解説

「はっするでんたー」は、治療への不安からパニックを起こしやすい発達障害者(児)の特性に合わせ、イラストや動画を使ったスライドショーで治療の解説を行うことで、不安や恐怖を軽減し、歯科医・患者双方の負担を減らすことを目的とした口腔ケア支援ソフトです。

iPad専用アプリケーション「はっするでんたー」では、約500種のイラストカードや自作の画像・動画カードを組み合わせることで、患者個人の特性や治療内容に合わせたスライドショーを自由に作成・編集することが可能です。自作カードは端末のカメラ・マイク機能を活用し、アプリケーション内で簡単に作成することができます。

また、iPhone/iPad版再生専用無料アプリ「HD びゅあー」は、「はっするでんたー」で作成したスライドショーのデータを共有し、手軽に再生することができます。スライドショーのデータは、AirDropやメール添付、またiCloud Driveなどの外部クラウドサーバーに保管しての共有が可能です。

患者の保護者への事前説明や 医師間のノウハウ共有にも有効

「はっするでんたー」は、歯科治療を受ける「発達障害を持つ患者」、また「発達障害を持つ患者の治療にあたる

歯科医師」の2者を想定エンドユーザーとしています。

本製品の目的は、患者である発達障害者(児)にとって初見の治療行為や治療器具、また過敏な聴覚への騒音や痛みからくるパニックにより歯科治療が難航、あるいは進行不能になることを防ぐことにあります。

これまではそのような場合、医師は診療台にレストレイナーで固定したり、全身麻酔を用いて対応していました。ですがそれによる不安でさらにパニックは大きくなり、嘔吐や呼吸困難などで結果的に治療がストップしてしまうケースもあります。

「はっするでんたー」は、自分の身にどんな治療行為が行われるか、どんな音や動作を発生する器具を使われるかを、わかりやすいスライドショーで解説することで先の見通しを立てさせ、発達障害者(児)の不安や恐怖をケアします。

再生専用無料アプリとのスライドショーデータ共有機能を活用することで、予定している治療内容を事前に患者の保護者に伝えたり、大規模医療機関における医師間のノウハウ共有などを容易に行うことが可能です。

ユーザーマニュアルはHP上で公開 メール・電話での問い合わせにも対応

アプリケーションの詳細なユーザーマニュアルは公式ホームページ上でデータを公開しており、メールフォームや電話での問い合わせにも対応しています。これに加え、希望により医院や施設を直接訪問しての運用レクチャーを行っています。

また、「はっするでんたー」を導入している歯科医院や施設は、希望により公式ホームページ上の「導入医院・施設マップ」に掲載し、紹介しています。

長崎県口腔保健センター・岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター・奈良県心身障害者歯科衛生診療所・埼玉県総合リハビリテーションセンターなどで導入実績があり、一次医療機関では受診が難しい発達障がい(視覚優位な自閉症者等)などに対して歯科治療や歯磨き指導(口腔ケア)などに活用されています。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

株式会社マイクロブレイン

住所 | 〒337-0053 埼玉県さいたま市見沼区大和田町1-958-1 KCC3 ビル3F
担当所属・氏名 | IT 事業部 金子 訓隆

電話番号 | 048-687-9841

E-mail | noritaka@microbrain.jp

好事例賞

伝音難聴者に福音! 身体への負担が少ない軟骨伝導補聴器

〔技術開発研究部門〕 リオン株式会社／奈良県立医科大学



軟骨伝導補聴器

外耳道閉鎖症や小耳症の方でも 手術不要で装用できる補聴器

奈良県立医科大学との7年間に及ぶ研究の末に生まれた軟骨伝導補聴器は、従来にない構造の振動子を利用し、医薬品医療機器等法の承認を受けています。

軟骨伝導は音の伝導経路として、従来から知られていた気導、骨導と異なる新たに奈良県立医科大学の細井学長により発見された第3の経路であり、この経路を利用した世界で初めての補聴器が軟骨伝導補聴器です。通常の補聴器のイヤホンの代わりに、振動子を外耳道入口の軟骨部に装用することで、軟骨部を経由して振動を伝え、音の聞き取りを可能にします。

主に、外耳道閉鎖症や耳だれが多いなどにより、一般的な気導補聴器が使えないため、骨導補聴器を使用されている方に福音となる補聴器であり、装用時の圧迫感が少なく、装用するための手術が必要ないのも特長です。

軟骨伝導補聴器を実用化するための最大の課題であった小型化・低電力化に向けて、新方式の振動子(バランズドアーマチュア振動子 *国際特許取得済)を開発できたことで製品化に結び付けました。形状は一般的な耳かけ型補聴器と同等のため、小さくて目立ちにくく、外耳道閉鎖症や小耳症の方が見た目を気にせず使用できるだけでなく、装用に伴う痛みなど身体への負担が少ない補聴器です。

小さく目立ちにくい形状で装用者の負担も少ない

外耳道閉鎖症や小耳症の方は、一般的な気導補聴器を使用することが難しく、ヘッドバンド式の骨導補聴器や埋め込み型骨導補聴器を使用しているケースがみられます。

しかし、骨導補聴器はヘッドバンドなどにより頭部への圧着を必要とするため、圧迫により皮膚のびらんや痛みが生じる場合もあり、装用者の身体的負担が少なくありません。また、補聴器本体のサイズが大きいため目立ちやすくなります。他方、埋め込み型骨導補聴器は、頭蓋骨にインプラント(金属端子)を埋め込む手術が必要となり、身体的・経済的負担が大きい上に、インプラントの一部が皮膚から露出しているため、感染のリスクを伴うことがあります。

これらの課題に対し、軟骨伝導補聴器は振動子を軟骨部に接触させるだけで使用でき、装用するための手術は不要です。また、形状は小さくて目立ちにくく、装用者は見た目を気にせず使用できます。軟骨伝導補聴器は、難聴者にとって新たな選択肢となり得ると考えます。

この補聴器の装用を希望される方には、軟骨伝導補聴器の知識を有している補聴器相談医が適応を判断します。

また、技術面でのサポートは補聴器販売店が行います。軟骨伝導補聴器は、通常の補聴器販売で使用する設備と同様の設備を用いてサポートが可能であり、取り扱い医療機関と補聴器販売店が連携を取りながら提供しています。

さらに、経済面での配慮として、20歳以下の方が購入される際は、「子ども価格」をご用意しています。

お問い合わせ先

〔事業者名／社名／団体名〕

リオン株式会社

住 所 | 〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
担当所属・氏名 | 医療機器事業部 営業部

電話番号 | 0800-500-2933 (フリーコール)
お問い合わせフォーム | <https://www.rion.co.jp/inquiry/>

好事例賞

「会話」だけでなく、 次のステップに進むためのきっかけに

[技術開発研究部門] 有限会社オフィス結アジア



指伝話コミュニケーションパック

コンテンツを自由に追加できる コミュニケーションアプリ

「指伝話」は、iPad/iPhoneで使用するコミュニケーションアプリです。病気・障害の種類や程度を限定せず、誰にでも親しんで楽しく使っていただけるようにiPadを採用したこと、コミュニケーションコンテンツを自由に簡単に追加することができることが特徴です。さらに、機器を使うことが目的ではなく、それを使って何をするかを第一に考えられるよう、コンテンツに重きをおいた製品です。

コミュニケーション障害といっても、構音障害のSpeechの障害と、失語症などのLanguageの障害では大きく異なります。指伝話はそれら両方の障害に対応するコンテンツの作成が可能です。また、肢体不自由の方はスイッチによる操作が可能です。その際にスイッチ操作に適したインターフェースになっています。また、緘黙・吃音・自閉症の方の話しづらさをサポートする目的にも使われています。

当事者だけでなく、家族や支援者にとっても使いやすい身近なものなので、導入がスムーズであるだけでなく、専門の訓練なしに使える容易さと親しみやすさは、これまでコミュニケーションを諦めてしまっていた方たちへの新たな機会の提供につながっています。

iPad/iPhoneを使うことで拡張性は最大限に スイッチによる操作にも対応

喉頭癌などで自分の声を失った方たちの代替音声を提供するだけでなく、ALSや筋ジストロフィーなど身体

の動きが制限されている方たちにも使っていただけるように、スイッチ操作によるインターフェースも提供しています。

iPad/iPhoneを採用することで、目の前にいる人との会話だけでなく、遠隔にいる人へSMSやメールを送る、テレビ電話をする、文章を書いて後で伝える、講演や学会発表をするといったニーズももっています。さらにスマート家電と組み合わせることで、テレビや電灯の操作、カーテンやドアの開閉といった日常生活の動作も同じように行うことが可能になるのです。

本製品は、例えば指先がほんの数ミリしか動かない状態でもカードの選択だけで実現する仕組みと、それらを自分で作り拡張できる仕組みの両方を兼ね備えています。

カンファレンスでは、 難病患者ら5人が「指伝話」だけで発表した実績も

プラットフォームにiPad/iPhoneを採用した理由は2つあります。まずは大人から子どもまで直感的に操作できること。実用的なサンプルも提供し、コンテンツの更新もダウンロードで対応しています。

そしてサポートがしやすいこと。遠隔地の現場で担当STが訪問先に導入した際に操作がわからずお問い合わせいただいても、電話で解決でき安心して使ってもらっています。

2018年8月開催のリハ工学カンファレンスでは、当事者発表をした難病患者ら5名が、本製品の音声だけで発表をしました。親指が数ミリだけ動く人が自分の意思を自分で伝え、これから働きたいと訴えたことは、従来の用件を伝えるだけの会話ではなく、真のコミュニケーションが実現されていることを証明しています。

機械ではなく機会に注目したアプリの余白

利用者(子どもの場合は保護者)からは、「声の質が格段に良い」「使う人の様子を見ながら少しずつ工夫できて便利」「細かいところまで配慮された機能が搭載されている」「バージョンアップで使いやすい機能が追加されるのが良い」とお褒め頂いています。それは、使用目的を限定せずに「アプリの余白」と呼ばれる自由度の高さを大切にしているからだと思います。単なる音声会話機能の代替ではなく、コミュニケーションのきっかけを提供することを第一に考えました。多くの方のQOLが向上し笑顔が広がることを願っています。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

有限会社オフィス結アジア

住所 | 〒251-0012 神奈川県藤沢市村岡東3-12-10
担当所属・氏名 | 代表取締役 高橋 宜盟

電話番号 | 0466-21-7448

E-mail | info@yubidenwa.jp WEB | https://www.yubidenwa.jp/

好事例賞

障害者の在宅勤務を支援する コミュニケーションシステム

[技術開発研究部門] 株式会社沖ワークウェル



「ワークウェルコミュニケータ」画面

クリックひとつでいつでもコミュニケーション

「ワークウェルコミュニケータ」は、テレワーク(在宅勤務)などで、場所の離れた人たちがパソコンとインターネットを介して話ができるシステムで、最大100名までの人が、同時に話をするすることができます。特徴は、①常時接続が原則で、クリックひとつで誰にでも声をかけて、打合せを始めることが可能。②会議に限らず何かわからないことや相談したいことがある場合に、すぐに仲間と話をするができる。③在宅勤務で部屋に一人で仕事をしていても、仲間の声が頻りに聞こえるので、孤独感がない。④雑談や非公式のコミュニケーションに適しており、在宅勤務者の「モチベーションの向上」や「働きがいの向上」を図ることが可能。この4つの特徴により、重度障害のため通勤が困難で「完全在宅勤務」する人たちに適しています。

通勤の困難な重度肢体障害者の大きな助けに

車いすを使用するなど移動の困難な重度肢体障害者は、通勤ができず就労できないことが多いため、ダイバーシティの観点からも、自宅でおこなう在宅勤務のニーズがありました。

インターネットが普及し、離れていても電子メールなどで情報をやりとりすることは可能ですが、オフィスに居ると同じように会話しやすいコミュニケーション環境が必要です。コミュニケーションシステムとして、テレビ会

議システムやスカイプなどが挙げられますが、あくまでも会議のためのツールであり、在宅勤務にはフィットしませんでした。

よって、「会議開始までの手続きが不要な常時接続」「オフィスに居ると同じように、相談したいタイミングで自由に話ができる」「雑談や非公式の打合せも簡単にできて孤独感がない」などを実現すべくこのシステムを開発しました。これにより、通勤の困難な重度肢体障害者の在宅勤務がやりやすくなりました。

「導入できるまで」「解決するまで」サポート体制を徹底

当システムの導入には次のような段階が必要です。①機器の用意(パソコン/スピーカフォン/インターネット回線)、②パソコンの設定、③操作オペレーションの説明、④トラブル時の対応です。

②③に関しては、ユーザーさんに電話等で説明しながら一緒におこないます。④に関しては、「通話ができなくなった」「操作がわからなくなった」など、ユーザーさんがトラブルに遭遇した場合は、弊社にメールや電話で連絡いただき、解決するまでメールや電話でサポートします。

在宅勤務だけでなく遠隔職場実習でも活躍

2007年頃から、自社の重度障害者在宅雇用でも活用しており、全国20都道府県に在住する重度障害者50名が、本システムを使って在宅勤務しています。在宅勤務者は主にソフトウェア開発の業務をおこなっており、チーム作業、打合せ、勉強会などオフィスに居ると変わらず仕事できています。

他社においても、重度障害者の在宅雇用をおこなっている2社で導入いただいており、「在宅社員の情報共有が進みより効率的な業務遂行が可能になった」との評価もいただいています。

また、遠隔職場実習での活用もしています。肢体不自由特別支援学校に在籍する車いすの生徒は、企業に向いて職場実習に参加することが難しいのが現状です。このシステムにより、車いすの生徒が、学校または自宅に居ながらにしての実習が可能になりました。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

株式会社沖ワークウェル

住 所 | 〒108-8551 東京都港区芝浦4-11-17
担当所属・氏名 | 代表取締役社長 津田 貴

電話番号 | 03-5445-6805

E-mail | tsuda051@oki.com

患者が自立した排泄行動を サポートする装置

[技術開発研究部門] シェルエレクトロニクス株式会社



自己導尿訓練用カメラ&タブレット

**患者自身と指導スタッフが同じ視点で
対象部位を見ながら訓練可能に**

脊髄損傷患者などが抱えている排泄問題。本装置は、そのひとつである「排尿」に対して、自己導尿訓練を行うにあたり、安定した姿勢を確保した患者と指導スタッフが、患者の姿勢にかかわらず同じ視点で、充分な明るさと大きさで対象部位を見ながら排尿訓練ができるという特徴を持っています。

カメラ部は洋式便器に引っかけるだけで容易に準備ができ、対象部を表示するタブレットでは、対象像の拡大・反転・回転など、利用者が手を動かす感覚と映像とを一致させる表示調整機能が搭載されています。

脊髄損傷などで下肢に神経的な障害があるものの、便座あるいは排泄キャリア上にて座位姿勢がとれ、訓練により自己導尿手技や排便時の座薬挿入手技を獲得できるだけの知的・身体的な能力を有する方を対象としています。また夜間などは、ベッド上での自己導尿のサポートを行うこともできるよう、本装置の形状を工夫しています。

本装置を活用することで、当事者自らがカテーテルや座薬などを体内に挿入することができ、個人の尊厳にも関わるデリケートな排泄行為において、自立した排泄行動をできるようにサポートします。

試作機は二分脊椎症を患う小児に対し良好な結果

兵庫県立リハビリテーション中央病院における開発当初、二分脊椎症を患う就学前の小児(女の子)への自己導入訓練においては、病院看護部も含め自己導尿訓練を試作機にて実施したところ良好な結果が出ました。その後、脊髄損傷患者にも対象を広げると、女性の自己導尿だけでなく、男女共排便時の座薬挿入にも役立つことがわかってきました。

これらの開発研究により、違和感を感じさせないデザイン、設置が楽に行えるようカメラ映像をタブレットに無線で表示してもらいたい、タブレット画面上の操作方法や表示内容を必要な機能に絞り、各機能のアイコン表示による可視化ならびに使用頻度に応じた常時表示あるいはメニューからの階層的呼出し表示することなどがあり、利用者の目線による改良を進め商品化に至りました。

**「大分県ビジネスプラングランプリ最優秀賞」
「ポスター最優秀賞」を受賞**

平成27年に大分県ビジネスプラングランプリに応募をしました。社会貢献度の高いビジネスプランと評価され最優秀賞を受賞しました。

また、前述した開発のきっかけとなった二分脊椎症を患う小児(女の子)への対応事例については、第51回日本リハビリテーション医学会学術集会にてコメディカルによるポスター最優秀賞を受賞しました。

今夏、兵庫県立リハビリテーション中央病院のスタッフ経由で、高野山にて開催された第2回高野山排泄セミナーにて本装置を紹介してもらったところ、参加されている先生方より大変好評をいただいたことを知らせてもらっております。

さらに、ロボットリハビリテーションセンターの協力を得て、兵庫県立リハビリテーション中央病院や自立生活訓練センターなど複数の病院などにおいて本装置を利用いただいております。

以上のような実績を受け、病院や施設に対して販売してもらった販売と販売代理契約を既に締結しています。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

シェルエレクトロニクス株式会社

住所 | 〒870-0278 大分県大分市青崎1丁目12番18号
担当所属・氏名 | 森竹 隆広

電話番号 | 097-528-8826

E-mail | moritake@shell-ele.com

好事例賞

人工呼吸器を使う
“子ども”も“家族”も笑顔になる簡易浴槽

[技術開発研究部門] かえるキッズのお助け隊



人工呼吸器を使う子どもと家族のための簡易浴槽「かえるのオフロ」

「ないならば私が！」 愛娘のために一念発起

代表を務める大泉には、神経難病(SMA Ⅰ型)で生後9ヶ月の頃から気管切開し人工呼吸器を使う娘がいます。高度な医療看護子育てをする中で、悩まされたのが毎日の入浴ケア。寝たきりの子どもにとって、お風呂は非常に大切な生活習慣にもかかわらず、人工呼吸器を使う子どもの在宅での入浴ケアについて、情報や福祉用具はほとんど見つかりませんでした。

「ないのならば私が作ろう」と、一念発起したのが団体発足のきっかけです。現在「かえるキッズのお助け隊」は、当事者研究でご家族や周りの人々が独自の工夫で頑張る入浴ケアの現状を伝えつつ、在宅介護子育てを楽しくするヒント紹介や商品開発・販売までを手がけています。

大変なオフロを楽しいものに！
介助する家族の負担が軽くなる簡易浴槽

当団体で開発した「かえるのオフロ」は、人工呼吸器を使う子どもと家族のための簡易浴槽です。

人工呼吸器を使う子どもの入浴には、多くの場合2人以上の介助が必要となります。

例えば、呼吸を保つために蘇生バッグを使う場合は、1人が蘇生バッグを定期的に握って子どもの肺に空気を送り続け、もう1人は子どもを抱き上げたり体や髪を洗ったりします。

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

かえるキッズお助け隊

住 所 | 〒157-0064 東京都世田谷区給田5-16-11-1
担当所属・氏名 | 代表 大泉 江里

お風呂では呼吸用チューブを入れた首元を湯につけてはならないので、上半身を少し起こした姿勢で体を安定させる必要があります。

人工呼吸器を使う子どもたちは、首がすわっていないことが多いので、介助者は片手で頭や首をずっと支えていなければならないのです。

本製品「かえるのオフロ」は、ヘリが幅広で頭を乗せられ、お尻を付属のスリングで支えるので、体の姿勢が安定し、首元を湯につけずに介助者が手を離せるのが特徴。また底面に排水栓があるので、1回の移乗で洗髪から体洗いお湯に浸かって排水までができます。付属の下敷きマットを活用することで、排水しやすくなっています。ビニール素材なので、準備や片付け、持ち運びも簡単。背丈に合わせてSサイズ(身長目安80~95cm)とMサイズ(身長目安95~105cm)を用意しています。

代表の大泉は、娘の入浴についてベビーバスやタライ、特注のビニールポットを使うなど工夫や試行錯誤を続けましたが、娘の体調が安定してきた頃から、「人工呼吸器を使う子どもの在宅での入浴習慣」について調査研究を開始。

大変なお風呂の時間をゆったり楽しいものにし、ご家族の負担を少しでも軽くしたいという気持ちを実現した製品となりました。

当事者の、当事者による、当事者のための画期的な事例集

当団体発足前、勇美記念財団の助成を受け、2015年春から都内や愛知県、熊本県などの10家族を訪問し、それぞれの取組や分析を2016年9月の日本看護医療学会で発表。追加調査として44家族を対象にしたアンケートも実施し、2017年2月には研究報告書と共に『「超重症児」の在宅お風呂事例集』を公表。2017年8月の日本小児看護学会で発表。

介助する家族によるこのような調査は前例がなく「当事者の、当事者による、当事者のための画期的な事例集」と評価されるに至りました。



大泉代表らがまとめた『「超重症児」の在宅お風呂事例集』は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団のHPで閲覧できる。

電話番号 | 090-4615-4539
E-mail | eri.ohizumi@gmail.com

好事例賞

“声を失ったパーソナリティ”が ラジオ番組を継続

[導入利活用部門] NPO法人 iCare ほっかいどう



多方面の支援メンバーによって「チームたわごと」を結成

音声合成ソフトで放送原稿を作成 「自分の声」で番組を継続

特定非営利活動法人「iCare ほっかいどう」は、ALS患者をはじめ、難病や重度障害により、手足を動かせず、声を出すことが困難な方へパソコン等を使ったコミュニケーションの支援を目的に活動しています。2014年からは、病気等により、声を失う可能性のある方が「自分の声」を録音し、その声を使って音声合成ソフトの作成・利用を支援する取り組みを行ってきました。

そんな中で、ALSの診断を受けた米沢氏は、札幌市のコミュニティーFM 三角山放送局で「ALS のたわごと」というラジオ番組を持ち、月一回の放送を始めました。当初は肉声で話していましたが、病気の進行により筋力が低下し声が出難くなった為、自分の声を収録し、自分の声による音声合成ソフトを作成、声を失った気管切開手術後も、このソフトを使って「自分の声」で番組を継続しています。日常の病室で放送内容をあらかじめ原稿化し、それをスタジオでオペレータが音声合成するという形式から始め、現在では放送スタジオに直接出向き、アシスタントとの実時間対話で番組を進行しています。放送は日本全国で聞かれ、ALS関係者をはじめ、多くの方々から励ましの言葉を頂いています。

多方面の支援メンバーによって「チームたわごと」を結成

本事例における支援機器「自分の声ソフト ボイスター」は、特定個人の声で任意のテキストを音声合成を行える音声合成ソフトウェアです。さらに本事例の米沢氏の場合は視線入力ソフトウェア「miyasuku EyeCon」

と連携させています。

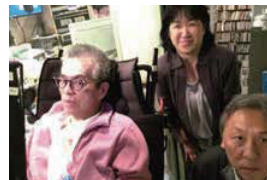
「ALSのたわごと」は、三角山放送局で月1回、60分の番組です。米沢氏は、毎回の収録に先立ち放送で話す内容を、約200行程度の原稿として作成します。収録当日は、スタジオ内では車椅子に座って支援機器を操作（視線＋足スイッチ）し、作成した原稿を1行ずつ、自己のタイミングで読み上げていきます。

これに際し、我々は「チームたわごと」を結成し、連携して支援を行っています。チームの構成は、米沢氏（パーソナリティ）、iCare ほっかいどう佐藤（アシスタント）、三角山放送局木原、田島（番組制作・放送）、ヒューマンテクノシステム東京渡辺（「自分の声ソフト ボイスター」技術）、ノーザリーライフケア宮川（支援機器環境管理、送迎）、米沢氏奥様（全面サポート）とし、SNS等を利用し、効率よく担当部分の協力を実現しました。

ラジオ以外にも活用可能なシステムは新たなムーブメントへ

本システムは、ラジオ放送用途に留まらず、ALS患者等の方が、日常生活でのQOLを高めるために、大いに活用できるシステムだと考えています。このシステムを社会に定着させるために、本放送の周知ということに力点を置いています。具体的には、米沢氏のこれまでの経緯を含めた特番「声を失ってもラジオを続けたい」を作成し、各方面へ展開しました。また、関連学会やシンポジウムでのビラ配布や、SNSを使っでの番組の予告などを実施しています。

これらの取り組みは、新聞記事（北海道新聞、読売新聞）等でも紹介され、ALS 協会の機関紙JALSA104号では「ALS を生きる」と題した巻頭グラビアとして大きく取上げられました。また、米沢氏のこれまでの経緯を含めた特番「声を失ってもラジオを続けたい」は、北海道ラジオコミュニティ大賞の受賞した上に、放送業界紙GALACへの紹介記事掲載、市民メディア関係者のシンポジウムのメインテーマとして採択など、放送業界からも新たなムーブメントとして注目されています。



音声合成ソフトを活用して
ラジオ放送を続ける米沢和也氏



「チームたわごと」によるスタジオでの
収録風景

お問い合わせ先

[事業者名/社名/団体名]

NPO 法人iCare ほっかいどう

住 所 | 〒063-0826 北海道札幌市西区発寒6条10丁目10番13号 アイビル12-203
担当所属・氏名 | NPO法人 iCareほっかいどう 意思伝達支援チーム 佐藤 美由紀

電話番号 | 011-795-5260

E-mail | fwj2075@mb.infoweb.ne.jp

優秀賞及び最優秀賞 表彰式の模様

日時：平成31年2月14日(木) 13:00~15:00

場所：TOC有明コンベンションホール4F WESTホール 特設会場





公益財団法人テクノエイド協会
大橋理事長

障害者自立支援機器普及事業を通して、障害者の社会参加を進めることができる機器が開発されていることを知り、大変喜んでおります。
そしてシーズ・ニーズマッチング交流会において障害者のニーズとのマッチングは確実に進んでおりますが、しかしまだ、多くの方に知られておりません。
今回のプレゼンテーションではパナソニックエイジフリーや日立ケーイーシステムズの意思伝達装置は高齢者の難聴の方に対しても需要があると感じました。
テクノエイド協会では、障害者と高齢者の垣根を超えて厚労省により進められている地域共生社会政策「高齢者も障害者もない、共に生きる街」という点に注目し、全国に4,800ある地域包括支援センターに対してもしっかりと情報発信を行えるようにしていきたいと考えております。
当事業へのご参加、誠にありがとうございました。

何卒よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人テクノエイド協会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ4階

TEL: 03-3266-6883

障害者自立支援機器導入好事例普及事業HP

<http://www.techno-aids.or.jp/jiritsu/example.shtml>

平成30年度 厚生労働省 障害者自立支援機器等開発促進事業



公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

<http://www.techno-aids.or.jp/>

本事業は「平成30年度障害者自立支援機器等開発促進事業」の一環として行うものです。

平成30年度
障害者自立支援機器等開発促進事業

平成31年3月 発行
発 行 者 公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ4階
TEL 03-3266-6880 FAX 03-3266-6885

この事業は、厚生労働省から平成30年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。

